福岡県立大学　中期計画に関わる
自己点検･評価報告書

令和５年６月

公立大学法人福岡県立大学

法人の概要

1. 基本的情報	
法人名	公立大学法人福岡県立大学
所在地	福岡県田川市大字伊田4395番地
設立の根拠となる法律	地方独立行政法人法
設立団体	福岡県
資本金の状況	8,530,220,100円（全額　福岡県出資）
沿　　革	昭和20年（1945）4月　福岡県立保健婦学校開設 昭和27年（1952）7月　福岡県立保育専門学院開設 昭和42年（1967）4月　福岡県社会保育短期大学（保育科、社会福祉科）開学 平成　4年（1992）4月　福岡県立大学（人間社会学部）開設 平成　9年（1997）4月　大学院人間社会学研究科（修士課程）開設 平成15年（2003）4月　看護学部開設 平成18年（2006）4月　公立大学法人福岡県立大学に移行 平成19年（2007）4月　大学院看護学研究科（修士課程）開設
法人の目標	公立大学法人福岡県立大学は、地(知)の拠点として、大学の個性・強みを生かした教育研究を行い、地域社会の発展に貢献できる優秀な人材の育成をはじめとした取組を着実に実施することを使命とする。 理事長のリーダーシップの下、魅力ある大学づくりを一層推進し、社会から高く評価される大学となるために、以下について取り組む。 ・人間社会学部と看護学部の連携のもと、関連する分野に関する幅広い視野を持ち、保健・医療・福祉の現場で中核となって活躍できる資質を持った優秀な職業人を育成する。 ・地域の保健・医療・福祉の発展や大学の特色ある教育に有用な研究を重点的に推進するとともに、地域社会のニーズを踏まえた実践的な研究に取り組む。 ・大学の特色を生かして、社会人のリカレント教育の充実や、県民の生涯学習を推進するとともに、地域の教育活動を支援する取組や保健・福祉の向上に貢献する取組を積極的に実施する。 １ 教　育：(1)特色ある教育の展開、(2)教育活動の活性化、(3)意欲ある学生の確保、(4)学生支援の充実 ２ 研　究：(1)特色ある研究の推進、(2)研究の実施体制等の整備 ３ 地域貢献及び国際交流：(1)地域社会への貢献、(2)国際交流の推進 ４ 業務運営の改善及び効率化：(1)大学運営の改善、(2)事務等の効率化・合理化、(3)社会的責任・安全管理の徹底 ５ 財務内容の改善：(1)財務基盤の強化、(2)経費の節減 ６ 自己点検評価及び情報の提供：(1)自己点検・評価、(2)情報公開・広報

法人の業務	1　福岡県立大学を設置し、これを運営すること。 2　学生に対し、修学、進路選択及び心身の健康等に関する相談その他の援助を行うこと。 3　法人以外の者から委託を受け、又はこれと共同して行う研究の実施その他の法人以外の者との連携による教育研究活動を行うこと。 4　公開講座の開設その他の学生以外の者に対する学習の機会を提供すること。 5　教育研究の成果を普及し、及びその活用を促進すること。 6　前各号の業務に附帯する業務を行うこと。

2. 組織・人員情報

(1)役員

役員の定数は、公立大学法人福岡県立大学定款第7条の規定により、理事長1人、副理事長1人、理事5人以内、監事2人と定めている。また、役員の任期は、同定款第11条の規定に定めるところによる。

役職	氏名	任期	主な経歴
理事長(学長)	柴田　洋三郎	令和4年4月1日 ～令和6年3月31日	昭和46年　3月　九州大学医学部卒業 昭和56年　7月　シカゴ大学客員准教授 昭和63年　9月　九州大学教授 平成　8年　9月　九州大学学生部長 平成　9年　4月　九州大学副学長(～平成14年3月) 平成15年10月　九州大学副学長 平成16年　4月　九州大学理事・副学長 平成22年　4月　独立行政法人大学入試センター 試験・研究統括官 平成24年　4月　公立大学法人　福岡県立大学 理事長・学長
副理事長	奥　園　秀　史	令和4年4月1日 ～令和6年3月31日	昭和59年　4月　福岡県採用 平成30年　4月　総務部防災危機管理局長 平成31年　4月　人事委員会事務局長 令和　3年　4月　公立大学法人福岡県立大学 常務理事(事務局長) 令和　4年　4月　公立大学法人福岡県立大学 副理事長
常務理事(事務局長)	野　上　明　倫	令和4年4月1日 ～令和6年3月31日	昭和60年　4月　福岡県採用 平成31年　4月　企画・地域振興部次長 令和　2年　4月　会計管理者(兼)会計管理局長 令和　4年　4月　公立大学法人福岡県立大学 常務理事(事務局長)

理事（学外）	古　野　金　廣	令和4年4月1日 ～令和6年3月31日	昭和47年　5月　麻生セメント（株）入社 平成 元年　4月　麻生教育サービス（株）代表取締役社長 平成19年　7月　学校法人麻生塾副理事長 平成19年12月　麻生レコードマネジメント（株）代表取締役社長 平成28年　6月　公立大学法人福岡県立大学理事 令和　2年　4月　学校法人福岡雙葉学園副理事長
理事（学外）	芳　賀　晟　壽	令和4年4月1日 ～令和6年3月31日	昭和51年　1月　（社）北九州青年会議所理事長 昭和56年　8月　（株）芳賀代表取締役社長・会長 昭和56年12月　芳賀教育文化振興会理事長 昭和62年10月　福岡県教育委員会委員・委員長 平成　2年11月　社会福祉法人年長者の里理事長 平成　3年　7月　北九州商工会議所常議員 平成14年10月　（社）北九州高齢者福祉事業協会会長 平成18年　4月　公立大学法人福岡県立大学理事 平成20年　4月　北九州市社会福祉協議会会長
理事（学内）	上　野　行　良	令和4年4月1日 ～令和6年3月31日	平成　6年　3月　東京都立大学人文科学研究科博士課程単位取得退学 平成　5年10月　福岡県立大学講師 平成10年　2月　福岡県立大学助教授 平成19年　4月　福岡県立大学准教授 平成20年　4月　福岡県立大学教授 平成30年　4月　福岡県立大学人間社会学部長兼人間社会学研究科長 令和　2年　4月　福岡県立大学教員兼務理事
理事（学内）	松　浦　賢　長	令和4年4月1日 ～令和6年3月31日	平成　2年3月　東京大学医学系研究科博士課程修了 平成　3年3月　カリフォルニア大学バークレー校研究助手 平成　5年4月　京都教育大学教育学部助教授 平成　9年3月　カリフォルニア大学バークレー校客員研究員 平成15年4月　福岡県立大学看護学部教授 平成20年4月　福岡県立大学看護学部教授兼附属図書館長 平成22年4月　福岡県立大学看護学部教授兼附属研究所長 平成25年4月　福岡県立大学教員兼務理事

監事	井　上　道　夫	令和4年9月1日～令和7年度の財務諸表の承認の日	平成 元年　4月　弁護士開業 平成　6年　4月　井上法律事務所開設 平成30年　4月　公立大学法人福岡県立大学監事
監事	大　谷　晃　士	令和4年9月1日～令和7年度の財務諸表の承認の日	平成28年　7月　公認会計士登録 令和 元年　7月　大谷公認会計士事務所開設 令和　4年　9月　公立大学法人福岡県立大学監事
監事	梅　田　久　和	平成30年4月1日～令和3年度の財務諸表の承認の日	昭和60年　4月　麻生セメント入社 平成　7年10月　センチュリー監査法人入所 平成17年　6月　新日本監査法人マネージャー 平成17年　7月　梅田公認会計事務所開設 平成28年　4月　公立大学法人福岡県立大学監事

(2)教員

			平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
教員数	常勤(正規)		113人	112人	111人	106人	105人	109人
	内訳	教授	25人	24人	25人	25人	25人	26人
		准教授	31人	32人	32人	29人	31人	32人
		講師	25人	24人	22人	23人	22人	22人
		助教	20人	22人	23人	20人	19人	17人
		助手	12人	10人	9人	9人	8人	12人
	非常勤講師		63人	63人	56人	57人	55人	58人
	合計		176人	175人	167人	163人	160人	165人

教員数増減の主な理由

常勤教員が増加している理由は、欠員補充によるもの。

(3)職員

			平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
職員数	事務局長		1人	1人	1人	1人	1人	1人
	正規職員	県派遣	14人	13人	13人	13人	13人	13人
		プロパー	7人	8人	8人	8人	8人	7人
		他団体派遣	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		その他	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		計	21人	21人	21人	21人	21人	21人
	嘱託(常勤・非常勤)等・臨時		13人	14人	14人	15人	14人	14人
	合計		35人	36人	36人	37人	36人	36人

職員数増減の主な理由

(4)法人の組織構成

別紙のとおり

3. 学生に関する情報

関連する学部・大学院	学部学科、大学院研究科	収容定員 (a)	収容数 (b)	定員充足率 (b)/(a)×100	定員充足率の推移 (%) 29年度	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度
人間社会学部	計	630人	682人	108%	112	114	112	110	109	108
内訳	人間社会学部	600人	654人	109%	114	115	113	111	110	109
	公共社会学科	200人	221人	111%	111	113	109	109	111	111
	社会福祉学科	200人	214人	107%	116	117	114	110	106	107
	人間形成学科	200人	219人	110%	114	114	115	114	112	110
	大学院 人間社会学研究科	30人	28人	93%	83	93	100	93	93	93
看護学部	計	384人	395人	103%	98	105	110	109	106	103
内訳	看護学部	360人	376人	104%	98	106	110	108	106	104
	看護学科	360人	376人	104%	98	106	110	108	106	104
	大学院 看護学研究科	24人	19人	79%	100	96	121	104	104	79

収容定員と収容数に差がある場合の主な理由

看護学部の定員充足率が100%を超えている主な理由は、入学者数が定員を超過しているため。
看護学研究科の定員充足率が90%を下回っている主な理由は、志願者数が少ないため。今後、広報活動を積極的に行い、定員を充足するよう努める。

4. 審議機関情報			
(1)経営協議会			
区分	氏　名	任　期	現　職
理事長	柴 田 洋 三 郎	令和4年4月1日～令和6年3月31日	公立大学法人福岡県立大学理事長・学長
副理事長	奥 園 秀 史	令和4年4月1日～令和6年3月31日	公立大学法人福岡県立大学副理事長
学外委員	二 場 公 人	令和4年4月1日～令和5年5月31日	田川市長
	齋 藤　 明	令和4年4月1日～令和6年3月31日	元　独立行政法人大学入試センター　監事
	亀 川　 寿	令和4年4月1日～令和6年3月31日	田川商工会議所　会頭
	秋 吉 一 明	令和4年4月1日～令和6年3月31日	福岡県立大学と共に歩む会　会長
	野 口 久 美 子	令和4年4月1日～令和6年3月31日	福岡県立大学同窓会　会長
	豊 福 成 史	令和4年4月1日～令和6年3月31日	福岡県立田川高等学校　校長
(2)教育研究協議会			
区分	氏　名	任　期	現　職
学長(理事長)	柴 田 洋 三 郎	令和4年4月1日～令和6年3月31日	公立大学法人福岡県立大学理事長・学長
学部長	池 田 孝 博	令和4年4月1日～令和6年3月31日	人間社会学部長兼人間社会学研究科長
	江 上 千 代 美	令和4年4月1日～令和6年3月31日	看護学部長兼看護学研究科長
学内組織の長	石 田 智 恵 美	令和4年4月1日～令和6年3月31日	副学長兼附属図書館長、情報処理センター長
	石 崎 龍 二	令和4年4月1日～令和6年3月31日	副学長兼附属研究所長
	上 野 行 良	令和4年4月1日～令和6年3月31日	教員兼務理事
	松 浦 賢 長	令和4年4月1日～令和6年3月31日	教員兼務理事
	野 上 明 倫	令和4年4月1日～令和6年3月31日	常務理事兼事務局長

公立大学法人福岡県立大学組織図

令和4年4月1日現在

：理事長指名の役職者

法人

監　事（2名）

顧　問

理 事 長

副 理 事 長（経営管理担当）

常 務 理 事（兼事務局長）

教員兼務理事

教員兼務理事

理　事　会
- 理事長（兼学長）
- 副理事長
- 常務理事（兼事務局長）
- 教員兼務理事（2名）
- 理事（学外2名）

7名　（定例：年4回）

四役会議
- 理事長
- 副理事長
- 常務理事（兼事務局長）
- 教員兼務理事（2名）

5名　（週：1回）

主要6委員会（※）
- 理事長（兼学長）
- 副理事長
- 常務理事（兼事務局長）
- 教員兼務理事（2名）
- 附属図書館長（兼副学長）
- 附属研究所長（兼副学長）
- 人間社会学部長（兼人間社会学研究科長）
- 看護学部長（兼看護学研究科長）
- 経営管理部長
- 学務部長

11名

経 営 協 議 会（理事会の諮問機関）
- 理事長（兼学長）
- 副理事長
- 学外有識者（6名）

8名　（定例：年4回）

教育研究協議会（理事会の諮問機関）
- 理事長（兼学長）
- 常務理事（兼事務局長）
- 教員兼務理事（2名）
- 附属図書館長兼情報処理センター長（兼副学長）
- 附属研究所長（兼副学長）
- 人間社会学部長（兼人間社会学研究科長）
- 看護学部長（兼看護学研究科長）

8名　（定例：年4回）

（※）改革推進、総務人事、予算、教務入試、学生、地域連携

大学

学　長

副学長(2名)

部局長会議　構成は主要6委員会と同じ（月：2回）

事務局長

- 学生総合支援センター
- 情報処理センター
- 基盤教育センター
- 看護実践教育センター
- 地域教育支援機構
  - 不登校・ひきこもりサポートセンター
  - 社会貢献・ボランティア支援センター
- 附属研究所
  - 研究推進部
- 附属図書館
  - 本館・看護学部別館
- 大学院
  - 看護学研究科
    - 看護学専攻
  - 人間社会学研究科
    - 子ども教育専攻
    - 心理教育相談室
    - 心理臨床専攻
    - 社会福祉専攻
- 学部
  - 看護学部
    - 看護学科
  - 人間社会学部
    - 人間形成学科
    - 社会福祉学科
    - 公共社会学科
- 事務局
  - 学務部
    - 学生支援班
    - 教務入試班
  - 経営管理部
    - 総務財務班
    - 経営企画班

法人自己評価

Ⅰ　全体

【令和4年度】全体評価

公立大学法人である本学は、福祉系の公立大学として保健・医療・福祉の高度な専門的人材の養成、地域に貢献する研究及び社会活動の推進の役割を担っています。第3期中期計画期間の5年目となる令和4年度は学長のリーダーシップのもと、引き続き大学改革を推進し、コロナ禍3年目となる中で安定した大学教育の推進と内部質保証の向上に努めました。

コロナ禍初年度となった令和2年度には臨機応変に対応する高い“機動力”が必要となりましたが、令和3年度と今年度（令和4年度）はその上で安定した大学教育を展開できる“恒常力”が求められました。学長主導のもと、個人から組織のあらゆるレベルにおける内部質保証サイクルの向上を目指し、その不断のプロセスを“恒常力”の基盤とし、安定した大学経営に努めました。令和4年度は大学機関別認証評価を受審し、内部質保証等の不断の取組みの成果を評価いただきました。

入口管理は、教職協働体制のもとオンラインおよび対面の両形式併用にてオープンキャンパスを2回実施し、前年度比500名増となる1700名を超える参加を得ることができました。オンラインにおいては学科等の紹介動画を前年度より増やし、また新たに学生が作成したサークル活動の動画を加え、手作りながらもキャンパスの雰囲気を共有できるように工夫しました。また、高校生にも門戸を広げた学部の授業参観ウィークを実施し、多くの参加生徒から高い評価を得ました。前年度から実施している看護学部の「全国児童養護施設推薦特別選抜入試」に加え、人間社会学部の「社会的養護を必要とする者」を対象とした入学試験（学校推薦型選抜）を実施しました。これらの結果、学部一般入試の志願倍率は5.7倍となり、目標とする4倍を上回りました。

出口管理は、学生委員会の下に置かれた進路・生活支援部会を中心に、各学科・コースにおいて国家試験対策に取り組みました。新卒者における看護師合格率は93%、保健師100%、助産師67%、社会福祉士94%、精神保健福祉士100%と、看護師と助産師が全国平均を下回る結果となりました。これらの結果を受け、助産師については大学院教育課程のカリキュラムの抜本的見直しに着手し、看護師については国家試験対策の仕組みと卒業要件見直しに着手しました。就職対策については、学生支援班のキャリア支援担当、就業力向上支援室、キャリアサポートセンターの3部署を集めた学生就職支援のワンストップ拠点を運用しました。また、キャリア支援システムの導入運用により、大学宛求人企業数の大幅な増加と相談室予約の効率化を図ることができました。その結果、就職率は人間社会学部において99%、看護学部において100%となりました。

教育は、全学横断型教育プログラムの「データサイエンス・プログラム」においては新たに学修証明書にデータサイエンス（リテラシー）を加えました。こちらは看護学部学生にも学修の門戸を広げたものになります。「データサイエンス・プログラム」学修証明書の発行数は、データサイエンス（基礎）が33名、データサイエンス（応用）が9名、そしてデータサイエンス（リテラシー）が111名となりました。「キャリアマネジメント・プログラム」の学修証明書（キャリアマネジメント基礎）は6名に発行しました。

☒

コロナ禍3年目のキャンパスライフの状況については文部科学省全国学生調査を実施し、学修面と生活面の両面から学生の状況を把握しました。同調査の結果については、自由記載に表れたニーズを含め各学部において共有し、教育の質向上と生活支援の各種取り組みにつなぎました。また、ベネッセが行う問題解決力を測るテスト「GPS-Academic」を1年生と3年生が受検しました。結果の個票について、対応の必要のある学生を抽出し、担当教員につなぎました。eラーニングシステムをMoodleに更新し、活用を推進した結果、学生の利用率は99%となりました。

経済的に修学が困難な学生に対する支援については、修学支援新制度に基づく授業料減免、大学独自の授業料減免、分割納付による学生支援を実施しました。本学独自の支援制度については、学生1名が真島・市場特別奨学金の給付対象となりました。これらにより、経済的理由による就学困難者の発生を防ぐことができました。

研究は、積極的に外部研究資金の導入を推進しました。外部研究資金の応募件数は54件、獲得件数は30件と目標を上回りました。研究倫理の徹底については、対面会議方式でおこなった研修・説明会を動画撮影し、全学教職員が随時視聴できるようにしました。研究成果の公表については、附属研究所と図書館が連携し、附属研究所研究奨励交付金の成果報告書を機関リポジトリに収録しました。

地域連携に基づく活動はコロナ禍の影響を受けながらも、各センターを中心に着実に行うことができました。とくに不登校・ひきこもりサポートセンターにおいてはスタッフの調整のもと3,000人（延べ人数）を超える学生が活動を行いました。同センターのフリースクール「キャンパススクール」においては延べ1,650人の児童生徒が通級し、登校開始率は89%と極めて高い水準となりました。また福岡県重点課題事業として「不登校児童生徒社会的自立支援事業」を受託し、県内20校の小中学校と協働のもと、福岡県の不登校児童生徒数減少に向けた新たなモデルを開発しました。

国際交流については、協定締結校とのオンラインイベントを複数開催することができ、教員交流数は22名と目標を上回りました。留学に関しては令和4年度もコロナ禍の影響を受けつつもオンラインの短期・長期留学を推進し、結果として留学生数は派遣44名、受け入れ57名の計101名となりました。新たな取組みとしてイギリスのオックスフォード・ブルックス大学と協働したオンライン短期留学プログラムを実施し、学生から好評を得ました。

総合的にはコロナ禍の影響を受けながらも、安定した大学教育の推進と内部質保証の健全性追求ができた年となりました。大小の変革を常に行っていくことによって安定した大学教育が推進されるという学長のリーダーシップのもと、激動する環境・危機的な環境を乗り切ることができたと自己評価しています。その成果は、大学機関別認証評価の結果に現れており、令和4年度に一般財団法人大学教育質保証・評価センターによる大学機関別認証評価を令和4年度に受審した19大学のうち、本学は唯一「改善を要する事項」がなく、「法令適合性」「教育研究の水準」「特色ある教育研究」のすべての基準に関してこれまでの取り組みが非常に高く評価されたことが物語っております。この基盤は、内部質保証サイクル向上のためには大学組織レベルから教職員個々人のレベルまであらゆるレベルでの積極的関与が求められるという考え方が学内に共有されてきたことにあります。危機に強い大学として、そして安定した大学として、不断の改革を複数レベルでおこなっていく大学として、引き続き使命に応えることのできる大学を追求します。

Ⅱ　中期目標項目

1　教育

【令和4年度】（教育）

1　専門的支援力の養成等

特色ある体系的な教育課程の編成については、高校情報教員免許の教職課程申請に伴い設置した新規3科目を次年度以降開講するための準備を行いました。また、看護学部の学生が履修しやすいように、新たに「データサイエンス（リテラシー）学修証明書」の交付要件を整えました。

教養教育の充実として、令和4年度は、令和2、3年度に引き続き入学オリエンテーション時にeラーニング研修を行いました。前期においては、原則として対面授業を実施し、受講者数と教室の制限から感染対策が困難な科目についてのみ遠隔授業を実施しました。後期については全科目対面授業で実施しました。学部においては令和5年度開始の英語の習熟度別クラス編成の準備を整えました。大学院においては人間社会学研究科教養科目「Postgraduate presentation skills development in English」を後期から開講しました。

人間社会学部における専門教育の充実については、「子ども家庭支援の心理学」を新規開設しカリキュラムの充実を図りました。また、県障がい福祉課と連携し、手話奉仕員（ボランティア）普及啓発のため、R4年6月に聴覚障害当事者と手話通訳者による講義を実施しました。データサイエンスプログラムにおいては、履修要件を満たした学生に「学修証明書」を交付しました（データサイエンス（基礎）33名、データサイエンス（応用）9名、データサイエンス（リテラシー）111名、キャリアマネジメント（基礎）6名）。

看護学部における専門教育の充実については、実践力を段階的に学ぶための学修環境として、ナーシングスキルラボ1（日常生活援助技術の強化）、ナーシングスキルラボ2（フィジカルアセスメント技術の強化）ナーシングスキルラボ3（臨床推論・判断力の強化：個室、多床室、周産期技術の強化）の計5部屋を整備し、演習や実習で活用しました。また今年度開始した学修証明書発行プログラム「ケアリング・ナーシングプログラム」の新規該当科目の選択科目「ケアリング・ナーシング演習」を開講し、21名が履修しました。

各種国家試験合格率のうち、看護師と助産師については、全国平均に及びませんでした。

2　高度専門職業人の人材育成

大学院各研究科における体系的な教育課程の編成については、ディプロマ・ポリシーおよびカリキュラム・ポリシーに基づき、カリキュラム編成やカリキュラムマップの見直しを行いました。連合大学院構想の他大学との調整については、令和4年度は連合大学院の運営実績のある関西の大学から情報収集を行いました。

人間社会学研究科においては、教養科目として「研究倫理」の新設を決定しました。子ども教育選考においては、メディア授業及び新設科目「子ども教育研究法」を実施しました。

看護学研究科の助産実践形成コースの実習においては、分娩介助技術シミュレーションルームを設置し、助産学実習での助産技術の習得に取り組みました。

大学院の学修成果検証については、10月に大学院生対象の学修環境等満足度調査をおこない、その結果を受けて11月に大学院生との座談会を実施しました。さらにそこで出た意見を両研究科委員会にフィードバックし、3月に再度、学修環境等満足度調査を実施したところ、社会人学生全員（12名）から満足であるとの回答を得ました。

３　教育活動の活性化
効果的なFD活動の推進については、教員を対象とした指導方法研修を対面とオンラインを用いて実施し、教員参加率は94%となりました。また、授業参観ウィークを学部と大学院別々に実施し、参加者は延べ150名を超えました。授業評価アンケートを前期・後期にそれぞれ2回実施（中間、終了時）しました。中間アンケートの結果はオンラインで教員が即座に閲覧することができ、そこに書かれた学生からの改善要求等に教員が終了時までにどのように対応するのかを学生に向けて掲示するフィードバックの仕組み（授業自己評価・対応プラン）を実施しました。
令和4年度文部科学省全国学生調査に参加し（106名回答）、学生の生活時間の課題やストレス状況を把握しました。とくに自由記載等に書かれたニーズに関しては、各学部に共有し、臨機応変に対応しました。また、ベネッセが行う問題解決力を測るテスト「GPS-Academic」を1年生と3年生が受検しました。結果の個票について、対応の必要のある学生を抽出し、担当教員につなぎました。
教育活動の定期的・多角的な評価の実施については、全科目の成績分布の分析を行い、各データとともに成績分布に偏りが見られる科目について、文書にて各学科等に通知しました。各学科等は成績評価アンケート等と合わせて指摘された点を中心に科目毎の成績評価を検討し、必要な点については対策案を立て、授業実施評価レポートに記載しました。

４　アドミッション・ポリシーに合った意欲ある学生の確保
　入学者のAP認知率は目標を上回る85.0%となりました。オープンキャンパスはオンラインと対面の両形式にて実施しました。オンラインにおいては学科等の紹介動画を前年度より増やし、また新たに学生が作成したサークル活動の動画を加えました。さらに個別相談、授業体験、展示、体験学修などを行いました。その結果、オープンキャンパス参加数は1,737名（対面732名、リモート1,005名）と前年度よりも大幅に増加しました。
　学部・一般入試の志願倍率が目標を上回る5.7倍となりました。令和5年度入試より人間社会学部の入学試験（学校推薦型選抜）において従来の枠組みに加えて「社会的養護を必要とする者」を対象とした枠組みを設けた試験を実施しました。
高大連携教育に関する協定を締結した県立西田川高校の生徒2名を科目等履修生として受け入れ、2名とも履修単位を取得しました。

５　学生の学修支援と生活支援
学生の学修環境の整備については、図書館本館へのカバン持ち込みを1年間試行し、特に大きな懸念が生じなかったため、カバン持ち込みを継続とし利便性の向上に努めました。また、eラーニングシステムをMoodleに更新し、活用を推進しました。その結果、eラーニングシステムの学生利用率は99%となりました。
連携する6大学共同の学生コンソーシアムについては、本学学生委員は13名が活動しました。学生コンソーシアム会議はオンラインにて5回あり、学生フェスティバル等を企画運営しました。学生フェスティバル（かんたま祭）はオンラインで開催し、参加者は延べ56名でした。
学生の生活支援等については、GPAに基づいて支援を行いました（前期62人、後期79人）。「福岡県立大学における障がいのある学生の支援に関する規則」に基づき、19件の申請に対して修学上の支援計画を決定しました。また、修学支援新制度に基づく入学料減免　42人、授業料減免（前期：152人、後期：145人）、大学独自の授業料減免（前期：4人、後期：4人）、分割納付（前期：14人、後期：14人）の支援を実施しました。外部資金等を活用した「真島・市場特別奨学金」による支援は1名に対して実施しました。

６　キャリア支援
学生のキャリア支援体制の充実・強化については、プレ・インターンシップを引き続き実施し、受け入れ先5団体、履修学生は8名の実績となりました。キャリア相談室の専任キャリアコンサルタント3名中2名が就職に関連した事務業務も兼任し、学生の就職・キャリア支援の更なる充実を図りました。キャリア相談室を利用した学生数は延べ1,156名となりました。
令和2年度卒業生247名および同卒業生の卒業時の就職先203か所を対象にオンラインアンケートを実施しました。卒業生アンケートと就職先アンケートの結果をコース別にまとめ、部局長会議で報告し、教授会に共有しました。
キャリア支援システムを導入し運用したところ、大学宛求人企業数の大幅な増加（前年度1,601件に対して令和4年度は23,272件）相談室予約の効率化を図ることができました。

　実施事項別評価は、Aを5項目、Bを14項目、Cを1項目とします。

2　研究

【令和4年度】（研究）

1　特色ある研究の推進

福祉社会の実現に寄与する研究の推進に関しては、附属研究所運営部会を中心に取り組みました。学際的研究プロジェクトである重点領域研究を公募し、3件を採択しました。また、本学の研究と地域社会のニーズとのマッチングを推進するために、ホームページ上に「研究シーズ集」（27件）を掲載しました。
学術成果については査読付き論文等が102件となり、目標とする100件を上回りました。

2　研究の実施体制等の整備

附属研究所研究推進部を中心に、積極的に外部研究資金の導入を推進しました。外部研究資金の応募件数は54件、獲得件数は30件と目標を達成しました。
　研究倫理の徹底については、対面会議方式でおこなった研修・説明会を動画撮影しました。それを全学教職員が視聴可能なクラウドサーバー上にアップロードし、オンデマンド聴講を可能にしました。教員受講率は87%でした。

3　研究水準向上と成果の公表

研究水準向上のための取り組みについては、附属研究所運営部会が推進しました。
学内研究奨励交付金における募集枠として、若手研究を強化するため、募集枠を7件から9件に増やしました。科研費獲得に向けた助成を強化するため、科研費申請審査結果が「B」であった教員に対する科研費申請補助を令和3年度に引き続き実施しました。
研究成果の公表については附属研究所と図書館が連携し、附属研究所研究奨励交付金の令和3年度の成果報告書を令和4に機関リポジトリに収録・公表しました。

　実施事項別評価は、Bを8項目とします。

3　地域貢献及び国際交流

【令和4年度】（地域貢献及び国際交流）

1　地域社会との連携

公開講座を4回実施しました。オンライン講座を3回、対面講座を1回でしたが、参加人数は昨年度から約500人増の799人となりました。
リカレント教育については、看護実践教育センターにおいて現役の看護師を対象とした「看護師の特定行為研修」を引き続き実施しました。また看護学部では、リカレント教育部会を中心に「看護師向け」「保健師向け」「助産師向け」「養護教諭向け」「大学院修了生向け」の講座を実施しました。人間社会学部では、福岡県立大学社会福祉学と連携のもと、社会福祉士・精神保健福祉士等を対象にした研修会を実施しました。心理系のリカレントでは、オンラインと対面の両方式（ハイブリッド方式）を用いて全6回の研修会を行いました。

2　地域活性化への支援

　不登校・ひきこもりサポートセンターの県大子どもサポーター派遣事業では実人数233名、延べ3,073名の学生が活動しました。フリースクール事業では、延べ1,650名の児童生徒が通級しました。登校開始率は892%と極めて高い水準となりました。
　福岡県の重点課題事業として「不登校児童生徒社会的自立支援事業」を実施し、福岡県の不登校減少に向けた新たな取り組み方策を開発しました。
　社会貢献ボランティア支援センターでは、外部ボランティア団体・機関と学生とのコーディネートを実施し、団体登録が241件、活動学生数が延べ236人となりました。
　ペアレントトレーニング関連の研修会については計24回開催し、延べ47名が参加しました。またペアレントトレーニングを応用した特別支援教育スキルアッププログラムを5回開催し、延べ140名が参加しました。

3　国際交流の推進

国際交流協定締結大学との交流については、オンラインによる交流イベントを複数校と実施し、教員交流数22名を達成しました。三育大学校とのオンライン交流イベントには本学学生が4名、南京師範大学とのオンライン交流には本学学生が2名参加しました。
　オンラインおよび実地の留学生派遣・受入については101名となりました。うち、長期・短期を含めた派遣数は44名、受入数は57名であり、コロナ禍の影響を受けながらも着実に交流実績をあげました。なお、令和4年度に新たに開始したオックスフォードブルックス大学とのオンライン留学（短期語学実習・研修）につきましては、翌年度も実施する方向となりました。

　実施事項別評価は、A+を1項目、Aを1項目、Bを3項目とします。

４　業務運営の改善及び効率化

【令和4年度】（業務運営の改善及び効率化）
１　組織運営の改善・強化
学内組織や学内資源の配分見直しについては、「管理棟教務入試班(各種証明発行)」、「2号館キャリアオフィス(就職相談)」、「3号館学生支援班(奨学金受付等)」の3箇所に分かれていた学生窓口を3号館1階の学生支援センターへ移設し、窓口の一本化を完了しました。これにより、教務と学生支援の連携が速やかになり、学生へのサポートや支援がよりスピーディに対応できるようになりました。
　教員の士気を高めるための教育環境整備については、ベストティーチャー表彰を行いました（2名）。
SD等の推進については、公立大学協会の研修コンテンツを準備段階から把握し、コンテンツの公開後速やかに研修を受講できるようにしました。さらに業務に応じた受講計画を作成し、研修を系統的に全講座（4カテゴリー23項目）受講できる体制を整え、対象職員をプロパー職員に加え、県派遣職員にまで拡大し、本学事務局職員の資質向上につなげることができました。

２　事務事業等の効率化
事務処理省力化については、決算業務マニュアルの随時更新を行いました。その他既存の業務マニュアルについても、随時関係職員にて内容をチェックし、見直しの有無及び内容の充実について検討を行いました。
外部委託化については、引き続き地場企業の「たがわ情報センター」にITに関する学生及び教員からの相談対応業務の業務委託を行いました。

３　人権尊重、法令遵守の徹底及びリスクマネジメント体制の整備
法令遵守等の徹底については、随時、県からの通知文を部局長会議で報告し、教授会で周知しました。また、田川郡人権・同和対策推進協議会主催の研修会に参加しました。
リスクマネジメント体制の整備等については、大学ホームページ内に危機管理に関する情報の掲載ページを設け、いつでも危機管理マニュアル等を確認できるようにしました。また、大学ホームページへの掲載やメール配信等を通じ、新型コロナウイルスの感染予防対策及び感染状況等を学内外に積極的に配信することにより、学生、教職員及び学内関係者の感染防止に努めました。

　実施事項別評価は、A+を1項目、Aを1項目、Bを6項目とします。

５　財務内容の改善

【令和4年度】（財務内容の改善）
１　自己収入の積極的確保
外部資金の積極的確保については、ホームページに外部資金等の公募情報を掲載し、科学研究助成事業に関する学内研修会を開催しました。また、同時に研修会を録画し、教員がいつでも応募方法等を確認できる体制をとりました。
寄付金の受け入れについては常時ホームページに掲載するとともに、大学広報誌（春号・秋号）に掲載しました。外部資金の獲得額は4,683万円となりました。
大学施設の有効活用については、令和4年度はコロナ禍のため外部者の利用を原則中止するなかで、一般財団法人消防試験研究センターに試験会場として5回、田川市職員採用試験会場として1回有償で貸し出しを行いました。

２　業務効率化による経費の節減
管理経費の節減については、回廊および附属図書館書棚部分の電灯管をLEDに更新しました。また、設置から20年以上経過したエアコンを4台更新しました。

　実施事項別評価は、Bを3項目とします。

６　自己点検・評価及び情報の提供

【令和4年度】（自己点検・評価及び情報の提供）

１　内部質保証システムによる大学の質の維持・向上
一般財団法人大学教育質保証・評価センターによる大学機関別認証評価を受審しました。実地調査はオンライン形式にておこなわれました。実地調査における評価審査会の対象となったテーマは「児童生徒を対象とした不登校・ひきこもりサポートセンターの取組」であり、学内外の関係者の参加を得て進みました。正式な評価報告書は3月に受け取ることができました。その後、評価報告書と点検評価ポートフォリオを大学ホームページに掲載しております。
なお、大学教育質保証・評価センターによる認証評価を令和4年度に受審した大学は19ありますが、本学は唯一「改善を要する事項」がなく、「法令適合性」「教育研究の水準」「特色ある教育研究」のすべての基準に関してこれまでの取り組みが非常に高く評価される結果となりました。

２　県大ブランドイメージの醸成
令和4年度はオープンキャンパスをオンライン形式及び対面形式で開催しました。参加者は夏・秋合わせて1,737名となり、前年比461名の増加となりました。アンケート結果も「満足以上の評価」が約99.0%と好評でした。
高校訪問は39校へ、入試説明会は12回、出前講座は7回開催し、本学の情報を発信しました。

実施事項別評価は、A+を1項目、Bを3項目とします。

年度計画項目別評価

中期目標 1　教育に関する目標	(1) 特色ある教育の展開 ア 学士課程 人間と社会とを総合的に理解し、他の専門職と協働して問題解決に取り組み、福祉社会の実現を目指す人材を育成する。 また、看護の専門職としての確かな判断力と実践能力を備え、他の専門職と協働し、健康上の課題に主体的・創造的に対応できる人材を育成する。 イ 大学院課程 地域社会、福祉政策、対人援助の専門知識を持ち、高度福祉社会の実現に貢献できる人材を育成する。 また、地域の保健・医療・福祉分野の施策展開を推進できる高度な職業人としての看護職者や、看護学の創造と発展に貢献できる研究者・教育者を育成する。 (2) 教育活動の活性化 教育活動を定期的・多角的に評価するとともに、効果的なファカルティ・ディベロップメント等の組織的な取組を推進し、授業内容・方法の改善など全学的な教育力の向上を図る。 (3) 意欲ある学生の確保 明確な入学者受入れ方針の下、効果的・戦略的な広報活動の展開、高等学校との連携強化を図り、大学の魅力を広く伝えるとともに、入学者選抜改革を推進し、大学が求める資質・能力を持った学ぶ意欲の高い学生を確保する。 (4) 学生支援の充実 ア 学修支援・学生生活支援 留学生や障がいのある学生を含め、多様な学生が自主的・多面的な学修を行い、健康で充実した学生生活を送るため、学修環境の整備や学修・学生生活支援体制の充実・強化を図るとともに、経済的に修学が困難な学生に対する適切な支援を行う。 イ キャリア支援 学生の社会的・職業的自立に向けたキャリア教育に取り組み、就職に関する相談や企業を知る機会の拡充など、就職支援の充実・強化を図る。 また、県内の産業界等との連携強化や進学等の希望に対応する支援を行う。

中期計画		令和４年度計画		ウェイト	計画の実施状況等	自己評価		データ番号	通し番号
項目	実施事項					評価	理由		
1　福祉社会の実現に貢献できる専門的支援力の養成と多様なニーズに包括的に対応できる人材の育成 福祉社会の実現に貢献できる専門的支援力を養成する教育内容や多様なニーズに包括的に対応できる人材を育成する教育内容の充実を図る。	1【特色ある体系的な教育課程の編成】 ①教育に係る3つのポリシーを検討し、改訂する。 ②ディプロマ・ポリシー及びカリキュラム・ポリシーと整合した体系的な教育課程の編成と定期的な点検・見直しを実施する。 ③ディプロマ・ポリシー及びカリキュラム・ポリシーに基づいた適切な教育方法を検討し、実施する。	1	【令和４年度計画】 【特色ある体系的な教育課程の編成】 ①ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシーの定期的な検証を行う。 ②ディプロマ・ポリシー及びカリキュラム・ポリシーに基づいた教育課程を実施する。また定期的な点検・見直しを実施する。 ③ディプロマ・ポリシー及びカリキュラム・ポリシーに基づいた適切な教育方法がなされているかを、学修成果の評価について定めた本学の方針であるアセスメント・プランを通して検討及び改善する。	2	【令和４年度の実施状況】 【特色ある体系的な教育課程の編成】 ①[組織状況] 教務・共通教育部会が学部教務部会と連携を取りながら実施した。 [実施状況] R3年度の卒業時アンケート、成績評価アンケートの分析および成績評価の分布を分析し、カリキュラム・ポリシーを検証した。 ②[組織状況] 教務・共通教育部会が学部教務部会と連携を取りながら取り組んだ。 [実施状況] R3年度の授業実施評価レポートを作成し、ディプロマ・ポリシー及びカリキュラム・ポリシーと整合した体系的な教育課程の検証を行った。課題については対応プランを策定し、実施した。 ③[組織状況] 教務・共通教育部会が学部教務部会と連携を取りながら実施した。 [実施状況] R3年度の学位プログラムDPレビューを作成し、ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシーに基づいた教育方法の実施や学修成果について検証を行った。課題については対応プランを策定し、改善を図った。	B	【高く評価する点】		1

中期計画		令和４年度計画		ウェイト	計画の実施状況等	自己評価		データ番号	通し番号
項目	実施事項					評価	理由		
※1　福祉社会の実現に貢献できる専門的支援力の養成と多様なニーズに包括的に対応できる人材の育成の続き	1 ④保健・医療・福祉各分野の専門的知識を包括的に学べる専門教育プログラムを導入する。 ⑤社会の変化に対応できる汎用的な資質・能力を育成する全学横断型教育プログラムの充実を図る。 〇評価指標（指標及び達成目標） ・教育に係る3つのポリシー改訂　：H32年度の実施 ・体系的な教育課程の編成　：H33年度の実施 ・包括的な専門教育プログラムの導入　：H34年度の実施	1	④保健・医療・福祉各分野の専門的知識を包括的に学べる専門教育プログラムを実施する。 ⑤全学横断型教育プログラムで習得をめざすべき汎用的な資質・能力を引き続き検討するとともに、教育内容を改善する。 〇評価指標（指標及び達成目標） ・包括的な専門教育プログラムの導入 ：R4年度の実施	2	④[組織状況] 教務・共通教育部会が取り組んだ。 [実施状況] 学生便覧にて周知した上で、4月から包括的な専門教育プログラム「多職種連携プログラム」を実施した。看護学部については、本プログラムを履修し単位取得した人間社会学部の科目について、卒業要件における自由選択科目に含められるようにした。また、これらについて新入生に周知した。 ⑤[組織状況] 基盤教育センター、人間社会学部総合人間社会コース担当者会議、教務・共通教育部会が連携して取り組んだ。 [実施状況] ＜データサイエンス・プログラム＞ 高校情報教員免許の教職課程申請に伴い設置した新規3科目を次年度以降開講するための準備を行った。また、看護学部の学生が履修しやすいように、新たに「データサイエンス（リテラシー）学修証明書」の交付要件を整えた。 ＜キャリアマネジメント・プログラム＞ 既存科目の教育方法・内容の充実を検討し、R4年度後期は北九州市と連携して「問題解決演習」を実施した。 〇目標実績 ・包括的な専門教育プログラムの導入　：H34（R4）年度に実施	B	【実施（達成）できなかった点】		1

中期計画		令和４年度計画		ウェイト	計画の実施状況等	自己評価		データ番号	通し番号
項目	実施事項					評価	理由		
※1　福祉社会の実現に貢献できる専門的支援力の養成と多様なニーズに包括的に対応できる人材の育成の続き	2 【教養教育の充実】 ①導入教育の充実により、大学教育への円滑な移行を図る。 ②教養科目において導入教育の中心となっている「教養演習」の授業内容及び方法を継続的に改善する。 ③語学教育科目の充実を図る。 ④科目区分の再編により、社会変化に柔軟に対応可能な教養教育カリキュラムを構築する。 〇評価指標（指標及び達成目標） ・導入教育科目の新設 ：2科目（既存科目の改編を含む）（期末） ・科目区分の再編　：1回以上（期末）	1	【令和４年度計画】 【教養教育の充実】 ①既存の導入教育科目を、改善しながら実施する。 ②教養演習の改善点を検討し、教養演習テキストの改訂及び授業計画について改善を行う。 ③語学教育を強化し、内容の充実を図る。 ④教養教育カリキュラムの改善に向けて、既存科目の更なる見直し案を学部教務部会に提案の上、実施する。	1	【令和４年度の実施状況】 【教養教育の充実】 ①[組織状況] 基盤教育センターと教務・共通教育部会が連携して行った。 [実施状況] R2、3年度に引き続いて入学オリエンテーション時にeラーニング研修を行った。R4年度前期においては、原則として対面授業を実施し、受講者数と教室の制限から感染対策が困難な科目についてのみ遠隔授業を実施した。後期については全科目対面授業で実施した。 ②[組織状況] 基盤教育センターが実施した。 [実施状況] 新eラーニングシステムが稼働したことに伴い、R5年度の教養演習教科書の改定を行い編集作業を終了した。 ③[組織状況] 基盤教育センターと教務・共通教育部会が連携して行った。 [実施状況] R5年度開始の英語の習熟度別クラス編成の準備を整えた。大学院人間社会学研究科教養科目「Postgraduate presentation skills development in English」を後期から開講した。中国語検定試験（HSK）、韓国語検定に関する情報を授業を通して提供し、図書館に試験対策書を配備した上で、個別の相談に応じた。その結果、中国語が5名、韓国語は1名合格した。 ④[組織状況] 基盤教育センターと教務・共通教育部会が連携して行った。 [実施状況] R4年度カリキュラムより「全学共通科目」から「基盤教育科目」及び「総合科目」から「複合領域」への変更を行い、学生便覧等で学生に周知した。	B	【高く評価する点】 【実施（達成）できなかった点】		2

中期計画		令和４年度計画		ウェイト	計画の実施状況等	自己評価		データ番号	通し番号
項目	実施事項					評価	理由		
※1　福祉社会の実現に貢献できる専門的支援力の養成と多様なニーズに包括的に対応できる人材の育成の続き	3 【専門教育の充実（人間社会学部）】 ①カリキュラムと科目内容の見直しにより、社会福祉・保育・心理等の分野で求められる対人援助力等を養成する教育を推進する。 ②総合人間社会コースの保健福祉情報教育プログラム等の充実により、多様なニーズに包括的に対応できる専門的実践力を強化する教育を推進する。 ③他大学との連携による教育を充実する。（県内福祉系大学とのボランティア教育に関する連携に向けた検討） 〇評価指標（指標及び達成目標） ・カリキュラムと科目内容の見直し・改善　：全専門科目（期末）	1	【令和４年度計画】 【専門教育の充実（人間社会学部）】 ①各種専門資格等のカリキュラムの実施 ・幼稚園教諭一種免許・保育士資格、中学校（社会）・高等学校（公民）の教職課程（H31開始、4年目） ・高等学校（情報）の教職課程（R4開始、1年目） ・公認心理師資格（H30開始、R3完成） ・社会福祉士・精神保健福祉士（R3開始、2年目） 併せて実習教育の充実を図る。 ②多様なニーズに包括的に対応できる専門的実践力を強化するため、データサイエンス、キャリアマネジメント等、総合人間社会コースのプログラムを実施する。 ③他大学とのボランティア教育に関する連携に向けた検討を行う。 〇評価指標（指標及び達成目標） ・カリキュラムと全科目の科目内容を点検する。	1	【令和４年度の実施状況】 【専門教育の充実（人間社会学部）】 ①[組織状況] いずれの資格も当該コース会議と学部教務部会が連携して対応した。 [実施状況] 幼稚園教諭一種免許・保育士資格では、R3年度から延期されていた実習を前期に実施した。R4年度分は保育実習Ⅰ（保育所）、保育実習Ⅱ-A（保育所）、保育実習Ⅱ-B（施設）及び、幼稚園教育実習Ⅰ・Ⅱを計画通り実施した。しかし、コロナ禍の影響を受け、保育実習Ⅰ（施設）では、2名の学生がR5年度前期に延期となった。また、次年度以降に向けて、保育実習指導Ⅱ-A・Ⅱ-B の開講時期の見直しを行い、3年後期から4年前期の通年科目とした。加えて、「子ども家庭支援の心理学」を新規開設しカリキュラムの充実を図った。中学校（社会）・高等学校（公民）,介護等体験等、R4年度から開始している高等学校（情報）の教職課程は、カリキュラムを予定通り終了した。公認心理師は、コロナ対策として心理実習の時期および実習先を変更し、前期・後期の内容を終了した。社会福祉士は、地域活動を学ぶために新設したプレ実習（3日間）を6～10月に実施、正規実習としてソーシャルワーク実習A（7～8日間）を2～3月に実施した。精神保健福祉士は、実習配属学年を「4年通年」から「3年後期～4年前期」に見直し、プレ実習（1日間）を6月に実施、正規実習として障害福祉サービス事業所等（12日間）での実習を11～3月に実施した。コロナ対策を行った上で予定通りすべての実習を終了した。 ②[組織状況] 基盤教育センターと各プログラム担当者が連携して取り組んだ。 [実施状況] プログラムを予定通り終了した。両学部の多くの学生が履修できるよう、新たに「データサイエンス（リテラシー）学修証明書」を設けた。履修要件を満たした学生に「学修証明書」を交付した（データサイエンス（基礎）33名、データサイエンス（応用）9名、データサイエンス（リテラシー）111名、キャリアマネジメント（基礎）6名）。 ③[組織状況] 社会福祉学科が、コロナの感染状況に鑑みつつ、可能な範囲で学外機関と連携して実施した。 [実施状況] 県障がい福祉課と連携し、手話奉仕員（ボランティア）普及啓発のため、R4年6月に聴覚障害当事者と手話通訳者による講義を実施した。R5年度より参加大学との連携を実施するための検討を行った。 〇目標実績 ・カリキュラムと全科目の科目内容を点検した。	B	【高く評価する点】 【実施（達成）できなかった点】		3

中期計画		令和４年度計画		ウェイト	計画の実施状況等	自己評価		データ番号	通し番号
項目	実施事項					評価	理由		
※1　福祉社会の実現に貢献できる専門的支援力の養成と多様なニーズに包括的に対応できる人材の育成の続き	4 【専門教育の充実（看護学部）】 ①看護技術強化のための統合科目を開設する。 ②看護実践力強化のための臨地実習教育を充実させる。 ③他大学との連携による教育を充実させる。 （ケアリングアイランド九州沖縄コンソーシアムによる連携） 〇評価指標（指標及び達成目標） ・カリキュラムと科目内容の見直し・改善　：全専門科目（期末） ・モデル・コア・カリキュラムを参考にしたカリキュラムの改訂　：H31年度の実施 ・看護技術統合科目の開設　：H35年度の実施	1	【令和４年度計画】 【専門教育の充実（看護学部）】 ①看護技術強化のための統合科目と内容を検討する。 ②看護実践力強化のために、臨地実習前の演習科目の教育内容を検討・実施し改善を行う。 ③他大学との連携による講義の相互受講システムの課題として挙げられた、5年以上経過したコンソーシアムオリジナル連携科目VODの再作成を検討し、改善を行う。 〇評価指標（指標及び達成目標） ・カリキュラムと全科目の科目内容を点検する。	1	【令和４年度の実施状況】 【専門教育の充実（看護学部）】 ①[組織状況] 教務部会、科目責任者、横断科目コーディネート教員のもと検討を行った。 [実施状況] 統合演習で行う技術教育についてOSCE（客観的臨床能力試験：Objective Structured Clinical Examination）で評価するため、具体的な事例、チェック方法等について、科目責任者・科目担当者とともに検討を行い、内容を改善した。 ②[組織状況] 教務部会のもと検討を行った。 [実施状況] 3年生前期に開講している臨地実習前の複数の演習科目については、教育内容と方法の観点から段階的に学べるよう組み立てた案を再度、演習科目担当者間で検討を繰り返すことで、演習内容を改善した。さらに、実践力を段階的に学ぶための学修環境として、ナーシングスキルラボ1（日常生活援助技術の強化）、ナーシングスキルラボ2（フィジカルアセスメント技術の強化）ナーシングスキルラボ3（臨床推論・判断力の強化：個室、多床室、周産期技術の強化）の計5部屋を整備し、一部演習や実習で活用した。 ③[組織状況] 再構成の教材（VOD）作成については、戦略連携室担当者と各連携大学の担当教員が連携し、各大学の卒業生への連絡調整を行い、撮影と編集を進めていく体制を整え実施した。 [実施状況] 新型コロナウイルス感染拡大に伴い、依頼調整ができない状況や撮影日の延期等があり、当初予定のR4年度後期の全コマ一斉開講は困難をきたしているが、編集が完了した教材から順次公開した。しかし再構成のコマ数は全16コマであるが、R4年度6コマの完成にとどまった。R5年度前期に残りの完成を目指し、後期より新編成のVOD教材にて展開予定である。また今年度開始した学修証明書発行プログラム「ケアリング・ナーシングプログラム」の新規該当科目の選択科目「ケアリング・ナーシング演習」を開講し、21名が履修した。 〇目標実績 ・カリキュラムと全科目の科目内容を点検した。 ・看護技術統合科目の開設についてはR4年度に到達した。	A	【高く評価する点】 ナーシング・スキルラボの機器整備の結果、学生は問診、視診、聴診、打診、触診などを用いて患者（シミュレーター）さんの情報を集め、分析し、患者さんにあった対応を考察するフィジカルアセスメントを学んでいる。例えば、患者（シミュレーター）から聴診を行い、正確な測定（正常、異常）を行えるだけでなく、測定結果から患者の身体で何が起きているかを考え、適切な看護を考えることができるようになっている。自己学習のためにスキルラボ室を活用し、練習を行っており、主体的学習につなっがている。また、コロナ禍における学内実習では、ナーシングスキルラボに設置したシミュレーターやスタッフステーションを活用し、臨地実習により近い実習を実施することができた。 【実施（達成）できなかった点】	No.20 「大学間連携」	4

中期計画		令和４年度計画		ウェイト	計画の実施状況等	自己評価		データ番号	通し番号
項目	実施事項					評価	理由		
※1　福祉社会の実現に貢献できる専門的支援力の養成と多様なニーズに包括的に対応できる人材の育成の続き	5 【学修成果の検証】 各種データを用いた学修成果の検証を行う。 〇評価指標（指標及び達成目標） ・授業の学修到達目標に対する達成度（授業評価アンケート）　：全学平均3以上（4段階評定）（単年） ・DP到達度（卒業時アンケート）　：全学平均4以上（5段階評定）（単年） ・国家試験合格率 ：看護師 98%以上（単年） 保健師 90%以上（単年） 社会福祉士65%以上（単年） 精神保健福祉士70%以上（単年）	1	【令和４年度計画】 【学修成果の検証】 ①アセスメント・プランに基づき各種データ（授業評価、成績評価、卒業時、卒業生・就職先アンケート等）を用いて学修成果を検証する。 〇評価指標（指標及び達成目標） ・授業の学修到達目標に対する達成度（授業評価アンケート）　：全学平均3以上（4段階評定） ・DP到達度（卒業時アンケート）　：全学平均4以上（5段階評定） ・国家試験合格率　：　看護師 98%以上 保健師 90%以上 社会福祉士65%以上 精神保健福祉士70%以上	1	【令和４年度の実施状況】 【学修成果の検証】 ①[組織状況] 教務・共通教育部会において卒業時アンケート、成績評価アンケート、受講者数と成績分布の集計、進路生活支援部会において卒業生・就職先アンケート、学部SD・FD部会において授業評価アンケートの実施と結果分析、学部において国家資格等合格率の把握を実施した。 [実施状況] 教務・共通教育部会において、R3年度卒業時アンケート、成績評価アンケート及び受講者と成績分布について結果分析を行った。進路生活支援部会において、R4年度卒業生・就職先アンケートについて実施し、結果分析を行った。学部SD・FD部会において、前期及び後期授業評価アンケートを実施した。 〇目標実績 ・授業の学修到達目標に対する達成度(授業評価アンケート)　：3.6/4.0 ・DP達成度(卒業時アンケート)　：4.5／5.0 ・国家試験合格率　：看護師 93.3%（83人/89人） 保健師 100%（15人/15人） 社会福祉士 93.5%（43人/46人） 精神保健福祉士 100%（14人/14人）	B	【高く評価する点】 【実施（達成）できなかった点】	No.7「資格試験合格率、免許の種類」 No.8「学生による授業評価」	5

中期計画		令和４年度計画		ウェイト	計画の実施状況等	自己評価		データ番号	通し番号
項目	実施事項					評価	理由		
2　高度専門職業人の人材育成 　地域社会、福祉政策、対人援助の専門知識を持ち、高度福祉社会の実現に貢献できる人材の育成および地域の保健・医療・福祉分野の施策展開を推進できる高度な職業人としての看護職者や、看護学の創造と発展に貢献できる研究者・教育者を育成するためのカリキュラムの充実を図る。	1　【体系的な教育課程の編成】 ①教育に係る3つのポリシーを検討し、改訂する。 ②ディプロマ・ポリシーおよびカリキュラム・ポリシーと整合した体系的な教育課程の編成と定期的な点検・見直しを実施する。 ③ディプロマ・ポリシーおよびカリキュラム・ポリシーに基づいた適切な教育方法を展開する。 ④修士課程を見直すとともに、博士課程の設置を検討する。 〇評価指標（指標及び達成目標） ・教育に係る3つのポリシー改訂　：H33年度の実施	1	【令和４年度計画】 【体系的な教育課程の編成】 ＜人間社会学研究科＞ ①改訂した3つのポリシーについて検証する。 ②改訂したディプロマ・ポリシーおよびカリキュラム・ポリシーと体系的な教育課程の編成の整合性について点検する。 ③改訂したディプロマ・ポリシーおよびカリキュラム・ポリシーに基づいた適切な教育方法を実施する。 ＜看護学研究科＞ ①改訂した3つのポリシーについて検証する。 ②改訂したディプロマ・ポリシーおよびカリキュラム・ポリシーと体系的な教育課程の編成の整合性について点検する。 ③改訂したディプロマ・ポリシーおよびカリキュラム・ポリシーに基づいた適切な教育方法を実施する。 ④高度看護専門教育の充実を図るために、修士課程のカリキュラムについて検討する。 ＜人間社会学研究科＞＜看護学研究科＞ ④連合大学院構想を推進するための大学間調整を行う。	1	【令和４年度の実施状況】 【体系的な教育課程の編成】 ＜人間社会学研究科＞ ①②③[組織状況] 各専攻において検討された内容について、入試部会（アドミッション・ポリシー）、学務部会（ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシー）で調整し、研究科委員会でこれらの検証を行った。 [実施状況] ①②社会福祉専攻では、ディプロマ・ポリシーに基づき、R5年度からの新カリキュラムのカリキュラム・ポリシー及びカリキュラムマップの見直しを行った。カリキュラム・ポリシーについては、2月17日の研究科委員会で承認された。心理臨床専攻は、教育課程を見直し、E群の「産業・労働分野に関する理論と支援の展開」を実践展開科目に移動し、心理療法特論をE群に新設した。子ども教育専攻は、R5年度からの科目の統廃合に伴うカリキュラム編成とカリキュラムマップの見直しを行った。 ③現行のディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシーに基づいて適切に教育を実施した。 ＜看護学研究科＞ ①②③④[組織状況] 看護学研究科将来構想WG、学務部会および入試部会と連携のもと検討した。 [実施状況] ①3つのポリシーの検証のために、3月1日の修士論文発表会後にFD部会を通して学修環境アンケートを行い、その結果に基づいて検証を行った。 ②ディプロマ・ポリシーおよびカリキュラム・ポリシーに基づいて、R4年度の授業を実施した。履修の手引きの見直しを行う際に、コースツリーやカリキュラムマップについて、ディプロマ・ポリシーおよびカリキュラム・ポリシーと相違がないことを確認した。 ③ディプロマ・ポリシーおよびカリキュラム・ポリシーに基づいた適切な教育方法についてシラバスで確認を行った。また、学修環境アンケート結果（FD部会実施）に基づいて、科目内容や時間割の検討を行った。 ④大学院の将来構想を含め、充実した高度看護専門教育にむけたカリキュラム内容の検討を行い、方向性を確認した。 ＜人間社会学研究科＞＜看護学研究科＞ ④[組織状況] 連合大学院構想は将来構想検討部会が主に議論している。 [実施状況] 関西の大学と調整をおこなった。また連合大学院の起動・運営について京都教育大学から情報収集をおこなった。	B	【高く評価する点】 【実施（達成）できなかった点】		6

中期計画		令和４年度計画		ウェイト	計画の実施状況等	自己評価		データ番号	通し番号
項目	実施事項					評価	理由		
※2　高度専門職業人の人材育成の続き	2 【専門教育の充実（人間社会学研究科）】 　高度福祉社会の実現に貢献できる職業人育成を目的とした、カリキュラムと科目内容の見直し、実習等の充実を図る。 〇評価指標（指標及び達成目標） ・カリキュラムと科目内容の見直し・改善　：全科目（期末）	1	【令和４年度計画】 【専門教育の充実（人間社会学研究科）】 ＜心理臨床専攻＞ H30年度に開始した公認心理師のためのカリキュラムを点検しつつ、実施するとともに、実習の充実を図る。 ＜社会福祉専攻＞ 認定社会福祉士の研修科目としての認証に併せて、カリキュラムの見直しを検討し、一部改定する。 ＜子ども教育専攻＞ 学生のニーズや傾向を踏まえて実習方法や科目内容を見直し、修正した新カリキュラムを実施する	1	【令和４年度の実施状況】 【専門教育の充実（人間社会学研究科）】 [組織状況] 研究科全体の事項に関しては学務部会、各専攻の課題は専攻会議で検討し、必要に応じて学務部会で共有して相互に助言などを行った。 [実施状況] 研究科3専攻の共通の教養科目として、「研究倫理」の新設を決定した。 ＜心理臨床専攻＞ [組織状況] 定期的に開催される専攻会議の中で、学務部会員を中心に検討した。 [実施状況] 学内実習は、ペアレントトレーニングの前期・後期が終了した。心理教育相談室での心理面接は実施中である。学外実習は、中断、変更を行いながら、実施中である。厚労省の指針変更や学生の経済状況も踏まえて実習に際してのコロナ対策の修正を行った。また、教育および特別研究の指導体制充実のため新たに授業担当教員と研究指導教員を教員資格審査によって増員した。 ＜社会福祉専攻＞ [組織状況] 専攻会議において検討を行った。 [実施状況] 専攻会議で新カリキュラム案（R5年度～）をまとめ、学務部会、研究科委員会に諮り、承認された。また、特別研究の指導体制充実のため新たに研究指導教員と研究指導補助教員を教員資格審査によって増員した。 ＜子ども教育専攻＞ [組織状況] 定期的に開催される専攻会議で検討を行った。 [実施状況] メディア授業及び新設科目「子ども教育研究法」を実施した。実習方法では次年度より実習先の選択を学期中ではなく入学オリエンテーションの際に行うよう改めることを決定した。また、特別研究の指導体制充実のため新たに研究指導教員を教員資格審査によって増員した。R5年度以降のカリキュラムの再編成のため、科目の統廃合を行った。	1	B	【高く評価する点】 【実施（達成）できなかった点】		7

中期計画		令和４年度計画		ウェイト	計画の実施状況等	自己評価		データ番号	通し番号
項目	実施事項					評価	理由		
※2　高度専門職業人の人材育成の続き	3 【専門教育の充実（看護学研究科）】 　高度看護専門教育の充実を目的とした、カリキュラムと科目内容の見直し、実習等の充実を図る。 〇評価指標（指標及び達成目標） ・カリキュラムと科目内容の見直し・改善：　全科目（期末）	1	【令和４年度計画】 【専門教育の充実（看護学研究科）】 ①高度看護専門教育の充実を目的としたカリキュラムについて検討する。 ②助産師が修得すべき能力の充実を図るため、新カリキュラムに基づき、助産実践形成コースの実習について検討する。 ③倫理を踏まえた研究力強化に向け、人間社会学研究科との連携による科目を検討する。	1	【令和４年度の実施状況】 【専門教育の充実（看護学研究科）】 ①②[組織状況] 看護学研究科の学務部会と大学院入試部会、大学院入試WGを統合させた大学院将来構想WGを立ち上げ、検討した。 ①②[実施状況] R7年度の新カリキュラム改正を目指し、看護学研究科の将来構想をふまえ、ディプロマ・ポリシーの見直し、それに伴う科目内容の検討を行った。助産実践形成コースの実習においては、分娩介助技術シミュレーションルームを設置し、助産学実習での助産技術の習得に取り組んだ。また、厚生労働省から提示されている「助産師教育の技術項目の卒業時の到達目標」をもとに、助産学実習での技術習得内容を確認し、示されている技術の目標を到達できているカリキュラムであることを確認した。 ③[組織状況] 看護学研究科の学務部会で検討した。 [実施状況] 人間社会学研究科との連携による科目の開設として、研究倫理（人を対象とした）に関する科目を看護学専攻での履修科目として位置づけることを検討した。	B	【高く評価する点】 【実施（達成）できなかった点】		8

中期計画		令和４年度計画		ウェイト	計画の実施状況等	自己評価		データ番号	通し番号
項目	実施事項					評価	理由		
※2　高度専門職業人の人材育成の続き	4 【学修成果の検証】 各種データを用いた学修成果の検証を行う。 ○評価指標（指標及び達成目標） ・国家試験合格率　：助産師100%（単年）	1	【令和４年度計画】 【学修成果の検証】 ①大学院FDとして、在学生・修了生に対してアンケート調査を実施し、学修成果の検証を行う。 ○評価指標（指標及び達成目標） ・国家試験合格率　：助産師100%	1	【令和４年度の実施状況】 【学修成果の検証】 ①[組織状況] 福岡県立大学大学院FD部会規則第4条に基づき大学院FD部会を定期的に開催し、在学生・修了生への満足度調査を実施し、学修成果の検証を行った。 [実施状況] 在学生の満足度調査・大学院生との座談会を実施した後、3月に修了生の満足度調査を実施し、その中から社会人分を抽出した結果、全員（12名）から満足であるとの回答を得た。その結果に基づいて教員間で意見交換し、学修成果を検証した。 ○目標実績 ・国家試験合格率：助産師66.7%（4人/6人）	C	【高く評価する点】 【実施（達成）できなかった点】 助産師の国家試験合格率は66.7%であったため、R5年度100%の合格に向けて着手し、カリキュラム、入試の見直しを行った。	No.7 「資格試験合格率、免許の種類」	9

中期計画		令和４年度計画		ウェイト	計画の実施状況等	自己評価		データ番号	通し番号
項目	実施事項					評価	理由		
3　教育活動の活性化 教育内容に対する学生の理解を促進する授業を行うため、教員の教育能力向上を図る。	1【効果的なFD活動の推進】 ①教員を対象とした指導方法研修を実施する。 ②教員間の授業参観システムを実施する。 ③他大学、他機関と連携したFD活動を実施する。	1	【令和４年度計画】 【効果的なFD活動の推進】 ①教員を対象とした指導方法研修を実施する。 ②教員間の授業参観システムを実施する。 ・授業参観ウィークを実施する。（学部） ・授業参観ウィークを実施する。（大学院） ③他大学、他機関で開催されるFDセミナーに参加し、他大学と連携したFD活動を推進する。	1	【令和４年度の実施状況】 【効果的なFD活動の推進】 （学部） ①[組織状況] 公立大学法人福岡県立大学SD・FD部会規則4条に則り、FDセミナーの開催に取り組んだ（総合情報委員会、進路・生活支援部会、IR推進室と共催を含む）。 [実施状況] ・「メール移行説明会」を実施した（7月6日：共催：総合情報委員会、大学院FD部会）参加人数77名。 ・ベストティーチャーによる公開授業を実施した（10月31日）参加人数6名。 ・「第1回大学改革セミナー」を実施した（11月2日：共催：IR推進室）参加人数69名。 ・「合理的配慮について学ぶ」を実施した（3月8日：共催：学生相談室運営部会・学生総合支援センター）参加人数64名。 ・第2回大学改革セミナー「ベネッセGPS-Academic報告会」を実施した（3月17日）参加人数32名。 ・「DXワーキング」（看護学部対象）を実施した（3月29日）参加人数29名。 ②［組織状況］ 公立大学法人福岡県立大学SD・FD部会規則4条に則り、FDセミナーの開催に取り組んだ（総合情報委員会、進路・生活支援部会、IR推進室と共催を含む）。 [実施状況] 授業参観ウィークを10月31日～11月4日の4日間実施し、36科目に教員36名、高校生114名が参加した。 ③[組織状況] 学部SD・FD部会において、学外で開催されるFDセミナーへの参加の促進、また他大学と連携したFD活動の推進に取り組んだ。 [実施状況] 研修名：大学教育DXに関するWEBセミナー（株式会社ベネッセコーポレーション）（7月6日～8日）1名参加。	B	【高く評価する点】 【実施（達成）できなかった点】	No.9 「FD」	10

中期計画		令和４年度計画		ウェイト	計画の実施状況等	自己評価		データ番号	通し番号
項目	実施事項					評価	理由		
※3　教育活動の活性化の続き	1 ○評価指標（指標及び達成目標） ・FD活動等への教員参加率　：100%（単年）	1	○評価指標（指標及び達成目標） ・FD活動等への教員参加率　：100%	1	（大学院） ①[組織状況] 福岡県立大学大学院FD部会規則第4条に基づき大学院FD部会を定期的に開催し、大学院FDセミナーを企画・実施した。 [実施状況] 教員を対象とした大学院FDセミナーを学部FD部会と共催で開催した（3/28）。 ②[組織状況] 福岡県立大学大学院FD部会規則第4条に基づき大学院FD部会を定期的に開催し、授業参観ウィークを企画・実施した。 [実施状況] PDCAサイクルに基づき、前年度（12月）実施分をふりかえり、R4年度は授業参観ウィークを6月に実施した。 ○目標実績 ・FD活動等への教員参加率　：93.8%（90人/96人）	B		No.9 「FD」	10

中期計画		令和４年度計画		ウェイト	計画の実施状況等	自己評価		データ番号	通し番号
項目	実施事項					評価	理由		
※3　教育活動の活性化の続き	2 【学生の主体的な学修を促進する効果的な教育方法の展開】 ①学生の学修時間の実態を把握することで、学修時間確保に必要な対策を検討する。 ②アクティブ・ラーニング等、学生の主体的な学修を促す教育方法を促進する。 ③学生自習グループの活動を支援する。 〇評価指標（指標及び達成目標） ・アクティブ・ラーニングを取り入れた授業科目数（講義科目）　：20%増加（期末）	1	【令和４年度計画】 【学生の主体的な学修を促進する効果的な教育方法の展開】 ①学生の学修時間の実態を把握し、学修時間確保に必要な対策を立案する。 ②アクティブ・ラーニングを取り入れた授業について、学生の意識等を把握しFD活動に反映させる。 ③把握した学生自習グループの活動状況の分析結果をもとに支援する。 〇評価指標（指標及び達成目標） ・アクティブ・ラーニングを取り入れた授業科目数（講義科目）　：20%増加（期末）	2	【令和４年度の実施状況】 【学生の主体的な学修を促進する効果的な教育方法の展開】 ①[組織状況] 学部SD・FD部会とIR推進室の合同で取り組んだ。 [実施状況] ・「GPS-Academic」（受検期間6月30日～9月30日）を1年生を対象に実施した（回答数234名）。 ・「GPS-Academic」（受検期間7月28日～9月16日）を3年生を対象に実施した（回答数112名）。 ・R4年度文科省全国学生調査（調査期間R4年12月12日～R5年1月20日）を実施した(回答数106名）。 ②[組織状況] 学部SD・FD部会と総合情報委員会の共催で取り組んだ。 [実施状況] ・第1回eラーニング講習会を実施した（9月21日）参加人数24名。 ・第2回eラーニング講習会を実施した（3月14日）参加人数61名。 ・FDセミナー「アクティブラーニングを効果的に 『教える』を学ぶエッセンス」を実施した（3月28日、大学院FD部会共催）参加人数41名。 ③[組織状況] 学部SD・FD部会で学生自習グループの把握と活動状況調査を行った。 [実施状況] 学生自習グループの活動状況を把握し、5号館の自習室の机の整備、5号館自習室の利用時の手続きのWEB登録への切り替え、全体の利用ルールの明確化と学生への周知を行った。新利用ルールの周知状況とルールの遵守状況等を調査した。	B	【高く評価する点】 【実施（達成）できなかった点】		11

中期計画			令和４年度計画		ウェイト	計画の実施状況等	自己評価		データ番号	通し番号
項目	実施事項						評価	理由		
※3　教育活動の活性化の続き	3	【教育活動の定期的・多角的な評価の実施】 ①教育活動の調査と教育効果を検証する。 ②成績評価の分布に関する調査及び検証を行う。 ③成績評価の客観性、厳格性の担保に関する全学的体制を整備する。 〇評価指標（指標及び達成目標） ・成績評価の客観性、厳格性の担保に関する全学的体制の整備　：H33年度の実施	1	【令和４年度計画】 【教育活動の定期的・多角的な評価の実施】 ①教育活動の調査を行い、教育効果を検証する。 ②成績評価の分布に関する調査及び検証を行う。 ③R2年度に決定したアセスメント・プランを実施する。	1	【令和４年度の実施状況】 【教育活動の定期的・多角的な評価の実施】 ①[組織状況] 教務・共通教育部会において調査の実施と分析を行った。 [実施状況] 「eラーニングシステム活用による教育効果」の調査結果（R3年度）を基に、eラーニングの活用方法を分析した。 教員はコロナ禍以前と比較しeラーニングシステム活用頻度が高くなっており、対面授業と組み合わせることにより、授業資料の提示、課題の提示・提出、および科目管理において学修効果が高いと評価した。学生は、全学年において、授業資料の確認、授業内容（動画）視聴、課題提出、テスト機能、アンケート提出を利用した際の学修効果を高く評価していた。この分析結果に基に、R4年度はeラーニングシステムがMoodleに変更になったため、R5年度の活用方法分析に向け、再度「eラーニングシステム活用による教育効果」の調査を実施した。 ②[組織状況] 教務・共通教育部会において調査及び検証を行った。 [実施状況] 教務・共通教育部会において学科・コース・基盤教育別で、全科目の成績分布の分析を行った。各データとともに成績分布に偏りが見られる科目について、文書にて各学科等に通知した。各学科等は成績評価アンケート等と合わせて指摘された点を中心に科目毎の成績評価を検討し、必要な点については対策案を立て、授業実施評価レポートに記載した。また、学部長を経て教務入試委員会に報告した。 ③[組織状況] アセスメント・プランの指標に基づき、教務・共通教育部会にて調査を行い、各学部・学科・コース・基盤教育センターに結果分析を報告した。この報告に基づき、学科・コースは授業実施評価レポートを作成し学部に提出した。各学部は上記の調査資料に進路生活支援部会による結果分析報告等資料を加え学位レビューを作成し、教務入試委員会に提出した。 [実施状況] アセスメント・プランの指標中、卒業時DP到達度アンケートと成績評価アンケート結果(R3年度）の分析終了後、報告書を作成した。また、受講者数と成績分布結果の学科・コース毎の分析を行い報告書を作成した。各分析結果を各学科・コースに通知した。各学科で指摘のあった内容について検討し、必要な対策案を授業実施評価レポートとしてまとめた。これらの報告書に進路生活支援部会による就職、進学、資格試験結果分析報告等の資料を加え学位レビューを作成し、教務入試委員会に提出した。	B	【高く評価する点】 【実施（達成）できなかった点】		12

<table>
<tr><th colspan="2">中期計画</th><th colspan="2">令和４年度計画</th><th>ウェイト</th><th>計画の実施状況等</th><th colspan="2">自己評価</th><th>データ番　号</th><th>通し番号</th></tr>
<tr><th>項目</th><th>実施事項</th><th></th><th></th><th></th><th></th><th>評価</th><th>理由</th><th></th><th></th></tr>
<tr><td>4　アドミッション・ポリシーに合った意欲ある学生の確保

　アドミッション・ポリシーにより求める学生像を明確にし、高等学校等との連携を図り、福岡県立大学が求める資質と能力を備えた意欲ある入学者を確保する。</td><td>1【アドミッション・ポリシーの明確化と戦略的な広報活動】

　求める学生像、入学者選抜方針をアドミッション・ポリシーとして明確化し、意欲ある学生を確保するための戦略的な広報活動を行う。</td><td>1</td><td>【令和４年度計画】
【アドミッション・ポリシーの明確化と戦略的な広報活動】

＜学部＞
広報活動については、アドミッション・ポリシーを文章で明示および口頭での説明を行い、オープンキャンパス、入試説明会、高校訪問を通して強化する。

＜大学院＞
広報活動については、アドミッション・ポリシーを文章で明示および口頭での説明を行い、オープンキャンパス、入試説明会、個別相談を通して強化する。</td><td>1</td><td>【令和４年度の実施状況】
【アドミッション・ポリシーの明確化と戦略的な広報活動】

＜学部＞
[組織状況]
学部入学試験部会が両学部と連携して行った。

[実施状況]
大学案内の入試概要ページにアドミッション・ポリシーを記載した。そして、小論文・面接問題集に、アドミッション・ポリシーと小論文の関係を記載した。R4年度もインターネット出願においてアドミッション・ポリシーと試験内容の対応を提示し、確認した。SNSでの広報活動を特定の登録者以外への広報を意図し、フェイスブックからインスタグラムに変更した。入試部会内に新たにメディア小部会を設置し、オープンキャンパスでは動画作成の管理を行い、また本学ホームページを精査し、広報として不備な点について各部署に修正を依頼するなど、動画配信やホームページでの広報を強化した。高校訪問及び入試説明会については、R4年度より、入試部会員だけでなく、全教員で行う体制に変更し、アドミッション・ポリシーを含めた広報活動を強化した。また「入試広報活動手許資料」を、より受験生が本学を理解しやすい表現で答えられるよう改訂した。さらに使用するスライドや動画の統一化を進め、広報活動の質の向上を図った。R4年度はオープンキャンパスをオンラインと対面の両方で実施した。オンラインにおいては学科等の紹介動画をR3年度より増加、また新たに学生が作成したサークル活動の動画を加えた。個別相談も継続して実施した。対面は予約制とし人数制限を行い、個別相談、授業体験、展示、体験学修などを行った。

＜大学院＞
[組織状況]
大学院入学試験部会とアドミッション・オフィスが連携して行った。

[実施状況]
両研究科でホームページの構成等を修正し、R4年度版パンフレットやチラシなどを随時ホームページにて更新し、入試相談用メールを各コースで新設した。
子ども教育専攻は7月に関係機関にチラシを、10月に人間社会学研究科のリーフレットをリニューアルし、同窓会の配布物や子ども教育専攻のチラシと一緒に同窓生に郵送した。看護学研究科では、新たに卒後3年目の卒業生の勤務先63か所にもパンフレットを送付した。
<table><tr><td></td><td></td><td colspan="4">オープンキャンパス:個別相談</td><td>随時の個別相談</td><td colspan="2">進学説明会</td><td colspan="2">パンフレットなどの送付</td></tr><tr><td></td><td>期日</td><td>1回目
8.6</td><td>2回目
9.28</td><td>合計</td><td></td><td>対面＋メール</td><td>日付等</td><td>人数</td><td colspan="2"></td></tr><tr><td></td><td>方法など</td><td>オンライン＋対面</td><td>オンライン</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td colspan="2"></td></tr><tr><td rowspan="5">人間社会学研究科</td><td>社会福祉専攻</td><td>10</td><td></td><td>10</td><td>5</td><td>7月27日</td><td>39</td><td rowspan="6">大学院募集ポスター:798か所の関係機関</td><td rowspan="5">リーフレットと子ども教育専攻のチラシ800部</td></tr><tr><td>心理臨床専攻</td><td>18</td><td>6</td><td>24</td><td>3</td><td>6月29日</td><td>40</td></tr><tr><td>子ども教育専攻</td><td>0</td><td>1</td><td>1</td><td>3</td><td>12月10日</td><td>48</td></tr><tr><td>合計</td><td>28</td><td>7</td><td>35</td><td>5</td><td></td><td>127</td></tr><tr><td rowspan="2">看護学研究科</td><td>研究コース</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td><td>9</td><td></td><td></td><td rowspan="2">パンフレット300か所の関係機関</td></tr><tr><td>助産実践形成コース</td><td>9</td><td>2</td><td>11</td><td>0</td><td>7月6日
5月30日</td><td>1～3年生対象:14
4年生対象:6</td></tr><tr><td>合計</td><td>9</td><td>2</td><td>11</td><td>9</td><td></td><td>20</td></tr></table></td><td>A</td><td>【高く評価する点】
オープンキャンパスの開催形式をコロナ禍で新たに始めたリモートに加え、予約制及び人数制限を取り入れた上で対面型を再開した結果、R3年度（1,276人）よりも大幅に参加者が増加した。

【実施（達成）できなかった点】</td><td>No.3「高校訪問」
No.4「入試説明会」
No.6「オープンキャンパス」</td><td>13</td></tr>
</table>

中期計画		令和４年度計画		ウェイト	計画の実施状況等	自己評価		データ番号	通し番号
項目	実施事項					評価	理由		
※4　アドミッション・ポリシーに合った意欲ある学生の確保の続き	1 ○評価指標（指標及び達成目標） ・入学者のAP認知率　：80%以上（単年） ・オープンキャンパス参加者数及びアンケート　：1,000名以上、良好評価75%以上（単年） ・入試説明会参加数及びアンケート　：10会場、良好評価75%以上（単年） ・訪問高校数及びアンケート　：30校、良好評価75%以上（単年）	1	○評価指標（指標及び達成目標） ・入学者のAP認知率　：80%以上 ・オープンキャンパス参加者数及びアンケート　：1,000名以上（リモート参加含む）、良好評価75%以上 ・入試説明会参加数及びアンケート　：10会場、良好評価75%以上 ・訪問高校数及びアンケート　：30校、良好評価75%以上	1	○目標実績 ・入学者のAP認知率：85.0% ・オープンキャンパス参加数：1,737名（対面732名、リモート1,005名）、アンケート良好評価：98.7% ・入試説明会参加者数：12会場216名 ・入試説明会アンケート回収率：182名（84.3%）、良好評価100% ・高校訪問者数：809名 ・高校訪問者アンケート回収率：39校737名（91.1%）、良好評価99.0%	A		No.3「高校訪問」 No.4「入試説明会」 No.6「オープンキャンパス」	13

中期計画		令和４年度計画		ウェイト	計画の実施状況等	自己評価		データ番号	通し番号
項目	実施事項					評価	理由		
※4　アドミッション・ポリシーに合った意欲ある学生の確保の続き	2 【アドミッション・ポリシーに合った意欲ある学生を確保するための入学者選抜方法の検証と改善】 　アドミッション・ポリシーに基づいた多様な入学者選抜試験を実施するとともに、アドミッション・オフィスにおいてIRを活用し、入学者選抜方法の検証・改善を図る。 ○評価指標（指標及び達成目標） ・志願倍率＜全学（学部）の志願倍率（一般入試）＞ （志願者数）/（募集人員）　：全学4倍以上（単年） ・充足率＜大学院＞ （入学者数）/（入学定員）　：大学院各研究科100%（単年）	1	【令和４年度計画】 【アドミッション・ポリシーに合った意欲ある学生を確保するための入学者選抜方法の検証と改善】 ＜学部＞ コロナ禍の状況においてアドミッション・ポリシーに沿う入学試験が行えるよう工夫する。また、アドミッション・オフィスを運用し、入学者選抜方法についての検証を行う。 ＜大学院＞ コロナ禍の状況においてアドミッション・ポリシーに沿う入学試験が行えるよう工夫する。また、入学者選抜方法の検証を行う。 ○評価指標（指標及び達成目標） ・志願倍率＜全学（学部）の志願倍率（一般入試）＞（志願者数）/（募集人員）　：全学4倍以上 ・充足率＜大学院＞（入学者数）/（入学定員）　：大学院各研究科100%	1	【令和４年度の実施状況】 【アドミッション・ポリシーに合った意欲ある学生を確保するための入学者選抜方法の検証と改善】 ＜学部＞ [組織状況] 学部入学試験部会において案を作成し、教授会を経て、教務入試委員会において決定した。 [実施状況] R4年度も、R2、R3年度に引き続き、学校推薦型選抜においては、コロナ禍に対応し、集団面接を行わず、調査書記載事項および推薦書により、本学アドミッション・ポリシーへの適合性の評価を行った。一般選抜試験についてもR2、R3年度同様に、新型コロナウイルスへの対応を行いながら実施した。アドミッション・オフィスにおいて入学者選抜方法を、各学科の各種選抜方法の受験状況と入学後のGPAを照らし合わせる形で検証した。また、R5年度入試より人間社会学部の入学試験（学校推薦型選抜）において従来の枠組みに加えて「社会的養護を必要とする者」を対象とした枠組みを設けた試験を実施した。 ＜大学院＞ [組織状況] 大学院入学試験部会、研究科委員会とアドミッション・オフィスが連携して行った。 [実施状況] アドミッション・ポリシーをはじめ、必要な入学試験情報を志願者が入手しやすくになるように、ホームページのレイアウト変更や掲載情報の更新など、コンテンツの充実に向けた取り組みに着手した。加えて、各専攻の専用メールアドレスを設定して、志願者が相談しやすい環境整備を行った。各研究科では受験生の確保に向けた出願前の事前相談を対面・オンラインで随時実施するとともに、近隣大学からの情報収集や広報戦略に向けた協議を継続して行った。また、入学者選抜方法の検証に伴い、R4年度の秋季入試から外国語（英語）を両研究科共通、看護学研究科専門科目を両コース共通の問題に統一し、アドミッション・ポリシーに沿う学生の確保を強化した。さらに、人間社会学研究科ではR5年度の入学試験に向けて、よりアドミッション・ポリシーに沿った専門科目の出題ができるよう準備を行った。 ○目標実績 ・志願倍率＜全学（学部）の志願倍率（一般入試）＞ （志願者数）/（募集人員）　：973人/170人＝5.7倍 ・充足率＜大学院＞ （入学者数）/（入学定員）：人間社会学研究科　106.7%（16/15） 看護学研究科　33.3%（4/12）	B	【高く評価する点】 R5年度入試より人間社会学部の入学試験（学校推薦型選抜）において従来の枠組みに加えて「社会的養護を必要とする者」を対象とした特別枠を設けた。 【実施（達成）できなかった点】 看護学研究科は充足率が33.3%であったため、新たな取り組みとして自己推薦型入試の導入について検討を行った。	No.1 「①入学者選抜試験（学部） ②入学者選抜試験（大学院）」	14

中期計画		令和４年度計画		ウェイト	計画の実施状況等	自己評価		データ番号	通し番号
項目	実施事項					評価	理由		
※4　アドミッション・ポリシーに合った意欲ある学生の確保の続き	3 【高大連携の取組の推進】 　高等学校等と緊密な連携のもと、高校生に対し大学での学修内容への興味や進学意欲を高める高大連携の取組を推進する。 ○評価指標（指標及び達成目標） ・高大連携授業への参加者の満足度　：良好評価80%以上（単年）	1	【令和４年度計画】 【高大連携の取組の推進】 高校生を対象としたセミナー等を行う。西田川高等学校との連携協定に従い、西田川高等学校生徒の本学受講の受け入れを開始する。また、高校教員との高大連携について意見交換をする機会を設ける。 ○評価指標（指標及び達成目標） ・高大連携授業への参加者の満足度　：良好評価80%以上	1	【令和４年度の実施状況】 【高大連携の取組の推進】 [組織状況] 学部入学試験部会が企画し、両学部の協力のもとに実施する。西田川高等学校生徒の受け入れについては、協定に従い両校が連携して実施した。 [実施状況] 8月6日、8日のオープンキャンパスに合わせ、2学科計4回の体験授業を対面形式で行った。また、10月31日から11月4日の授業参観ウィークにおいて、高校生への授業公開も実施した。高等学校のニーズによる「出前講座」も継続的に実施しており、R4年度は実施7回、参加者296名、良好評価98.6%であった。高校教員との意見交換については、9月28日のオープンキャンパスの日にリモートで実施した。R3年度に引き続き高等学校からの個別相談の形式で行った。西田川高等学校の生徒2名が本学の講義計2科目を履修し単位を取得した。 ○目標実績 ・高大連携授業への参加者の満足度　：良好評価98.4%	A	【高く評価する点】 高大連携教育に関する協定を締結した県立西田川高校の生徒2名を科目等履修生として受け入れ、2名とも履修単位を取得した。 【実施（達成）できなかった点】	No.5 「出前講義」	15

中期計画		令和４年度計画		ウェイト	計画の実施状況等	自己評価		データ番号	通し番号
項目	実施事項					評価	理由		
5　学生の学修支援と生活支援 学生が自主的で多様な学修活動が行えるような学修環境の整備や、留学生や障がいのある学生を含む多様な学生に対する学修・学生生活支援体制の充実・強化を図るとともに、経済的に修学が困難な学生に対する適切な支援を行う。	1 【学生の学修環境の整備】 学生の自主的学修を促すために、学術情報基盤としての図書館や情報ネットワーク環境等を整備するとともに、社会人学生が学びやすい学修環境を整備し、大学間の学生コンソーシアムを構築する。 ○評価指標（指標及び達成目標） ・図書館入館者数　：36,000人以上（単年） ・図書貸出数　：24,000冊以上（単年） ・eラーニングコース開設数　：110以上（単年） ・eラーニングシステムの学生利用率　：全学平均80%以上（単年） ・社会人学生の満足度：良好評価70%以上（単年）	1	【令和４年度計画】 【学生の学修環境の整備】 ①学生の自主的学修を促すために、ラーニングコモンズ（本館）の設置案を含めた学習環境の整備計画を立案し、既に設置しているラーニング・コモンズ（分館）の活用法の周知を学生・教職員に行い、図書館資料のより一層の活用を図る。 ○評価指標（指標及び達成目標） ・図書館入館者数　：36,000人以上 ・図書館貸出数　：24,000冊以上 ②情報ネットワーク環境等を整備するために学内LAN再構築及びeラーニングシステムの更新を実施する。また、ポートフォリオ導入を検討する。 ○評価指標（指標及び達成目標） ・eラーニングコース開設数　：110 以上 ・eラーニングシステムの学生利用率　：全学平均80%以上 ③大学間の学生コンソーシアム構築のため、学生コンソーシアム会議の開催及び学生フェスティバルの開催を支援するとともに、大学を超えた学びの交流の場「かえる場」を開催する。	1	【令和４年度の実施状況】 【学生の学修環境の整備】 ①[組織状況] 図書館運営部会で行った。 [実施状況] 図書館運営部会において教育分野ワーキンググループを設置し、ラーニング・コモンズの活用促進を含めた学生および教職員の図書館利用を検討した。学生への図書の利用に関する調査結果で、図書館の利用目的としては「試験勉強やレポート作成」が58.7%を占め，「友人と談話できるスペース」や「より広い自習室」などの希望があった。環境整備について今後検討していく。また、本館へのカバン持ち込みを1年間試行し期間中、紛失図書が4冊であった。持ち込みを禁止していた時でも平均5冊程度の紛失があり、カバン持ち込みでも紛失図書が極端に増加することがないため持ち込みを継続とした。 ○目標実績 図書館入館者数：127,209人（機関リポジトリ利用も含む） ※リポジトリを含まない学生入館数の全体における割合：93.0% 図書貸出数：117,836冊（機関リポジトリ利用も含む） ※リポジトリを含まない学生貸出数の全体における割合：69.3% ②[組織状況] eラーニングシステムの活用促進は、導入以来情報処理センターを中心に取り組んできた。R2年度より総合情報委員会が統括し継続して取り組んでいる。教育環境の整備については、学部SD・FD部会、大学院FD部会、IR推進室と協働している。 [実施状況] eラーニングシステムをMoodleに更新した。新学内LAN稼働計画の一環である、メールシステムの更新の準備は8月に完了した。10月に本稼働し、整備及び点検を実施した。ポートフォリオ導入を検討した。 ○目標実績 ・eラーニング開設数：255 ・eラーニングシステムの学生利用率：99.0% ③[組織状況] 本学では7名の教員がケアリング・アイランド大学コンソーシアム事務局を兼任し、本学戦略連携室としてコンソーシアム事業運営に携わっており、うち4名が学生コンソーシアムの運営を支援した。 [実施状況] 《学生コンソーシアム会議》 かんたま祭の企画運営のためのオンライン会議を5回開催した。本学からは学生委員として13名が参加した。 《学生フェスティバル「かんたま祭」》 R4年11月5日（土）に福岡女学院看護大学からオンライン配信で開催した。参加者は、延べ56名であり、本学からは11名が参加した。 《かえる場（大学を越えたアクティブラーニングの場）》 R5年3月10日（金）に、福岡国際医療福祉大学にて、「『地元創成看護』実現に看護学生は何ができるか」をテーマに、ナーシング・キャリアカフェと同日開催した（参加者：学生16名、教職員・講師6名）。	A	【高く評価する点】 ②eラーニング開設数が目標数値の2倍となった。また、eラーニングシステムの学生利用率も目標値を上回った。 ④社会人学生の高い満足度（良好評価100%）であったことにより、社会人学生が学びやすい学修環境が整備された。 【実施（達成）できなかった点】	No.13 「図書館」	16

中期計画		令和４年度計画		ウェイト	計画の実施状況等	自己評価		データ番号	通し番号
項目	実施事項					評価	理由		
※5　学生の学修支援と生活支援の続き	1	1	④社会人学生が学びやすい学修環境整備を図る。 ○評価指標（指標及び達成目標） ・社会人学生の満足度　：良好評価70%以上	1	④[組織状況] 福岡県立大学大学院FD部会規則第4条に基づき大学院FD部会を定期的に開催し、社会人学生が学びやすい学修環境の整備を行った。また教員との座談会を企画・開催した。 [実施状況] 在学生の満足度調査と学生座談会を実施した後、その内容を研究科に報告した。3月に修了生の満足度調査を実施し，その中から社会人分を抽出し，全員(12名)から満足であるとの回答を得た。総じて社会人学生が学びやすい学修環境は整備されている。 ○目標実績 ・社会人学生の満足度：在学生調査では良好評価69.2%（修了時調査では良好評価100%）	A		No.13 「図書館」	16

中期計画		令和４年度計画		ウェイト	計画の実施状況等	自己評価		データ番号	通し番号
項目	実施事項					評価	理由		
※5　学生の学修支援と生活支援の続き	2 【留学生や障がいのある学生を含む多様な学生に対する学修・学生生活支援体制の充実・強化】 ①成績不振の学生への相談支援を行う。 ②留学生や障がいのある学生を含む多様な学生に対する学修・学生生活支援の充実に向けた見直しを行う。 ③学生が安心して勉学に専念できるような相談・支援体制の整備として、学生総合支援センター（仮称）を開設する。 〇評価指標（指標及び達成目標） ・学生総合支援センター（仮称）の開設　：H32年度の実施	1	【令和４年度計画】 【留学生や障がいのある学生を含む多様な学生に対する学修・学生生活支援体制の充実・強化】 ①GPA2.0以下の成績不振の学生に対し、個別面談による支援を行う（前期・後期）。 ②留学生や障がいのある学生を含めた学修・学生生活支援の充実を図るための支援体制を改善する。 ③学生総合支援センターにおける支援を実施する。	1	【令和４年度の実施状況】 【留学生や障がいのある学生を含む多様な学生に対する学修・学生生活支援体制の充実・強化】 ①[組織状況] 教務・共通教育部会、学部教務部会、教務入試班が連携して実施した。 [実施状況] R4年度前期はR3年度後期、後期はR4年度前期のGPAに基づいて支援を行った（前期62人、後期79人）。学科・コース等の担当者会議で、GPA2.0以下の学生の情報を共有し、支援の必要性を検討した。支援が必要と判断された学生は、学年担任、アドバイザーやゼミ担当教員等が個別面談し状況に応じて学生相談室や学生支援班につないで、連携して支援を行った。教員から連絡が取れない学生(前期2人、後期3人)については、教務入試班と連携して対応した。支援内容は教務部会員に報告し、教務・共通教育部会で共有が行われた。 ②③[組織状況] 学生総合支援センターにおいて実施した。 ②③[実施状況] 「福岡県立大学における障がいのある学生の支援に関する規則」に基づき、19件の申請に対して修学上の支援計画を決定した。	B	【高く評価する点】 【実施（達成）できなかった点】		17

中期計画		令和４年度計画		ウェイト	計画の実施状況等	自己評価		データ番号	通し番号
項目	実施事項					評価	理由		
※5　学生の学修支援と生活支援の続き	3 【経済的に修学が困難な学生に対する適切な支援】 ①授業料減免制度及び分納制度等の運用について改善策を検討する。 ②外部資金等を活用した本学独自の支援策を検討する。 〇評価指標（指標及び達成目標） ・授業料減免制度及び分納制度等の運用について改善策の検討　：H35年度の実施	1	【令和４年度計画】 【経済的に修学が困難な学生に対する適切な支援】 ①国の高等教育の修学支援新制度に基づく授業料減免制度を実施するとともに、分納制度等の運用について改善策を試行する。 ②真島・市場特別奨学金等を活用した支援策を実施する。	1	【令和４年度の実施状況】 【経済的に修学が困難な学生に対する適切な支援】 ①②[組織状況] 進路生活支援部会、学生支援班において実施した。 [実施状況] ①修学支援新制度に基づく入学料減免　42人、授業料減免（前期：152人、後期：145人）、大学独自の授業料減免（前期：4人、後期：4人）、分割納付（前期：14人、後期：14人）の支援を実施した。 ②外部資金等を活用した「真島・市場特別奨学金」による支援を1名に実施した。	B	【高く評価する点】 【実施（達成）できなかった点】	No.10 「奨学金受給」	18

中期計画		令和４年度計画		ウェイト	計画の実施状況等	自己評価		データ番号	通し番号
項目	実施事項					評価	理由		
6　キャリア支援 学生の社会的・職業的自立を図るため、キャリア教育を行うとともに、キャリア支援体制を強化する。	1 【学生のキャリア支援体制の充実・強化】 ①キャリア形成支援プログラム関連科目の充実により、全学的キャリア教育を推進する。 ②正課外の系統的キャリア形成支援講座を、キャリア教育の授業科目と連携して実施する。 ③キャリアサポートセンター、就業力向上支援室、学生支援班の連携により、学生キャリア支援体制を強化する。 ④卒業生に対する就職活動支援を行う。 ⑤正課外活動等を対象に含めた学生への評価・表彰制度を構築する。 ○評価指標（指標及び達成目標） ・就職率（就職者数／就職希望者数）　：95%以上（単年）	1	【令和４年度計画】 【学生のキャリア支援体制の充実・強化】 ①既存のキャリア形成支援関連科目を改善実施する。 ②正課外の系統的キャリア形成支援講座を、キャリア教育の授業科目と連携して実施する。 ③キャリアオフィスの体制を整備し、学生キャリア支援を改善実施する。 ④卒業生に対する就職相談や情報提供を行う。 ⑤正課外活動等を対象に含めた学生への評価・表彰制度を実施する。 ○評価指標（指標及び達成目標） ・就職率（就職者数／就職希望者数） ：95%以上	1	【令和４年度の実施状況】 【学生のキャリア支援体制の充実・強化】 ①[組織状況] 基盤教育センター及び総合人間社会コース担当者会議において実施した。 [実施状況] ライフキャリア論では、医療福祉領域の学修を加えることで、全学科の低学年からのキャリア形成への動機付けを行った。プレ・インターンシップ（受入先は5団体、履修学生は8名）では、課題解決型学習を取り入れ、学生の社会人基礎力を向上させた。学生は体験前後にシートを用いたスキルチェックを実施し、創造力や自己対応力などのスキルについて自己理解を深め、今後の指針へと繋げた。また、受入団体にも体験を通じた学生のスキル向上についてコメントをいただいた。 ②[組織状況] 学生支援班にて実施した。 [実施状況] 株式会社マイナビのキャリアサポーターによる講座を全5回実施した。実施内容は「就活オリエンテーション」「ES対策講座～自己PR編～」「ES対策講座～志望動機編～」「筆記試験対策講座」「面接対策講座」。 ③[組織状況] 学生支援班において実施した。 [実施状況] R4年度は、キャリア相談室の専任キャリアコンサルタント3名中2名が就職に関連した事務業務も兼任し、学生の就職・キャリア支援の更なる充実を図った。さらに学内就職支援関連行事の内容をキャリアコンサルタントの専門的な視点で見直し、より学生のニーズを踏まえた各種講座を実施した。 ・講座実施回数：前期11回：後期16回 ・キャリア相談室利用学生数：延べ1,156名（3/31現在） ④[組織状況] 学生支援班及び各学科教員において実施した。 [実施状況] 就職支援の窓口が一本化されたことから、卒業生に対しても相談先がよりわかりやすい体制とした。 ⑤[組織状況] 進路・生活支援部会において実施した。 [実施状況] 表彰対象となる活動につき、教職員への推薦を依頼したが、R4年度は該当者がいなかった。 ○目標実績 ・就職率：99.0%（人間社会学部98.5%　看護学部100%）	1	B	【高く評価する点】 【実施（達成）できなかった点】	No.16 「就職状況」	19

中期計画		令和４年度計画		ウェイト	計画の実施状況等	自己評価		データ番号	通し番号
項目	実施事項					評価	理由		
※6　キャリア支援の続き	2【県内の産業界等との連携強化と企業を知る機会の拡充】 ①既存のインターンシップ実施体制を検証し、継続的キャリア形成の観点から効果的なインターンシップの推進を図る。 ②企業等に対する調査を行い、求めるスキルや潜在的求人ニーズなどの情報を収集する。 ③県内各種団体と協力し、学内における企業等就職説明会を開催する。 ④企業等のニーズと学生の適性とのマッチングを行うシステムの導入運用を行う。 〇評価指標（指標及び達成目標） ・学内就職説明会　：2回以上（単年）	1	【令和４年度計画】 【県内の産業界等との連携強化と企業を知る機会の拡充】 ①インターンシップを巡る情勢の変化に対応した、学生への情報周知・指導を実施する。 ②就職先アンケートを実施し、情報を収集する。 ③企業・団体に対する理解を深める説明会（オンラインを含む）を開催する ④企業等のニーズと学生の適性とのマッチングを行うシステムを運用する。 〇評価指標（指標及び達成目標） ・学内就職説明会　：2回以上	1	【令和４年度の実施状況】 【県内の産業界等との連携強化と企業を知る機会の拡充】 ①[組織状況] 学生支援班、基盤教育センター及び総合人間社会コース担当者会議において実施した。 [実施状況] キャリア支援システムを導入し、インターンシップ情報提供を充実させた。インターンシップが活発に行われる時期の前後に大学独自のガイダンスを新たに実施し、学生がインターンシップを全うできるよう指導体制を充実させた。振り返りシートを作成し、インターンシップ後の就職活動支援に活かすデータを蓄積した。 ②[組織状況] 学生支援班にて実施した。 [実施状況] R2年3月の卒業生247名および同卒業生の卒業時の就職先203ヶ所を対象にアンケートを実施した。郵送にて照会を行いグーグルフォームでの回答を依頼した。卒業生アンケートの回答数84名（回答率：34.0%）であり、就職先アンケートの回答数は43ヶ所（回答率21.2%）であった。 ③[組織状況] 進路生活支援部会、学生支援班、各学科・コース担当者会議にて実施した。 [実施状況] 12月中旬に第1回学内業界研究セミナー（一般企業版）を対面及びオンラインで開催した（対面：12月14日／オンライン：12月6日、12月9日、12月13日）。参加事業所は23団体（対面13団体／オンライン10団体）、参加学生延べ82名（対面19名／オンライン63名）であった。また、2月下旬に第2回学内業界研究セミナー（官公庁、福祉施設版）を対面及びオンラインで開催した。（対面：2月22日／オンライン：2月27日）。参加事業所は12団体（対面9団体／オンライン3団体）、参加学生延べ104名（対面34名、オンライン70名）であった。 ④[組織状況] 学生支援班で実施した。 [実施状況] システムでの求人検索や学内ガイダンスの周知及びキャリア相談室の予約などのサービスが可能となった。学生が利用しやすい環境が構築できた。 〇目標実績 ・学内就職説明会　：56回	A	【高く評価する点】 キャリア支援システムの導入運用により、大学宛求人企業数の大幅な増加（R3年度1,601件に対してR4年度23,272件）、相談室予約の効率化を図ることができた。 【実施（達成）できなかった点】		20
		ウェイト総計		４年度 22		項目数計			４年度 20

【ウェイト付けの理由】

中期計画		令和４年度計画	ウェイト	計画の実施状況等	自己評価		データ番号	通し番号
項目	実施事項				評価	理由		

・通し番号1　　保健・医療・福祉の各分野の専門的知識を包括的に学べる専門教育プログラムを導入するとともに体系的な教育課程を編成する。
・通し番号11　自ら考え、行動できる力を伸ばすため、アクティブ・ラーニング等、学生の主体的な学修を促す教育方法を促進する。

教育に関する特記事項

①高校情報教員免許の教職課程申請に伴い設置した新規3科目（「マルチメディア論」「地理情報システム論」「情報ネットワーク演習」）をR5年度以降開講するための準備を行った。また、看護学部の学生が履修しやすいように、新たに「データサイエンス（リテラシー）学修証明書」の交付要件を整えた。
②中国語、韓国語に対し意欲のある学生のために、授業を通して語学検定の情報と勉強方法を教示し、図書館等に試験対策書を配備した上で、個別の相談に応じた。その結果、中国語検定試験（HSK）に5名、韓国語検定に1名が合格した。
③大学院授業参観ウィークについて、PDCAサイクルに基づき、R3年度（12月）実施分をふりかえり、R4年度は、6月に実施した（参加者28人）。
④R4年度の秋季入試から外国語（英語）を両研究科共通の問題にして、アドミッション・ポリシーに沿う学生の確保を強化した。

年度計画項目別評価

中期目標 2　研究に関する目標	(1) 特色ある研究の推進 地域の特性や時代の先端を見据え、地域の保健・医療・福祉の発展や大学の特色ある教育に有用な研究を重点的に推進するとともに、地域に根差した研究拠点として、地域社会のニーズを踏まえた実践的な研究に取り組む。 (2) 研究の実施体制等の整備 研究活動を更に活性化するため、研究支援体制の充実・強化を図るとともに、国内外の大学、研究機関、企業、行政機関等との連携体制の整備や外部資金の導入を推進する。 (3) 研究水準の向上と成果の公表 研究水準の向上を図る取組を推進するとともに、研究成果を積極的に公表し、社会に還元する。

中期計画		令和４年度計画		ウェイト	計画の実施状況等	自己評価		データ番号	通し番号
項目	実施事項					評価	理由		
1　特色ある研究の推進 保健・医療・福祉等、福祉社会の実現に寄与する本学の特徴を生かした研究を推進する。各センターの特徴と機能及び学内にある研究シーズを生かし、学際的研究プロジェクトを推進する。また、社会のニーズに対して、本学の研究シーズを生かした受託研究・共同研究を活性化させる方法を検討・実施する。	1【福祉社会の実現に寄与する研究の推進】 保健・医療・福祉等、福祉社会の実現に寄与する本学の特徴を生かした研究を推進する。 ○評価指標（指標及び達成目標） ・学術成果件数（査読付き論文又は学術書、その他の論文等）　：100件以上 （うち、査読付き論文又は学術書50件以上）（単年）	1	【令和４年度計画】 【福祉社会の実現に寄与する研究の推進】 ①保健・医療・福祉等の本学の特徴を生かした研究成果の発信方法を強化し、研究の促進を図る。 ○評価指標（指標及び達成目標） ・学術成果件数（査読付き論文又は学術書、その他の論文等）　：100件以上 （うち、査読付き論文又は学術書50件以上）	1	【令和４年度の実施状況】 【福祉社会の実現に寄与する研究の推進】 ①[組織状況] 附属研究所運営部会を中心に取り組んだ。 [実施状況] 附属研究所ホームページにR4年度に採択された重点領域研究の進捗状況に関する情報発信を定期的に行った。研究奨励交付金附属研究所重点領域研究及びプロジェクト研究COC研究に対して、研究促進のため、共同研究室を提供した。 ○目標実績 ・学術成果件数（査読付き論文又は学術書、その他の論文等）：102件 （うち、査読付き論文又は学術書57件）	B	【高く評価する点】 【実施（達成）できなかった点】	No.18 「論文等の実績」	21

中期計画		令和４年度計画		ウェイト	計画の実施状況等	自己評価		データ番号	通し番号
項目	実施事項					評価	理由		
※1　特色ある研究の推進の続き	2 【附属研究所の機能を生かした学際的研究プロジェクトの推進】 　各センターの特徴と機能及び学内にある研究シーズを生かし、福祉社会の実現に寄与する学際的研究プロジェクトを推進する。地方自治体及び国の研究機関、行政機関等と連携・協力して、地域の課題解決等福祉社会の実現に寄与する共同研究を推進する。また、社会のニーズとのマッチングを円滑にする大学の研究シーズの公表方法を検討し、積極的に発信する。 ○評価指標（指標及び達成目標） ・学際的研究プロジェクトの実施　：2件以上（単年） ・研究プロジェクトの成果報告会　：1回以上（隔年） ・研究シーズ公表方法の検討・発信　：H33年度の実施	1	【令和４年度計画】 【附属研究所の機能を生かした学際的研究プロジェクトの推進】 ①本学の特徴を生かした福祉社会の実現に寄与する学際的研究プロジェクトを推進する。 ②地域の関連機関等と連携・協力して、地域の課題解決に向けての共同研究の体制を構築する。 ③附属研究所の機能を生かし、地域社会のニーズとのマッチングを推進するために大学の研究シーズの公表を実施する。 ○評価指標（指標及び達成目標） ・学際的研究プロジェクトの実施　：2件以上 ・研究プロジェクトの成果報告会　：1回以上 ・地域の関連機関との合同研修会の実施　：1回以上	2	【令和４年度の実施状況】 【附属研究所の機能を生かした学際的研究プロジェクトの推進】 ①②③[組織状況] 附属研究所研究推進部を中心に取り組んだ。 [実施状況] ①学際的研究プロジェクトである重点領域研究を公募し、3件を採択した。 研究名　：「神経の構築と情報処理機能の総合的解析―医療・福祉・教育の基盤となる医学神経科学研究―」 研究名　：「子どもの最善の利益のための看護師と保育士の協働と連携に関する研究」 研究名　：「地域包括ケアシステム構築に向けたGISを活用した地域診断―精神障害者の在宅療養実現を目指して―」 ②三者連携協定を締結している福智町、福智町社会福祉協議会と高齢者の地域包括ケア構築に向けた、根拠に基づく政策の意思決定に資する地域診断をテーマに共同研究を行った。 ③地域社会のニーズと本学の研究シーズとのマッチングを行うために公表している附属研究所ホームページ上の「研究シーズ集」を9月に更新した。 ○目標実績 ・学際的研究プロジェクトの実施　：3件 ・研究プロジェクトの成果報告会　：1回（3月7日開催） ・地域の関連機関との合同研修会の実施　：3回（ケアカフェたがわ　9月16日、12月9日、3月6日開催）	B	【高く評価する点】 【実施（達成）できなかった点】		22

中期計画		令和４年度計画		ウェイト	計画の実施状況等	自己評価		データ番号	通し番号
項目	実施事項					評価	理由		
2　研究の実施体制等の整備 福祉社会の実現に寄与する特色ある研究を推進するための基盤整備を行う。附属研究所の組織・システムの見直し等により研究機能を強化し、研究支援体制を充実・強化する。	1 【研究支援体制の充実・強化】 研究活動を更に活性化させるため、研究支援体制の充実・強化を図る。若手研究者の研究環境整備を支援する取り組みを推進する。 〇評価指標（指標及び達成目標） ・研究支援体制の充実・強化方法の検討及び実施：H33年度の実施	1	【令和４年度計画】 【研究支援体制の充実・強化】 ①研究推進部を中心に、教員の研究活動の支援体制の充実・強化を図るとともに若手研究者への研究支援を実施する。	1	【令和４年度の実施状況】 【研究支援体制の充実・強化】 ①[組織状況] 附属研究所運営部会を中心に取り組んだ。 [実施状況] 科研費申請のための研修会にて、若手研究者を対象とした科研費の若手研究採択者による体験談を8月17日に実施した（参加者数95名）。また、若手研究者を対象とした研究計画支援セミナー（個別相談）を8月26日に実施した（参加者数3名）。	B	【高く評価する点】 【実施（達成）できなかった点】		23

中期計画		令和４年度計画		ウェイト	計画の実施状況等	自己評価		データ番号	通し番号
項目	実施事項					評価	理由		
※2　研究の実施体制等の整備の続き	2 【附属研究所の組織・システムの見直し等による研究機能の強化】 　本学の特色を生かした研究活動の支援、他大学や行政機関等との連携による研究の推進、既存の事業部門との連携促進等により、研究支援機能・研究推進機能を強化するという考えの下、附属研究所の組織・システムの見直し等を行う。 ○評価指標（指標及び達成目標） ・附属研究所の組織・システムの見直しによる、新たな組織・システムの整備　：H33年度の実施	1	【令和４年度計画】 【附属研究所の組織・システムの見直し等による研究機能の強化】 ①研究推進部を中心とした研究支援体制の下で、他大学や行政機関等と連携した研究の推進や既存事業との連携促進のため、附属研究所の組織・システムの整備を行う。	1	【令和４年度の実施状況】 【附属研究所の組織・システムの見直し等による研究機能の強化】 ①[組織状況] 附属研究所運営部会を中心に取り組んだ。 [実施状況] 附属研究所運営部会を中心に附属研究所の事業を運用した。研究推進部への兼任研究員3名を置き、重点領域研究の各研究の進捗状況等について情報交換を行い、研究の進捗状況をホームページに公開した。	B	【高く評価する点】 【実施（達成）できなかった点】		24

中期計画		令和４年度計画		ウェイト	計画の実施状況等	自己評価		データ番号	通し番号
項目	実施事項					評価	理由		
※2　研究の実施体制等の整備の続き	3 【外部研究資金の導入の推進】 　研修会の開催により、科研費をはじめとする外部研究資金獲得の増加を目指す。 ○評価指標（指標及び達成目標） ・外部研究資金獲得件数（継続を含む）　：30件以上（単年） ・外部研究資金応募件数（新規分）　：50件以上（単年）	1	【令和４年度計画】 【外部研究資金の導入の推進】 ①外部研究資金獲得のための研修会を実施する。 ○評価指標（指標及び達成目標） ・外部研究資金獲得件数（継続を含む）：30件以上 ・外部研究資金応募件数（新規分）　：50件以上	1	【令和４年度の実施状況】 【外部研究資金の導入の推進】 ①[組織状況] 附属研究所研究推進部を中心に取り組んだ。 [実施状況] 科研費申請のための研修会を新型コロナウイルス感染拡大防止のため、会場への参加に加えて録画の事後視聴での参加ができる形で8月17日に実施した（参加者数95名）。 ○目標実績 ・外部研究資金獲得件数（継続を含む）　：30件 ・外部研究資金応募件数（新規分）　：54件	B	【高く評価する点】 【実施（達成）できなかった点】	No.17 「研究（研究推進の状況、外部研究資金獲得の状況）」	25

中期計画		令和４年度計画		ウェイト	計画の実施状況等	自己評価		データ番号	通し番号
項目	実施事項					評価	理由		
※2　研究の実施体制等の整備の続き	4 【研究倫理の徹底】 ①全ての研究者等を受講対象とする研修を実施し、研究倫理及び不正行為の防止を図る。 ②説明会の開催などにより、研究費の適正使用を徹底する。 ③研究倫理部会委員の学外研修により、研究倫理審査能力の向上を図る。 ○評価指標（指標及び達成目標） ・研究倫理・不正行為防止研修の受講率　：100%（単年）	1	【令和４年度計画】 【研究倫理の徹底】 ①研究倫理・不正行為防止研修を実施する。 ②研究費の適正使用に関する説明会を開催する。 ③研究倫理部会委員の学外研修を行う。 ○評価指標（指標及び達成目標） ・研究倫理・不正行為防止研修の受講率：100%	1	【令和４年度の実施状況】 【研究倫理の徹底】 ①②③[組織状況] 適正な研究活動推進委員会が中心となり、研究倫理・不正行為防止研修および研究費の適正利用に関する説明会の企画・実施を行った。研究倫理部会が中心となり部会員の学外研修に取り組んでいる。 [実施状況] ①②8/17に研修会を行った。受講終了割合は95/109名であり、87.2%となった。 ③環境省の倫理問題検討委員会からの情報をもとに、7月に改正個人情報保護法(R2/R3)に合わせた研究倫理チェックリストの更新を行った。また、11月にオンライン上のアンケート調査に対応する研究倫理チェックリスト改訂を行った。 ○目標実績 ・研究倫理・不正行為防止研修の受講率　：87.2%	B	【高く評価する点】 【実施（達成）できなかった点】		26

中期計画		令和４年度計画		ウェイト	計画の実施状況等	自己評価		データ番号	通し番号
項目	実施事項					評価	理由		
3　研究の水準向上と成果の公表 　研究水準の向上を図るための課題を明確化し、課題解決のための取組を推進するとともに、多様な研究成果を積極的に公表し、社会に還元する。	1 【研究水準の向上を図る取組の推進】 ①研究水準の向上に向けた課題を整理する。 ②研究推進のための学内資源の適正配分を実施する。 ○評価指標（指標及び達成目標） ・学内資源の適正配分の実施　：H34年度の実施	1	【令和４年度計画】 【研究水準の向上を図る取組の推進】 ①研究水準を把握するための調査を実施し、課題を整理する。 ②研究推進のための研究費の適正配分を実施する。 ○評価指標（指標及び達成目標） ・学内資源の適正配分の実施　：R4年度の実施	1	【令和４年度の実施状況】 【研究水準の向上を図る取組の推進】 ①②[組織状況] 附属研究所運営部会を中心に取り組んだ。 [実施状況] ①外部研究資金の応募・獲得状況についての調査を行った。また、奨励研究を推進するための対策について検討した。 ②若手研究を強化するため、研究奨励交付金における若手奨励研究の新規募集枠を7件から9件に増やした。 ○目標実績 ・学内資源の適正配分の実施　：研究奨励交付金の募集枠の見直しに基づき、若手奨励研究の募集枠の拡充等を行った。	B	【高く評価する点】 【実施（達成）できなかった点】		27

中期計画		令和４年度計画		ウェイト	計画の実施状況等	自己評価		データ番号	通し番号
項目	実施事項					評価	理由		
※3　研究の水準向上と成果の公表の続き	2 【研究成果の公表の推進】 ①研究成果の多様な公表内容や方法について検証を行う。 ②学内において研究成果発表の場や機会獲得のための支援を行う。 ③図書館に報告書を収蔵する。 ④情報検索・閲覧・発信システムの充実により研究成果の公表を行う。 ○評価指標（指標及び達成目標） ・学内での研究成果発表の場や機会の設定　：H35年度の実施 ・図書館での報告書の収蔵、情報検索・閲覧・発信システムの充実　：H34年度の実施	1	【令和４年度計画】 【研究成果の公表の推進】 ①附属研究所と図書館が連携した研究の公表を実施すると共にその検証を行う。 ②学内における研究成果発表の場を設けると共にその検証を行う。 ③図書館に報告書を収蔵すると共にその検証を行う。 ④情報検索・閲覧・発信システムの充実により研究成果公表を行うと共にその検証を行う。 ○評価指標（指標及び達成目標） ・図書館での報告書の収蔵、情報検索・閲覧・発信システムの充実　：R4年度の実施	1	【令和４年度の実施状況】 【研究成果の公表の推進】 ①②[組織状況] 附属研究所と図書館とで連携して取り組んだ。 [実施状況] ①附属研究所と図書館が連携し、R3年度の附属研究所研究奨励交付金成果報告書を機関リポジトリに収録・公表した。 ②学内における研究成果発表の場として、3月7日（午前・午後）にR4年度の附属研究所研究奨励交付金事業の成果報告会（オンライン）を実施した（参加者延べ63人）。 ③④[組織状況] 図書館運営部会で行う。 ③④[実施状況] 図書館運営部会で研究分野ワーキンググループを設置し、機関リポジトリに両学部の紀要を収蔵した。また、機関リポジトリ個人登録についても継続して活用を促し情報検索・閲覧・発信システムの充実を図った。情報検索データベース等の価格上昇のため、データベースの利用数や雑誌の閲覧数などを含めて調査し、活用頻度の少ない洋雑誌の継続購読について一部中止した。 ○目標実績 ・図書館での報告書の収蔵、情報検索・閲覧・発信システムについて、次のとおり充実を図った。 1. 機関リポジトリ個人登録について部会員を通して登録と活用を促した。 2. 学生向けに情報検索演習を実施した（3回，計90名）。 3. JAIRO cloud（機関リポジトリ環境提供サービス）の、システム更新と移行に伴う準備を行った。現在継続中。	B	【高く評価する点】 【実施（達成）できなかった点】		28
		ウェイト総計		４年度 9		項目数計			４年度 8

【ウェイト付けの理由】
・通し番号22　附属研究所の機能及び学内にある研究シーズを生かし、福祉社会の実現に寄与する学際的研究プロジェクトを推進する。

研究に関する特記事項
①本学は福岡県国民健康保険団体連合会（国保連）とデータ分析の共同研究事業に関する業務協定を結んだ（R5年2月24日）。R5年度から市町村国保の保健事業を支援するため、国保データベース（KDB）システムの医療・介護・健診のデータを活用した共同研究事業を開始する予定である。

年度計画項目別評価

中期目標 3　地域貢献及び国際交流に関する目標	(1) 地域社会への貢献 ア 地域社会との連携 大学の特色を生かして、看護師、保健師、助産師、社会福祉士、精神保健福祉士等のキャリアアップに資する教育プログラムや、県民の生涯学習を推進する公開講座等を実施するとともに、県の各種施策との連携を深め、地域の教育活動を支援する取組や保健・福祉の向上に貢献する取組を積極的に実施する。 イ 地域活性化への支援 大学が有する人的・物的資源や教育研究成果を地域社会に還元し、地域の諸課題の解決、地域社会の活性化に貢献する。 (2) 国際交流の推進 国際化を推進するための体制を充実・強化し、アジアをはじめとする外国の大学等との交流を戦略的に展開する。

中期計画		令和４年度計画		ウェイト	計画の実施状況等	自己評価		データ番号	通し番号
項目	実施事項					評価	理由		
1　地域社会との連携 大学の特色を生かして、県民の生涯学習を増進する公開講座等を実施するとともに、資格・免許保持者のキャリアアップやスキルアップ等に資するリカレント教育等を実施する。	1【県民の生涯学習を推進する公開講座等の実施】 ①附属研究所における3センター(生涯福祉研究センター、ヘルスプロモーション実践研究センター、不登校・ひきこもりサポートセンター)を中心とした公開講座を実施する。 ②保健・福祉・教育・心理等でテーマを設定し、セミナーやフォーラムを実施する。 ○評価指標（指標及び達成目標） ・公開講座の実施回数 ：3回以上（単年）	1	【令和４年度計画】 【県民の生涯学習を推進する公開講座等の実施】 ①附属研究所を中心とした公開講座を実施する。 ②保健・福祉・教育・心理等のテーマでセミナーやフォーラムを実施する。 ○評価指標（指標及び達成目標） ・公開講座の実施回数　：3回以上	1	【令和４年度の実施状況】 【県民の生涯学習を推進する公開講座等の実施】 ①②[組織状況] 公開講座については、附属研究所公開講座小部会で取り組んだ。保健・福祉・教育・心理等のテーマでのセミナーやフォーラムについては、附属研究所運営部会で取り組んだ。 [実施状況] ①R4年度の公開講座は、公開講座Iとして「『からだの不調』と不登校～病気の理解、治療・対応のいま～」をテーマにオンライン（当日リアルタイム配信及び年度内オンデマンド配信）計3回（第1回：11月10日、第2回：12月19日、第3回１月12日）開催した。参加者数は延べ685人（当日延べ107人、オンデマンド延べ578人）。公開講座IIとして「筑豊の炭鉱閉山期、『筑豊の子供を守る会』の活動を振り返る」をテーマに対面式で1回（2月11日）開催した（シンポジウム・座談会 延べ114人）。 ②『起立性調節障害の理解～映画「今日も明日も負け犬。-起立性調節障害と紡いでいく-」上映から考える～』というテーマで不登校・ひきこもり支援フォーラムを3月13日に実施した（参加者65人）。 ○目標実績 ・公開講座の実施回数　：4回	A	【高く評価する点】 新型コロナウイルスの感染拡大が始まって3年目に入った中で、公開講座を工夫して行った。公開講座Iではオンライン形式、公開講座IIでは対面式で行い、R3年度の参加者数が延べ289人だったのに対し、R4年度は4回の公開講座で延べ799人となった。 【実施（達成）できなかった点】	No.21 「公開講座等」	29

中期計画		令和４年度計画		ウェイト	計画の実施状況等	自己評価		データ番号	通し番号
項目	実施事項					評価	理由		
※1　地域社会との連携の続き	2 【資格・免許保持者等へのリカレント教育や研修の実施】 ①看護臨地実習における実習指導者を対象とした、教育力向上のための研修会を開催する。 ②看護師等の資格・免許保持者を対象とする研修会の開催、または研修会の講師等として参画する。	1	【令和４年度計画】 【資格・免許保持者等へのリカレント教育や研修の実施】 ①看護臨地実習における実習指導者を対象とした、教育力向上のための研修会を開催する。助産学実習における実習指導者を対象とした教育講演会を実習指導者連絡会議と同日に実施する。 ②看護師等の資格・免許保持者を対象とする研修会の開催、または研修会の講師等として参画する。 ・看護師リカレント：筑豊地区の医療機関(卒業生就職先含む)を対象とした「医療倫理」に関する研修会を実施する。 ・保健師リカレント：卒業生を対象に、保健師の母子保健活動におけるスキルアップを目的に研修会を実施する。 ・養護教諭リカレント：養護教諭を対象に「感染症、食中毒」に関する研修会を実施する。 ・大学院修了生リカレント：大学院修了生・在学生、大学院入学希望者など広く看護専門職を対象に「研究」に関する研修会を実施する。	1	【令和４年度の実施状況】 【資格・免許保持者等へのリカレント教育や研修の実施】 ①[組織状況] R3年度に発足した看護学部リカレント教育部会と実習運営部会が協働して、研修会と連絡会議を異なる時期で開催できるように企画し運営した。 [実施状況] 助産学実習指導者への教育講演会はR4年5月24日に助産師課程の実習指導者会議と同日に実施した（参加者17名）。また、R4年9月12日に看護学部教員実習指導者研修会をオンラインで実施した（参加者54名：看護学部教員29名、実習指導者25名）。 ②[組織状況] リカレント教育部会に各職種や各対象等の担当教員が部会員として参画し、連携協働してリカレント教育（研修会等）を開催できるよう体制を整えた。 [実施状況] ・看護師リカレント①「看護学部教員・実習指導者研修会」は9月12日（月）10:00～12:00、「今どきの学生の特徴って、なんだ？？実習指導のヒントを聞いてみよう！」をテーマとして、藤野ユリ子先生(福岡女学院看護大学シミュレーション教育センター教授）を講師にオンライン開催した（参加者54名：看護学部教員29名・実習指導者25名）。 ・看護師リカレント②は、3回シリーズの「ケアカフェたがわ」を、第1回は9月16日（参加者35名）、第2回は12月9日（参加者35名）、第3回は3月6日（参加者46名）の各回夕刻に実施した。第3回では「在宅看取りを行うために準備することは？」　をテーマに、田川保健福祉事務所　保健師、訪問看護ステーション　訪問看護師、社会福祉協議会　介護支援専門員、看取りを経験した家族の4名に話題提供いただきディスカッションした（参加者46名）。 ・保健師リカレントは、3月17日（金）18:30～20:00に「行政保健師に求められること　保健師として大切にしてほしい事」をテーマに、北九州市子ども家庭局　局長 清田啓子氏（保健師）を講師に講義及びオンライン交流会を行った（参加者：卒業生10名）。 ・助産師リカレントは、5月24日（火）に、「臨床指導におけるホリスティック助産モデル」をテーマとして佐藤香代氏（一般社団法人福岡県助産師会会長）を講師にハイブリッド開催（参加者17名）した。 ・養護教諭リカレントは、3月11日（土）に「食物アレルギー　情報ブラッシュアップ研修会」を、中部大学生命健康科学部保健学科准教授石井真先生にオンライン実施した（参加者25名：卒業生：17名・学生：8名）。 ・大学院修了生リカレントは3月11日（土）13:00～16:00に「With コロナ時代の今、ワーク・エンゲイジメントを考えよう」をメインテーマに、安保寛明先生（山形県立保健医療大学教授）に「ワーク・エンゲイジメント研究の現在地」講演会、池田智氏（修了生/福岡大学医学部看護学科助教）の話題提供を含めた交流会「With コロナ時代の今、ワーク・エンゲイジメントを考えよう」をオンラインで開催（参加者12名）した。	B	【高く評価する点】 【実施（達成）できなかった点】		30

中期計画			令和４年度計画		ウェイト	計画の実施状況等	自己評価		データ番号	通し番号
項目	実施事項						評価	理由		
※1　地域社会との連携の続き	2		1	③社会福祉士や精神保健福祉士等の福祉従事者へのキャリアアップ及びリカレント教育を実施する。 ④公認心理師や臨床心理士の資格保持者及びキャンディデート（資格試験受験予定者）等を対象とした研修会を開催する。	1	③[組織状況] 人間社会学部社会福祉学科が企画・実施した。 [実施状況] R4年12月17日（土）にリカレントセミナーを開催した。テーマは「子ども家庭福祉を巡る課題とソーシャルワークの展望」であり、関西大学山縣文治教授を講師に招き、基調講演を行った。さらに、福岡県立大学社会福祉学会と連携し、児童相談所・児童養護施設・大学教員らによるシンポジウムを実施した。在学生や卒業生、県内の福祉従事者など196名（来場165名、オンライン31名）が参加した。 福祉従事者の参加を考慮し、オンラインと対面のハイブリッド形式で実施したが、多くの対面での参加があった。そのため、シンポジウムでは来場者からの質疑が活発に行われ、R2年度・R3年度よりも活発な議論を行うことができた。 ④[組織状況] 福岡県立大学大学院心理教育相談室が主体となり実施した。R4年度はコロナ禍に注意しつつ、オンラインと対面のハイブリッド形式で通年6回の研修会を計画した。 [実施状況] 第1回は7月31日（日）参加者41名（オンライン17名、対面24名）、第2回は9月11日（日）参加者40名（オンライン19名、対面21名）、第3回は参加者36名（オンライン9名、対面27名）で実施された。いずれも本学の修了生の発表による心理支援の領域の紹介および事例検討会が行われた。第4回12月18日参加者31名（オンライン21名、対面9名）、第5回は2月11日参加者42名（オンライン10名、対面32名）で実施された。4、5回目の内容は心理支援に関する教育講演であった。第6回3月5日に参加者40名（オンライン6名、対面34名）で心理支援に関する実践報告が実施された。事例検討を行う際には、臨床心理士資格認定協会の方針の下、個人情報保護など倫理的配慮を行った。 オンラインと対面のハイブリッド形式を用い、コロナ禍ではあったものの予定した全6回の研修会を一定の参加者数と充実した内容を確保し実施することができた。	B			30

中期計画			令和４年度計画		ウェイト	計画の実施状況等	自己評価		データ番号	通し番号
項目		実施事項					評価	理由		
2　地域社会への貢献 大学が有する人的・物的資源や教育研究成果を社会に還元し、地域社会の課題解決、活性化に貢献する。各センター事業による地域連携・地域支援を推進するとともに、より効果的な地域貢献を行うべく、組織体制の整備を検討し、実施する。	1	【地域に対する包括的支援の充実】 ①学内で地域に対する支援を実施している部署の連携体制を構築する。 ②不登校・ひきこもりサポートセンターや社会貢献・ボランティア支援センター等による地域に対する福祉・教育等の相談・支援の充実を図る。 〇評価指標（指標及び達成目標） ・参加者・相談者アンケート　：良好評価70%以上（単年）	1	【令和４年度計画】 【地域に対する包括的支援の充実】 ①学内で地域に対する支援を実施している部署の連携体制を構築する。 ②不登校・ひきこもりサポートセンターや社会貢献・ボランティア支援センター等による地域に対する福祉・教育等の相談・支援の充実を図る。 ＜不登校・ひきこもりサポートセンター＞ ・県大子どもサポーター派遣事業及びキャンパス・スクール事業を実施する。 ・全学横断型教育プログラム「援助力養成プログラム」を実施し、課題を検討する。 ・不登校児童・生徒に対する社会的自立支援に向けた事業を実施する。 ＜社会貢献・ボランティア支援センター＞ ・学生のボランティアコーディネート及び支援を実施する。 ＜心理教育相談室＞ ・ペアレントトレーニング等の地域住民等に対する相談・支援の取組を行う。 〇評価指標（指標及び達成目標） ・参加者・相談者アンケート　：良好評価70%以上	2	【令和４年度の実施状況】 【地域に対する包括的支援の充実】 ①②[組織状況] 附属研究所、各センター、心理教育相談室の間で連携して取り組んだ。 [実施状況] ①不登校・ひきこもりサポートセンターと社会貢献・ボランティア支援センターのコーディネーターによる定期的な連携会議を3ヶ月に一度開催することとし、7月・10月・3月の計3回開催した。 ②相談業務の効率化や学生による支援活動の充実のため、地域教育支援機構のもと、相談記録や学生の活動記録の共通フォーマット作成に向けて、コーディネーター会議で具体的な検討を行った。 ＜不登校・ひきこもりサポートセンター＞(R5.3月末時点) ・県大子どもサポーター派遣事業及びキャンパス・スクール事業を実施した。県大子どもサポーター派遣事業は実人数233人、延べ3,073人が活動を実施した。県大サポーター派遣事業によるオンライン支援を、小学校　依頼箇所数3、実数6、延数17、中学校　依頼箇所数1、実数2、延数14、その他（教育センター、病院）　依頼箇所数2、実数4、延数8、延べ総数39回行った。キャンパス・スクール事業は登校開始率89.28%（義務教育課程生徒100%）、延べ1,650人が通級した。 ・全学横断型教育プログラム「援助力養成プログラム」を実施し、課題を検討した。 ・県内の7中学校区(中学校7校、小学校12校、小中一貫校1校)をモデル校とし、不登校情報の分析や不登校支援会議へ介入した。大学から延べ103回、延べ118人が学校を訪問し、情報分析の結果の提示や具体的な支援方法の提案などを行った。 ＜社会貢献・ボランティア支援センター＞ ・外部団体の登録件数は241件となり、78件のボランティア依頼情報を学生に提供し、延べ236人の学生が活動に参加した。延べ327人の学生相談に応じた。 ＜心理教育相談室＞ ・12月までに以下の様に取り組んだ。 ［ペアレントトレーニング開催］ 2022年度春クラス（期間：4月～6月）　10回開催しのべ20人参加した。 2021年度秋クラスの6か月フォロー（7月）　1回開催し3名参加した。 2022年度春クラスの3か月フォロー（9月）　1回開催し1名参加した。 2022年度春クラスの6か月フォロー（1月）　1回開催し1名参加した。 2022年度秋クラス（期間・10月～12月）10回開催しのべ20人参加した（コロナ感染症のためのべ1名×2回のリモート受講を含む）。 2022年度秋クラスの3か月フォロー（3月）　1回開催し2名参加した。 ［ペアレントトレーニングを応用した特別支援教育スキルアッププログラム開催］ 5回開催（期間：6月～7月）　のべ140名参加 〇目標実績 ・参加者・相談者アンケート：良好評価93.8%（不登校・ひきこもりサポートセンターキャンパス・スクール及びサポーター派遣事業及びペアレントトレーニング参加者）	A+	【高く評価する点】 新型コロナウイルスの感染拡大が始まって3年目に入っても、不登校・ひきこもりサポートセンター、社会貢献・ボランティア支援センター、心理教育相談室による地域に対する支援活動を活発に行った。こうした活動に対する参加者アンケートでも、良好評価が93.8%と高い評価が得られた。特に、不登校・ひきこもりサポートセンターにおけるキャンパス・スクール事業では、不登校児童生徒の登校開始率が非常に高い89.28%に達した。 【実施（達成）できなかった点】	No.28 「不登校・ひきこもりサポートセンターの活動状況」	31

中期計画		令和４年度計画		ウェイト	計画の実施状況等	自己評価		データ番号	通し番号
項目	実施事項					評価	理由		
3　国際交流の推進 国際化を推進するための体制を充実・強化し、アジアをはじめとする外国の大学等との交流を充実させる。	1 【国際交流センターを中心とした教育研究の国際交流推進体制の充実と学生交流の推進】 ①協定締結校との文化・学術交流事業を実施する。 ②国際理解を深める文化交流プログラムを推進する。 ③国際交流センターの事業を推進する。 ○評価指標（指標及び達成目標） ・教員交流数　：延20名以上（単年）	1	【令和４年度計画】 【国際交流センターを中心とした教育研究の国際交流推進体制の充実と学生交流の推進】 ①大邱韓医大学校、三育大学校、北京中医薬大学、南京師範大学、威徳大学校、珠海科技学院との教員交流を推進する。 ②地域住民との連携事業としての文化交流プログラムを推進する。 ③国際交流チューター等を活用した国際交流支援を行う。 ○評価指標（指標及び達成目標） ・教員交流数　：延20名以上	1	【令和４年度の実施状況】 【国際交流センターを中心とした教育研究の国際交流推進体制の充実と学生交流の推進】 ①[組織状況] 国際交流推進部会と学生支援班で取り組みを行った。 [実施状況] 韓国三育大学校とオンライン（Zoom）による学生及び教員交流を7月12日に実施し、本学学生4名・三育大学校からの交換留学生2名・教員5名、三育大学校学生5名・教員4名が参加した。また、中国南京師範大学とのオンライン(Zoom)による交流を11月16日に実施し、本学学生2名・南京師範大学からの交換留学生2名・教員8名、南京師範大学学生8名・教員5名が参加した。 ②[組織状況] 国際交流推進部会と学生支援班で取り組みを行った。 [実施状況] R4年度は前期より実際に交換留学生2名を受入れ、留学生到着式（4月）に田川市の2団体（筑豊市民大学・福岡県立大学と共に歩む会）を招待し、さらに後期は3名の交換留学生を受入れ、到着式にも上記団体を招待した。また2月の留学生離学式に再び上記2団体を招待した。コロナ禍であるため交換留学生受入れ時の歓迎会（4月・10月）、帰国時の送別会（2月・7月）は中止となった。 ③[組織状況] 国際交流推進部会と学生支援班で取り組みを行った。 [実施状況] R4年度は4月より新たに2名、9月より3名の交換留学生を受入れ、国際交流チューターと留学生チューターが協力して受入留学生のサポートを行った。 ○目標実績 ・教員交流数　：22名	1	B	【高く評価する点】 【実施（達成）できなかった点】	No.22 「国際交流協定」	32

中期計画		令和４年度計画		ウェイト	計画の実施状況等	自己評価		データ番号	通し番号
項目	実施事項					評価	理由		
※3　国際交流の推進の続き	2【留学生への支援体制の充実】 ①短期研修制度の拡充により、派遣留学生の情報・魅力を学生に十分に提供し、支援する。 ②派遣期間中の留学生の修学・生活上の問題点等を、留学に関するアンケート等により把握し、支援体制を作る。 ③留学生（派遣・受入）に対する支援体制について検討・実施する。 ④短期派遣留学生の奨学金・交換留学締結について検討・実施する。 〇評価指標（指標及び達成目標） ・留学生（派遣・受入）数　：30人以上（うち、受入数20人以上）（単年）	1	【令和４年度計画】 【留学生への支援体制の充実】 ①英語短期語学演習（単位認定）及び文化交流を目的とした短期研修プログラムの実施や、専門分野を学ぶ短期研修プログラムの検討および実施に向けた取り組みを行い、短期研修制度の充実を図る。 ②留学生の派遣中の修学・生活上の課題を留学生が毎月提出するレポートによって把握しその課題改善に取り組む。 ③受入留学生支援事業を実施する。また、受入留学生に対する国際交流センターを活用した地域住民との交流機会を提供する。 ④短期派遣留学生の奨学金給付を実施する。また交換留学締結について検討する。 〇評価指標（指標及び達成目標） ・留学生（派遣・受入）数　：30人以上（うち、受入数20人以上）	1	【令和４年度の実施状況】 【留学生への支援体制の充実】 ①[組織状況] 国際交流推進部会・学生支援班で対応を行った。 [実施状況] 大邱韓医大学校（韓国）で開催された「2022韓日共同高等教育留学生交流プログラム」に本学生8名が渡韓し参加した。またR4年度の夏期英国短期語学実習はオンラインで実施し、本学生12名・教員1名、オックスフォードブルックス大学のイギリス人学生10名・教員1名が参加した。春期の韓国短期研修、日本語研修プログラムについては、新型コロナウイルスの感染状況を踏まえてオンラインでの実施を検討したが、相手校の都合により実現しなかった。またオックスフォードブルックス大学と連携して実施したオンライン英語・日本語研修(2～3月、4回)に本学生17名・教員1名が参加し、オックスフォードブルックス大学のイギリス人学生42名・教員1名が参加した。 ②[組織状況] 学生支援班を中心に国際交流推進部会で対応を行った。 [実施状況] オンライン留学を除く5名の派遣留学生（大邱韓医大学校/韓国/3名・三育大学校/韓国/2名）が1か月に1回留学レポートを提出しており、そのレポート内容を国際交流推進部会・学内職員が把握し、課題や問題がある場合は直接学生に連絡をとり、問題解決・課題改善を行った。 ③[組織状況] 学生支援班の国際交流担当職員を中心に取り組んだ。 [実施状況] R4年度第1回留学生支援事業（筑豊地域）を5月28日に実施し、留学生2名・日本人学生3名が参加した。第2回（門司・下関地域）は7月23日に実施し、留学生2名・日本人学生4名が参加・交流した。第3回（朝倉市・東峰村）は10月29日に実施し、留学生5名・日本人学生7名が参加し交流を深めた。第4回（福岡市）は2月4日に実施し、留学生5名・日本人学生4名が参加した。国際交流センターを活用した留学生の歓送迎会については新型コロナウイルス感染状況により開催を見送った。	B	【高く評価する点】 【実施（達成）できなかった点】	No.22 「国際交流協定」 No.23 「学生、教員の国際交流」	33

中期計画		令和４年度計画	ウェイト	計画の実施状況等	自己評価		データ番号	通し番号
項目	実施事項				評価	理由		
※3　国際交流の推進の続き			1	④[組織状況] 国際交流推進部会で取り組みを行った。 [実施状況] R4年度3月より南京師範大学（中国）にオンライン交換留学している学生2名について、通信費等補助の奨学金を給付した。 ○目標実績 ・留学生（派遣・受入数）数：101名（うち、受入数57名） 派遣：　南京師範大学（中国/2名/オンライン）、三育大学校（韓国/2名）、大邱韓医大学校（韓国/11名）、夏期英国短期語学実習（オックスフォードブルックス大学/12名/オンライン）、春期英語・日本語短期研修（オックスフォードブルックス大学/17名/オンライン） 受入：　南京師範大学（中国/2名）、三育大学校（韓国/3名）、夏期英国短期語学実習（オックスフォードブルックス大学/10名/オンライン）、春期英語・日本語短期研修（オックスフォードブルックス大学/42名/オンライン）	B		No.22「国際交流協定」 No.23「学生、教員の国際交流」	33
		3						
		ウェイト総計	４年度 6		項目数計			４年度 5

【ウェイト付けの理由】
・通し番号31　学内で地域支援を行っている部署間の連携体制を強化し、地域連携・地域支援を推進する。

地域貢献及び国際交流に関する特記事項
①オックスフォードブルックス大学（イギリス）とのオンライン日本語・英語研修プログラムを実施した。

年度計画項目別評価

中期目標 4　業務運営の改善及び効率化に関する目標	(1) 大学運営の改善 学術研究の進展や社会及び地域情勢の変化に的確に対応するため、教育研究組織や学内資源配分を恒常的に見直し、理事長のリーダーシップの下、自主性・自律性を生かした活力ある大学運営を行う。 また、多様な人材を確保・育成するとともに、教職員の意欲向上を図るため、能力と業績を適正に評価する。併せて、スタッフ・ディベロップメント等の取組を推進し、複雑化・専門化する大学運営の充実を図る。 (2) 事務等の効率化・合理化 継続的な業務見直しや事務体制の見直し等により、事務等の効率化・合理化を図る。 (3) 社会的責任・安全管理の徹底 人権尊重、法令遵守の徹底など、公立大学法人としての社会的責任を果たすとともに、学生と教職員の健康の確保や事故、犯罪、災害等の未然防止、情報セキュリティ対策などの安全管理に万全を期す。 また、事故等が発生した場合に迅速に対処できる危機管理体制を確立する。

中期計画		令和４年度計画		ウェイト	計画の実施状況等	自己評価		データ番号	通し番号
項目	実施事項					評価	理由		
1　組織運営の改善・強化 理事長のリーダーシップの下、社会情勢等の変化に対応して学内組織や学内資源の配分を見直す等、的確な大学運営を行うとともに、教職員の能力と業績の適正評価による意欲の向上や多様な人材を育成するためにスタッフ・ディベロップメント（ＳＤ）等の取り組みを推進し、職員の資質向上を図る。	1【学内組織や学内資源の配分見直し】 社会情勢の変化に併せて学内組織や学内資源の配分を改変する。	1	【令和４年度計画】 【学内組織や学内資源の配分見直し】 ①実情に応じ、学内組織や学内資源配分の見直し等を検討する。	1	【令和４年度の実施状況】 【学内組織や学内資源の配分見直し】 ①[組織状況] 改革推進委員会で取り組んだ。 [実施状況] ・「管理棟教務入試班(各種証明発行）、「2号館キャリアオフィス(「就職相談）」、「3号館学生支援班（奨学金受付等）」の3箇所にわかれた分かれていた窓口を一本化するため、「R3年度」には、R4年2月に2号館2階「FPUホール」内にあるキャリアオフィスを3号館1階学生支援センター内に移設を実施、また「R4年度」には、管理棟1階にあった学務部教務入試班を3号館1階の学生支援センターへの移設を実施、学生窓口の一本化を完了した。 ・窓口を一本化したことにより、教務と学生支援の連携が速やかになり、学生へのサポートや支援がよりスピーディに対応できるようになった。 ・学生からは、1ヶ所で全ての手続きができると好評である。	A	【高く評価する点】 学生窓口の一本化を図り、生活、学修、キャリア、就職等のあらゆる相談にワンストップで対応する体制を整えた。 【実施（達成）できなかった点】		34

中期計画		令和４年度計画		ウェイト	計画の実施状況等	自己評価		データ番号	通し番号
項目	実施事項					評価	理由		
※1　組織運営の改善・強化の続き	2 【教員の士気を高める教育環境整備】 ①教員表彰制度（Best Teacher’sAward、研究費優遇、学内外公表、長期派遣研修等）を実施する。 ②全学的視点からの戦略的配分推進のため、理事長裁量の研究奨励交付金制度の充実を図る。	1	【令和４年度計画】 【教員の士気を高める教育環境整備】 ①教員表彰制度（Best Teacher’s Award）を実施する。 ②理事長裁量の研究奨励交付金制度の充実を図る。	1	【令和４年度の実施状況】 【教員の士気を高める教育環境整備】 [組織状況] ①については学部SD・FD部会、②については附属研究所運営部会で取り組んだ。 [実施状況] ①授業参観ウィークにおける学外者へのアンケート結果を基に学部SD・FD部会で審議を経て、顕著な功績のあった2名の教員を表彰した。 ②理事長裁量の研究奨励交付金制度の充実を図るため、研究奨励交付金の募集枠の見直しを行い、若手奨励研究の募集枠の拡充等を行った。	B	【高く評価する点】 【実施（達成）できなかった点】		35

中期計画		令和４年度計画		ウェイト	計画の実施状況等	自己評価		データ番号	通し番号
項目	実施事項					評価	理由		
※1　組織運営の改善・強化の続き	3 【教員個人業績評価制度の適切な運用】 　教員の個人業績評価システムの検証・改善を実施する	1	【令和４年度計画】 【教員個人業績評価制度の適切な運用】 ①教員の個人業績評価システムを検証し、改善に向けた検討を行う。	1	【令和４年度の実施状況】 【教員個人業績評価制度の適切な運用】 ①[組織状況] 個人業績評価委員会が個人業績評価システムの検証を行っている。 [実施状況] R3年度改善した新様式を利用しない教員についてどのような対応を行うのか、その議論を進めた。また、年休取得状況および科研費重複申請の評価システム反映に関して議論を進めた。	B	【高く評価する点】 【実施（達成）できなかった点】		36

中期計画		令和４年度計画		ウェイト	計画の実施状況等	自己評価		データ番号	通し番号
項目	実施事項					評価	理由		
※1　組織運営の改善・強化の続き	4 【SD等の取組推進による職員の資質向上】 ①積極的に各種専門研修等へ参加させるとともに、意欲向上等を目的とした学内研修の実施を検討し、多様な状況にも対応できる人材の育成を図る。 ②事務局プロパー職員に対する人事評価制度を導入する。	1	【令和４年度計画】 【SD等の取組推進による職員の資質向上】 ①積極的に学外研修の受講を推奨し、職員の技能向上を図るとともに、引き続き、他大学との合同も含めた独自研修の実施を検討する。また、R2年度に改正した「SD ・FD部会」の下でSD研修の更なる活性化を図る。 ②R4年度から適用した事務局プロパー職員の人事評価の給与への反映について検証を行い、必要に応じて改変を行う。	1	【令和４年度の実施状況】 【SD等の取組推進による職員の資質向上】 [組織状況] ①学部SD・FD部会で検討した。 ②事務局の班長以上で構成する事務局会議で検討した。 [実施状況] ①R3年度に作成した「事務局職員研修体系表」を公立大学協会がR4年4月に改訂した公立大学教職員研修システムの対象職員、コンテンツに応じた改正を行い、「公立大学教職員研修システム」受講計画表（R4年度～R8年度までの5か年計画）を作成した。R4年度から計画に沿って受講している。 ②事務局プロパー職員の人事評価結果を給与に反映する制度改正はR4年度から適用しており、R5年2月には評価結果を確定し、評価結果についてR5年度の給与から反映する。	A+	【高く評価する点】 公大協の研修コンテンツを準備段階から把握し、コンテンツの公開後速やかに研修を受講できるようにした。さらに業務に応じた受講計画を作成、研修を系統的に全講座（4カテゴリー23項目）受講できる体制を整え、対象職員をプロパー職員に加え、県派遣職員にまで拡大し、本学事務局職員の資質向上につなげた。 【実施（達成）できなかった点】	No.24 「SD」	37

中期計画		令和４年度計画		ウェイト	計画の実施状況等	自己評価		データ番号	通し番号
項目	実施事項					評価	理由		
2　事務事業等の効率化 業務や事務体制の見直し等により、業務の効率化・合理化を図るとともに、ワークライフバランスの取り組みを推進する。	1 【事務処理省力化・簡素化】 ①業務の電子化（システム化）の検討を行う。 ②業務マニュアル、情報の共有化等により事務作業の簡素化を図る。	1	【令和４年度計画】 【事務処理省力化・簡素化】 ①費用対効果を主眼に更なる業務の電子化等の可能性を検討する。 ②事務作業簡素化を図るため、引き続き、業務マニュアルの見直しを検討し、適宜改変を行う。	1	【令和４年度の実施状況】 【事務処理省力化・簡素化】 ①②[組織状況] 事務局の班長以上で構成する事務局会議で検討した。 [実施状況] ①更なる業務の電子化等の可能性の検討を行った。 ②決算業務マニュアルの随時更新を行った。その他既存の業務マニュアルについても、随時関係職員にて内容をチェックし、見直しの有無及び内容の充実について検討を行った。	B	【高く評価する点】 【実施（達成）できなかった点】		38

中期計画		令和４年度計画		ウェイト	計画の実施状況等	自己評価		データ番号	通し番号
項目	実施事項					評価	理由		
※2　事務事業等の効率化の続き	2 【外部委託化】 業務の外部委託化の検討を行う。	1	【令和４年度計画】 【外部委託化】 ①費用対効果を主眼に、引き続き、更なるアウトソーシングの可能性を検討する。	1	【令和４年度の実施状況】 【外部委託化】 ①[組織状況] 事務局で検討した。 [実施状況] ・引き続き「たがわ情報センター」にITに関する学生及び教員からの相談対応業務の業務委託を行った。	B	【高く評価する点】 【実施（達成）できなかった点】		39

中期計画		令和４年度計画		ウェイト	計画の実施状況等	自己評価		データ番号	通し番号
項目	実施事項					評価	理由		
3　人権尊重、法令遵守の徹底及びリスクマネジメント体制の整備 　法令等遵守の徹底や意識の醸成を図るとともに、リスクマネジメント体制を強化し確立する。	1 【人権尊重、法令遵守の徹底】 ①法令遵守等の徹底及び意識醸成に係る啓発を行う。 ②人権等研修を実施する。	1	【令和４年度計画】 【人権尊重、法令遵守の徹底】 ①教職員の更なる倫理観向上のための啓発を行い、周知・浸透を図る。 ②本学人権委員会主催の人権研修を開催するとともに、田川郡人権・同和対策推進協議会主催研修への教職員参加により、人権意識の醸成を図る。	1	【令和４年度の実施状況】 【人権尊重、法令遵守の徹底】 ①②[組織状況] 経営管理部及び人権委員会で対応した。 [実施状況] ①法令遵守等の徹底については、随時、県からの通知文を部局長会議で報告し、教授会で周知した。 ②田川郡人権・同和対策推進協議会主催の研修に下記のとおり参加した。 ・（前期研修）開催日：R4年7月6日、7日、参加者数：99名（参加率94.3%） ・（後期研修）開催日：R5年2月1日、2日、参加者数：99名（参加率92.5%） 全教職員を対象とした人権委員会主催の人権研修会を下記のとおり開催した。 ・開催日：R5年3月1日、参加者：78名（参加率75.7%）	B	【高く評価する点】 【実施（達成）できなかった点】		40

中期計画		令和４年度計画		ウェイト	計画の実施状況等	自己評価		データ番号	通し番号
項目	実施事項					評価	理由		
※3　人権尊重、法令遵守の徹底及びリスクマネジメント体制の整備の続き	2【リスクマネジメント体制の整備・確立】 ①学内危機管理体制を確立する。 ②危機管理マニュアルの検証・改変を実施する。 ③防災訓練、防犯講習会を実施する。 ④情報セキュリティー体制の検証・改変を実施する。	1	【令和４年度計画】 【リスクマネジメント体制の整備・確立】 ①学内危機管理体制の一層の確立を図るため、危機管理マニュアル等の周知徹底を行う。 ②実効性ある危機管理を行うべく、現行の危機管理基本マニュアル見直しの検討とともに、その他の個別対応マニュアル等の策定も検討する。 ③危機回避に対する判断力・行動力を養うため、防災訓練及び防犯講習会を実施する。 ④本学情報保全規則の遵守を徹底するとともに、R4年度に更新する学内LANを検証し、必要に応じて改変を行う。	1	【令和４年度の実施状況】 【リスクマネジメント体制の整備・確立】 ①②③④[組織状況] 危機管理委員会及び総合情報委員会で対応した。 [実施状況] ①大学ホームページ内に危機管理に関する情報の掲載ページを設け、いつでも危機管理マニュアル等を確認できるようにしている。また、大学ホームページへの掲載やメール配信等を通じ、新型コロナウイルスの感染予防対策及び感染状況等を学内外に積極的に配信することにより、学生、教職員及び学内関係者の感染防止に努めた。 ②個別の危機管理マニュアルについては、必要に応じ見直しを検討した。 ③R4年度は、学生寮を対象とした消防訓練を5月18日に実施した。また、全学を対象とした消防訓練は、コロナ禍のため教職員のみを対象として11月18日に実施した。 ④学内LAN及びメールシステムの更新を8月に完了し、システムの安定稼働を図った。	B	【高く評価する点】 【実施（達成）できなかった点】		41
		ウェイト総計		４年度 8		項目数計			４年度 8

【ウェイト付けの理由】

業務運営の改善及び効率化に関する特記事項

①新たにプロパー職員3人を採用した。
②メールサーバをオンプレミス（学内サーバ）からクラウド環境（Microsoft365）へ変更することにより、メールの安定稼働を図った。学内の無線LANアクセスポイントを62ヶ所から68ヶ所へと増強した。また無線LANの認証方式をWEB認証からIEEE802.1x認証へと認証方式を変更することにより、認証方式を簡素化（ID・パスワード入力の省略化）することができ、利便性を向上させた。

年度計画項目別評価

中期目標 5　財務内容の改善に関する目標	(1) 財政基盤の強化 教育研究活動等の活性化のため、外部資金の獲得等による自己収入の増加を図り、財政基盤を強化する。 また、資産を適正に管理し、財産の有効活用を図るとともに、資金の安全確実な運用を行う。 (2) 経費の節減 大学の運営が公的資金に支えられていることを踏まえ、経営者の視点に立って、適正な予算執行を進めるとともに、業務の効率化により、経費の節減を図る。

中期計画		令和４年度計画		ウェイト	計画の実施状況等	自己評価		データ番号	通し番号
項目	実施事項					評価	理由		
1　自己収入の積極的確保 外部資金の積極的獲得や資産の有効活用により、自己収入の増加を図り、財政基盤を強化する。	1【外部資金の積極的確保】 ①科学研究費、受託研究費等の外　部資金の積極的獲得を全学的に取り組み、獲得に向けた支援体制　を整備する。 ②寄付金の受入れを促進するため、申込手続きの簡素化や広報活動を推進する。 ○評価指標（指標及び達成目標） ・外部資金獲得額　：5千万円以上（単年）	1	【令和４年度計画】 【外部資金の積極的確保】 ①ホームページへの外部研究資金公募情報掲載の充実や科学研究費応募率向上のための研修会を開催する。 ②寄付金の受入れの増加に向け、あらゆる機会を通じた広報活動を実施する。 ○評価指標（指標及び達成目標） ・外部資金獲得額　：5千万円以上	1	【令和４年度の実施状況】 【外部資金の積極的確保】 ①②[組織状況] 附属研究所と経営管理部とで連携して対応した。 [実施状況] ①ホームページに外部資金等の公募情報を掲載し、科学研究助成事業に関する学内研修会を開催し、95名が参加した。また、同時に研修会を録画し、教員がいつでも応募方法等を確認できる体制をとった。 ②常時ホームページに掲載するとともに、大学広報誌（春号・秋号）に掲載した。 ○目標実績 ・外部資金獲得額　：4,683万円	B	【高く評価する点】 【実施（達成）できなかった点】	No.17 「研究（研究推進の状況、外部研究資金獲得の状況）」	42

中期計画		令和４年度計画		ウェイト	計画の実施状況等	自己評価		データ番号	通し番号
項目	実施事項					評価	理由		
※1　自己収入の積極的確保の続き	2 【大学施設の有効活用】 大学のホームページに大学施設の利用手続き等を掲載し大学施設の利用を促進する。	1	【令和４年度計画】 【大学施設の有効活用】 ①大学施設の利用について、一層の周知を図る。	1	【令和４年度の実施状況】 【大学施設の有効活用】 ①[組織状況] 事務局及び附属図書館運営部会で検討した。 [実施状況] 大学ホームページの「施設貸し出しについて」に、利用時間、利用料金、申込み方法等を掲載し、外部者の利用について周知を行っている。 R4年度は、コロナ禍のため外部者の利用を原則中止した。 ただ、一般財団法人消防試験研究センターに試験会場として5回、田川市に田川市職員採用試験会場として1回それぞれ有償で貸し出しを行った。 （施設使用料収入768,720円）	B	【高く評価する点】 【実施（達成）できなかった点】		43

中期計画		令和４年度計画		ウェイト	計画の実施状況等	自己評価		データ番号	通し番号
項目	実施事項					評価	理由		
2　業務効率化による経費の節減 　業務の効率化により経費の節減を図る。	1【業務効率化による管理経費の節減】 ①照明のLED化、老朽設備更新等、省エネ対策推進による経費節減を図る。 ②費用対効果を重視した外部委託化の検討を行う。	1	【令和４年度計画】 【業務効率化による管理経費の節減】 ①引き続き、学内照明のLED化を進めていくとともに、老朽化した空調機器等の更新を行うなど省エネ対策の推進を図る。 ②費用対効果を主眼に、引き続き、既存外部委託業務の見直しや更なる外部委託化の可能性等を検討する。	1	【令和４年度の実施状況】 【業務効率化による管理経費の節減】 ①②[組織状況] 事務局で検討した。 [実施状況] ①R4年6月には、キャンパス広場周辺の回廊（夜間点灯照明部分）のLED化を図り（取替本数82本、経費1,182千円）、8月には附属図書館の書棚部分をセンサー付きLED照明に取替を行った。（取替本数160本、経費1,309千円）これにより34.0%程度の消費電力削減が図られた。 また、R4年7月、8月、11月、12月には、設置から20年以上経過したエアコン4台（1号館、講堂）を更新した。これにより6.0%程度の消費電力削減が図られた。 ②引き続き「たがわ情報センター」にITに関する学生及び教員からの相談対応業務の業務委託を行うことにより、事務職職員の相談対応業務の省力化が図られた。なお、R5年度は利用状況を精査し、業務委託継続について検討する。	B	【高く評価する点】 【実施（達成）できなかった点】	No.27 「経費削減」	44
		ウェイト総計		４年度 3		項目数計			４年度 3

【ウェイト付けの理由】

財務内容の改善に関する特記事項

年度計画項目別評価

中期目標 6　自己点検・評価及び情報の提供に関する目標	(1) 自己点検・評価 教育、研究その他大学運営全般の自己点検・評価を厳正に実施するとともに、福岡県公立大学法人評価委員会の評価及び認証評価機関の評価を受け、その結果を公表し、大学運営の改善に速やかに反映させる。 (2) 情報公開・広報 公立大学法人としての社会への説明責任を果たし、広く県民の理解を得るため、大学情報を積極的に公開するとともに、効果的な広報を展開し、大学の存在感を高める。

中期計画		令和４年度計画		ウェイト	計画の実施状況等	自己評価		データ番号	通し番号
項目	実施事項					評価	理由		
1　内部質保証システムによる大学の質の維持・向上 　中期目標の実現を目指して、計画的に年度計画を立て、実施し、自己評価する。県評価委員会の評価結果を大学運営に反映させる。 次期認証評価に向けて、計画的に準備を行う。	1【自己点検・評価の実施】 ①中期目標の実現を目指して、計画的に年度計画を立て、実施し、自己評価する。 ②次期認証評価に向けた準備を行うとともに、IR機能を強化し、内部質保証システムの充実を図る。	1	【令和４年度計画】 【自己点検・評価の実施】 ①各事業年度の、教員の教育・研究・社会貢献活動、授業評価等をもとに自己点検・評価報告書を作成する。 ②IR機能の強化を図りながら、一般財団法人大学教育質保証・評価センターの認証評価受審の準備を行い、認証評価を受審する。	2	【令和４年度の実施状況】 【自己点検・評価の実施】 ①[組織状況] IR推進室が行った。 [実施状況] R3年度の各教員の教育・研究・社会貢献活動の集約を行った。またR3年度の中期計画の実施状況をとりまとめ、自己点検・評価報告書を10月に公表した。 ②[組織状況] IRサイクル総合会議（IR推進室及び内部質保証・サイクル推進会議）が中心となり、評価基準（基準1 基盤評価：法令適合性、基準2 水準評価：教育研究の水準の向上、基準3 特色評価：特色ある教育研究の進展）に関係する教職員と協働して点検評価ポートフォリオを作成した。また、ポートフォリオ提出後の事務的確認事項への対応、書面による確認事項への対応、在学生・卒業生へのWEBアンケートの実施、実地調査の準備についてはIRサイクル総合会議を中心に行った。実地調査には学内外の関係者が集まり、評価センターからの質疑応答に対応した。 [実施状況] 事務的確認事項と書面による確認事項は9月13日（提出期限）までに提出した。WEBアンケートは対象者25名に依頼し、9月5日の回答期限をもって完了した。実地調査（オンライン）の準備については、評価審査会の対象テーマとなった「児童生徒を対象とした不登校・ひきこもりサポートセンターの取組」の関係者（学内外）への依頼を行った。また、実地調査の学内出席者を集め事前会議（9月26日）を実施したうえで、9月27日に実地調査を受けた。実地調査での質問事項等の共有を大学改革セミナー（11月2日）にて行った。実地調査を経て、1月に評価センターから評価報告書案を受け取った。IR推進室で内容を確認の上、意見申立て（申立て期限：2月14日）は行わなかった。正式な評価報告書は3月に受け取った。その後、評価報告書と点検評価ポートフォリオを大学ホームページに掲載した。	A+	【高く評価する点】 一般財団法人大学教育質保証・評価センターによる大学機関別認証評価をR4（2022）年度に受審した19大学のうち、本学は唯一「改善を要する事項」がなく、「法令適合性」「教育研究の水準」「特色ある教育研究」のすべての基準に関してこれまでの取り組みが非常に高く評価された。 【実施（達成）できなかった点】		45

中期計画		令和４年度計画		ウェイト	計画の実施状況等	自己評価		データ番号	通し番号
項目	実施事項					評価	理由		
※1　内部質保証システムによる大学の質の維持・向上の続き	2 【自己評価及び外部評価結果の大学運営の改善への反映】 　自己点検・評価結果、外部評価結果を学内にフィードバックし、教育研究活動、地域貢献活動及び大学運営等の改善を図る。	1	【令和４年度計画】 【自己評価及び外部評価結果の大学運営の改善への反映】 ①大学改革セミナー開催等により、学内教職員への自己点検・評価結果を周知し、教育研究活動、地域貢献活動及び大学運営等の改善につなげる。	1	【令和４年度の実施状況】 【自己評価及び外部評価結果の大学運営の改善への反映】 ①[組織状況] 改革推進委員会のもと、IR推進室、内部質保証・サイクル推進会議、IRサイクル総合会議、学部SD・FD部会、大学院FD部会が連動して取り組んだ。 [実施状況] 大学認証評価受審に必要なポートフォリオを5月末に提出した。9月27日に実地調査（R4年度はオンライン）を受けた。大学改革セミナーを11月2日に行った。内容は法人評価、認証評価、KDBシステムについてであった。	B	【高く評価する点】 【実施（達成）できなかった点】		46

中期計画		令和４年度計画		ウェイト	計画の実施状況等	自己評価		データ番号	通し番号
項目	実施事項					評価	理由		
2　県大ブランドイメージの醸成 大学情報を積極的に公開するとともに、効果的な広報活動を展開し、県大の存在感をアピールする。	1 【大学情報の積極的公開】 ①県大ブランドとなる教育方針、教育プログラム等を広く学外に発信する。 ②ホームページ掲載情報の適切な管理に努める。	1	【令和４年度計画】 【大学情報の積極的公開】 ①教育情報を、ホームページや出前講義等、あらゆる機会を通じて広く学外へ発信する。 ②適宜、ホームページの掲載情報をチェックし、新しい情報に更新させるとともに、掲載情報の整理・追加等により、一層の情報の提供を図る。	1	【令和４年度の実施状況】 【大学情報の積極的公開】 ①②[組織状況] 教務入試委員会等の関連する委員会・部会及び経営管理部で対応した。 [実施状況] ①R4年度も引き続き高校訪問、入試説明会、出前講座を通じ、教育情報を積極的に発信した。 ・高校訪問：39校 ・入試説明会：12回 ・出前講座：7回 ②大学ホームページを活用し、学生や地域住民に向け、オープンキャンパスの開催や新型コロナウイルス感染症関連情報等最新の情報を発信した。	B	【高く評価する点】 【実施（達成）できなかった点】	NO.3「高校訪問」 No.4「入試説明会」 No.5「出前講義」	47

中期計画		令和４年度計画		ウェイト	計画の実施状況等	自己評価		データ番号	通し番号
項目	実施事項					評価	理由		
※2　県大ブランドイメージの醸成の続き	2【効果的な広報活動の実施】 ①ホームページの充実を図る。 ②多様な媒体を活用した広報活動の充実を図る。 ③マスメディアへの積極的な情報提供を行う。 ④大学案内パンフレットの充実を図る。	1	【令和４年度計画】 【効果的な広報活動の実施】 ①ホームページに学内イベント情報や報告などの情報を積極的に掲載するとともに、適宜、更新等が必要な情報の更新を行っていく。 ②SNSや出版物等多様な媒体や出前講義の実施を通して積極的な広報を行っていく。 ③マスメディアに対し、本学が主催や関与する公開講座やフォーラム、シンポジウム等の情報を積極的に発信する。 ④毎年更新作成する、大学案内パンフレットを充実させるとともに、必要に応じ地域に貢献する大学プロジェクト等のリーフレットの更新も行う。	1	【令和４年度の実施状況】 【効果的な広報活動の実施】 ①②③④[組織状況] 事務局で対応した。 [実施状況] ①ホームページに学内イベント情報や報告などの情報を積極的に掲載し、掲載内容の更新を適宜行った。 ②ホームページ上で8月6日及び9月28日に開催したオープンキャンパスの広報を行ったほか、ソーシャルメディア（インスタグラム）を活用し、入試情報、オープンキャンパスの情報を発信した。また大学広報誌を発行した（11月、3月）。R4年度のオープンキャンパスはオンライン及び対面で開催、参加者は夏・秋合わせて1,737名となり、前年比461名の増加となった。アンケート結果も「満足以上の評価」が約99.0%と好評であった。 ③積極的に大学イベント等の情報をソーシャルメディアを活用し発信した。また、公開講座の開催情報については、福岡県や田川市に情報提供を行い、広く県民に周知した。R4年度は、NHK北九州の番組で、本学学生が活動しているe-スポーツ（10/22放送）、社会調査実習現場（10/29放送）が放送された。 ④R4年度も大学案内パンフレット（大学案内・広報誌）を更新した。またリーフレット3種を更新した。	B	【高く評価する点】 【実施（達成）できなかった点】		48
		ウェイト総計		４年度 5		項目数計			４年度 4

【ウェイト付けの理由】
・通し番号45　次期認証評価に向けた準備を行うとともに、IR機能を強化し、内部質保証システムの充実を図る。

自己点検・評価及び情報の提供に関する特記事項
①本学は福岡県国民健康保険団体連合会（国保連）とデータ分析の共同研究事業に関する業務協定を結んだ（R5年2月24日）。R5年度から市町村国保の保健事業を支援するため、国保データベース（KDB）システムの医療・介護・健診のデータを活用した共同研究事業を開始する予定である。

特記事項　（中期目標項目の枠組みにとらわれず、特に力を入れて取り組んでいる事項やアピールしたい事項）

特　記　事　項	関連する通し番号
【教育】	
①高校情報教員免許の教職課程申請に伴い設置した新規3科目（「マルチメディア論」「地理情報システム論」「情報ネットワーク演習」）をR5年度以降開講するための準備を行った。また、看護学部の学生が履修しやすいように、新たに「データサイエンス（リテラシー）学修証明書」の交付要件を整えた。	1
②中国語、韓国語に対し意欲のある学生のために、授業を通して語学検定の情報と勉強方法を教示し、図書館等に試験対策書を配備した上で、個別の相談に応じた。その結果、中国語検定試験（HSK）に5名、韓国語検定に1名が合格した。	2
③大学院授業参観ウィークについて、PDCAサイクルに基づき、R3年度（12月）実施分をふりかえり、R4年度は、6月に実施した（参加者28人）。	10
④R4年度の秋季入試から外国語（英語）を両研究科共通の問題にして、アドミッション・ポリシーに沿う学生の確保を強化した。	14
【研究】【自己点検・評価及び情報の提供】	
⑤本学は福岡県国民健康保険団体連合会（国保連）とデータ分析の共同研究事業に関する業務協定を結んだ（R5年2月24日）。R5年度から市町村国保の保健事業を支援するため、国保データベース（KDB）システムの医療・介護・健診のデータを活用した共同研究事業を開始する予定である。	22、46
【地域貢献及び国際交流】	
⑥オックスフォードブルックス大学（イギリス）とのオンライン日本語・英語研修プログラムを実施した。	33
【業務運営の改善及び効率化】	
⑦新たにプロパー職員3人を採用した。	37
⑧メールサーバをオンプレミス（学内サーバ）からクラウド環境（Microsoft365）へ変更することにより、メールの安定稼働を図った。学内の無線LANアクセスポイントを62ヶ所から68ヶ所へと増強した。また無線LANの認証方式をWEB認証からIEEE802.1x認証へと認証方式を変更することにより、認証方式を簡素化（ID・パスワード入力の省略化）することができ、利便性を向上させた。	41

その他中期計画において定める事項

中期計画		年度計画	
		計画	実績
Ⅰ　収支計画予算及び資金計画予算	1. 収支計画予算		

（百万円）

区分	予算額(a)	決算額(b)	差額　(b)－(a)
費用の部	2,018	2,006	▲ 12
経常費用	2,018	2,006	▲ 12
業務費	1,736	1,720	▲ 16
教育研究経費	397	361	▲ 36
受託研究費等	0	0	0
人件費	1,339	1,359	20
一般管理経費	281	283	2
（減価償却費　再掲）	▲ 73	▲ 77	▲ 4
財務費用	0	2	2
臨時損失	0	0	0
収益の部	1,934	1,999	65
経常収益	1,934	1,999	65
運営費交付金収益	1,094	1,141	47
授業料収益	571	542	▲ 29
入学金収益	113	115	2
検定料収益	23	22	▲ 1
その他業務収益	0	0	0
受託研究等収益	0	0	0
受託事業等収益	0	0	0
補助金等収益	97	83	▲ 14
寄付金収益	0	8	8
資産見返負債戻入	0	53	53
財務収益	0	0	0
雑益	30	31	1
臨時利益	0	0	0
純利益	▲ 83	▲ 7	76
目的積立金取崩額	54	0	▲ 54
前中期目標期間繰越積立金取崩	28	54	26
総利益	0	47	47

<table>
<tr><th colspan="2" rowspan="2">中期計画</th><th colspan="3">年度計画</th></tr>
<tr><th>計画</th><th colspan="2">実績</th></tr>
<tr><td colspan="2">2. 資金計画予算</td><td colspan="3"><table>
<tr><th>区分</th><th>予算額(a)</th><th>決算額(b)</th><th>差額　(b)－(a)</th></tr>
<tr><td>資金支出</td><td>2,198</td><td>2,258</td><td>60</td></tr>
<tr><td>業務活動による支出</td><td>1,914</td><td>1,856</td><td>▲ 58</td></tr>
<tr><td>投資活動による支出</td><td>18</td><td>59</td><td>41</td></tr>
<tr><td>財務活動による支出</td><td>29</td><td>30</td><td>1</td></tr>
<tr><td>翌年度への繰越金</td><td>235</td><td>311</td><td>76</td></tr>
<tr><td>資金収入</td><td>2,198</td><td>2,258</td><td>60</td></tr>
<tr><td>業務活動による収入</td><td>1,934</td><td>1,917</td><td>▲ 17</td></tr>
<tr><td>運営費交付金による収入</td><td>1,094</td><td>1,129</td><td>35</td></tr>
<tr><td>授業料等による収入</td><td>712</td><td>632</td><td>▲ 80</td></tr>
<tr><td>受託研究等による収入</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td></tr>
<tr><td>補助金等による収入</td><td>97</td><td>114</td><td>17</td></tr>
<tr><td>寄附金等による収入</td><td>0</td><td>8</td><td>8</td></tr>
<tr><td>その他収入</td><td>30</td><td>32</td><td>2</td></tr>
<tr><td>投資活動による収入</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td></tr>
<tr><td>財務活動による収入</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td></tr>
<tr><td>前年度からの繰越金</td><td>264</td><td>340</td><td>76</td></tr>
</table></td></tr>
<tr><td colspan="2">Ⅱ　短期借入金の限度額</td><td>1　短期借入金の限度額　　2億円
2　想定される理由
　運営費交付金の交付時期と資金需要の期間差及び事故の発生等により緊急に必要となる対策費として借り入れすること。</td><td colspan="2">該当なし</td></tr>
<tr><td colspan="2">Ⅲ　出資等に係る不要財産等の処分に関する計画</td><td>該当なし</td><td colspan="2">該当なし</td></tr>
<tr><td colspan="2">Ⅳ　Ⅲに規定する財産以外の重要な財産を譲渡し、又は担保に供する計画</td><td>該当なし</td><td colspan="2">該当なし</td></tr>
<tr><td colspan="2">Ⅴ　剰余金の使途</td><td>決算において剰余金が発生した場合は、教育研究及び組織運営の改善に充てる。</td><td colspan="2">・前中期目標期間繰越積立54百万円を取り崩し、教育研究の質の向上及び組織運営の改善に充当した。
・令和4年度決算において発生した剰余金47百万円は、令和4年度財務諸表の承認を得て、教育研究等改善目的積立金に積み立てる。</td></tr>
<tr><td colspan="2">Ⅵ その他設立団体の規則で定める業務運営に関する事項</td><td>該当なし</td><td colspan="2">該当なし</td></tr>
</table>

2022（令和 4）年度

教育・研究・社会貢献活動一覧

福岡県立大学

【 凡　例 】

(1) この「教育・研究・社会貢献活動一覧」は、２０２２（令和４）年度、福岡県立大学に専任教員として在籍した者を対象とし、２０２２（令和４）年３月の時点で、１人あたり２頁を目安に報告をまとめている。

(2) 「主な研究分野」は、専門研究者向けではなく、一般の方向けの自己ＰＲとして記載している。

(3) 「研究業績」は、過去３年間分を記載している＜２０２０（令和２）年度～２０２２（令和４）年度＞。業績数が多い教員については、一部省略している場合がある。

(4) 「外部研究資金」は、２０２２（令和４）年度に資金を得ているものを記載している。

(5) 「受賞」は、２０２２（令和４）年度の実績を記載している。

(6) 「所属学会」は、２０２２（令和４）年度の所属状況を記載している。

(7) 「担当授業科目」は、原則として２０２２（令和４）年度の担当授業を記載している。なお、助手については、補助業務を担当している授業科目を記載している。

(8) 「社会貢献活動」は、２０２２（令和４）年度の状況を記載している。

(9) 「学外講義・講演」は、２０２２（令和４）年度の実績を記載している。学会での講演は、「研究業績」欄に記載し、ここにはそれ以外のものを記載している。また、会場は学内であっても、学外者向けのものはここに含まれている。なお、大学等での非常勤講師は含まれていない。

(10) 「附属研究所の活動等」は、２０２２（令和４）年度の状況を記載している。

＜目　　次＞

【掲載順】
両学部ともに職名順とし、同一職名内は姓の５０音順である。

〈人間社会学部〉

教授	池田	孝博	1
教授	石崎	龍二	4
教授	岩橋	宗哉	7
教授	岡本	雅享	9
教授	小嶋	秀幹	11
教授	佐野	麻由子	14
教授	杉野	寿子	16
教授	Stuart	Gale	19
教授	住友	雄資	21
教授	本郷	秀和	23
教授	村山	浩一郎	26
教授	森脇	敦史	29
教授	吉岡	和子	31
特任教授	福田	恭介	34
特任教授	細井	勇	36
准教授	池	志保	39
准教授	井上	奈美子	42
准教授	奥村	賢一	45
准教授	鬼塚	香	48
准教授	河野	高志	51
准教授	堤	圭史郎	53
准教授	寺島	正博	55
准教授	中原	雄一	58
准教授	中村	晋介	61
准教授	廣田	久美子	63
准教授	藤澤	健一	65
准教授	三隅	譲二	67
准教授	美谷	薫	68
准教授	麦島	剛	71
准教授	陸	麗君	74

准教授	鷲野	彰子	77
講師	伊勢	慎	79
講師	河本	恵美	82
講師	黒川	すみれ	84
講師	小林	亮太	86
講師	坂無	淳	88
講師	櫻井	晋伍	91
講師	畑	香理	93
講師	福本	純子	96
講師	松岡	佐智	99
助手	佐藤	繁美	102

〈看護学部〉

教授	石田	智恵美	104
教授	江上	千代美	106
教授	尾形	由起子	109
教授	田吹	香子	112
教授	永嶋	由理子	114
教授	波止	千恵	116
教授	福田	和美	118
教授	村方	多鶴子	121
准教授	石村	美由紀	123
准教授	楪	直美	126
准教授	芋川	浩	129
准教授	加藤	法子	132
准教授	四戸	智昭	134
准教授	杉野	浩幸	136
准教授	田中	美樹	138
准教授	中井	裕子	141
准教授	原田	直樹	143
准教授	古庄	夏香	146
准教授	山下	清香	148
准教授	吉田	恭子	151
准教授	吉田	静	153
講師	於久	比呂美	156
講師	小野	順子	158
講師	小出	昭太郎	160

講師　塩田　昇　・・・

人間社会学部／こどもコース	職名	教授	氏名	池田　孝博

1．教員紹介・主な研究分野

1992.3　筑波大学大学院修士課程体育研究科修了

1992.4-1997.3　慶應義塾中等部　教諭

1997.4-2009.3　佐賀短期大学（現；西九州大学短期大学部）講師→准教授

2009.3　福岡大学大学院スポーツ健康科学研究科博士課程後期修了

博士（スポーツ健康科学）

2009.4-　本学着任

2017.4-　福岡県立大学大学院人間社会学研究科 子ども教育専攻　教授

発育発達研究、スポーツ測定評価、スポーツ統計学

2．研究業績

① 最近の著書・論文

<論文>

- 田中美樹・吉川未桜・吉田麻美・中原雄一・杉野寿子・池田孝博，入院中の子どもを支える保育士と看護師の専門性を活かした協働（第 1 報）－業務内容の現状分析－．福岡県立大学看護学部紀要，20（印刷中），2023.
- 吉川未桜・田中美樹・吉田麻美・中原雄一・杉野寿子・池田孝博，入院中の子どもを支える保育士と看護師の専門性を活かした協働（第 2 報）－協働の現状と課題－．福岡県立大学看護学部紀要，20（印刷中），2023.
- 田中美樹・吉川未桜・吉田麻美・杉野寿子・中原雄一・池田孝博，新型コロナウイルス感染症拡大による入院中の子どもを支える上での看護師と保育士の困難感．福岡県立大学人間社会学部紀要：31(2)（印刷中），2023.
- 杉野寿子・吉川未桜・田中美樹・吉田麻美・池田孝博・中原雄一，入院中の子どもの権利と家族の QOL に関する課題．福岡県立大学人間社会学部紀要，30(1)：71-80，2022.
- 伊勢慎・池田孝博・櫻井国芳・古橋啓介，子どもの道徳。規範意識と運動に関する一考察．福岡県立大学人間社会学部紀要，30(1)：81-90，2022.
- Nakahara-Gondoh, Y., Tsunoda, K., Fujimoto, T., Ikeda, T., Effect of encourageing greater physical activity on number of steps and psychological well-being of university freshmen during tye first COVID-19-related emergency in Japan. Journal of physical education and sport. 22(10): 2598-2603, 2022
- 中原雄一・池田孝博，コロナ禍における大学新入生の歩数と精神的健康度の実態：2020 年度と 2021 年度で相違はみられるのか．大学体育スポーツ学研究．19: 94-99，2022.
- 池田孝博・中原雄一，コロナ禍での緊急事態宣言下における福岡県立大学新入生の健康状態とその関連要因．福岡県立大学人間社会学部紀要．30(1): 191-199，2021.
- 池田孝博・秋山大輔・岩本貴光・竹中健太郎・前阪茂樹・下川美佳・本多壮太郎，コロナ禍において策定された暫定的な剣道試合・審判法は大学生レベルの試合にどう影響したか？．武道学研究．54(1): 75-86, 2021.
- 池田孝博・杉野寿子・大久保淳子・鷲野彰子・中原雄一・伊勢慎，保幼小連携におけるアプロ

ーチカリキュラムに関する研究の動向と課題. 福岡県立大学人間社会学部紀要. 29(2): 215-223, 2021.

- 中原雄一・池田孝博, コロナ禍における緊急事態宣言下の大学新入生の身体活動状況と精神的健康度. 福岡県立大学人間社会学部紀要. 29(2): 115-122, 2021.
- Tomoko Ikeda・Takahiro Ikeda・Osamu Aoyagi・Taehee Choi・Namik Han・Yeju Hong・Kwangsoo Koo・Younshin Nam・Younghwan Seo, A comparative sinvestigation into the propensities of Japanese and Korean university to engage in physical activity and influence of nationality, gender, BMI and weight control. The Korean Journal of Growth and Development, 28(4): 449-458, 2020.
- 杉野寿子・田中美樹・吉川未桜・中原雄一・吉田麻美・池田孝博, 保育士養成課程における保健・健康に関する学びの研究. 福岡県立大学人間社会学部紀要. 29(1): 73-80, 2020.
- Namik Han・Taehee Choi・Younghwan Seo・Younshin Nam・Kwangsoo Koo・Takahiro Ikeda・and Osamu Aoyagi, Comparison of Effect of Physical Education Preferences on Physical Education Classes Content, Motor Skill, Exercise Environment, and Pleasure derived from Physical Activity Factors of among Elementary Students in Korea and Japan. The Korean Journal of Growth and Development, 28(1): 43-54, 2020.

②その他最近の業績

<学会発表>

- 池田孝博, 理想的な部活動のあり方とスポーツの価値および達成動機の関連. 九州体育・スポーツ学会第 71 回大会（九州保健福祉大学）,2022.
- Ikeda, TO., Ikeda, TA., Sakaguchi, H., Annoura, T., Aoyagi, O., Hong, Y., Han, N., Choi, T., Nam, Y., Koo, K., Seo, Y., The characteristics of general malaise/indefinite complaints in Japanese children as examined by latent class analysis. 27th Virtuall congress of the European College of sport science (ECSS), 2022.
- 中原雄一・池田孝博（オンライン発表）コロナ禍における大学新入生の歩数と精神的健康度の実態—2020 年度と 2021 年度で相違はみられるのか—. 九州体育・スポーツ学会第 70 回記念大会（西南学院大学）,2021.
- 中原雄一・角田憲治・藤本敏彦・池田孝博（オンライン発表）コロナ禍に伴う緊急事態宣言下の身体活動促進の効果. 第 76 回日本体力医学会大会（三重大学）,2021.
- Ikeda, T. and Nakahara, Y. (e-poster session) An investigation into the relationship between lifestyle, health status, mental stress and virus-fixated anxiety among university freshmen during the Covid-19 pandemic. 26th Virtuall congress of the European College of sport science (ECSS), 2021
- 中原雄一・池田孝博（口頭発表）コロナ禍に伴う緊急事態宣言が大学新入生の身体活動状況と精神的健康度に及ぼす影響. 第 9 回大学体育スポーツ研究フォーラム, 2021.
- Ikeda, T., Sakaguchi, H., Annoura, T., Aoyagi, O., Hong, Y., Han, N., Choi, T., Nam, Y., Koo, K., Seo, Y. What factors make young people do exercise regularly? 25th annual congress of the European College of sport science (ECSS) (Online), 2020.

③過去の主要業績

- 池田孝博・本多壮太郎・岩切公治・太田順康・大坪壽・前阪茂樹・鍋山隆弘・八木沢誠・瀧田伸吾・青柳領，剣道場の床面塗装とスポーツ傷害・障害および床面の機能性に関する主観的評価の関連．武道学研究, 45(1): 23-34. 2012.（学会優秀論文賞　受賞）
- Ikeda, T. & Aoyagi, O. Relationships between test characteristics and movement patterns, physical fitness, and measurement characteristics: suggestions for developing new test items for 2- to 6-year-old children. Human Performance Measurement5: 9-22, 2008.（学会賞　受賞）

3．外部研究資金

4．受賞

5．所属学会

日本体育・スポーツ・健康学会，日本発育発達学会，日本体育測定評価学会，日本体育科教育学会，日本学校保健学会，日本健康心理学会，日本武道学会，日本武道学会剣道分科会，九州体育・スポーツ学会，The European College of sport science (ECSS：ヨーロッパスポーツ科学会)，日本保育者養成教育学会

6．担当授業科目

＜学　部＞

健康科学実習Ⅰ・1単位・1年・前期，健康科学実習Ⅱ・1単位・1年・後期，
体育Ⅰ・1単位・2年・通年，体育Ⅱ・1単位・3年・通年，幼児と健康・2単位・3年・前期、保育内容の指導法・健康・2単位・3年・後期
演習・2単位・3年・通年，卒業論文・6単位・4年・通年

＜大学院＞

教育課題研究B（オムニバス）・2単位・1年・後期，子ども教育研究法・2単位・1年・前期，統計学演習・2単位・1年・後期，特別研究・4単位・1-2年・通年，地域教育課題演習・1単位・2年・前期，子ども教育実践実習Ⅰ・1単位・1年・後期，子ども教育実践実習Ⅱ・1単位・2年・前期

7．社会貢献活動

田川市新中学校開校準備協議会（会長）
桂川町今後の幼児教育のあり方検討委員会（会長）
田川市特別職報酬等審議会（会長）

8．学外講義・講演

9．附属研究所の活動等

附属研究所重点領域研究プロジェクト
研究課題名：子どもの健康と保育に関する専門職連携の模索
－福岡県の医療及び保育の現場での実態調査と養成校の実践－
研究代表者：杉野寿子
研究分担者：池田孝博・中原雄一・田中美樹・吉川未桜
研究協力者：吉田麻美

人間社会学部／ 総合人間社会コース・地域社会コース	職名	教授	氏名	石崎　龍二

1．教員紹介・主な研究分野

自然や社会の種々の現象に関する数理モデルのコンピュータ・シミュレーションやデータの統計解析を行っている。特に非平衡系にあらわれるカオスや散逸構造の統計的性質を、理論的および数値的な面から研究している。

①非定常時系列における異常検知の手法開発、②カオスや乱流における拡散現象の解析、③物理学の視点・手法を用いた経済現象の解明等を主な研究テーマとしている。

物理現象、生命現象、経済現象などに見られる多くの要素間の非線形な相互作用によって生じる複雑な運動形態を研究する非線形科学が発展してきている。非線形科学では、カオス、フラクタル、自己組織化臨界現象、カオスの縁、コンプレックス・カオスなど数多くの新しい概念が見出され、複雑な現象が数学的に表現され力学的な理解ができるようになってきている。コンピュータによる解析を取り入れた新しい統計的な手法を開発し、その成果を社会科学へ応用したい。

2．研究業績

①最近の著書・論文

- 石崎龍二，佐藤繁美「福岡県立大学人間社会学部における統計演習の教育効果（2022年度）」，『福岡県立大学人間社会学部紀要』，第31巻第2号，pp.59-72，福岡県立大学，2023年3月.
- 石崎龍二「福岡県立大学人間社会学部におけるプログラミング教育の教育効果（2020年度）」，『福岡県立大学人間社会学部紀要』，第31巻第1号，pp.103-113，福岡県立大学，2022年10月.
- 寺島正博，石崎龍二，柴田雅博「保育所・認定こども園におけるICT導入の実績とそれに伴う業務効率の意識—A県におけるアンケート調査を通じて—」，『福岡県立大学人間社会学部紀要』，第31巻第1号，pp.57-70，福岡県立大学，2022年10月.
- 石崎龍二，佐藤繁美「福岡県立大学人間社会学部における統計演習の教育効果（2021年度）」，『福岡県立大学人間社会学部紀要』，第30巻第2号，pp.53-66，福岡県立大学，2022年3月.
- 石崎龍二，佐藤繁美「同期型・非同期型オンライン授業による多変量解析に関する統計演習の教育効果（2020年度）」，『福岡県立大学人間社会学部紀要』，第30巻第1号，pp.155-168，福岡県立大学，2021年10月.
- 寺島正博，石崎龍二，柴田雅博「介護サービス事業所におけるICT導入の実績とそれに伴う業務効率の意識－A県におけるアンケート調査を通じて－」，『福岡県立大学人間社会学部紀要』，第30巻第1号，pp.63-75，2021年10月.
- 石崎龍二，佐藤繁美「オンデマンド型オンライン授業による統計演習の教育効果（2020）－学生の自己評価と授業改善点」，『福岡県立大学人間社会学部紀要』，第29巻第2号，pp.163-178，福岡県立大学，2021年3月.

- 寺島正博，石崎龍二，柴田雅博「障害福祉サービス事業所における ICT システム導入の実績とそれに伴う業務効率の意識－T 県におけるアンケート調査を通じて－」，『福岡県立大学人間社会学部紀要』，第 29 巻第 2 号，pp.47-60，2021 年 3 月.
- 石崎龍二，佐藤繁美「福岡県立大学人間社会学部における多変量解析に関する統計演習の教育効果（2019 年度）」，『福岡県立大学人間社会学部紀要』，第 29 巻第 1 号，pp.59-72，福岡県立大学，2020 年 10 月.
- Ryuji Ishizaki, Masayoshi Inoue, "Analysis of local and global instability in foreign exchange rates using short-term information entropy", Physica A, Vol.555 No.1, pp.1-9, 2020.

②その他最近の業績

〈学会発表〉

- 石崎龍二，井上政義「火山噴火時系列における間欠性の統計的性質」日本物理学会 2023 年春季大会（オンライン開催），2023 年 3 月.
- 石崎龍二，井上政義「火山噴火観測データにおける間欠性の統計的性質」，2022 年度 MIMS 現象数理学研究拠点 共同研究集会「社会物理学とその周辺」（対面とオンラインのハイブリッド型開催），2022 年 12 月.
- 石崎龍二，井上政義「火山噴火時系列における間欠性の統計的性質」，第 128 回日本物理学会九州支部例会（熊本大学），2022 年 12 月.
- 石崎龍二，井上政義「火山噴火時系列の間欠性の統計的性質」，日本物理学会 2022 年秋季大会（2022 年）（東京工業大学），2022 年 9 月.
- 石崎龍二，井上政義「複数金融時系列における局所不安定性とその波及効果のエントロピーによる分析」，2021 年度 MIMS 現象数理学研究拠点 共同研究集会「社会物理学とその周辺」（オンライン開催），2022 年 3 月.
- 石崎龍二，井上政義「金融時系列における局所的不安定性とその波及効果のエントロピーによる分析」，日本物理学会第 77 回年次大会（2022 年）（オンライン開催），2022 年 3 月.
- 石崎龍二「保存力学系におけるカオス拡散の統計的性質」，第 127 回日本物理学会九州支部例会（オンライン開催），2021 年 12 月.
- 石崎龍二，井上政義「金融時系列における短期情報量を使った分析」，2020 年度統数研共同研究集会「社会物理学の新展開」（オンライン開催），2021 年 3 月.
- 石崎龍二，井上政義「金融時系列における変動のエントロピーによる分析」，日本物理学会第 76 回年次大会（2021 年）（オンライン開催），2021 年 3 月.
- 石崎龍二，井上政義「金融時系列における変動のエントロピー分析」，明治大学 MIMS 共同研究集会「Data-driven Mathematical Science：経済物理学とその周辺 2」（オンライン開催），2020 年 12 月.
- 石崎龍二「ハミルトン系におけるカオス拡散」，第 126 回日本物理学会九州支部例会（オンライン開催），2020 年 12 月.
- 石崎龍二，井上政義「金融時系列における局所的不安定性と大域的不安定性のエントロピーによる分析」，日本物理学会 2020 年秋季大会（オンライン開催），2020 年 9 月.

③過去の主要業績

- Ryuji Ishizaki, Toshikazu Shinba, Go Mugishima, Hikaru Haraguchi and Masayoshi Inoue, "Time-series analysis of sleep-wake stage of rat EEG using time-dependent pattern entropy", Physica A, Vol.387 No.13, pp.3145-3154, 2008.
- 駒澤勉・橋口捷久・石崎龍二『新版 パソコン数量化分析』, 朝倉書店, 1998年.
- Ryuji Ishizaki, Takehiko Horita, Tatsuharu Kobayashi and Hazime Mori, "Anomalous Diffusion Due to Accelerator Modes in the Standard Map", Progress of Theoretical Physics, Vol.85 No.5, pp.1013-1022, 1991.

3．外部研究資金

4．受賞

5．所属学会

日本物理学会，アメリカ物理学会（APS），日本心理学会

6．担当授業科目

教養演習・1単位・1年・前期、数学概論・2単位・1年・前期、情報科学・2単位・1年・後期、情報数学・2単位・2年・前期、プログラミング概論・2単位・2年・後期、データ処理とデータ解析I・1単位・3年・前期、公共社会学研究I・1単位・3年・前期、データ処理とデータ解析II・1単位・3年・後期、公共社会学研究II・1単位・3年・後期、教育方法と情報技術・1単位・3年・後期、社会福祉学演習・2単位・3年・通年、卒業論文・6単位・4年・通年

7．社会貢献活動

公益財団法人飯塚研究開発機構　筑豊地域医療・福祉関連支援委員会委員

8．学外講義・講演

9．附属研究所の活動等

福岡県立大学附属研究所長

人間社会学部／心理コース	職名	教授	氏名	岩橋　宗哉

1．教員紹介・主な研究分野

1992年　九州大学大学院教育学研究科教育心理学専攻博士課程単位取得後退学。九州大学教育学部助手（心理教育相談室主任兼務）、緑風会水戸病院臨床心理士、久留米大学医学部神経精神医学講座助手を経て、2001年より福岡県立大学に勤務。

（1）現在まで、主に病院において精神分析的心理療法を行ってきた。治療関係の中でクライエントの内的世界をともに体験しながら、対象関係論的な観点からクライエントの転移を理解し、その理解をもとにどのようにクライエントに関わり、理解を伝えていくことが治療的であるのかを明確にしていくことを最も重要な研究分野としている。（2）どのような立場に立つ心理療法であれ、クライエントが主体になることを援助している側面があると考える。主体的になることを援助するかかわりとはどのようなものか、つまり、多様な心理療法に共通する中核的なかかわりとはどのようなもので、それを現実に行っていくためにはどのような条件が必要かということを明らかにしていきたいと考えている。それは、臨床心理行為を明確化することでもある。（3）臨床心理士養成の初期段階で、臨床心理行為の重要性と特性を習得するための養成モデルを構想していきたいと考えている。（4）神話や文芸作品についての精神分析的な観点からの理解。

2．研究業績

①最近の著書・論文

- 岩橋宗哉「『彼岸過迄』須永の「内へとぐろを捲き込む性質」について」日本病跡学雑誌　第101号　2021年6月
- 岩橋宗哉「『彼岸過迄』須永との比較からみた敬太郎の造形についての検討」　日本病跡学雑誌　第104号　2022年12月

②その他最近の業績

③過去の主要業績

- 岩橋宗哉「対象とのとの同一化を創造的に機能させる基盤としての結合対象へーよい対象との失われた共通基盤を求めてー」『福岡県立大学心理臨床研究』第7巻　2015年3月
- 岩橋宗哉「境界領域で〈私〉が形成される物語としての古事記中巻（Ⅰ）－神武記：万能的思考によるコトへの信念とそれを維持するための三項構造－」『福岡県立大学心理臨床研究』第6巻　2014年3月
- 岩橋宗哉「「対象喪失」とその乗り越えに向かう神話としての古事記上巻（Ⅰ）－「不在の現実」についての「見るなの禁止」から「居場所」の形成へ－」『福岡県立大学心理臨床研究』第5巻　2013年3月
- 岩橋宗哉「臨床心理行為の目標としての“体験の分化・統合”－治療関係との関連も含めて－」『福岡県立大学心理臨床研究』第3号　2011年3月

・ 岩橋宗哉「結合両親像によって破壊され創造される自己の方向感覚―精神分裂病者との心理療法過程から―」『心理臨床学研究』第17巻第6号　2000年2月

3．外部研究資金

4．受賞

5．所属学会

日本心理臨床学会、日本精神分析学会、日本人間性心理学会、日本病跡学会

6．担当授業科目

7．社会貢献活動

8．学外講義・講演

9．附属研究所の活動等

人間社会学部／地域社会コース	職名	教授	氏名	岡本　雅享

1．教員紹介・主な研究分野

1997年横浜市立大学大学院国際文化研究科修士課程修了。2000年一橋大学大学院社会学研究科博士課程修了。国際学修士。社会学博士。1991～93年、中国の北京師範学院（現在、首都師範大学）、中央民族大学民族語言三系（現在、中央民族大学少数民族語言学院）に留学、少数民族二言語教育の研究・調査を行う。2008年度、San Francisco State University（College of Ethnic Studies, Japanese American Studies)でVisiting Scholar。学内外で"Hidden Diversity of the Japanese People"に関する講演等を行う。

1989年以来、在日韓国・朝鮮人問題を起点とし、マイノリティの権利保障のための研究・活動に従事してきた。国連ECOSOC NGOでの3年間の勤務を含め、ジュネーブ国連欧州本部を中心とした国連人権活動に報告・提言の提出、会議への参加・発言等を通じて参加。

現在は、日本社会がますます多民族、多文化化する中で、あらためて明治以降の日本におけるNationの創造、混合民族論から単一民族論への変遷など、民族、言語、宗教、文化の各方面から、日本人（国籍者）内部の多様性を解き明かす作業を、出身地である出雲の視点から、試みている。

2．研究業績

①最近の著書・論文

- 『越境する出雲学—浮かび上がるもうひとつの日本』筑摩選書、2022年（単著）
- 『療法としての歴史〈知〉—いまを診る』森話社、2020年（共著）
- 「ミホススミに光を！プロジェクト」の意義と成果」『福岡県立大学人間社会学部紀要』31巻1号)
- 「保守とリベラル、右派と左派—日本政治のための概念整理」（前編）（後編）『福岡県立大学人間社会学部紀要』29巻2号、30巻1号

②その他最近の業績

③過去の主要業績

- 『出雲を原郷とする人たち』藤原書店、2016年（単著）
- 『民族の創出』岩波書店、2014年（単著）
- 『中国の少数民族教育と言語政策』増補改訂版、社会評論社、2008年（単著）

3．外部研究資金

4．受賞

５．所属学会

日本平和学会、エミシ学会

６．担当授業科目

政治学・2単位・1年・前期、国際政治学・2単位・1年・後期、多文化社会論・2単位・2年・前期、東アジア関係史・2単位・2年・後期、公共社会学研究・4単位・3年・通年、卒論指導・4単位・4年・通年

７．社会貢献活動

飯塚研究開発機構理事

８．学外講義・講演

ふくおか自由学校2022「日本社会はなぜ排他的なのか？―島国本来の多様性を取り戻すために」2022年10月22日

横浜市立大学国際教養学部「日本のネイション・ビルディングで隠された多様性」2022年12月7日

西日本新聞 識者提言「日本的多文化主義」2023年1月22日

９．附属研究所の活動等

人間社会学部／心理コース	職名	教授	氏名	小嶋　秀幹

1．教員紹介・主な研究分野

社会精神医学、精神保健学を主な研究分野としている。特に、地域住民や対人援助職者に対する精神障害の啓発教育、自殺予防教育に取り組んでいる。こころに生じる問題、精神障害をいかにわかりやすく伝えるか、その研修方法、教材開発に興味を持っている。近年は、演劇やゲームによる啓発教材作成に取り組み、福岡県内の自殺予防ゲートキーパー研修会等で実践している。その他、勤労者の精神保健、依存の心理、児童・思春期の精神保健（不登校・ひきこもり、自傷、虐待)、司法精神医学（精神鑑定)、高齢者の精神的健康のあり方などにも興味を持って研究・実務をしている。

2．研究業績

①最近の著書・論文

- 小嶋秀幹：こころをつなぐ～身近な人に自殺の危険が迫ったら～．翔雲社、2022.
- 小嶋秀幹: 自殺予防啓発劇の実践報告～大学生のうつ病編～. 福岡県立大学心理臨床研究 14 巻; 23-34、2022.
- 小嶋秀幹：大学生を対象とした「依存の心理」の啓発教育の実践報告．独立行政法人国立青少年教育振興機構青少年教育研究センター紀要第 9 号；90-99、2021.
- 馬渕可奈子、小嶋秀幹：頭痛のある女子学生に対する臨床動作法の短期介入－からだ・心の動き・援助者に対する感じ方に注目して－．福岡県立大学心理臨床研究 13 巻；15-23、2021.
- 小嶋秀幹、田中玲衣：子の不登校を経験した母親が相談機関につながるまでの行動と心理的変化過程－複線経路・等至性モデル（TEM）による分析－．福岡県立大学心理臨床研究 12 巻；3-15、2020.

②その他最近の業績

<学会発表>

- 小嶋秀幹：福岡県中間市における自殺予防啓発劇 10 年間の試みと今後に向けて、第 46 回日本自殺予防学会（熊本)、2022.

<教材開発>

- 小嶋秀幹：色んな人の気持ち（somebody's feelings）のゲーム教材、 公益財団法人中山隼雄科学技術文化財団調査研究助成成果物、2023.
- 小嶋秀幹：「依存の心理」を啓発するための演劇教育教材．NPO 法人依存学推進協議会 2019 年度助成研究成果物、2020.

<報告書>

- 小嶋秀幹：「依存の心理」を啓発するための演劇教育教材の開発、特定非営利法人依存学推進協議会研究助成プログラム研究成果報告書第 2 号；155-159，2022.
- 小嶋秀幹：医療観察法精神鑑定書（双極性障害)、2022.
- 小嶋秀幹：医療観察法精神鑑定書（アルコール性精神障害)、2022.

・ 小嶋秀幹（香春町いじめに係る重大事態調査委員会）：いじめ重大事態に関する報告書、2020.
・ 小嶋秀幹：シニア世代のメンタルヘルス（筑豊市民大学講座第1回）．第19期筑豊市民大学報告書；5-10、2020.
・ 小嶋秀幹：北九州市職員の健康づくりのための計画（第三期）評価及び第四期計画に向けての調査報告書．2019年度北九州市委託研究成果物、2020.

③過去の主要業績
・ 小嶋秀幹：民生委員からみた自殺対策の現状と課題―自由記述内容の質的分析から―．自殺予防と危機介入34（1）；41-47、2014.
・ 小嶋秀幹：民生委員が関わった自殺事例のプロセス―インタビュー内容の質的分析―．日本社会精神医学会雑誌22（2）；92 - 105、2013.
・ 小嶋秀幹：自殺の危険が切迫した人と関わる際の心構えとは―地域の事例を通して考えたこと―．自殺予防と危機介入32（1）：68-71、2012.

3．外部研究資金
・ 小嶋秀幹：うつ病の生涯学習を促進する対話型ゲーム教材の開発と効果検証、科学研究費基盤研究（C）、2020～2023年度、研究代表者、143万円
・ 小嶋秀幹：色んな人の気持ち（somebody's feelings）のプロトタイプ開発、 公益財団法人中山隼雄科学技術文化財団調査研究助成、2022年度、研究代表者、100万円
・ 小嶋秀幹：うつ病になった勤労者の回復までの道筋を考えるためのシリアスゲームの開発、公益財団法人科学技術融合振興財団2021年度調査研究助成、2022～2023年度、研究代表者、75万円
・ 小嶋秀幹、石崎龍二、村山浩一郎、美谷　薫、柴田雅博、鬼塚　香、尾形由紀子、山下清香、樑直美、小野順子、中本 亮：地域包括ケアシステム構築に向けたGISを活用した地域診断-精神障害者の在宅療養実現を目指して-、福岡県立大学令和4年度研究奨励交付金（附属研究所重点領域研究）、2022～2023年度、研究代表者、914,740円

4．受賞

5．所属学会
・ 九州精神神経学会評議員・編集委員、日本精神神経学会精神科専門医
・ 日本精神神経学会、日本臨床心理士会、九州精神神経学会、日本社会精神医学会、日本自殺予防学会、日本司法精神医学会、日本アルコール・アディクション医学会、日本心理臨床学会、日本産業精神保健学会、福岡県臨床心理士会　各会員

6．担当授業科目

＜学部＞精神保健学･2 単位・1 年・前期、精神保健学Ⅰ・2 単位・2 年・前期、精神医学Ⅰ（精神疾患とその治療Ⅰ）･2 単位・3 年･前期、老年期医学・2 単位・3 年･前期、医学概論･2 単位・2 年･後期、精神保健学Ⅱ･2 単位・2 年･後期、公認心理師の職責・2 単位・2 年・後期（分担）、精神医学Ⅱ（精神疾患とその治療Ⅱ）・2 単位・3 年・後期、心理実習Ⅰ・1 単位・2 年・通年、心理実習Ⅲ・1 単位・3-4 年・通年、演習・2 単位・3 年・通年、卒業論文･6 単位・4 年・通年
＜大学院＞保健医療分野における理論と支援の展開･2 単位･1 年・前期、産業・労働分野に関する理論と支援の展開･2 単位･1 年・後期、臨床心理基礎実習 A･1 単位・1 年・前期、臨床心理基礎実習 B･1 単位・1 年・通年、心理実践実習 A･10 単位・1-2 年・通年、心理実践実習 B･2 単位・1-2 年・通年、特別研究・4 単位・1-2 年・通年

7．社会貢献活動

福岡県ひきこもり対策協議会委員長、福岡県自殺対策協議会委員、福岡市自殺対策協議会委員長、香春町いじめ防止等対策委員会委員長、田川市青少年問題協議会委員、北九州いのちの電話理事、嘱託産業医（北九州市、田川市）、嘱託医（ホームレス自立支援センター北九州、田川児童相談所）、産業医科大学医学部非常勤講師、措置入院鑑定業務、心神喪失等医療観察法判定医業務

8．学外講義・講演

- 相談支援者のストレスマネジメント、苅田町相談員研修、6 月
- 学生のメンタルヘルス、福岡県看護教員研修、9 月
- 相談を受ける際の心得、北九州市子どもホットライン相談員研修、9 月
- 思春期の子どものこころの変化について知ろう、門司図書館研修、9 月
- 思春期の精神衛生について、嘉穂東高校職員研修、10 月
- 大学生のこころの危機、福岡教育大学ゲートキーパー研修、11 月
- 精神医学の基礎知識、北九州いのちの電話養成研修、11 月、12 月
- 大学生の自傷・自殺予防について、九州沖縄地区学生相談室カウンセラー研修、12 月
- somebody's feelings によるゲーム研修、福岡県立大学心理臨床研究会、12 月
- 認知症の基礎知識、八幡西図書館研修、2 月
- 認知症の基礎知識、小倉南図書館研修、2 月
- 中高年者の自殺予防、宗像市ゲートキーパー研修、2 月
- ストレスとうつ病について、八幡図書館研修、3 月

9．附属研究所の活動等

- 福岡県立大学不登校・ひきこもりサポートセンター長

人間社会学部／地域社会コース	職名	教授	氏名	佐野　麻由子

１．教員紹介・主な研究分野

2006年3月立教大学大学院社会学研究科社会学専攻博士課程修了。博士（社会学）の学位を取得。お茶の水女子大学非常勤講師、フェリス女学院大学非常勤講師、立教大学社会学部助教等を経て2012年10月に本学着任。

主な研究分野は、社会学の中でもジェンダー、開発。「社会的課題を解決するための意図的な社会変革はどのような条件下で可能か」という関心のもと、(1) ネパールをフィールドに社会的達成における男女の非対称性を生み出す社会構造、その維持/変革につながる要因の社会学的分析、(2) 左研究の知見の開発援助政策への応用および還元に取り組んでいます。

博士前期課程在籍中の 2000～2001 年に立教大学派遣交換留学生としてネパール国立パドマ・カンニャ・キャンパス・ウイメンズ・スタディ・コースに在籍。また、2003～2005年の期間に日本学術振興会特別研究員奨励費でネパールでのフィールドワークを実施するなど、長年ネパール社会に関わってきました。現在は、ネパールにおける「失われた女性たち（男児選好による女児の中絶、少女売買、女児の育児放棄）」の促進要因を解明することに取り組んでいます。

２．研究業績

①最近の著書・論文

- 田村慶子・佐野麻由子　編著，2022,『変容するアジアの家族――シンガポール、台湾、ネパール、スリランカの現場から』，明石書店.
- 佐野麻由子，2022,「第5次デウバ政権，連立諸党との調整が難航」『2022アジア動向年報』，IDE-JETROアジア経済研究所，497-520.
- 蜂須賀真由美・佐野麻由子，2021,「国際家族年前後の家族をめぐる論点の整理－国際比較のための基礎的研究－」『アジア女性研究』第30号，1-14.

②その他最近の業績

③過去の主要業績

- 佐野麻由子，2018,「「それでも息子が欲しい」？―ネパールにみる過渡期的発展と男児選好の未来」山田真茂留 編著『グローバル現代社会論』，文眞堂，137-153.
- 佐藤寛・浜本篤史・佐野麻由子・滝村卓司，2015,『開発社会学を学ぶための60冊：援助と発展を根本から考えよう』明石書店.
- 佐野麻由子，2015,「途上社会の貧困，開発，公正」宮島喬・佐藤成基・小ヶ谷千穂編『国際社会学』有斐閣，148-165.

3．外部研究資金

科学研究費補助金・基盤研究（C）研究課題名「過渡期的発展段階における男児選好の構造的要因についての研究」（課題番号 20K12463）（令和 2～4 年度）（研究代表者）

4．受賞

5．所属学会

日本社会学会、関東社会学会、国際開発学会、国際ジェンダー学会

6．担当授業科目

社会学概論・2 単位・1 年・後期、国際社会学 A・2 単位・2 年・前期、国際社会学 B・2 単位・2 年・後期、国際協力論・2 単位・1 年・後期、NPO 論・2 単位・3 年生・前期、公共社会学研究ⅠⅡ・2 単位・3 年・前後期、卒業論文・6 単位・4 年・通年。

7．社会貢献活動

田川市協働事業提案制度審査会委員長（2022 年）

田川市産業振興会議・実務者責任者会議部会員（2022 年）

日本貿易振興機構アジア経済研究所「アジア諸国の動向分析」研究会委員（2022 年）

8．学外講義・講演

田村慶子・坂無淳・佐野麻由子・古田弘子，2022 年 5 月 15 日，『変容するアジアの家族シンガポール、台湾、ネパール、スリランカの現場から』出版記念セミナー，北九州市立男女共同参画センター・ムーブ 5 階小セミナールーム.

佐野麻由子，2022 年 6 月 15 日，「福岡県立糸島高校　模擬授業　社会学入門」

佐野麻由子，2022 年 10 月 21 日，「佐賀県立鳥栖高校　令和 4 年度　大学とのジョイントセミナー　社会学入門」

9．附属研究所の活動等

人間社会学部／こどもコース	職名	教授	氏名	杉野　寿子

1．教員紹介・主な研究分野

私はこれまで国内外のさまざまな場所・地域で、困難な状況で生活をされている人々と多く出会い、交流しながらソーシャルワーク実践をしてきました。それらの出会いから「誰もが安心して主体的に暮らす」ことを研究テーマにしています。地域に根ざした取り組みやネットワーク構築に関する研究、開発途上国における福祉課題に関する研究、対人援助専門職のソーシャルワーク実践に関する研究を行っています。近年深い関心を持っているのは、保育者のソーシャルワーク実践に関する研究です。本学では、子どもとその家庭の背景をふまえ、地域での子育て支援を重視できる保育者を養成しています。

福祉社会科学修士。保育士・社会福祉士・介護福祉士・精神保健福祉士。

2．研究業績

①最近の著書・論文

- 田中美樹・吉川未桜・吉田麻美・中原雄一・杉野寿子・池田孝博「入院中の子どもを支える保育士と看護師の専門性を活かした協働　第1報－業務内容の現状分析－」福岡県立大学看護学部紀要第20巻，2023年3月
- 吉川未桜・田中美樹・吉田麻美・中原雄一・杉野寿子・池田孝博「入院中の子どもを支える保育士と看護師の専門性を活かした協働　第2報－協働の現状と課題－」福岡県立大学看護学部紀要第20巻，2023年3月
- 田中美樹・吉川未桜・吉田麻美・杉野寿子・中原雄一・池田孝博「新型コロナウイルス感染症拡大による入院中の子どもを支える上での看護師と保育士の困難感」福岡県立大学人間社会学部紀要第31巻2号，2023年3月
- 杉野寿子・吉川未桜・田中美樹・吉田麻美・池田孝博・中原雄一「入院中の子どもの権利と家族のQOLに関する課題」福岡県立大学人間社会学部紀要第31巻第1号，2022年
- 吉浦朱音・杉野寿子「保育所でのソーシャルワーク実践－日常の子育て支援からの考察－」保育ソーシャルワーク学研究第8号，2022年
- 杉野寿子「乳児院での実習」『福祉施設実習テキストブック』栗山宣夫・小林徹編著，建帛社，2022年
- 杉野寿子「福祉型障害児入所施設での実習」『福祉施設実習テキストブック』栗山宣夫・小林徹編著，建帛社，2022年
- 杉野寿子・稲葉美由紀・西垣千春「SDGsと地域共生社会の視点による社会福祉実践－多様な社会ニーズに対応する事例から－」草の根福祉第51号，社会福祉研究センター，2021年
- 池田孝博・杉野寿子・大久保淳子・鷲野彰子・中原雄一・伊勢慎「保幼小連携におけるアプローチカリキュラムに関する研究の動向と課題」福岡県立大学人間社会学部紀要第29巻第2号，2021年
- 杉野寿子・田中美樹・吉川未桜・吉田麻美・中原雄一・池田孝博「保育士養成課程における保健・健康の学びに関する研究」福岡県立大学人間社会学部紀要，第29巻第1号，2020年

・ 杉野寿子「第 1 章 子ども家庭支援の意義と必要性」『保育と子ども家庭支援論』井村圭壮・今井慶宗編著，勁草書房，2020 年
・ 杉野寿子「Lesson26 社会福祉施設と権利擁護」「Lesson31 家庭（保護者）の状況と支援方法について学ぶ」『Let's have a dialogue！ ワークシートで学ぶ施設実習』和田上貴昭・那須信樹・原孝成編著，同文書院，2020 年
・ 杉野寿子「Lesson31 家庭（保護者）の状況と支援方法について学ぶ」『Let's have a dialogue！ ワークシートで学ぶ施設実習』和田上貴昭・那須信樹・原孝成編著，同文書院，2020 年

②その他最近の業績

<学会発表>

・ 杉野寿子・牧海月「保育所における外国にルーツのある子どもとその家庭への支援－保育者へのアンケートとインタビュー調査より－」日本保育ソーシャルワーク学会第 8 回研究大会口頭発表，2023 年 1 月
・ 杉野寿子・稲葉美由紀・西垣千春「多様化する社会ニーズに対応する社会福祉実践－SDGs と地域共生社会の視点から－」日本社会福祉学会第 69 回秋季大会ポスター発表，2021 年 9 月

<報告書>

・ 細井勇・伊藤篤・鬼塚香・稲葉美由紀・杉野寿子・三上邦彦・森茂起「イギリスにおける児童ケアとソーシャルペダゴジー：スコットランド及びロンドン訪問調査報告書」『2019 年度科研費研究報告書』2020 年

③過去の主要業績

・ 杉野寿子・吉田茂・佐藤陽子「保育者のソーシャルワークの意識に関する研究：意識調査からみた保育者の認識と実践の関係」保育ソーシャルワーク学研究第 5 号，2019 年
・ 杉野寿子・稲葉美由紀「フィリピンの貧困と社会開発的アプローチ－あるソーシャルビジネスの取組みから－」地域福祉サイエンス第 3 号，2016 年
・ 杉野寿子「ヨルダンにおける障害に関する意識調査－近年の意識傾向を探る－」 社会福祉科学研究第 4 号，2015 年

3．外部研究資金

・ 科学研究費補助金・基盤研究（B）細井勇代表「児童の代替的ケアをめぐる国際比較研究－日本、韓国、イギリス、ドイツを中心に」（2018～2022 年度）研究分担者
・ 科学研究費補助金・基盤研究（C）稲葉美由紀代表「Meeting Human Needs in Today's World: The Role of Social and Solidarity Economy, Sustainable Development, and Empowerment-Oriented Community Development Strategies in Japan」（2018～2022 年度）研究分担者

4．受賞

５．所属学会

- 日本社会福祉学会
- 日本地域福祉学会
- 日本保育ソーシャルワーク学会
- 日本ソーシャルペダゴジー学会

６．担当授業科目

〈学部〉社会福祉Ⅰ（2単位・1年後期）、社会的養護Ⅰ（2単位・2年前期）、子ども家庭支援論（2単位・2年後期）、子育て支援（1単位・4年前期）、社会福祉Ⅱ（2単位・4年後期）、保育実習指導Ⅰ（2単位・2～3年通年）、保育実習指導Ⅱ-B（2単位・3年後期）、保育実習Ⅰ（4単位・3年前期）、保育実習Ⅱ-B（2単位・3年後期）、演習（2単位・3年通年）、演習（2単位・4年前期）、卒業論文（6単位・4年後期）

〈大学院〉子どもの福祉研究（2単位・前期）、子どもの福祉演習（2単位・後期）、教育課題研究B（2単位・後期）、子ども教育実践実習Ⅱ（1単位・前期）、子ども教育実践実習Ⅰ（1単位・後期）地域教育課題演習（2単位・前期）、特別研究（4単位・1～2年）

７．社会貢献活動

- 田川市子ども・子育て会議会長
- 田川市農業委員会委員
- 香春町子ども・子育て会議会長
- 福岡県教育振興審議会社会教育部会委員
- 福岡県教育振興審議会学校教育部会委員
- 行橋市保育園整備等検討委員会委員
- 京築教育事務所発達障がい児等教育継続支援事業巡回相談員
- 築上郡教育支援委員会主催教育相談・教育診断委員
- 福岡県幼児教育アドバイザー

８．学外講義・講演

- 北九州市保育士等キャリアアップ研修（基礎）「保護者支援・子育て支援」講師
- 北九州市保育所（園）中堅保育士研修「保護者に対する相談援助について」講師

９．附属研究所の活動等

- 2022年度研究奨励交付金（重点領域研究）「子どもの最善の利益のための看護師と保育士の協働と連携に関する研究」（研究代表者）
- 2022年度研究奨励交付金（COC研究）「炭鉱閉山よる児童の問題から引揚孤児問題へ－福岡県を中心に」（研究分担者）
- 公開講座Ⅱ「筑豊の炭鉱閉山期、『筑豊の子供を守る会』の活動を振り返る」実行委員，2023年2月11日

人間社会学部／ 基盤教育センター・総合人間社会コース	職名	教授	氏名	Stuart Gale

1．教員紹介・主な研究分野

Stuart Gale was born and raised in Hertfordshire, England. After graduating from The University of Leeds with a BA in history, he came to Japan in the spring of 1993 to pursue a career in teaching. He returned to London to study for a Master's degree in English language teaching, passing with a distinction grade in 2002. Since then, he has taught at Fukuoka Women's University, Fukuoka University, Kyushu University, Kyushu Sangyo University, and Seinan Gakuin University. He joined Fukuoka Prefectural University (FPU) as a full-time faculty member in the spring of 2007.

Stuart Gale's research activities encompass three main areas of enquiry, the first concerning the development of critical thinking skills in Japanese university students. Aside from designing courses in pursuit of this objective, he has also authored the textbooks Provoke a Response: Critical Thinking through Data Analysis (2016) and Japan Goes Global! Thinking Critically about Japanese Popular Culture (2018). His second area of research concerns academic writing and how it may be taught more effectively to Japanese university students. This (action) research is conducted in university writing classes and involves a process of ongoing evaluation and modification. The results of this research have been incorporated into the academic writing textbook Structure, Structure, Structure: The Best Guide to Reading and Writing Ever (2012) and FPU's virtual learning website. Stuart Gale was invited to present on the subjects of teaching academic writing and the enhancement of critical thinking skills at the Fukuoka ALT Skills Development Conference in 2012 and 2013, and the Oita ALT Skills Development Conference in 2014. His third and final area of research concerns the development of study abroad programmes and the facilitation of intercultural communicative competence.

2．研究業績

①最近の著書・論文

- Gale, S., Namoto, T., Suzuki, S. & Eguchi, M. (2018). Japan Goes Global! Thinking Critically about Japanese Popular Culture. Tokyo: Nan'un-do.

②その他最近の業績

<学会発表>

③過去の主要業績

- Gale, S. (Feb., 2019). Putting the critical cat among the patriotic pigeons: guiding principles for the teaching of critical thinking as a precursor to critical writing in the Japanese EFL classroom. Journal of the Faculty of Integrated Human Studies and Social Sciences Fukuoka Prefectural University, Vol. 20, No. 1, pp. 1-13.
- Gale, S. (Sept., 2019). Evaluating a university preparation course for a short-term study abroad program in terms of its ability to alleviate student anxiety prior to departure. Journal of the Faculty of Integrated Human Studies and Social Sciences Fukuoka Prefectural University, Vol. 28, No. 1, pp. 1-25.
- Gale, S. (Feb., 2020). Addressing a supposed deficiency: a critical thinking and process-writing methodology for Japanese EFL. Journal of the Faculty of Integrated Human Studies and Social Sciences Fukuoka Prefectural University, Vol. 28, No. 2, pp. 19-40.

3．外部研究資金

4．受賞

5．所属学会

Japan Association of Language Teachers (Fukuoka Chapter, Critical Thinking Special Interest Group).
Asia TEFL

6．担当授業科目

英語Ⅰ　1単位　1年　前期 後期 (3 courses per semester)
英語Ⅲ　1単位　2年　前期 後期 (3 courses per semester)
海外語学実習事前指導 (UK Programme Preparation Course, first semester only)
海外語学実習 (UK Programme, second semester only)
Introduction to Studying in English (英語で学ぶ；入門編) (seminar course, first semester only)
Advanced English Achievement (英語で学ぶ；高度) (seminar course, second semester only)
Postgraduate Presentation Skills Development in English (seminar course for postgraduate students, second semester only)

7．社会貢献活動

8．学外講義・講演

9．附属研究所の活動等

人間社会学部／社会福祉コース	職名	教授	氏名	住友　雄資

1．教員紹介・主な研究分野

厚生労働省の発表によると，わが国には300万人を超える精神障害者がいます．精神科病院に入院している精神障害者は約35万人ですので，大多数は地域で生活しています．しかし，差別・偏見を受けやすい精神障害者や家族は，地域で生活しづらい状況が続いています．そこで，ソーシャルワークの視点から，精神障害者が地域で生活しやすい援助・支援法の開発とそれを下支えする社会環境を構築する方法を研究しています．そのためにはケアマネジメントという技術とケアマネジメントが有効に機能するシステムが不可欠で，両者を統合した地域サポートシステムを構築する研究をおこなっています．

またケアマネジメントを担う福祉専門職が必要になりますので，その観点から精神保健福祉士等をどのように養成するかということも研究しています．

2．研究業績

①最近の著書・論文

- 藤原朋恵・住友雄資（2022）「女性精神保健福祉士の『仕事と子育ての両立』に関する研究動向と課題」『人間科学』4，1－9．
- 住友雄資・鬼塚香（2020）「『精神保健福祉援助演習』におけるロールプレイ活用の到達点と課題―クライエント役を演じることを出発点に―」『福岡県立大学人間社会学部紀要』29（1），19-34.

②その他最近の業績

<学会発表>

- 鬼塚香・住友雄資（2022）「2021年度教育実践報告『精神保健福祉演習』―『なりきりプレゼンテーション』導入の効果と課題―」『福岡県立大学人間社会学部紀要』30(2)，77-85.
- 畑香理・鬼塚香・住友雄資（2021）「2020年度教育実践報告：『精神保健福祉援助実習指導』・『精神保健福祉援助実習指導』－コロナ禍における教育実践と今後の課題－」『福岡県立大学人間社会学部紀要』30(1)，181-190.
- 鬼塚香・住友雄資（2021）「2020年度『精神保健福祉演習』－『心理情緒的支援』を学生が理解するまで－」『福岡県立大学人間社会学部紀要』29(2)，203-214.

③過去の主要業績

- 住友雄資（2007）『精神保健福祉士のための地域生活支援活動モデル』金剛出版．（単著）
- 住友雄資（2001）『精神科ソーシャルワーク』中央法規出版．（単著）

３．外部研究資金

４．受賞

５．所属学会

一般社団法人日本社会福祉学会　査読委員
日本精神障害者リハビリテーション学会　査読委員
日本ソーシャルワーク学会　査読委員
日本職業リハビリテーション学会
日本地域福祉学会
一般社団法人日本精神保健福祉学会

６．担当授業科目

（学部）

精神保健福祉の原理Ⅱ・２単位・２年・後期，精神科リハビリテーション学Ⅱ・２単位・３年・後期，精神保健福祉援助技術各論Ⅱ・２単位・３年・後期，卒業論文・６単位・４年・通年

（大学院）

社会福祉研究法・２単位・前期，質的研究法・１単位・前期，精神保健福祉研究・２単位・前期，精神保健福祉演習・２単位・後期，特別研究・４単位・通年

７．社会貢献活動

田川市障がい者福祉基本計画等策定・推進委員会　会長

８．学外講義・講演

講演「精神障がいにも対応した地域包括ケアシステムの構築」（京都郡地域自立支援協議会）

９．附属研究所の活動等

人間社会学部／社会福祉コース	職名	教授	氏名	本郷　秀和

1．教員紹介・主な研究分野

私は,福祉活動に取り組むNPO法人において,社会福祉士・介護福祉士等として相談員や介護業務,運営管理業務等に従事した経験があることから,高齢者福祉活動（ソーシャルワークや介護,各種の生活支援）に取り組むNPO法人の役割にこれまで着目してきました．現在の主要研究テーマとしては,1)高齢者のニーズに応える地域生活支援の在り方（特にNPO法人が提供するサービスと経営及びソーシャルワークの視点が中心）,2)高齢者の権利擁護に関する研究（例：介護サービスの評価や苦情解決,高齢者虐待の予防と対応,認知症高齢者の地域支援等,3)高齢者等が住み慣れた地域で生活が継続できるためのソーシャルワークの展開とサービス開発（高齢者の退院支援、様々なニーズに応えられるためのサービス開発の推進方法や管理運営等）に関するものがあります.研究上で特に意識することとして,机上のみではなく,実際に高齢者の方や様々な専門職の方等と顔がみえる関係を築きながら,現実の福祉問題の把握と理解に心がけながら研究を進めようと考えています.また,社会福祉に関する各種調査等を通じて福祉問題を抽出・発見し,その結果を福祉実践にフィードバックできればと考えています.

＜参考＞主な保持資格：社会福祉士・精神保健福祉士・介護福祉士・救急救命士・専門社会調査士

2．研究業績

①最近の著書・論文(※過去３年)

1) 秋竹純・本郷秀和 ・松岡佐智「有料老人ホーム職員のバーンアウト傾向と認知症高齢者へのケアの状況—調査結果にみる施設内虐待の予防に向けた課題」『地域ケアリング』Vol.21. No.8、(株)北陸社 2020.6
2) 梶原浩介・本郷秀和「地域共生社会と制度の狭間の問題を抱える家族支援に関する一考察 -8050問題に焦点を当てて-」『九州社会福祉学』第 18 号、日本社会福祉学会九州地域部会、2021.3.
3) 秋竹純・本郷秀和「介護付有料老人ホームに勤務する介護福祉士からみたケア意識とストレス状況」『福岡県立大学 人間社会学部紀要』第 29 巻第 2 号,2021.3.
4) 岩崎敦子・本郷秀和「特別養護老人ホームにおける在宅高齢者に対する食支援への意識と課題－福岡県内の特別養護老人ホームの食支援調査を手がかりに－」『福岡県立大学 人間社会学部紀要』第 29 巻第 2 号,2021.3.
5) 飯干真冬花・本郷秀和「中高年知的障害者への就労支援と高齢化への課題」『九州社会福祉学』第 18 号,日本社会福祉学会九州地域部会,2022.3.
6) 本郷秀和・飯干真冬花・松岡佐智,「実習領域別にみる相談援助実習の課題 -A 大学における2013-2021 年度実習後アンケート調査の概観-」,福岡県立大人間学人間社会学部.『福岡県立大学 人間社会学部 紀要』、第 31 巻第 1 号.2022.10.
7) 川井大輝・本郷秀和,「QOL と高齢期の変化に関する一考察」、福岡県立大学人間社会学部.『福岡県立大学 人間社会学部 紀要』,第 31 巻第 1 号.2022.10.

8) 飯干真冬花・本郷秀和・松岡佐智,「感染症流行後の相談援助実習の課題と実習指導者への期待-A大学における 2013-2021 年度実習後アンケート調査を通じて-」『福岡県社会福祉士会研究誌』(福岡県社会福祉士会), 2023.3.

9) 本郷秀和「第 14 章 相談援助の目的と方法」「第 16 章 保健医療福祉に関する諸問題の例」,鬼埼信好・本郷秀和編,『コメディカルのための社会福祉概論 第 5 版』,講談社,2023,2.(＊第 1 刷発行部数：6000)

10) 本郷秀和「第 1 章 高齢者の定義と特性」「第 2 章 高齢者の生活実態と社会環境」,川村匡由編,『入門高齢者福祉』,ミネルヴァ書房,2023.3.

②その他最近の業績

<学会発表>

③過去の主要業績

- 本郷秀和「介護保険制度下の NPO 法人におけるソーシャルワーク実践の方向性」『日本の地域福祉』第 17 号. 日本地域福祉学会、2003 年 3 月.
- 本郷秀和「高齢者虐待の兆候察知における介護支援専門員の課題 －福岡市・北九州市の介護支援専門員の現状と意識－」『社会福祉学』第 54 号第 2 巻,日本社会福祉学会, 2013 年 8 月.
- 本郷秀和著,『高齢者虐待と介護支援専門員』中央法規、2020 年 3 月.

3．外部研究資金

平成 31 年度－令和 5 年度(5 年間)、文部科学省科学研究費補助金申請、基盤研究C、「地域包括 ケアシステム推進下の介護 NPO の可能性」421 万円（総額）*研究代表：本郷秀和

4．受賞

5．所属学会

日本社会福祉学会、日本地域福祉学会、日本高齢者虐待防止学会、日本介護福祉学会

6．担当授業科目

＜学部＞ 1)「ソーシャルワークの基盤と専門職Ⅱ」(2 単位・1 年後期),2) 「相談援助実習指導」(3 単位・3 年通年・共同), 3)「相談援助実習」(4 単位,3 年通年), 4)「ソーシャルワーク実習指導」(3 単位・2 年通年・共 同), 5)「ソーシャルワークの理論と方法 B」(2 単位・2 年前期), 6)「社会福祉学演習」(4 単位・3 年後 期～4 年前期・通年), 7)「卒業論文」(6 単位・4 年次後期), 8)「ソーシャルワーク演習 A」(1 単位・1 年後期), 9)「相談援助演習 C」(1 単位,3 年後期) ,10)「福祉専門職特講 A」(オムニバス)、11)「福祉専門職特講 B」(オムニバス)〈※以下、大学院〉 1)「高齢者福祉研究」(2 単位・1 年後期), 2)「高齢者福祉演習」(2 単位・1 年前期), 3) 「特別研究」(4 単 位・1-2 年通年), 4)フィールドワーク」(2 単位・1 年後期), 5)「量的研究法」 (1 単位・1 年前期)

7．社会貢献活動

1)福岡県社会福祉審議会 審議委員. 2)福岡県社会福祉審議会 老人福祉専門分科会 会長. 3)福岡県社会福祉審議会 地域福祉支援計画専門分科会 会長. 4)福岡県第 9 次高齢者保健福祉計画策定検討委員会 委員長. 5) 福岡県身体拘束ゼロ作戦推進会議 委員長.6) 福岡県人権施策推進講話会専門部会 委員.7)福岡県介護実習・普及センター事業等企画書選定委員会委員. 8)福岡県国民健康保険団体連合会 介護給付費等審査委員会 副会長. 9) 福岡県国民健康保険団体連合会 介護給付費等審査委員会 審査部会長.10) 福岡県国民健康保険団体連合会介護サービス苦情処理委員. 11) 日本社会福祉学会 代議員. 12)日本社会福祉学会「社会福祉学」査読・編集委員.13) 日本社会福祉学会 九州地域部会運営委員. 14) 日本社会福祉学会 九州地域部会「九州社会福祉学」査読・編集委員.15) 日本高齢者虐待防止学会機関誌『高齢者虐待防止研究』査読委員.16) 福岡県社会福祉協議会 外部評価審査委員会委員.17) 福岡県社会福祉協議会 運営適正化委員会委員.18) 福岡県社会福祉協議会 苦情解決小委員会委員.19) 福岡県川崎町 地域包括支援センター運営協議会会長.20) 嘉麻市社会福祉協議会 権利擁護支援運営委員会委員.21) 嘉麻市地域福祉計画策定検討委員会委員.22) 嘉麻市社会福祉協議会 地域福祉権利擁護事業運営審議会委員.23) 福岡県田川市 地域包括ケアシステム推進協議会認知症支援部会委員.24)福岡県宗像市 介護保険運営協議会委員. 25)特定非営利活動法人 地域たすけあいの会 理事.26)福岡県社会福祉士会 研究誌査読担当.27) ふくおか福岡元気向上チャレンジ(在宅高齢者の要介護状態改善事業)評価委員会アドバイザー（福岡市事業.受託：ヒューマンアカデミー株式会社）他.

8．学外講義・講演

1) 飯塚市福祉ネットワーク（民生委員協議会）研修会「高齢者を巡る課題と家庭内虐待」 講師.2)令和４年度 福岡県人権相談従事者研修「福祉相談と記録」（福岡県主催）、講師（会場：㈶福岡県人権啓発情報センター）.3) 日本医療ソーシャルワーク学会 研修講師 テーマ「社会福祉の研究方法」.4) 福岡県立大学社会福祉学会 シンポジウム「子ども家庭福祉をめぐる現状と課題」コーディネーター（会場：福岡県立大学）.5) 令和４年度 ふくおか元気向上チャレンジ（在宅高齢者の要介護状態改善事業)「多職種連携のための意見交換会」研修コーディネーター、主催：福岡市福祉局 高齢社会部介護保険課.6) 社会福祉法人 慈愛会 職員研修 講師 テーマ「高齢者と虐待」.7) 日本社会福祉学会 全国フォーラム「地域共生社会を問う-共生の社会に向けた社会福祉実践から-」、コーディネーター（会場：久留米大学・オンライン）他.

9．附属研究所の活動等

福岡県立大学附属研究所調整部会 委員、福岡県立大学後援会 理事、社会福祉コース代表、
福岡県立大学人間社会学部博士課程設置ワーキンググループ、
福岡県立大学社会福祉学会 副会長他

人間社会学部／社会福祉コース	職名	教授	氏名	村山　浩一郎

１．教員紹介・主な研究分野

私の研究分野は「地域福祉」です。「地域福祉」は児童福祉や高齢者福祉などの対象者別の福祉分野ではなく、地域住民が主体となり、行政や専門職と協働しながら、援助を必要とする人を地域で支えたり、地域の共通課題の解決に取り組んだりする、地域を基盤とした福祉実践のあり方を意味しています。私の研究テーマは、このような「地域福祉」を推進するための様々な実践や方法を検討することです。具体的には、住民による小地域福祉活動、福祉ＮＰＯ、コミュニティワーク、地域福祉計画など、地域福祉を推進するための住民活動、援助技術、計画・政策などについて研究を行っています。

２．研究業績

①最近の著書・論文

- 村山浩一郎「第 9 章　地域福祉」,鬼﨑信好・本郷秀和編著『コメディカルのための社会福祉概論　第 5 版』, 講談社, 2023 年 2 月
- 村山浩一郎「地域福祉計画策定ガイドラインにおける策定方法の変化－新旧ガイドラインの比較より」, 『福岡県立大学人間社会学部紀要』第 29 巻第 1 号, 2020 年 10 月
- 實﨑信介・村山浩一郎「保育所の地域における公益的な取組の実施状況に関する研究－福岡県内の保育所のみを経営する社会福祉法人を対象として－」,『福岡県立大学人間社会学部紀要』第 29 巻第 2 号, 2021 年 3 月

②その他最近の業績

<学会発表>

- 村山浩一郎「福祉協力員意識調査結果からみえてきたこと」, 北九州市社会福祉協議会『福祉協力員意識調査結果報告書 2021』, 北九州市社会福祉協議会, 2022 年 5 月
- 村山浩一郎「包括的な支援体制をどう捉えるか」, 社会福祉法人福岡県社会福祉協議会　市町村社協委員会・専門委員会（委員長：村山浩一郎）『社会福祉協議会と包括的な支援体制～これからの福岡県内社協に必要な視点・求められる役割』,社会福祉法人福岡県社会福祉協議会　市町村社協委員会・専門委員会, 2023 年 1 月
- 村山浩一郎「地域福祉計画の課題と展望」,『でんしょ鳩』第 227 号,北九州市障害福祉ボランティア協会, 2020 年 7 月

③過去の主要業績

- 村山浩一郎「『進行管理』の視点から見た地域福祉計画の特徴と課題：3 自治体の第 1 期計画と第 2 期計画の比較から」,『リハビリテーション連携科学』第 14 巻 2 号,リハビリテーション連携科学学会, 2013 年 12 月

・ 九州社会福祉研究会編（編集委員：岩井浩英,江口賀子,大山朝子,片岡靖子,門田光司,河谷はるみ,鬼﨑信好,倉田康路,滝口真,田畑洋一,茶屋道拓哉,本郷秀和,村山浩一郎）『21世紀の現代社会福祉用語辞典＜第2版＞』,学文社, 2019年6月
・ 社会福祉法人福岡県社会福祉協議会　市町村社協委員会・専門委員会（委員長：村山浩一郎）『「社協・生活支援活動強化方針」チェックリストの効果的活用のための資料』,福岡県社会福祉協議会, 2021年1月

3．外部研究資金

・ 2019年度－2022年度,文部科学省科学研究費補助金【基盤研究C】,研究課題：「地域共生社会の実現に向けた地域福祉計画の策定方法に関する方法」（研究代表：村山浩一郎,交付金額：78万円）,研究代表者
・ 2019年度－2023年度,文部科学省科学研究費補助金【基盤研究C】,研究課題：「地域包括ケアシステム推進下における介護系NPOの役割」（研究代表：本郷秀和,交付金額：442万円）,研究分担者

4．受賞

5．所属学会

日本社会福祉学会（理事・研究担当），日本地域福祉学会，日本社会学会，福祉社会学会,リハビリテーション連携科学学会，日本福祉教育・ボランティア学習学会

6．担当授業科目

＜学部＞地域福祉論Ⅰ（2単位・2年・後期）,福祉行財政と福祉計画（2単位・3年・前期）,地域福祉論Ⅱ（2単位・3年・前期）,相談援助実習指導（3単位・2年～3年・通年）,相談援助実習（4単位・3年・通年）,相談援助演習B（2単位・3年・通年），ソーシャルワーク演習B（2単位・2年・通年）,相談援助演習C（1単位・3年・後期）,社会福祉学演習（2単位・3年～4年・後期～前期）,卒業論文（6単位・4年・後期）

＜大学院＞特別研究Ⅰ（4単位・1年）,特別研究Ⅱ（4単位・2年）,特別研究（4単位・1～2年・通年）,フィールドワーク（2単位・1年・前期・後期）,地域福祉研究（2単位・1・2年・前期）,地域福祉演習（2単位・1・2年・後期）

7．社会貢献活動

・ 芦屋町地域福祉計画推進委員会 委員長
・ 遠賀町地域福祉計画推進委員会　委員長
・ 大牟田市健康福祉推進会議 会長
・ 苅田町地域福祉推進委員会 委員長
・ 北九州市社会福祉審議会 委員（地域支援専門分科会　会長）
・ 北九州市地域福祉振興協会　副会長

・　北九州市社会福祉協議会 総合企画委員会　委員長
・　志免町社会福祉協議会 ボランティア育成・福祉団体等助成金配分審査会 委員長
・　田川市地域包括ケアシステム推進協議会・保健（予防）・生活支援部会 部会長
・　田川市地域福祉計画推進会議 委員長
・　福岡県社会福祉協議会 市町村社協委員会 専門委員会 委員長
・　福智町地域福祉計画・地域福祉活動計画　アドバイザー
・　福津市福祉施策策定審議会 委員長
・　みやこ町地域福祉計画審議委員会　委員長
・　行橋市みんなで支えあう行橋市福祉のまちづくり推進委員会　委員長
・　行橋市みんなで支えあう行橋市福祉のまちづくり推進実務者会議　座長
・　行橋市成年後見制度利用促進委員会 委員長

８．学外講義・講演

・　北九州市社会福祉協議会主事連絡会　研修講師
・　北九州市民生委員児童委員大会 講演
・　小倉西高等学校　高校訪問（授業）
・　福岡県社会福祉協議会　市町村社会福祉協議会会長・常務理事・事務局長研修会　講師
・　福岡県社会福祉協議会　市町村社会福祉協議会事務局長会議　講師
・　福智町・福智町社会福祉協議会「地域づくり研修会」 講師
・　みやこ町地域福祉計画策定事前研修　講師
・　宗像市社会福祉協議会　宗像市福祉教育セミナー　講師

９．附属研究所の活動等

人間社会学部／総合人間社会コース	職名	教授	氏名	森脇　敦史

１．教員紹介・主な研究分野

憲法学を専攻しており、特に情報と法との関わり合いを中心的な研究課題としている。電子通信技術の発達がもたらす問題に対して、表現の自由という観点から個別事例においてどのような解決を図るべきなのか、またどのような制度設計を行うことが最も適切な権利配分を人々に行うことになるのかということを考察している。

また近年は、アメリカの表現の自由法理が形成された歴史的背景、司法審査の正当化根拠についても研究を進めている。

２．研究業績

①最近の著書・論文

・　森脇敦史「ヒューゴ・ブラック 歴史は繰り返すか？」山本龍彦・大林啓吾（編）『アメリカ憲法の群像 裁判官編』145～170 頁、尚学社、2020 年 6 月

②その他最近の業績

<判例研究>

・　森脇敦史「家庭裁判所調査官が自ら担当した事件に関する論文等の公表とプライバシー侵害」新・判例解説 Watch【2021 年 4 月】、日本評論社、2021 年 3 月

③過去の主要業績

・　森脇敦史「言論活動への政府資金助成に対する憲法上の規律」、阪大法学第 53 巻 1 号 113～142 頁、2003 年

・　森脇敦史「図書館に対するフィルタリングの義務づけと今後のインターネット上における表現規制の態様－ＣＤＡ、ＣＯＰＡ、ＣＩＰＡの事例から－」、阪大法学第 53 巻 3=4 号 393～419 頁、2003 年

・　森脇敦史「キャス・サンスティン リスクと不確実性の憲法学」駒村圭吾・山本龍彦・大林圭吾（編『』アメリカ憲法学の群像 理論家編』255～274 頁、尚学社、2010 年 1 月

３．外部研究資金

４．受賞

５．所属学会

関西アメリカ公法学会、関西憲法判例研究会、九州公法判例研究会、情報ネットワーク法学会、合衆国最高裁判所判例研究会

６．担当授業科目

法学・２単位・１年・前期、教養演習・１単位・１年・前期、憲法・２単位・１年・後期、入門・数字で見る日本社会・２単位・１年・後期、社会人基礎力演習・１単位・２年・前期、現代社会論Ｃ（情報社会と法）・２単位・２年・後期、問題解決演習・１単位・２年・後期、法律学概論Ⅰ・２単位・３年・前期、公共社会学研究Ⅰ・１単位・前期、法律学概論Ⅱ・２単位・３年・後期、個人情報法制・２単位・後期、公共社会学研究Ⅱ・１単位・後期、日本事情Ａ（分担）・２単位・留学生・後期

７．社会貢献活動

田川市情報公開・個人情報保護審議会委員（会長）
築上町個人情報保護審査会委員（会長）
福智町情報公開審査会委員（会長）
福智町個人情報保護審査会委員（会長）
古賀市情報公開・個人情報保護審議会委員
古賀市行政不服審査会委員
玄界環境組合情報公開・個人情報保護審議会委員
玄界環境組合行政不服審議会委員
粕屋北部消防本部行政不服審議会委員
粕屋北部消防本部情報公開・個人情報保護審議会委員
飯塚市政治倫理審査会

８．学外講義・講演

９．附属研究所の活動等

人間社会学部／心理コース	職名	教授	氏名	吉岡　和子

1．教員紹介・主な研究分野

2004年3月に九州大学大学院人間環境学府博士後期課程を満期退学。臨床心理士として，病院（精神科），保健福祉センター，学生相談室などに勤務後，2006年10月に本学に着任しました。2007年2月に九州大学より博士（人間環境学）の学位を授与されました。

主な研究領域は，①対人関係における自己表出の在り方②アサーショントレーニング・プログラムの実践③心理アセスメントを用いた本人や家族への心理的援助に関する研究です。

2．研究業績

①最近の著書・論文

- 山下雅子・中山政弘・後藤理恵・渋谷明子・豊田梨紗・中島亜矢菜・宮崎圭祐・吉岡和子（2022）「アウトリーチ型の子育て支援の意義と課題—COVID−19禍の子育て支援—」『福岡県立大学心理臨床研究』14，35-43.（査読無）
- 吉岡和子（2022）「ロールシャッハ法を味わうために」『福岡県立大学心理臨床研究』14, 57-75.（査読無）
- Noriko Numata, Akiko Nakagawa, Kazuko Yoshioka, Kayoko Isomura, Daisuke Matsuzawa, Rikukage Setsu, Michiko Nakazato, Eiji Shimizu（2021）「Associations between autism spectrum disorder and eating disorders with and without self-induced vomiting: an empirical study」『Journal of Eating Disorders』9, Article number：5（査読有）
- 本田（藤原）沙貴・吉岡和子（2021）「大学生の自己愛的脆弱性と友人関係の在り方及び満足感」『福岡県立大学心理臨床研究』13，3-13.（査読有）
- 吉岡和子（2020）「「友人との共有様式が大学1年生の友人関係の進展に及ぼす影響」についてのコメント」『青年心理学研究』31（2），127-130.（査読有）

②その他最近の業績

<学会発表>

- Kazuko Yoshioka, Emi Kodama（2022）Drawings in Draw-Your-Family-as-an-Animal Test and Evaluation of Impressions of Self and Parent. ECP 2022, 17th European Congress of Psychology（5-8.July）online（Ljubljana, Slovenia）
- 福田恭介・早見武人・吉岡和子・田中直也・志堂寺和則・松尾太加志（2022）Go/No-Go課題時の瞬目発生・抑制の発達的検討　第40回日本生理心理学会大会・日本感情心理学会第30回大会 合同大会2022　2022.5.27～29（関西学院大学）
- 福田恭介・吉岡和子・早見武人・松尾太加志・田中直也・志堂寺和則（2021）発達障害児・定型発達児における Go/No-Go 課題時の瞬目発生 第 39 回日本生理心理学会大会 2021.5.22～5.31　Web 発表（日本大学）
- 福田恭介・吉岡和子・早見武人・松尾太加志・志堂寺和則（2020）発達障害児における瞬目抑制・発生のタイミング 第 38 回日本生理心理学会大会 2020.5.24　Web 発表（広島大学）

<自主シンポジウム>

・ 「地域に出向く子育て支援と心理職の働き方支援－それぞれの社会課題にどう向き合うか－」（2021）日本心理臨床学会第 40 回大会　指定討論者

③過去の主要業績

<著書>

・ 髙橋紀子・吉岡和子編（2010）「心理臨床，現場入門：初心者から半歩だけ先の風景」ナカニシヤ出版.

・ 吉岡和子・髙橋紀子編（2010）「大学生の友人関係論：友だちづくりのヒント」ナカニシヤ出版.

<論文>

・ 吉岡和子（2007）「友人関係での自己表出における葛藤」『心理臨床学研究』24（6），日本心理臨床学会.

・ 吉岡和子（2002）「友人関係の理想と現実のズレ及び自己受容から捉えた友人関係の満足感」『青年心理学研究』13，青年心理学会

3．外部研究資金

4．受賞

5．所属学会

日本青年心理学会　日本心理臨床学会　日本教育心理学会　日本ロールシャッハ学会（理事）
日本パーソナリティ心理学会　日本精神分析学会　九州心理学会　九州臨床心理学会

6．担当授業科目

＜学部＞心理実習Ⅰ・1 単位・2 年・通年（共同），心理学的支援法・2 単位・2 年・後期（共同），公認心理師の職責・2 単位・2 年・後期（分担），心理実習Ⅱ・1 単位・2 年・前期（共同），心理演習・2 単位・3 年・後期（共同），心理実習Ⅲ・1 単位・3 年後期（共同），家族心理学（社会・集団・家族心理学）・2 単位・4 年・前期，教育相談（幼児教育）・2 単位・4 年・前期，演習・2 単位・3 年・通年，卒業論文・6 単位・4 年・後期

＜大学院＞家族関係・集団・地域社会における心理支援に関する理論と実践・2 単位・1・2 年・前期，臨床心理基礎実習 A・1 単位・1 年・前期，臨床心理基礎実習 B・1 単位・1 年・通年，臨床心理査定演習Ⅱ・2 単位・1 年・後期，臨床心理実習Ⅰ（心理実践実習 A）・10 単位・1-2 年・通年,臨床心理実習Ⅱ・1 単位・2 年・通年，心理実践実習 B・2 単位・1-2 年・通年，特別研究Ⅰ・2 単位・1 年・通年，特別研究Ⅱ・2 単位・2 年・通年

7．社会貢献活動

・一般社団法人　福岡県臨床心理士会　事務局長
・日本ロールシャッハ学会　理事／教育・研修委員会委員、編集委員会委員
・一般社団法人　日本心理臨床学会　代議員
・一般社団法人　日本臨床心理士会　代議員
・九州心理学会　理事
・NPO 法人九州大学こころとそだちの相談室　理事／相談員
・福岡女学院大学大学院　心理査定委託相談員
・西九州大学臨床心理相談センター　研究員

8．学外講義・講演

・福岡県女性相談所 婦人保護事業新任者研修「DV 相談と支援」6 月 10 日
・福智町社会福祉協議会「傾聴講座」9 月 1 日，8 日
・豊前市人権センター相談従事者研修会「困った行動の背景を理解するコツ～支援活動に活かすために」11 月 11 日
・北九州 LD 等発達障害親の会　すばる勉強会「アサーション」1 月 22 日

9．附属研究所の活動等

＜心理教育相談室＞
・相談室室長
・相談室紀要編集委員幹事
・お父さんとお母さんの学習室（ペアレントトレーニング）の企画と運営

人間社会学部／地域社会コース	職名	特任教授	氏名	福田　恭介

1．教員紹介・主な研究分野

① 「目は口ほどに物を言う」という諺がありますが，「まばたきは口ほどに物を言う」ということを研究しています。まばたきは 1 分間に約 20 回発生しますが，それらは物事を認識したり，記憶システムにアクセスしたりしているときに発生し，待ち構えているときには抑制されることを発見しました。これらのまばたきは脳のリセットと関連していることが示され，さまざまな分野に応用されています。

② ペアレントトレーニングについて研究・実践を行ってきました。ペアレントトレーニングを行うと，親の行動が変わり，それによって子どもの行動が変わり，穏やかな親子関係を築けることが示されています。その効果が認められ，国の「発達障害児者および家族支援」としても予算化されています。
厚労省 HP：発達障害者支援施策の概要

2．研究業績

①最近の著書・論文

- 福田 恭介・水口 美咲・松尾 太加志・志堂寺 和則・早見 武人（2021）「喉まで出かかっている」ときの瞬目の抑制と発生　心理学研究，92 (2)，122-128.
https://doi.org/10.4992/jjpsy.92.20023　　査読有
- 福田 恭介 (2022) 自発性まばたき研究の 40 余年　生理心理学と精神生理学，早期公開
https://doi.org/10.5674/jjppp.2205si　　査読有
- 福田 恭介（2022）「生理心理学」『知覚と感覚の心理学』原口 雅浩（編集）サイエンス社 1-21.

②その他最近の業績

<学会発表>

- 福田 恭介・吉岡 和子・早見 武人・松尾 太加志・志堂寺 和則（2020）発達障害児における瞬目抑制・発生のタイミング　第 38 回日本生理心理学会大会（広島大学）Web 開催　5 月
- 上田 真由美・福田 恭介（2020）保育の省察とソーシャル・サポートが保育士のストレス反応に及ぼす影響　九州心理学会第 81 回大会（鹿児島大学）Web 開催　　11 月～12 月
- 福田 恭介・早見 武人・吉岡 和子・田中 直也・志堂寺 和則・松尾 太加志（2021）発達障害児・定型発達児における Go/No-Go 課題時の瞬目発生　第 39 回日本生理心理学会大会（日本大学）Web 開催　5 月
- 福田 恭介・早見 武人・吉岡 和子・田中 直也・志堂寺 和則・松尾 太加志（2022）Go/No-Go 課題時の瞬目発生・抑制の発達的検討　第 40 回日本生理心理学会大会（関西学院大学）5 月 28 日

③過去の主要業績

- 田多 英興・山田 冨美雄・福田 恭介（編著）(1991) まばたきの心理学－瞬目行動の研究を総括する　北大路書房（京都）
- Fukuda, K. (2001). Eye blinks: New indices of detection of deception. *International Journal of Psychophysiology*. 40, 239-245. https://doi.org/10.1016/S0167-8760(00)00192-6
- 福田 恭介 (2018) ペアレントトレーニング実践ガイドブック－きっとうまくいく。子どもの発達支援　あいり出版（京都）

3．外部研究資金

4．受賞

5．所属学会

日本心理学会，日本生理心理学会，九州心理学会，日本認知行動療法学会，日本心理臨床学会

6．担当授業科目

学部：教育心理学概論・２単位・２年・後期，大学院：子どもの心理研究・２単位・１年・前期，教育課題研究Ａ・２単位・１年・前期

7．社会貢献活動

特別支援教育スキルアッププログラム，6月3日，17日，7月1日，15日，29日　福岡県立大学心理教育相談室主催

https://www.fukuoka-pu.ac.jp/graduateSchool/psychology/post_3.html

8．学外講義・講演

① ペアレントトレーニングを活用した子育て　東九州短期大学地域連携子ども教育センター講演　2022年9月17日

② 子どもの心の発達とその問題　直方市地域子育て支援センター講演　2022年9月28日

③ 保育に生かすペアレントトレーニング　福岡県立大学人間社会学部人間形成学科こどもコースホームカミングデー講演　2022年12月10日

9．附属研究所の活動等

人間社会学部／社会福祉コース	職名	特任教授	氏名	細井　勇

1．教員紹介・主な研究分野

主な研究分野は、社会事業史研究である。日本の近代化過程の特質とは何か、その中で社会福祉は如何に形成されてきたか、それを、近代日本におけるキリスト教の受容の問題と関係させて研究してきた。その成果そして、2009年に『石井十次と岡山孤児院—近代日本と慈善事業—』を著した。しかし、それは日本型福祉国家の形成史の全体像ではなかった。これまで、筑豊の生活保護史や筑豊のキリスト教史に目を向けてきた。筑豊という場から日本型福祉国家の形成史を問うという問題意識であって、その成果を今、細井勇、城島泰伸編『筑豊の生活保護とキリスト教—「制度」か「人間」かをめぐる運動史—』として刊行しようとしている。また、2021年度COC奨励研究の助成を得て「筑豊の子供を守る会」関係資料集成編集委員会編（代表細井勇）で『「筑豊の子供を守る会」関係資料集成』全8巻を2022年度に刊行することができ、かつ東京と本学で記念シンポジウム（公開講座Ⅱ）も開催することができた。

2018年4月に開始した科研費研究「児童の代替的ケアをめぐる国際比較研究—日本、韓国、イギリス、ドイツを中心に—」は2022年3月で一端終了となったが、新たな科研費研究を申請中であり、ソーシャルペダゴジーの国際研究と日本への導入の試みは今後も継続する。

なお、戦後、博多引揚基地を擁する福岡県は、引揚孤児の救済保護を全国レベルで担った。本年度から、そうした実態を解明すべく、県立公文書館の所蔵資料等への調査活動を共同で開始している。

2．研究業績

①最近の著書・論文

<著書>

- 細井勇「解説1：本資料集成の概要について」「筑豊の子供を守る会」関係資料集成編集委員会（代表細井勇）編『「筑豊の子供を守る会」関係資料集成』全8巻、六花出版、2022年
- 細井 勇「社会事業史研究の経緯と方向性」社会事業史学会創立50周年記念論文集刊行委員会編『戦後社会福祉の歴史研究と方法 —継承・展開・創造—（第1巻思想・海外）』近現代資料刊行会、2022年
- 細井 勇「ソーシャルペダゴジー —その国際的動向と日本への導入の実践的意義を考える」宇佐美耕一、小谷眞男、後藤玲子、原島博編集代表『世界の社会福祉年鑑 2022』旬報社、2022年

<論文>

- 細井勇「現象学的なキリスト教社会福祉研究の試み —学びの方法としての対話とリフレクション—」『キリスト教社会福祉学研究』55、4-15、2023年
- 細井勇「フィリピンにおけるストリートチルドレン支援団体、カンルンガン・サ・エルマ —その設立の理念と活動について」（科研費研究基盤B「児童の代替的ケアをめぐる国際比較研究—日本、韓国、イギリス、ドイツを中心に」（代表細井勇）成果報告書、53—69、2022年3月

・ 細井勇「特集“キリスト教神学と社会福祉”に寄せて」『キリスト教社会福祉学研究』54、4－7、2022年
・ 細井勇「社会事業史研究の“独自性”再考」『社会事業史研究』59、25-44、2021年
・ 細井勇「特集“連帯と協同の社会形成に向けて”の意図について―本学会成立の経緯を振り返ることを通いて―」『キリスト教社会福祉学研究』53、6－12、2021年
・ 細井勇「『地域づくりに向けた多宗教間連携を考える』の背景と意図」『キリスト教社会福祉学研究』52、4-8、2020年

②その他最近の業績

<書評>

・ 細井勇「書評：稲井智義『子ども福祉施設と教育思想の社会史　石井十次から冨田象吉、高田慎吾へ』」『図書新聞』2023年3月発行予定
・ 細井勇「文献解題：西﨑緑『ソーシャルワークはマイノリティをどう捉えてきたか―制度的人種差別とアメリカ社会福祉史―』」『キリスト教社会福祉学研究』53、2021年
・ 細井勇「救世軍人・山室軍平の思想と実践を日本の近代化の中に位置づける（書評：室田保夫『山室軍平』）」『図書新聞』3478号、2021年1月9日発行
・ 細井勇「書評：滝澤民夫『増野悦興研究　埋もれたキリスト者の生涯と思想』」『キリスト教社会福祉学研究』52、2020年

<その他>

・ 細井勇、鬼塚香、森茂起、伊藤篤、阪野学、三上邦彦『科研費研究（基盤B）「児童の代替的ケアをめぐる国際比較研究　―日本、韓国、イギリス、ドイツを中心に」（代表細井勇）研究成果報告書』全69頁、2022年3月
・ 日本ソーシャルペダゴジー学会・科研費研究共催『第6回学術集会（2021年9月19日）報告書』編集発行、2022年3月
・ 細井勇「（シンポジウム）社会事業史研究の“独自性”再考」『社会事業史学会第48回大会報告要旨集』2020年5月、山口県立大学
・ 細井勇、伊藤篤、鬼塚香、稲葉美由紀、杉野寿子、三上邦彦、森茂起『（2019年度科研費報告書）イギリスにおける児童ケアとソーシャルペダゴジー　―スコットランド及びロンドン訪問調査報告書』全44頁、2020年
・ 細井勇「日本のミュラー・石井十次、ドイツの児童福祉、そして筑豊で出会った人々」『福岡県立大学社会福祉学会第10回大会報告書』2020年
・ 細井勇「ソーシャルペダゴジーと児童福祉施設」『2019年度小舎制養育研究会総会・研修会第41回大分大会報告書』33-57、2020年
・ 細井勇「歴史から学ぶ社会的養護実践」『社会的養護の充実を求めて　設立10周年記念誌』日本児童養護実践学会、32－49、2020年
・ 細井勇「日本の社会的養護に求められる専門性としてのソーシャルペタゴジーの役割と意義について」『社会的養護の充実を求めて　設立10周年記念誌』日本児童養護実践学会、50-68、2020年

<学会報告等>

- 細井勇、森茂起、鬼塚香、松本幸治、ビレモス・トリーネ「ソーシャルペダゴジー　その国際的動向と日本への導入の実践的意義を考える」日本子ども虐待防止学会第 28 回学術集会福岡大会、公開シンポジウム、於福岡国際会議場、2023 年 12 月 10 日
- 細井勇「ソーシャルペダゴジーの基本概念」日本ソーシャルペダゴジー学会主催ミニ講座（オンライン）2021 年 5 月 9 日

③過去の主要業績

- 細井勇・菊池義昭編・解説『岡山孤児院関係資料集成』全３巻、不二出版、2009 年
- 細井勇『石井十次と岡山孤児院―近代日本と慈善事業―』ミネルヴァ書房、2009 年
- 田川地区社会福祉研究会・細井勇監修『福岡県田川福祉事務所四十年史』、1996 年
  共著『山室軍平の研究』同朋社、1991 年

３．外部研究資金

４．受賞

５．所属学会

日本社会福祉学会、日本基督教社会福祉学会（学会誌編集委員）、社会事業史学会（理事）、日本ソーシャルペダゴジー学会（理事）、同志社大学社会福祉学会、日本子ども虐待防止学会、日本児童養護実践学会、福岡県立大学社会福祉学会（事務局長）

６．担当授業科目

（学部）　社会福祉学概論Ⅰ・２単位・１年前期

（大学院）社会福祉研究・２単位・前期、社会福祉演習・１単位・後期

７．社会貢献活動

児童養護施設栄光園　評議員

８．学外講義・講演

細井勇「ソーシャルペダゴーグは何をするのか　関係・構造・変化」法人型ファミリホーム研究会、於日本児童育成園（岐阜市）、2023 年 2 月 21 日

細井勇「筑豊炭鉱の閉山炭住と守る会運動」「筑豊の子供を守る会」関係資料集成出版記念シンポジウム：1960～70 年の若者は、何を考え、行動したか　―歴史を自分たちの手で創造する、於国際基督教大学、2023 年 1 月 9 日

公開講座Ⅱ「筑豊の炭鉱閉山期『筑豊の子供を守る会』の活動を振り返る」（司会進行）2023 年 2 月 11 日

９．附属研究所の活動等

人間社会学部／心理コース	職名	准教授	氏名	池　志保

1．教員紹介・主な研究分野

2014 年より福岡県立大学人間社会学部・人間社会学研究科専任講師、2019 年より専任准教授として大学教育に従事しています。研究では「臨床及び発達における創造性」を研究の柱とし、1. 創造性に関する個人と環境との発達的相互交流、2. 創造性とパーソナリティとの関連を主な研究テーマとしています。心理臨床のフィールドは医療及び教育です。病院臨床では、医療法人おくら会藤戸病院の常勤心理職を経て、医療法人弘恵会ヨコクラ病院非常勤心理職、現在は川谷医院にて非常勤心理職として兼業に従事しています。教育臨床では福岡県中学校スクールカウンセラーを経て、本学学生相談室にて学生相談員・学生相談室部会長を兼任してきました。その他、西南学院大学大学院非常勤講師(2016 年度集中「発達心理学特論」)、九州歯科大学口腔保健学科非常勤講師(2018 年度より現在まで。前期「総合医科学」)など。2007 年九州大学大学院人間環境学府博士後期課程単位取得後退学。

2．研究業績

①最近の著書・論文

・ 井上奈美子・池志保（共著）大学 1・2 年生のためのインターンシップがもたらす教育的効果, 福岡県立大学人間社会学部紀要, 第 30 巻 第 1 号, pp.21-34, 2021.

②その他最近の業績

<学会発表>

・ 池志保・中村晋介・井ノ崎敦子・中村悠里恵・三吉紗矢・高坂康雄（共同）現代青年期のパートナーシップ—恋愛、ファッション、親子関係に焦点をあてて考える—, 日本発達心理学会第 31 回大会自主シンポジウム, 2020.
・ 池志保（単独）Justin D. Bieber の創造性：分裂した自己と反抗、更生の半生, 日本病跡学会第 68 回総会一般演題, 2021.
・ Shiho Ike(Presenter) , Amy Joelson(Discussant), Katrina Boggiano(Moderator), The Ambiguity of Living Creativity as an Artist and the Therapist's Selfobject Functions, 43rd Annual IAPSP International Conference Paper Session1 in Washington, DC, 2022.

<翻訳>

・ ＜英訳＞Shiho Ike; Sachiko Mori, When “dreams are described by infants, Talking about Children Pt1”, International Association for Psychoanalytic Self Psychology(IAPSP) eForum, 2021.
・ ＜講演記録＞トーマス・A・コフート（海外招聘講師), 翻訳者：池志保（翻訳監修）・外山敬・西山豪. 精神分析と語られない歴史—なぜ精神分析家は文化を無視できないのか—, 精神分析研究 66 (4), pp.413-421, 2022.

<インタビュー記事>

- 池志保（単独）WORLD MAP 現代の米国の子どもの心理療法家：エイミー・ジョエルソン先生，一般社団法人心理臨床学会「心理臨床の広場」，第 12 巻 第 2 号, 2020.
- 池志保（単独）WORLD MAP 国際的に活躍する日本人臨床心理士をご紹介：富樫公一先生，一般社団法人心理臨床学会「心理臨床の広場」，第 13 巻 第 1 号, 2020.
- 池志保（単独）先人に訊ねる日本の心理臨床学史：北山修先生に訊く，一般社団法人心理臨床学会「日本心理臨床学会 40 周年記念誌—その歴史と記録—」, 2022.

<海外講師招聘講演会>

- 池志保（国際プロジェクト委員長・通訳・翻訳）トーマス・コフート教授招聘講演会, JAPSP 国際プロジェクト, 2021.

③過去の主要業績

<著書>

- Martin Goßmann, Andrea Harms(Herausgeber), Shelley Doctors, Roger Fire, Jackie Gotthold, Hana Grinberg, Amy Joelson, Shiho Ike, Karin J. Lebersorger, Thomas A. Kohut, Amanda Kottler, Frank M. Lachmann, Karin J. Lebersorger, Jane Lewis, Joseph D. Lichtenberg, Krise und Kreativita¨t. BRANDES & APSEL, 2019.

<国際学会発表>

- Presenters: Jacqueline Gotthold, Amy Lebersonger, Karin Lebersorger, Shiho Ike, Martin Gossmann & Koichi Togashi. Politics Enters the Therapy Playroom: From Anna Freud to Ornstein to... 41st IAPSP Annuarl Intenational Pre-Conference, Vienna, 2018.

<翻訳>

- 池志保・外山敬（共著）心理療法における共感と失敗，講演論文翻訳：講師ヨシ・ タミア，福岡県立大学心理臨床研究 10 巻, pp.57-63, 2018.

<外部研究資金>

- 日本精神分析学会 2021 年度国際交流委員会助成金採択，池志保（企画者・申請者）JAPSP 海外招聘講演会.

3．外部研究資金

日本心理臨床学会 2022 年度国際交流助事業助成（国際学会発表）採択、“The Ambiguity of Living Creativity as an Artist and the Therapist's Selfobject Functions” 開催地：アメリカ合衆国（ワシントン D.C.) 43rd Annual IAPSP Conference in Washington, DC (研究代表者：池志保).

4．受賞

５．所属学会

日本心理臨床学会、日本発達心理学会、日本精神分析学会、日本教育心理学会、日本病蹟学会、IAPSP (International Association for Psychoanalytic Self Psychology) 、IARPP (The International Association for Relational Psychoanalysis and Psychotherapy)(各正会員) 【その他の研究会】NAPI 精神分析的間主観性研究グループ、日本精神分析学会認定福岡精神分析研究会、JAPSP 日本精神分析的自己心理学研究会 (各正会員)

６．担当授業科目

【学部】発達心理学 I-A (2 単位・前期)、発達心理学 I-B (2 単位・前期)、発達心理学 II (2 単位・ 後期)、心理アセスメント (2 単位・後期)、心理実習 I (1 単位・通年)、心理実習 II (1 単位・前期)、心理実習 III (1 単位・後期)、演習 (2 単位・3 年前期・4 年前期)、卒業論文 (6 単位・4 年後期)

【大学院】発達心理学特論 (2 単位・前期)、心理的アセスメントに関する理論と実践 (2 単位・前期)、心理支援に関する理論と実践 (2 単位・前期)、臨床心理実習 (施設)(1 単位・前期)、臨床心理実習 (学内)(1 単位・前期)、心理実践演習 A(2 単位・通年)、心理実践演習 B (1 単位・通年)、臨床心理基礎実習 B (2 単位・通年)

７．社会貢献活動

【役員】

日本心理臨床学会広報誌編集委員 (2022 年度より現在まで)、NAPI 精神分析的間主観性研究グループ運営委員 (2019 年度より現在まで) 、JAPSP 日本精神分析的自己心理学研究グループ運営委員 (2020 年度より現在まで)、福岡精神分析研究会運営委員 (2022 年度より現在まで)。

【査読】

福岡県立大学心理臨床研究

８．学外講義・講演

【講演】

・芦屋大学ハラスメント防止対策研修会講師「学生にハラスメントを起こしてしまう教職員の心理とその対応について」, 2023 年 2 月 28 日.

・第 6 回「臨床こころの発達研究会」講演会講師「間主観性理論から考える患者・治療者関係」, 2023 年 3 月 26 日.

【講義】

公開講義 (高校)「心理的アセスメントに関する理論と実践」「心理支援の理論と実践」「発達心理学Ⅱ」

９．附属研究所の活動等

福岡県立大学心理教育相談室 相談室委員

人間社会学部／総合コース	職名	准教授	氏名	井上　奈美子

1．教員紹介・主な研究分野

資格：経済学博士 、経営学修士（MBA）

主な研究分野：・キャリア、人的資源管理 （企業や自治体での人事採用、女性活躍推進、女性リーダー育成、働き方改革） ・キャリア教育（大学生・高校生） ・就業体験（インターンシップ）・サービスマネジメント（ホテル・航空業界のホスピタリティ）

2．研究業績

① 最近の著書・論文

- 井上奈美子、「学生と受入先の能力評価に関する比較—大学 1・2 年生のインターンシップを通してー」九州経済学会年報、第 58 集、2020 年 12 月
- 井上奈美子・聞間理、Effect of Pre-and Post-internship Trainings for Freshmen and Sophomores in University Using the Lego Serious Play Method. 福岡県立大学人間社会学部紀要、第 29 巻、第 2 号、2021 年 3 月
- 井上奈美子・池志保、「大学 1・2 年生のためのインターンシップがもたらす教育的効果」、福岡 県立大学人間社会学部紀要、第 30 巻、第 1 号、2021 年 10 月
- 井上奈美子 「宝塚歌劇団の顧客に対するサービス・マネジメント」、九州経済学会年報 59、 1-8, 2021 年 12 月
- 井上奈美子「地方大学における地域連携インターンシップ教育プログラムの開発」福岡県立大学人間社会学部 紀要、第 31 巻、第 1 号、2022 年 10 月

②その他最近の業績

<学会発表>

- 井上奈美子、聞間理、後藤和也「レゴ®シリアスプレイ®メソッドを用いたインターンシップ事前事後教育の共起ネットワーク解析」、日本キャリア教育学会、研究大会、2020 年
- 井上奈美子「大学低学年インターンシップ事前事後研修の効果と職業価値観」、日本ビジネス実務学会、九州ブロック研究会、2020 年
- 井上奈美子「宝塚歌劇団における革新による持続的成長」、日本ビジネス実務学会、九州ブロック研究会、2020 年
- 井上奈美子「大学生の低学年インターンシップの職業的価値観の変化と派遣前後講義の設計への提案」、日本創造学会、九州ブロック研究会、2020 年
- 井上奈美子「博多阪急とのオンライン PBL 設計教育」、日本創造学会、年次大会、2021 年
- 井上奈美子「学生主体の学びあいと職業体験による社会人基礎力向上効果～振り返りと３か月後の面談に注目して～」日本キャリア教育学会研究大会、2021 年

・ 井上奈美子「課題解決型インターンシップによる学生の意識変化：マインドマップを手掛かりにして」、九州経済学会年次大会、2021 年
・ 井上奈美子「元炭鉱地域の男女共同参画アンケートに見る現状と課題」、日本ビジネス実務学会、九州ブロック研究会、2022 年
・ 井上奈美子「元炭鉱地域の男女共同参画アンケートに見る現状と課題」、日本ビジネス実務学会、全国研究大会、2022 年

③過去の主要業績

・ 学生の「力」をのばす大学教育第 12 章「女子大学生の組織学習を通じたキャリア形成に 関するフィールドリサーチ」地域創造研究叢書唯学書房、愛知東邦大学地域創造研究所(183 ページ)、2014 年
・ 「女性リーダー育成プログラムの開発と実践～九州女性ビジネススクールの成果と課題～」『日本ビジネス実務論集』第 33 号、日本ビジネス実務学会、67-76 頁、2015 年
・ "Women's career life in contemporary Japan." IAEVG International Conference 2015 国際キャリア教育学会、2015 年

3．外部研究資金

4．受賞

5．所属学会

・日本ビジネス実務学会会員（九州四国ブロック幹事）・九州経済学会 ・日本キャリア教育学会・日本創造学会

6．担当授業科目

社会人基礎力演習 2 単位・1 年 2 年・前期、教養演習 2 単位・1 年・前期、プレインターンシップ 2 単位・1 年 2 年・前期、ライフキャリア論 2 単 位・1 年 2 年・前期、キャリア教育論 2 単位・3 年・前期 、人的資源管理論 2 単位・2 年前期、 組織マネジメント 2 単位・3 年・前期、問題解決演習 2 単位・2 年 3 年・後期、グローバル社会論 2 単位・2 年・後期、日本事情 2 単位・後期・留学生

7．社会貢献活動

田川市男女共同参画推進協議審議会 会長（審議会、女性リーダー育成研修講師、男女共同参画市民意識調査など） 久留米六つ門大学講師、特定非営利法人久留米 10 万人女子会フォーラム企画監修、高校生向けキャリア講話（希望学）

８．学外講義・講演

一般社団法人日本経営協会女性ビジネススクール女性リーダー育成プログラム講師 久留米六つ門大学 講師 「日本企業における SDG s の取り組み」 田川市男女共同参画推進センターゆめっせ主催「女性リーダー育成研修会」講師 あすばる男女共同参画フォーラム 2021 特定非営利法人久留米 10 万人女子会主催「コロナ後を どう生きる？～育児、介護の地域力をあげて私たちが望む社会へ」2021 年 11 月 28 日 企画& ワークショップ講師

９．附属研究所の活動等

人間社会学部／社会福祉コース	職名	准教授	氏名	奥村　賢一

1．教員紹介・主な研究分野

同志社大学大学院社会学研究科社会福祉学専攻博士後期課程修了。博士（社会福祉学）。私が現在行っている主な研究テーマは以下の三点です。

一点目は、「学校ソーシャルワーク実践に関する研究」です。近年、複雑多様化する不登校・いじめ・非行等の教育課題を改善していくためにスクールソーシャルワーカーに求められる専門的役割や機能について実証研究を中心に行っています。二点目は、「児童虐待防止に向けた家族支援に関する研究」です。わが国の深刻な社会問題である児童虐待を早期発見・未然防止していくために求められる家族支援の具体的方法について研究を行っています。三点目は、「知的障害・発達障害（児）者の地域生活支援に関する研究」です。知的障害・発達障害（児）者の地域生活の充実を推進していく動きが広まりを見せていますが、利用可能な社会資源は限られており、障害特性に対応した専門的支援も不足しているのが現状です。このような状況を改善していくための一つの方策として、地域の有機的ネットワークを活用したソーシャルワークを研究しています。

2．研究業績

①最近の著書・論文

- 奥村賢一（2023）「障害者権利条約第24条「教育」の改善勧告（総括所見）を受けて－日本の特別支援教育とインクルーシブ教育システムの課題－」公益社団法人日本知的障害者福祉協会『さぽーと』70（2）38-44.
- 金澤ますみ・奥村賢一・郭理恵。野尻紀恵編（2022）『三訂版 スクールソーシャルワーカー実務テキスト』，学事出版.
- 奥村賢一（2022）「第4章　援助論としてのソーシャルワーク」「第6章　子どもと家庭に対する支援―虐待と貧困から捉える子ども家庭福祉―」「第11章　学校を拠点に実践を行うスクールソーシャルワーカー―子どもの教育保障に向けたソーシャルワーク―」横山登志子編『社会福祉実践とは何か』放送大学教育振興会.
- 奥村賢一（2022）「知的障害児・者の家族支援」公益社団法人日本知的障害者福祉協会『さぽーと』69（1）34-37.

②その他最近の業績

<学会発表>

- 奥村賢一（2022）「子ども虐待防止に向けた学校でのスクールソーシャルワーカーの役割」basic lecture 演者，日本子ども虐待防止学会第28回学術集会ふくおか大会，福岡サンパレス.
- 奥村賢一（2022）「自治体へのスクールソーシャルワーカー配置促進に向けた課題分析－小中学校教員と市町村教育委員会の認識から考える」コメンテーター，日本学校ソーシャルワーク学会第16回全国大会，課題別研究分科会，北星学園大学（オンライン）.

・ 奥村賢一（2022）「研究の「問い」立てに必要な視野：実践の科学化、研究成果の社会実装」シンポジスト，日本学校ソーシャルワーク学会第16回全国大会，課題別研究分科会，北星学園

<報告書>

・ Kenichi Okumura（2022）Parent Support Services -The role of School Social Worker-, Asia Network of School Social Work Newsletter , 6, 2-4.
・ Kenichi Okumura（2020）Japanese School Social Workers in the Covid-19 Pandemic, Asia Network of School Social Work Newsletter , 1, 1-3.

<辞書>

・ 奥村賢一（2021）「12　特別支援教育コーディネーター」一般社団法人日本ケアマネジメント学会編『ケアマネジメント事典』168-169.
・ 奥村賢一（2021）「非行少年」「少年審判」「矯正教育／試験観察」中坪史典・山下文一・松井剛太ほか『保育・幼児教育・子ども家庭福祉辞典』ミネルヴァ書房，538-539.

③過去の主要業績

・ 門田光司・奥村賢一（2009）『スクールソーシャルワーカーのしごと－スクールソーシャルワーカーのための実践ガイド』中央法規出版.
・ 奥村賢一（2009）「不登校児童生徒の状況改善に向けた家族支援の有効性に関する一考察－パワー交互作用モデルを基盤にした学校ソーシャルワーク」『学校ソーシャルワーク研究』第4巻.
・ 奥村賢一（2009）「ストレングスの視点を基盤にしたケースマネジメントの有効性に関する一考察－軽度知的障害者の地域生活支援実践を通して」『社会福祉学』第50巻，第1号.

3．外部研究資金

・ 科学研究費（基盤研究C）「子スクール（学校）ソーシャルワーク実習・実習指導プログラムの開発」117万円，令和3年度～令和5年度.
・ 科学研究費（基盤研究B）「子どもの貧困を支援するスクールソーシャルワークの介入プログラム構築とその評価」1,755万円，令和元年度～令和4年度.

4．受賞

5．所属学会

日本社会福祉学会、日本学校ソーシャルワーク学会、日本ソーシャルワーク学会、日本子ども虐待防止学会、福岡県立大学社会福祉学会

6．担当授業科目

【学　部】不登校・ひきこもり援助論・2単位・1年・前期、子供学習支援論・1単位・1年・後期、相談援助実習指導Ⅰ・2単位・2年・通年、子ども家庭福祉論A・2単位・2年・前期、相談援助実習指導Ⅱ・1単位・3年・通年、相談援助実習・4単位・3年・通年、相談援助演習B・4単位・3年・通年、社会福祉学演習・4単位・3年・通年、相談援助演習C・1単位・3

年・後期、学校ソーシャルワーク論・２単位・３年・後期、学校ソーシャルワーク実習指導・１単位・３年～４年・通年、学校ソーシャルワーク実習・２単位・４年・後期、家族福祉論・２単位・３年・後期、卒業論文・６単位・４年・通年

【大学院】特別研究Ⅰ・４単位・１年、特別研究Ⅱ・４単位・２年、子ども家庭福祉研究・２単位・１・２年・前期、子ども家庭福祉演習・２単位・１・２年・後期

７．社会貢献活動

一般社団法人福岡県スクールソーシャルワーカー協会・副会長

公益社団法人北九州市障害者相談支援事業協会・理事

NPO 法人福岡県子どもアドボカシーセンター・理事

日本学校ソーシャルワーク学会・査読委員

福岡県教育委員会スクールソーシャルワーカー・スーパーバイザー

福岡市教育委員会スクールソーシャルワーカー・スーパーバイザー

福岡市こども・子育て審議会・委員

福岡市登校支援対策会議・副委員長

福岡市いじめ防止対策推進委員会・副委員長

福岡県社会福祉審議会・臨時委員

田川市要保護対策地域協議会代表者会議・委員

香春町いじめ防止等対策委員会・副委員長

８．学外講義・講演

福岡県不登校児童生徒支援強化事業研修体制整備における研修会「不登校児童生徒への支援の在り方」福岡県教育センター，2023 年 2 月.

東京都足立区スクールソーシャルワーカー研修会「実践者のためのスーパービジョン」オンライン，2022 年 12 月.

熊本市教育委員会スクールソーシャルワーカー研修会「実践に基づいたスクールソーシャルワーカーの相談援助技術」オンライン，2022 年 11 月.

令和 4 年度福岡教師塾「積極的生徒指導を実現する学校経営―保護者や関係機関を巻き込むには―」福岡県教育センター，2022 年 9 月.

令和 4 年度福岡市中学校生徒指導研究会研修会「不登校生徒へのアプローチ－今の生徒指導に求められること－」オンライン，2022 年 6 月.

９．附属研究所の活動等

不登校・ひきこもりサポートセンター教員スタッフ

人間社会学部／社会福祉コース	職名	准教授	氏名	鬼塚　香

1．教員紹介・主な研究分野

2010年上智大学大学院総合人間科学研究科社会福祉専攻博士前期課程修了、修士（社会福祉学）。目白大学人間学部人間福祉学科助教を経て、2018年4月に本学に着任。精神保健福祉士・社会福祉士、福祉住環境コーディネーター2級取得。

大学卒業後、公的機関や精神科病院で、ソーシャルワーカーとして10年以上、精神障害者をはじめ生活支援を必要とする方々の支援を行ってきました。働くなかで、ソーシャルワーカーが専門職としてどのように成長していくのかに関心を持ち、大学院に進学しました。その後、ソーシャルワークのやりがいを伝えたい、ソーシャルワーカーの活躍をバックアップできるような研究をしたいと考えるようになり、大学教員となりました。現在は、ソーシャルワーカーが行うクライエントの日常生活支援に含まれる専門性をテーマにして、研究を行っています。

2．研究業績

①最近の著書・論文

- 鬼塚香「「かかわり」の意味：「知る」ことと「分かる」ことの違いーソーシャルペタゴジーにヒントを得てー」『キリスト教社会福祉学研究』55、2023年1月.
- 鬼塚香「解説2　各大学チームの具体的活動について」『「筑豊の子供を守る会」関係資料集成』編集委員編『「筑豊の子供を守る会」関係資料集成』六花出版、2022年6月.
- 鬼塚香「ソーシャルペダゴジー理論と実践の学びから見えてきた日本のソーシャルワーク理論と実践の課題」『科研費共同研究「児童の代替的ケアをめぐる国際比較研究－日本、韓国、イギリス、ドイツを中心に－」成果報告書（基盤研究B　代表細井勇　2018年度から2021年度　課題番号18H00950)』、2022年3月.
- 鬼塚香・住友雄資「2021年度教育実践報告『精神保健福祉演習』—『なりきりプレゼンテーション』導入の効果と課題—」『福岡県立大学人間社会学部紀要』第30巻（2）、2022年3月.
- 鬼塚香「わが国でソーシャルワーカーが行うクライエントの日常生活支援の理論化に向けた課題～『Social Pedagogy Tree』を手掛かりに～」『草の根福祉』第51号、2021年12月.
- 畑香理・鬼塚香・住友雄資「2020 年度教育実践報告：『精神保健福祉援助実習指導』・『精神保健福祉援助実習』—コロナ禍における教育実践と今後の課題—」『福岡県立大学人間社会学部紀要』第30巻（1）、2021年10月.
- 鬼塚香・住友雄資「2020年度教育実践報告『精神保健福祉演習』 - 『心理情緒的支援』を学生が理解するまでー」『福岡県立大学人間社会学部紀要』第29巻（2）、2021年3月.
- 住友雄資・鬼塚香「『精神保健福祉援助演習』におけるロールプレイ活用の到達点と課題—クライエントを演じることを出発点に—」『福岡県立大学人間社会学部紀要』第29巻（1），2020年10月.
- 鬼塚香・住友雄資「2019年度教育実践報告『精神保健福祉演習』-充実した演習を行うための前提と準備－」『福岡県立大学人間社会学部紀要』第29巻（1）、2020年10月.

・ 畑香理・鬼塚香・住友雄資・平川明美「2019 年度教育実践報告:『精神保健福祉援助実習指導』・『精神保健福祉援助実習』 - 精神保健福祉士に必要な技能を習得するための教育の試行—」『福岡県立大学人間社会学部紀要』第 29 巻 (1)、2020 年 10 月.

②その他最近の業績

<学会発表>

・ 鬼塚香「(シンポジウム発表) ソーシャルペダゴジーを学ぶ－対人援助専門職として学び続ける－」子ども虐待防止学会第 28 回学術集会ふくおか大会シンポジウム「ソーシャルペダゴジーの国際的動向からその日本への導入の意義と方法を考える」、2022 年 12 月.
・ 鬼塚香「精神障害者の生活支援システム」公益社団法人日本精神保健福祉士協会編『精神保健福祉士国家試験受験ワークブック 2023 専門科目編』、2022 年 6 月.
・ 鬼塚香「(書評) 舩戸良隆著『我が国籍は天に在り　志の信仰に生きる』」『キリスト教社会福祉学研究』第 54 号、2022 年 2 月.
・ 細井勇・鬼塚香「(招待講演) デンマークの対人専門職『ペタゴー』シリーズ～『ペタゴー』の源流『ソーシャルペタゴジー』って何？～」NPO 法人 DAKKO 講演会、2021 年 8 月.
・ 鬼塚香「(講演座長) ペダゴー養成大学での学びについて　専門性の高い、包括的で遊び心のあるペダゴーになる方法とは」一般社団法人日本ソーシャルペダゴジー学会第 2 回ミニ講演会、2021 年 8 月.
・ 鬼塚香「(口頭発表) バルセロナ自治大学による公開プログラム Social Pegagogy across Europe を受講して」ソーシャルペダゴジー研究会、2021 年 7 月.
・ 井上牧子・北川博司・鬼塚香・紅林聡美・寺島法弘「3　精神保健福祉相談援助の基盤」公益社団法人日本精神保健福祉士協会編『第 20～22 回　精神帆家県福祉士国家試験問題専門科目回答・解説集』へるす出版, 2020 年 6 月.
・ 細井勇・伊藤篤・稲葉美由紀・鬼塚香・杉野寿子・三上邦彦・森茂起「イギリスにおける児童ケアとソーシャルペダゴジー－スコットランド及びロンドン訪問調査報告書－」2019 年度科研費研究報告書、2020 年 3 月.

③過去の主要業績

・ 住友雄資・鬼塚香「『精神保健福祉援助演習』の演習教育法に関する研究動向と課題」『福岡県立大学人間社会学部紀要』第 28 巻 (2), 2020 年 2 月.
・ 鬼塚香「第 2 章　精神医療保健福祉の歴史的変遷と特質」井上牧子・西澤利朗編『精神医学ソーシャルワークの原点を探る－精神保健福祉士の再考－』光生館, 2017 年 10 月.

3．外部研究資金

科学研究費助成事業【基盤研究 (C) (一般)】「障害福祉分野で働くソーシャルワーカーによる『日常生活での具体的支援』の理論化」1400 千円、2023-2025 年度.

4．受賞

５．所属学会

日本社会福祉学会
日本精神障害者リハビリテーション学会
日本キリスト教社会福祉学会
福岡県立大学社会福祉学会
日本精神保健福祉士協会
全国精神保健福祉相談員会

６．担当授業科目

精神保健福祉演習・１単位・２年・後期、社会福祉学演習・２単位・３年・通年、精神保健福祉援助技術各論Ⅰ・２単位・３年・前期，精神科リハビリテーション学Ⅰ・２単位・３年・前期、精神保健福祉論Ⅲ・２単位・３年・後期、精神保健福祉演習・１単位・３年・前期、精神保健福祉援助演習・２単位・３年後期～４年後期、精神保健福祉援助実習指導・３単位・３～４年・通年、精神保健福祉援助実習・５単位・４年・通年、卒業論文・６単位・４年・通年

７．社会貢献活動

直方市障がい者差別解消調整委員会　委員長
日本精神保健福祉士協会学会誌投稿論文等査読小委員会　委員
旧田川東高校跡地活用検討委員会　委員
福岡県立大学社会福祉学会　事務局
直方市障がい者施策推進協議会　会長

８．学外講義・講演

公開講座Ⅱ「筑豊の炭鉱閉山期、「筑豊の子供を守る会」の活動を振り返る」シンポジウム登壇、2023年２月.

９．附属研究所の活動等

人間社会学部／社会福祉コース	職名	准教授	氏名	河野　高志

1．教員紹介・主な研究分野

2006年3月京都府立大学福祉社会学部卒業。2012年3月京都府立大学大学院公共政策学研究科福祉社会学専攻博士後期課程修了。博士（福祉社会学）。京都府立大学、京都女子大学、神戸親和女子大学の非常勤講師を経て、2012年10月に本学着任。専門はソーシャルワーク論、ケアマネジメント論です。これまでの研究では、①英米を中心としたケアマネジメント発展過程の整理、②ミクロ・レベルからマクロ・レベルにおけるケアマネジメントの特徴の整理、③ソーシャルワークにおけるケアマネジメント展開の検討、④地域包括ケアシステムにおける多職種連携の促進要因の分析を行ってきました。現在は、地域共生社会におけるソーシャルワーカーの活用に関する研究を進めています。また、共同研究ではソーシャルワーク実践に活用するコンピュータ支援ツールの開発を行っています。

2．研究業績

①最近の著書・論文

- 河野高志（2023）「地域共生社会の実現に向けたソーシャルワークの機能と効果　- 重層的支援体制整備事業の促進に着目して - 」『福岡県立大学人間社会学部紀要』第31巻 第2号
- 河野高志（2021）「地域包括ケアシステムの構築における課題と進捗状況の検討　- 地域包括支援センターの全国調査を通して - 」『社会福祉学』第62巻 第2号
- 河野高志（2021）『ソーシャルワークとしてのケアマネジメントの概念と展開　- 地域包括ケアシステムにみるミクロからマクロの実践 - 』株式会社みらい
- 河野高志（2021）「地域共生社会の実現に向けたソーシャルワーカーの役割と課題　- 先行研究の分析を通した検討 - 」『福岡県立大学人間社会学部紀要』第29巻 第2号

②その他最近の業績

③過去の主要業績

- 河野高志（2012）『ソーシャルワークにおけるケアマネジメント方法の構築 －実践研究による方法の理論的検証－』京都府立大学大学院公共政策学研究科博士学位論文
- 河野高志（2019）「地域包括ケアシステムにおける多職種連携の促進要因」『社会福祉学』第60巻 第1号
- 河野高志（2010）「海外のソーシャルワーク事情　- 英米の比較からみる日本のケアマネジャーの課題 - 」『月刊ケアマネジメント』12月号、環境新聞社

3．外部研究資金

令和2～5年度科学研究費助成事業（学術研究助成基金助成金）基盤研究（C）「地域共生社会の構築におけるソーシャルワーカー活用の効果に関する研究」（研究代表者：河野高志）

４．受賞

５．所属学会

日本社会福祉学会、日本ソーシャルワーク学会、日本リハビリテイション心理学会

６．担当授業科目

≪学部≫

「社会福祉学概論Ⅱ」(2単位・1年・後期)、「ソーシャルワーク演習A」(1単位・1年・後期)、「ソーシャルワーク実習指導Ⅰ」(2単位・2年・通年)、「ソーシャルワークの理論と方法A」(2単位・2年・前期)、「ソーシャルワーク実習A」(2単位・2年・後期)、「相談援助実習」(4単位・3年・通年)、「相談援助実習指導Ⅱ」(1単位・3年・通年)、「社会福祉学演習」(2単位・3年・通年)、「相談援助の理論と方法D」(2単位・3年・前期)、「相談援助演習C」(1単位・3年・後期)、「福祉専門職特講A」(3年・2単位・後期)、「卒業論文」(6単位・4年・通年)、「精神保健福祉援助実習」(5単位・4年・通年)、「精神保健福祉援助実習指導」(3単位・3～4年・通年)

≪大学院≫

「特別研究Ⅰ」(4単位・1年・通年)、「フィールドワーク」(2単位・1年・通年)、「ソーシャルワーク研究」(2単位・1～2年・前期)、「ソーシャルワーク演習」(2単位・1～2年・後期)、「特別研究Ⅱ」(4単位・2年・通年)

７．社会貢献活動

直鞍地区居住支援協議会　委員

一般社団法人日本社会福祉学会 第7期代議員

嘉麻市男女共同参画審議会　会長

８．学外講義・講演

９．附属研究所の活動等

人間社会学部／地域社会コース	職名	准教授	氏名	堤　圭史郎

1．教員紹介・主な研究分野

2008年、大阪市立大学大学院文学研究科後期博士課程単位取得退学。2009年、博士（文学）を取得。2010年4月より本学に着任。2011年、共著書『ホームレス・スタディーズ—排除と包摂のリアリティ』により、第7回日本都市社会学会賞（磯村記念賞）を共同受賞。2014年、「多重債務経験者等の生活問題に関する調査研究—福岡県立大学人間社会学部公共社会学科の社会調査実習」により、一般社団法人社会調査協会から第4回社会調査協会賞『社会と調査』賞を受賞。

主な研究分野：社会学の立場から貧困問題・都市問題・地域問題を研究している。とりわけホームレスの人々をめぐる様々な「問題」について研究してきた。近年は、生活困窮者支援モデルに関する研究、大都市都心のコミュニティ状況把握等を行っている。

2．研究業績

①最近の著書・論文

- 堤圭史郎・坂無淳・阪井裕一郎,2021,「福岡県内自治体の男女共同参画推進状況—政策意思決定・行政組織・地域自治への女性参画に着目して」『福岡県立大学人間社会学部紀要』29-2：61-74.
- 堤圭史郎,2020,「排除と差別に抗する地域社会の可能性—貧者の施設をめぐるコンフリクトに着目して」谷富夫・稲月正・高畑幸編『社会再構築への挑戦』ミネルヴァ書房.

②その他最近の業績

〈研究報告書等〉

- 堤圭史郎編，2021,『コロナ禍における困難と工夫—飲食店・教育機関・福祉施設・祭関係者へのインタビュー調査（2021年度福岡県立大学人間社会学部公共社会学科社会調査実習調査報告書）』.

〈書評〉

- 堤圭史郎, 2022,「橋本和孝・吉原直樹・速水聖子編著『コミュニティ理論と社会思想』」『社会分析』49.: 110-1.

③過去の主要業績

- 堤圭史郎,2019,「貧者の施設と地域社会—施設コンフリクトと『良好な関係』」『理論と動態』12：78-94.
- 奥田知志・稲月正・垣田裕介・堤圭史郎,2014,『生活困窮者への伴走型支援—経済的困窮と社会的孤立に対応するトータルサポート』明石書店.
- 青木秀男編, 2010,『ホームレス・スタディーズ—排除と包摂のリアリティ』,ミネルヴァ書房.（序章「ホームレス・スタディーズへの招待」、5章「家族規範とホームレス—扶助か桎梏か」（妻木進吾と共著）を執筆。

3．外部研究資金

・ 文部科学省,科学研究費補助金（基盤研究Ｂ）,「大阪大都市圏住民の社会的紐帯と近隣効果の研究：混合研究法による都市社会調査」,課題番号 20H01578,2020～24 年度,13,130 千円,研究分担者（研究代表者：川野英二・大阪市立大学）.

4．受賞

5．所属学会

関西社会学会、地域社会学会、西日本社会学会、日本社会学会、日本社会病理学会、日本社会分析学会（理事）、日本都市社会学会（事務局担当理事）、貧困研究会、ソシオロジ同人

6．担当授業科目

社会学Ａ・2 単位・1 年・前期、社会学Ｂ・2 単位・1 年・後期、社会病理学・2 単位・2 年・前期、公共社会学研究Ⅰ・1 単位・3 年・前期、公共社会学研究Ⅱ・1 単位・3 年・後期、社会変動と社会問題・2 単位・3 年・後期、卒業論文・6 単位・4 年・通年、日本事情Ｂ・オムニバス・留学生・前期、地域問題研究・2 単位・大学院・前期、地域問題演習・2 単位・大学院・後期

7．社会貢献活動

・ 一般社団法人日本伴走型支援協会・伴走型支援研究会・委員
・ 川崎町地域公共交通会議・副会長
・ 添田町子ども・子育て会議・会長
・ 田川市社会教育委員・副会長
・ 田川市地域公共交通会議・副会長
・ 特定非営利活動法人社会理論・動態研究所・研究員
・ 福岡県隣保館人権課題把握調査検討委員
・ 福岡県人権啓発情報センター企画委員会・委員　　等

8．学外講義・講演

9．附属研究所の活動等

・ 「筑豊の子供を守る会」資料集成研究会

人間社会学部／社会福祉コース	職名	准教授	氏名	寺島　正博

１．教員紹介・主な研究分野

主な研究対象については、知的障害者のグループホーム（以下、ＧＨと省略する）従事者における専門職性、および，無自覚の障害者虐待等である。

ＧＨ従事者の専門職性については、近年の「地域生活移行」の風潮に伴いＧＨは増加の一途を辿っている。しかし、利用者の増加に伴いニーズは多様化をみせ、その範囲は拡大し続けているにも関わらず、それを受け止めるＧＨ従事者の専門職性が必ずしも追いついているとは言えない。「ＧＨ従事者は専門職と成り得るのか」といった研究テーマを設定し、歴史研究や理論研究、さらには、実態解明の研究を基に専門職への道筋について探究してＧＨ従事者の専門職性を実証的に検討している。

また、昨今、新聞等が大きく報道しているように、障害者への虐待は重大な人権侵害となる。この障害者虐待に対し、国内外で未だ明らかにされていない無自覚の虐待（障害福祉サービス従事者・養護者・使用者が自覚をせずに障害者へ行う虐待）に着目し、その実態を明らかとし、無自覚の虐待の防止に向けた支援モデルの研究を行っている。

具体的には、障害福祉サービス従事者や市町村虐待防止センター職員等が、無自覚の虐待に対し、被害者（障害者）と加害者（障害福祉サービス従事者（同僚）・養護者・使用者）にどのような意識を持ち、どのような支援を展開し、どのような支援課題を抱えているのか、また、無自覚の虐待の発生要因と個人属性や環境がどのような関係性にあるのかを明らかとし、無自覚の虐待の防止に向けた支援モデルの構築を行っている。

２．研究業績

①最近の著書・論文

- （単著）寺島正博「基幹相談支援センター職員における『養護者による障害者虐待』への対応支援に関する研究－虐待対応経験を持つ職員の全国意識調査を基に－」（査読有）『障害理解研究』第 J23 号，2022 年，1-13 頁.
- （単著）寺島正博「障害福祉サービス従事者における『養護者による障害者虐待』の支援に関する研究－全国訪問系サービス事業所のアンケート調査を通して－」（査読有）『発達障害者支援システム学研究』第 19 巻第 2 号，2020 年，103 - 113 頁.
- （共著）寺島正博、石崎龍二、柴田雅博「保育所・認定こども園における ICT 導入の実績とそれに伴う業務効率の意識 - A 県におけるアンケート調査を通じて - 」『福岡県立人間社会学部大学紀要』第 31 巻第 1 号，2022 年，57-70 頁.
- （共著）寺島正博、石崎龍二、柴田雅博「介護サービス事業所における ICT 導入の実績とそれに伴う業務効率の意識 - A 県におけるアンケート調査を通じて - 」『福岡県立人間社会学部大学紀要』第 30 巻第 1 号，2021 年，63-75 頁.
- （共著）寺島正博、石崎龍二、柴田雅博「障害福祉サービス事業所における ICT 導入の実績とそれに伴う業務効率の意識 - T 県におけるアンケート調査を通じて - 」『福岡県立人間社会学部大学紀要』第 29 巻第 2 号，2021 年，47-60 頁.

②その他最近の業績

<学会発表>

- （共著）『2023 社会福祉士国家試験過去問解説集』中央法規，2022 年.
- （共著）『2023 精神保健福祉士国家試験過去問解説』中央法規，2022 年.
- （共著）『2022 社会福祉士国家試験過去問解説集』中央法規，2021 年.
- （共著）『2022 精神保健福祉士国家試験過去問解説集』中央法規，2021 年.
- （共著）『2021 社会福祉士国家試験過去問解説集』中央法規，2020 年.
- （共著）『2021 精神保健福祉士国家試験過去問解説』中央法規，2020 年.

③過去の主要業績

- （単著）寺島正博『障害者の地域移行への援助－グループホーム従事者の専門職性』文芸社，2012 年.
- （単著）寺島正博「障害福祉サービス従事者における『無意識の不適切行為』に関する研究－目睹従事者の観点によるその発生・増幅要因とその意識化要因の検討－」（査読有）『障害理解研究』第 19 号，2018 年，11-20 頁.
- （単著）寺島正博「障害福祉サービス従事者における無意識の不適切行為の防止に関する研究－全国アンケート調査による無意識の不適切行為の認識からの検討－」（査読有）『九州社会福祉学』第 13 号，2017 年，56-67 頁.

3．外部研究資金

4．受賞

5．所属学会

- 日本社会福祉学会
- 日本ソーシャルワーク学会
- 日本発達障害学会
- 日本発達障害支援システム学会
- 日本障害理解学会

6．担当授業科目

ソーシャルワーク実習指導Ⅰ・２単位・２年・通年、相談援助実習指導Ⅱ・２単位・３年・通年、相談援助演習Ｂ・２単位・３年・通年、ソーシャルワーク演習Ｂ・２単位・２年生・通年、社会福祉学演習・２単位・３年～４年・後期～前期、卒業論文・６単位・４年・通年、障害者福祉論・２単位・２年・前期、就労支援・１単位・３年・前期、精神保健福祉論Ⅰ・２単位・２年・後期、相談援助演習Ｃ・１単位・３年・後期

7．社会貢献活動

- 福岡県障がい施策審議会会長
- 田川地区障がい者自立支援協議会会長
- 飯塚市指定管理者選定委員長
- 糸田町公共交通会議副委員長
- みやこ町障害福祉施策検討委員
- 糸田町地方創生人口減少対策委員

8．学外講義・講演

- 長崎南高校のＳＳＨ事業「未来デザインスクール」講師

9．附属研究所の活動等

- 「保健福祉分野における業務改善のための情報ネットシステム・モデル開発」令和３年度研究奨励交付金（COC 研究）研究代表者，439,100 円（令和４年度），令和３年度～令和４年.

人間社会学部／総合人間社会コース	職名	准教授	氏名	中原　雄一

1．教員紹介・主な研究分野

運動やスポーツ活動を含めた身体活動の重要性について研究を行っており、青年期を中心に幼児から勤労者まで幅広く検討している。また、健康運動指導士やジュニアスポーツ指導員、健康経営エキスパートアドバイザーの資格を活かし、運動指導や助言なども行っている。

2．研究業績

①最近の著書・論文

＜著書＞

- **中原雄一**．子どもの保健と安全（髙内正子編著）（2020）教育情報出版, 担当：50-51,64-65.

＜論文等＞

- 田中美樹、吉川未桜、吉田麻美、**中原雄一**、杉野寿子、池田孝博（2023）新型コロナウイルス感染症拡大による入院中の子どもを支える上での看護師と保育士の困難感．福岡県立大学人間社会学部紀要, 31(2): 85-93.
- 田中美樹、吉川未桜、吉田麻美、**中原雄一**、杉野寿子、池田孝博（2023）入院中の子どもを支える保育士と看護師の専門性を活かした協働：第 1 報－業務内容の現状分析－．福岡県立大学看護学部紀要, 20: 9-20.
- 吉川未桜、田中美樹、吉田麻美、**中原雄一**、杉野寿子、池田孝博（2023）入院中の子どもを支える保育士と看護師の専門性を活かした協働：第 2 報－協働の現状と課題－．福岡県立大学看護学部紀要, 20: 21-32.
- **Nakahara-Gondoh Y**, Tsunoda K, Fujimoto T, Ikeda T. (2022) Effect of encouraging greater physical activity on number of steps and psychological well-being of university freshmen during the first COVID-19 related emergency in Japan. Journal of Physical Education and Sport, 22(10): 2598-2603.
- 杉野寿子、吉川未桜、田中美樹、吉田麻美、池田孝博、**中原雄一**（2022）入院中の子どもの権利と家族の QOL に関する課題．福岡県立大学人間社会学部紀要, 31(1): 71-79.
- **中原雄一**、池田孝博（2022）コロナ禍における大学新入生の歩数と精神的健康度の実態：2020年度と2021年度で相違はみられるのか．大学体育スポーツ学研究, 19: 94-99.
- 池田孝博、**中原雄一**（2021）コロナ禍での緊急事態宣言下における福岡県立大学新入生の健康状態とその関連要因．福岡県立大学人間社会学部紀要, 30(1): 191-199.
- **中原雄一**、池田孝博（2021）コロナ禍における緊急事態宣言下の大学新入生の身体活動状況と精神的健康度．福岡県立大学人間社会学部紀要, 29(2): 115-122.
- 池田孝博、杉野寿子、大久保淳子、鷲野彰子、**中原雄一**、伊勢慎（2021）保幼小連携におけるアプローチカリキュラムに関する研究の動向と課題．福岡県立大学人間社会学部紀要, 29(2): 215-223.
- 杉野寿子、田中美樹、吉川未桜、**中原雄一**、吉田麻美、池田孝博（2020）保育士養成課程における保健・健康に関する学びの研究．福岡県立大学人間社会学部紀要, 29(1): 73-80.

・ **中原雄一**、砂原里南、高橋楓（2020）ラグビーワールドカップ2019日本大会を通した「ささえる」スポーツの事例．福岡県立大学人間社会学部紀要, 28(2): 111-122.

②その他最近の業績

＜学会発表＞

・ **中原雄一**、神藤隆志、北濃成樹、永田康喜、植木貴頼、永松俊哉、鈴川一宏（2022）運動・スポーツ活動参加の違いが男子高校生における体力および体組成に及ぼす影響－中学時代と現在の参加状況からの検討．第77回日本体力医学会大会（オンライン開催）
・ **中原雄一**、角田憲治、藤本敏彦（2022）大学入学時の体力レベル別にみた精神的健康度の変化：入学時から卒業間際にかけての追跡研究．日本体育学会第72回大会（千葉）
・ 藤本敏彦、**中原雄一**、坂本譲、西脇雅人、島本英樹、黒川修行（2022）高等学校における体育実技授業の実態調査：大学生を対象としたアンケート調査から．日本体育学会第72回大会（千葉）
・ 神藤隆志、北濃成樹、永田康喜、**中原雄一**、鈴川一宏、永松俊哉（2022）男子高校生における学校運動部活動の早期離脱の関連要因．第23回日本健康支援学会年次学術大会（Web開催）
・ 藤本敏彦、永山貴洋、**中原雄一**（2022）コーチングを用いたソフトボールの授業の事例報告．第10回大学体育スポーツ研究フォーラム（オンライン開催）
・ **中原雄一**、角田憲治、藤本敏彦、池田孝博（2021）コロナ禍に伴う緊急事態宣言下の身体活動促進の効果．第76回日本体力医学会大会（オンライン開催）
・ **中原雄一**、池田孝博（2021）コロナ禍における大学新入生の歩数と精神的健康度の実態－2020年度と2021年度で相違はみられるのか－．九州体育・スポーツ学会第70回記念大会（オンライン開催）
・ Ikeda T, **Nakahara Y**. (2021) An investigation into the relationship between lifestyle, health status, mental stress and virus-fixated anxiety among university freshmen during the Covid-19 pandemic. 26th Annual Congress of the European College of Sports Science (Virtual Congress)
・ **中原雄一**、池田孝博（2021）コロナ禍に伴う緊急事態宣言が大学新入生の身体活動状況と精神的健康度に及ぼす影響．第9回大学体育スポーツ研究フォーラム（オンライン開催）
・ **中原雄一**（2020）幼児期における運動・スポーツ活動の自治体の取り組み．第75回日本体力医学会大会（Web開催）
・ **Nakahara-Gondoh Y**, Tsunoda K, Ikeda T, Fujimoto T. (2020) Cross-sectional and longitudinal relationships between physical fitness and health status among university students. American College of Sports Medicine 67th Annual Meeting (Virtual Experience),

③過去の主要業績

・ **中原雄一**、西脇雅人、藤本敏彦、池田孝博（2019）大学体育における実技と講義の同時受講が大学生の健康度・生活習慣に与える影響．大学体育スポーツ学研究, 16: 13-18.
※ 大学体育優秀論文賞 受賞

・ **中原（権藤）雄一**、角田憲治、甲斐裕子、朽木勤、内田賢、永松俊哉（2016）勤労者における介護の有無と精神的健康度、身体活動量に関する検討．厚生の指標, 63(5): 1-6.
※ 第18回川井記念賞 受賞

・ **Gondoh Y**, Tashiro M, Itoh M, Masud M, Sensui H, Watanuki S, Ishii K, Takekura H, Nagatomi R, Fujimoto T. (2009) Evaluation of individual skeletal skeletal muscle activity by glucose uptake during pedaling exercise at different workloads using positron emission tomography. J Appl Physiol. 107(2): 599-604.

3．外部研究資金

・ 科研費 基盤研究（C）（代表）研究課題「大学生において体力は精神的健康度の予測因子となり得るか？：4年間にわたる縦断研究」交付金額4,030千円，平成30年度～令和4年度.

・ 科研費 基盤研究（C）（分担）研究課題「幼児期における戸外の遊びと生活を促す仕組みと仕掛けに関する研究」交付金額4,290千円，令和4年度～令和8年度.

4．受賞

5．所属学会

日本体力医学会（評議員）、日本体育・スポーツ・健康学会、日本運動生理学会、日本発育発達学会、日本学校保健学会、日本運動・スポーツ科学学会、日本健康学会、九州体育・スポーツ学会

6．担当授業科目

＜学　部＞ 健康科学実習I・1単位・1年前期、健康スポーツ論・2単位・1年前期、教養演習・1単位・1年前期、健康科学実習II・1単位・1年後期、子どもの保健・2単位・1年後期演習・2単位・3年通年、卒業論文・6単位、4年通年

＜大学院＞ 特別研究I・4単位・1年通年、子どもの身体教育研究・2単位・1年前期、教育課題研究B・2単位・1年後期、子ども教育実践実習I・1単位・1年後期、子ども身体教育演習・2単位・1年後期、特別研究II・4単位・2年通年、地域教育課題演習・2単位・2年前期、子ども教育実践実習II・1単位・2年前期、

7．社会貢献活動

・ 日本体力医学会北九州地方会　幹事

8．学外講義・講演

9．附属研究所の活動等

・ 令和4年度 附属研究所重点領域研究：研究課題名「子どもの最善の利益のための看護師と保育士の協働と連携に関する研究」（研究代表者：杉野寿子）研究分担者

人間社会学部／総合人間社会コース	職名	准教授	氏名	中村　晋介

１．教員紹介・主な研究分野

1. 若者の意識・世代間ギャップに関する研究:「他者」を理解するための技法を洗練させてきた 社会学や社会人類学に基づいて，現代の日本に生きる若い世代の社会意識（恋愛観，社会観，就業観，ファッション選好，インターネットに対する意識など）の解読を試みています.
2. ジェンダー論・結婚観に関する研究：日本社会における「女性の社会進出」や「非婚社会の行く末」について，社会学的な観点から研究しています.
3. 大学生（特に文系大学生）の IT セキュリティを向上させる方法について，量的調査と質的調査の両方を用いて検討しています

２．研究業績

①最近の著書・論文

・ 中村晋介 ・柴田雅博・石崎龍二「文系大学生の IT セキュリティ実践の現状と課題（2)──教育プログラムの効果測定」中村晋介編『大学生の IT セキュリティに関する新たな教育プログラムの構築』福岡県立大学人間社会学部，2020 年 3 月

②その他最近の業績

<書評>

・ 書評：赤羽由起夫『少年犯罪報道と心理主義化の社会学──子どもの「心」を問題化する社会』（晃洋書房）、『現代の社会病理』No.37，2022 年.

③過去の主要業績

・ 中村晋介 ・柴田雅博・石崎龍二「文系大学生の IT セキュリティ実践の現状と課題（2)──教育プログラムの効果測定」中村晋介編『大学生の IT セキュリティに関する新たな教育プログラムの構築』福岡県立大学人間社会学部，2020 年 3 月.

・ 中村晋介「日本人がオリンピックで日本代表を応援するのは当たり前か？」友枝敏雄・山田真茂留・平野孝典編『社会学で描く現代社会のスケッチ』(株)みらい，2019 年 8 月.

・ 中村晋介「大学生と恋愛──恋愛に対する積極性の促進要因と阻害要因に着目して」『現代の社会病理』No.31:95-108，2016 年 9 月.

３．外部研究資金

４．受賞

５．所属学会

日本社会学会，日本社会病理学会，日本発達心理学会，日本青年心理学会，日本家政学会，日本社会分析学会，日本情報教育学会，西日本社会学会

6．担当授業科目

プレ・インターンシップ・2 単位・1 年・前期，教養演習・1 単位・1 年・前期，社会調査法・2 単位・1 年・後期，社会学史Ⅰ・2 単位・2 年・前期，社会学史Ⅱ・2 単位・2 年・後期，質的調査法・2 単位・2 年，後期，現代社会論A（ジェンダー・世代）・2 単位・2 年・前期，グローバル社会論・2 単位・2 年・後期，社会福祉専門職特講A・1 単位・4 年，後期

7．社会貢献活動

川崎町子ども・子育て会議 議長

福岡県立飯塚研究開発センター 入居審査委員

NPO 福祉用具ネット 理事

九州大学社会学同窓会 常任幹事

8．学外講義・講演

「占いはなぜあたるのか」九州国際大学付属高等学校，2022 年 11 月 12 日.

9．附属研究所の活動等

人間社会学部／社会福祉コース	職名	准教授	氏名	廣田　久美子

１．教員紹介・主な研究分野

2009年3月九州大学大学院法学府公法・社会法学専攻博士後期課程単位取得満期退学。2018年4月に本学着任。専門分野は社会法（社会保障法）。

主な研究課題：障害のある人の雇用保障と就労支援保障を研究している。とくに、日本の障害者の就労支援のあり方について、障害者総合支援法、障害者雇用促進法等の雇用保障法制を中心として、就労支援の中心となっている、就労継続支援給付の現状と課題、支援つき雇用等の雇用促進施策との連携、賃金・工賃と公的給付の関係などについて、障害者権利条約第２７条の「労働によって生計を立てる権利」の保障という観点から検討を行っている。

２．研究業績

①最近の著書・論文

- 大曽根寛、奥貫妃文、木村茂喜、原田欣宏、廣田久美子『社会福祉と法』放送大学教育振興会、2020年
- 廣田久美子「発達障害のある人の就労支援と所得保障－ドイツ労働生活参加給付を参考にして」福岡県立大学人間社会学部紀要第29巻第2号、91-102頁、2021年
- 廣田久美子「障害者就労における働き方の変化－訓練等給付」山田晋他編『新たな時代の社会保障法』法律文化社、2022年

②その他最近の業績

<学会発表>

- 廣田久美子「ドイツ就労支援における近年の動向」日本職業リハビリテーション学会、2022年8月28日（オンライン）
- 廣田久美子「判例回顧（社会福祉系）」日本社会保障法学会編『社会保障法』第38号、2022年

③過去の主要業績

- 廣田久美子「障害のある人への補装具とリハビリテーション保障」宮崎産業経営大学法学論集第24巻第1・2号、77-102頁、2016年
- 廣田久美子「障害者の就労支援と所得保障」日本社会保障法学会編『社会保障法』第33号、法律文化社、131-144頁、2018年
- 増田雅暢、脇野幸太郎、西山裕、木村茂喜、嶋田佳広、濱畑芳和、河谷はるみ、廣田久美子『よくわかる公的扶助論』法律文化社、2020年

３．外部研究資金

科学研究費助成事業（学術研究助成基金助成分）(基盤研究(C))平成29年度～令和4年度　交付金額4,290千円

研究課題：発達障害者等に対する経済的自立のための就労支援の保障（研究代表者）

４．受賞

５．所属学会

日本社会保障法学会、
日本労働法学会
日本職業リハビリテーション学会
日本障害法学会

６．担当授業科目

社会福祉学演習・２単位・３年・通年、相談援助実習指導Ⅰ・２単位・２年・通年、相談援助実習指導Ⅱ・１単位・３年・通年、社会保障論Ⅰ・２単位・１年・前期、権利擁護と成年後見制度・２単位・３年・前期、福祉専門職特講Ｂ・２単位・３年・前期、社会保障論Ⅱ・２単位・１年・後期、公的扶助論・２単位・２年・後期、相談援助演習Ｃ・２単位・３年・後期、福祉専門職特講Ａ・２単位・３年・後期、卒業論文・６単位・４年・後期

７．社会貢献活動

福岡県職業能力開発審議会委員
福岡県総合計画審議会委員
福岡県県営住宅管理審議会委員
田川市部落差別解消審議会委員
飯塚市職員倫理審査会委員
飯塚市政務活動費審査会委員
福岡県地域活性化雇用創造プロジェクト推進協議会構成員
福岡市障がい者差別解消推進会議委員
福岡市障がい者差別解消審査会委員

８．学外講義・講演

９．附属研究所の活動等

人間社会学部／地域社会コース	職名	准教授	氏名	藤澤　健一

1．教員紹介・主な研究分野

教育学（教育制度・政策の理論と歴史）
師範学校を中心とした教員養成史
教員研修史
教員団体史

2．研究業績

① 最近の著書・論文

- 「近代沖縄における地方教育部会の変容過程―校長層の役職者への選出をめぐって」琉球沖縄歴史学会編『琉球沖縄歴史』第3号、2021年8月
- 「近代沖縄における校長の組織化過程―校長会の運営実態を分析視点として」法政大学沖縄文化研究所編『沖縄文化研究』第49号、2022年3月
- 「近代沖縄における女性教員政策史―沖縄県女教員研究会の役職者への登用をめぐって」沖縄文化協会編『沖縄文化』第53巻第1号（第125号）、2023年1月
- 沖縄県教育庁文化財課史料編集班編『沖縄県史　各論編7　現代』沖縄県教育委員会、2022年7月（コラム「日の丸・君が代」を担当）

② その他最近の業績

<書評>

- 萩原真美著『占領下沖縄の学校教育―沖縄の社会科成立過程にみる教育制度・教科書・教育課程―』六花出版、2021年2月、『沖縄タイムス』2021年3月27日
- 我部政男著『日本近代史のなかの沖縄』不二出版、2021年7月、『図書新聞』第3514号、2021年10月9日

③過去の主要業績

- 編著『沖縄の教師像―数量・組織・個体の近代史』榕樹書林、2014年3月
- 編著『移行する沖縄の教員世界―戦時体制から米軍占領下へ』不二出版、2016年10月

3．外部研究資金

研究代表者：科学研究費補助金基盤研究（B）「米軍占領下の沖縄における現職教員研修制度の再構築過程に関する研究」20H01631（2020年度～2024年度）、総額（直接経費）6760千円

4．受賞

５．所属学会

日本教育制度学会会員
日本教育政策学会理事
日本教育行政学会会員
日本教育学会会員
日本教育史研究会会員

６．担当授業科目

教育学概論 B・2 単位・1 年前期、教師論・2 単位・1 年後期、教育史・2 単位・2 年前期、学校インターンシップ・2 単位・2～3 年、教育の方法と実践・1 単位・3 年後期、教育実習事前事後指導・2 単位・3 年後期から 4 年前期、中学校教育実習・4 単位・4 年、高校教育実習・4 単位・4 年、教職実践演習・2 単位・4 年後期、公共社会学研究Ⅰ・2 単位・3 年前期、公共社会学研究Ⅱ・2 単位・3 年前期、卒業研究・4 年

７．社会貢献活動

田川市奨学生選考委員会委員長
田川市教育事務点検評価委員会委員長
添田町教育委員会事務点検評価委員

８．学外講義・講演

長崎県立長崎南高等学校未来デザインスクール出前講義(2022 年 10 月 27 日)

９．附属研究所の活動等

人間社会学部／地域社会コース	職名	准教授	氏名	三隅　譲二

1．教員紹介・主な研究分野

集合行動論、社会的コミュニケーション論、情報社会論

2．研究業績

①最近の著書・論文

②その他最近の業績

③過去の主要業績

3．外部研究資金

4．受賞

5．所属学会

6．担当授業科目

7．社会貢献活動

8．学外講義・講演

9．附属研究所の活動等

人間社会学部／地域社会コース	職名	准教授	氏名	美谷　薫

1．教員紹介・主な研究分野

2005年 筑波大学大学院博士課程生命環境科学研究科地球環境科学専攻（5年一貫制） 修了，博士（理学）。宇都宮市役所市政研究センター専門研究嘱託員，埼玉大学教養学部非常勤講師などを経て，2009年，宇都宮市役所入庁。自治振興部地区行政課，上下水道局経営企画課などに勤務。2016年4月より現職。専門分野は人文地理学，地域行政論。

大学院在籍時には，1950年代の「昭和の大合併」や高度経済成長期の合併の後の市町村行政における地域経営の特徴を，長期スパンでの事業費配分などに着目して明らかにすることを研究課題とした。その後，宇都宮市役所市政研究センター在職時には，「平成の大合併」の時期にあわせて導入された地域自治制度の実態調査のほか，大都市制度や道州制といった地方制度の再編とその宇都宮市への影響に係る研究などを担当した。また，宇都宮市役所在籍時には（担当業務としてであるが）コミュニティ政策の動向や行政サービスの地域差などについての調査に取り組んできた。

現在は，「平成の大合併」が落ち着いてから15年程度が経過することもあり，市町村合併に伴う行政体制の再編や，地域社会・地域経済への合併の影響について，丁寧な事例調査に基づいて明らかにすることを研究上の主要な課題としている。関連して，地域単位ごとに配置される行政的・公共的機能がどのようなものとなっているのかについて，実態を明らかにすることを通じて，今後の望ましい公共的機能の空間配置を検討していく構想を有し，調査を進めている。また，事業を取り巻く環境の変化により，上水道事業の広域再編が推進されていることから，実務経験をもとに，そのあり方や課題について検討していきたいと考えている。

2．研究業績

①最近の著書・論文

- 美谷　薫　2023.「平成の大合併」とローカル・ガバナンス．公益社団法人日本地理学会編『地理学事典』丸善出版，590-591.
- 美谷　薫　2022. 福岡県田川地域における市町村行政・公共的団体の地域システム．福岡県立大学人間社会学部紀要 31（1）：115-128.
- 美谷　薫　2022. 地理学における地域の諸概念と「行政区域」研究．自治総研 527：30-69.
- 美谷　薫　2021. 水道事業広域再編に係る都道府県の「圏域」設定の特性．福岡県立大学人間社会学部紀要 30（1）：141-153.

②その他最近の業績

<学会発表>

- 美谷　薫　2023. 福岡県における水道事業の広域再編・連携の展開．2023年日本地理学会春季学術大会（東京都立大学）.
- 美谷　薫　2022. 地理学における地方行政研究：「行政区域論」を中心に．地方自治総合研究所「地域の法と政治研究会」（地方自治総合研究所）.

③過去の主要業績

- 神谷浩夫・梶田　真・佐藤正志・栗島英明・美谷　薫編著　2012.『地方行財政の地域的文脈』古今書院.
- MITANI, Kaoru　2005. A Geographical Study on Areal Management of Municipalities in Terms of Distribution of Public Investment: A Case Study of Utsunomiya City and Kawachi Town, Tochigi Prefecture, Japan. 筑波大学大学院生命環境科学研究科博士論文.
- 美谷　薫　2003. 千葉県市原市における都市経営の展開と公共投資の配分. 地理学評論 76：231-248.

3．外部研究資金

日本学術振興会科学研究費助成事業（基金分）　基盤研究（C）「人口減少社会における行政地域システムの構築に向けた基礎的研究」研究代表者（課題番号 19K01175，2019～2022 年度，全体交付決定額 2,600 千円）

日本学術振興会科学研究費助成事業（科学研究費補助金）　基盤研究（B）「ローカルガバナンスにおける地域とは何か？　地方自治の課題に応える地理的枠組みの探究」研究分担者（研究代表者：佐藤正志，課題番号 20H01393，2020～2023 年度，2022 年度全体交付決定額 4,160 千円）

4．受賞

5．所属学会

日本地理学会（2022 年度～集会専門委員），人文地理学会，経済地理学会，地理空間学会，日本行政学会，日本公共政策学会

6．担当授業科目

地理学・２単位・１年・後期
地理学概論・２単位・２年・前期
地方自治論・２単位・２年・後期
地域社会分析法Ｃ・２単位・３年・前期
公共社会学研究Ⅰ・１単位・３年・前期
地域計画論・２単位・３年・後期
公共社会学研究Ⅱ・１単位・３年・後期
卒業論文・６単位・４年・通年
日本事情Ｂ・オムニバス・留学生・前期
日本事情Ａ・オムニバス・留学生・後期

7．社会貢献活動

福岡県水道広域化推進プラン検討委員会委員（委員長）
田川市経営評価改革推進委員会委員（副委員長）
嘉麻市行政経営推進審議会委員（会長）
添田町地域公共交通会議委員
福智町地域公共交通会議委員
田川広域水道企業団水道料金等審議会委員（副委員長）

田川広域水道企業団窓口業務委託プロポーザル審査委員会委員
田川広域連携推進プロジェクト推進会議専門委員
「田川の宝！　彦山川を創る会」会長
経済地理学会『経済地理学年報』外部査読

8．学外講義・講演

9．附属研究所の活動等

附属研究所重点領域研究「地域包括ケアシステム構築に向けたGISを活用した地域診断—精神障害者の在宅療養実現を目指して—」研究分担者

人間社会学部／心理コース	職名	准教授	氏名	麦島　剛

1．教員紹介・主な研究分野

【発達障害・ストレス関連疾患・加齢についての生理心理学的研究】

ADHD や自閉症などの発達障害、統合失調症等に見られる注意に関する障害、ストレスに関連する疾患、および認知症には、中枢神経機能の変化が関与する。そこで、神経生理学・行動薬理学・学習心理学の手法と理論を用いて、薬物による中枢神経系の活動変化・ストレス負荷・神経系の先天的異常が、電気生理学的神経活動・学習・社会行動・不安に対してどのような影響をもつのかを検討している。具体的には、おもに、以下について探求している。1）ADHD・統合失調症にみられる前注意過程を含む注意障害と catecholamine 神経系の活動異常との関連を電気生理学的に解明すること。2）ADHD を併発するとみられるてんかんモデル動物を用いて、ADHD における衝動性と不注意をオペラント学習理論と行動薬理学により解明すること。3）benzodiazepine 受容体サブタイプによる不安やストレス反応への関与の違いの解明。4）老齢動物の注意機能・情動行動・記憶への認知改善薬（認知症治療薬）等の効果の解明と、これに基づく老年心理学領域での考察。これらの研究は、理論的進歩のみならず、より効果的な治療薬の開発や、より構造化された心理療法（行動療法）の開発の一助となると考えられる。また老年学や進路指導論（教育心理学）の立場から総合科学的考察を行っている。

2．研究業績

①最近の著書・論文

- Inoue M, Matsuoka H, Harada K, Mugishima G, Kameyama M. (2020). TASK channels: channelopathies, trafficking, and receptor-mediated inhibition.Pflugers Arch. 472 (7), 911-922.
- Shinba T, Murotsu K, Usui Y, Andow Y, Terada H, Takahashi M, Takii R, Urita M, Sakuragawa S, Mochizuki M, Kariya N, Matsuda S, Obara Y, Matsuda H, Tatebayashi Y, Matsuda Y, Mugishima G, Nedachi T, Sun G, Inoue T, Matsui T. (2020) Usefulness of heart rate variability indices in assessing the risk of an unsuccessful return to work after sick leave in depressed patients. Neuropsychopharmacol Rep. 40 (3), 239-245.
- 森寺亜伊子・榛葉俊一・吉井光信・井上真澄・東華岳・坂徳子・久保浩明・麦島剛.(2020). 自然発症高血圧ラット(SHR)におけるペア刺激聴覚性事象関連電位の波形昇降相違性：注意欠如・多動性障害の感覚ゲーティング不全との関連. 生理心理学と精神生理学,38(1), 4-11.
- Shinba T, Murotsu K, Usui Y, Andow Y, Terada H, Kariya N, Tatebayashi Y, Matsuda Y, Mugishima G, Shinba Y, Sun G, Matsui T. (2021). Return-to-Work Screening by Linear Discriminant Analysis of Heart Rate Variability Indices in Depressed Subjects. Sensors (Basel), 21(15), 5177.
- 麦島 剛 (2022).『精神薬理学』大浦賢治(編)実践につながる新しい教養の心理学　Pp.229-241. ミネルヴァ書房
- 麦島 剛 (2023).『学習の生理学的基礎』『生物学的制約と進化』吉野俊彦（編）読んでわかる学習心理学　印刷中. サイエンス社
- 麦島 剛 (2023). 羅針盤としての行動分析学の発展を期して　J-ABA ニューズ. 110, 11.

②その他最近の業績

<シンポジウム・学会講演・学会発表・学会開催>

- 【シンポジウム】企画：五十嵐靖博・麦島剛・吉野俊彦　司会：麦島剛　話題提供：五十嵐靖博・森山哲美・三田地真実　指定討論：吉野俊彦　行動分析学と社会：社会と日常生活の心理学化が進行する時代をどう考えるか　2022年10月　日本行動分析学会第40回年次大会
- 【学会講演】麦島剛　ADHD ﾓﾃﾞﾙ動物の衝動性と不注意：価値割引を中心に　2021年11月　第29回行動数理研究会.
- 麦島剛・ 久保浩明・石川鴻志・森寺亜伊子・井上真澄・東華岳・吉井光信・榛葉俊一　EL ﾏｳｽ（ADHD ﾓﾃﾞﾙ動物）の大脳皮質におけるミスマッチ陰性電位様反応.　2020年5月　日本生理心理学会第38回大会.
- 水流百香・有森のはら・吉田萌・久保浩明・永井友幸・森寺亜伊子・中本百合江・吉井光信・麦島 剛　ﾏｳｽの遅延価値割引課題における関数ﾓﾃﾞﾙへの適合度の検討. 2020年8月 日本行動分析学会第38回年次大会
- 吉田萌・水流百香・川嶋拓・久保浩明・永井友幸・森寺亜伊子・中本百合江・吉井光信・麦島剛. モデル動物 EL ﾏｳｽのﾄﾚｰﾄﾞｵﾌのない遅延価値割引における衝動性. 2020年8月 日本行動分析学会第38回年次大会
- 砂原里南・森寺亜伊子・榛葉俊一・吉井光信・井上真澄・東華岳・坂徳子・久保浩明・麦島剛. ADHD モデルラット（SHR）の paired stimulation に対する P50 抑制様反応および波形昇降相違性への methylphenidate 投与の効果. 2021年9月　日本心理学会第85回大会.
- 麦島 剛・春成 雄太・砂原 里南・森寺 亜伊子・久保 浩明・井上 真澄・東 華岳・吉井 光信・榛葉 俊一　ADHD ﾓﾃﾞﾙ動物 EL ﾏｳｽの自発脳波における θ/β 比. 2021年9月　日本心理学会第85回大会.
- 吉田萌・水流百香・久保浩明・永井友幸・森寺亜伊子・中本百合江・吉井光信・麦島剛　ADHD ﾓﾃﾞﾙﾏｳｽの確率割引課題における選択への atomoxetine 投与の効果. 2021年9月 第39回日本行動分析学会年次大会
- 水流百香・吉田萌・久保浩明・永井友幸・森寺亜伊子・中本百合江・吉井光信・麦島剛　ADHD ﾓﾃﾞﾙ動物の衝動性と確率割引課題における高リスク選択の関係性. 2021年9月　第39回日本行動分析学会年次大会
- 竹明玲菜・榛葉俊一・吉井光信・砂原里南・坪井芹菜・久保浩明・森寺亜伊子・井上真澄・東華岳・麦島剛　ADHD モデルとしての EL マウスにおける脳内自己刺激と脳波周波数への VI および DRL スケジュールの効果.　2022年9月　日本心理学会第86回大会
- 砂原里南・榛葉俊一・吉井光信・竹明玲菜・細谷柊斗・坪井芹菜・久保浩明・森寺亜伊子・井上真澄・東華岳・麦島剛　DDY マウス及び EL マウスの脳内自己刺激における電気刺激強度及び自発脳波の θ/β 比に関する検討. 2022年9月　日本心理学会第86回大会
- 坪井芹菜・水流百香・久保浩明・吉田萌・森寺亜伊子・永井友幸・砂原里南・竹明玲菜・吉井光信・麦島剛　ADHD モデル動物 EL マウスの確率割引課題における リスク指向性と衝動性の関連. 2022年9月　日本心理学会第86回大会
- 麦島剛・中田萌絵・砂原里南・竹明玲菜・坪井芹菜・吉井光信・井上真澄・東華岳 画像解析を

用いたADHDﾓﾃﾞﾙ動物ELﾏｳｽの オープンフィールドにおける社会的行動. 2022年9月日本心理学会第86回大会

・ 水流百香・坪井芹菜・甲斐田茉那・吉田萌・久保浩明・永井友幸・森寺亜伊子・中本百合江・吉井光信・麦島剛　確率割引におけるADHDモデルマウスの選択行動のLogue et al. (1984)式を用いた検討. 2022年9月　日本行動分析学会第40回年次大会

・ 【学会開催】日本行動分析分析学会第40回年次大会　2022年9,10月　準備委員会委員長　福岡県北九州市

③過去の主要業績

・ 麦島 剛 (2014)注意欠陥・多動性障害（ADHD）の注意障害の行動神経科学—ミスマッチ陰性電位を中心としたモデル動物研究の動向—　福岡県立大学心理臨床研究, 6, 137-144.

・ 麦島 剛 (2015) アルツハイマー病の動物モデル—高齢期の生理心理学における研究法の一方向性—　福岡県立大学心理臨床研究, 7, 67-76.

・ 麦島 剛 (2016) 神経経済学の進展と視座：衝動性をめぐる心理臨床・エネルギー政策・組織経営への応用と視座. 福岡県立大学心理臨床研究, 8, 25-35.

・ 麦島 剛 訳 (2018) Näätänen, R., Elyse S. Sussman, E.S., Salisbury, D., Shafer, V.L.著 認知機能不全の指標としてのミスマッチ陰性電位. 福岡県立大学心理臨床研究, 10, 25-46.

3．外部研究資金

日本学術振興会　科学研究費基盤研究(C)　（単独獲得）「ＡＤＨＤ動物研究によるニューロフィードバ ック・薬物療法・応用行動分析の相乗化」課題番号20K03029, 429万円, 2020～2022年度

4．受賞

5．所属学会

日本心理学会、日本生理心理学会、日本動物心理学会、日本神経精神薬理学会、日本行動分析学会、早稲田大学心理学会

6．担当授業科目

生理心理学及び神経心理学 2単位, 2年後期、心身科学 2単位,2年前期、加齢基礎論 2単位, 2年後期2年,心理学実験Ⅰ 2単位, 2年前期、心理学実験Ⅱ 2単位, 2年後期、心理学研究法, 2単位, 2年後期、老年心理学 2単位, 3年後期、演習 2単位, 3年前期・3年後期・4年前期、卒業論文指導 6単位, 4年、神経生理学特論 2単位, 修士1年、老年心理学特論 2単位, 修士1年、特別研究 4単位, 修士1年、特別研究 4単位, 修士2年

7．社会貢献活動

・福岡県立大学生活協同組合　理事長

・日本生理心理学会　評議員

・日本行動分析学会第40回年次大会委員長

8．学外講義・講演

9．附属研究所の活動等

2021・2022年度　奨励研究交付金　重点領域研究 芋川浩・麦島剛「神経の構築と情報処理機能の総合的解析：医療・福祉・教育の基盤となる医学神経科学研究」

人間社会学部／ 地域社会コース・総合人間社会コース	職名	准教授	氏名	陸　麗君

1．教員紹介・主な研究分野

1997年6月一橋大学社会学研究科博士課程修了。博士（社会学）。農林水産省農業総合研究所（現農林水産政策研究所）海外部特別研究員、中国華東理工大学社会与公共管理学院准教授を経て2019年4月から本学に着任。

私の初期研究は高度経済成長にともなう日本の地域社会の構造変化に焦点をあて、「個」と「共同」の視点からアプローチしてきた。その後、「個」と「共同」の枠組みで、日本社会との比較をしながら、改革開放後の中国の地域社会の変容の解明に取り組んできた。

近年、グローバル化のなかの都市コミュニティと移民問題に焦点をあて、研究を進めている。主に日本における外国人問題、特に華僑・華人の起業とコミュニティ、また中国の「農民工」の国内移動と都市コミュニティ問題、中国の都市基層社会の変容、日中コミュニティの比較に関する調査研究である。

2．研究業績

①最近の著書・論文

＜著書（分担執筆　編著＞

- 陸麗君・蕭閎偉・水内俊雄編著　2021年6月　『大都市における人口構造の変化と空間の変容』、URP先端的都市研究シリーズ28、大阪市立大学都市研究プラザ.
- 陸麗君　2021年8月、「第14章　「【中国】管理か自治か―居民委員会の「治理」モデル」大内田鶴子・鰺坂学・玉野和志編著『世界に学ぶ　地域自治』学芸出版社、pp.224~239.
- コルナトウスキヒェラルド・陸麗君編著　2022年3月　『外国人・寮付き派遣労働者の地域生活を支える社会的インフラ』、URP先端的都市研究シリーズ33、大阪市立大学都市研究プラザ.

＜論文＞

- 陸麗君「世界のコミュニティ 中国　中国との比較からみた日本の町内会」2020年6月、『建築ジャーナル』No.1305　2020年6月号　pp.15~17.

＜報告＞

- 池田孝博・中原雄一・陸麗君・松岡佐智・佐藤繁美　2020年2月、「福岡県立大学人間社会学部紀要の査読制度導入後の現状と諸課題」、『福岡県立大学人間社会学部』Vol.28 No.2、pp123~131.

②その他最近の業績

<学会発表>

- 陸麗君 2020年11月1日、新型コロナウイルス蔓延下における華僑・華人の滞在と経済活動の現状と課題」第93回　日本社会学会　（Zoomによる発表）.

・ 陸麗君　2020 年 12 月 12 日、「感染症パンデミック危機状況下における外国人の経済活動と居住の現状と課題」大阪市立大学主催「東アジア包摂都市ネットワーク国際シンポジウム「2020 年度共同利用・共同研究課題（4）（Zoom による発表）.

・ Toshio Mizuuchi , Lijun Lu , Zechuan Zhu　6th July 2021 "The revival of a declining shopping street in the old inner-ring area through the vigorous action of Chinese immigrants; the case of Osaka ""Urban Mobilities in the 21stCentury "FFJ-MICHLIN FOUNDATION WORKSHOP.（Zoom による発表）.

・ 陸麗君　2022 年 11 月 1 日、「華僑・華人の起業と集住—大阪インナーシティを事例に—」中国社会科学院、上海研究院主催「大都市的治理与参与"暨纪念中日邦交正常化 50 周年国际学术研讨会 （「大都市のガバナンスと参加　中日国交正常化 50 周年記念　国際シンポジウム]）（Zoom による発表）.

・ 陸麗君　2022 年 12 月 10 日、「華僑華人の越境的な移動とネットワークの形成—関西地域の華僑・華人のネットワークを手掛かりに—」日中社会学会冬季研究集会　特別企画「日中交流の展望を問う①　日中交流の過去と現在—グローカルな視点から問い直す」於成城大学

<書評>

・ 陸麗君　2022 年 3 月、「奈倉京子編著『中華世界を読む』（東方書店、2020 年）『日中社会学研究』2022 年第 29 号

③過去の主要業績

・ 陸麗君　2017 年 6 月、「越境にともなう起業と社会圏の形成—関西地域の新華僑・華人の経済活動を中心に—」『日中社会学研究』第 25 号、pp.22-31.

・ 陸麗君　2019 年 4 月、「第 6 章「対立」から「融合」と「管理」へ—流動人口のネットワークをめぐる流入地での戦略」　南裕子・閻美芳編著『中国の「村」を問い直す』、明石書店、pp176~198.

・ 陸麗君　2019 年 5 月、「第１６章　インナーシティの新華僑と地域社会」　鰺坂学・西村雄郎・丸山真央・徳田剛編著『さまよえる大都市・大阪 —「都心回帰」とコミュニティ—』、東信堂、pp316~324.

3．外部研究資金

・ 文部科学省　科学研究費補助金（基盤研究 C）「在留外国人のトランスナショナル起業とその社会的影響——華人・華僑起業者を中心に」（研究課題番：21K01906）2021~2024 年度
研究代表者

・ 文部科学省　科学研究費補助金（基盤研究 B）「生活困窮者自立支援の実践に見る社会包摂原理の日本的受容に関する学際的探究」（研究課題番：21H00636）2021~2024 年度
研究分担者（研究代表者　水内俊雄・大阪市立大学）

・ 文部科学省　科学研究費補助金（基盤研究 C）「大都市ガバナンス改革の都市政治社会学的研究」　（研究課題番：20K02089）2020~2023 年度
研究分担者（研究代表者　丸山真央・滋賀県立大学）

・ 大阪市立大学先端的都市研究拠点「共同利用事業・共同研究公募」2021年度採択課題「外国人労働者の自立生活を支える社会的連帯ネットワーク――コミュニティハブ概念を中心に」2021年度　共同研究者（研究代表者　コルナトウスキヒェラルド・九州大学）

・ 九州大学　アジア・オセアニア研究教育機構（Q－AOS）学際的研究教育活動支援プログラム「流動的労働者コミュニティをめぐる地域ガバナンスに関する学際的研究――支援共助ネットワークの役割を中心に」2022年度
共同研究者（研究代表者　コルナトウスキヒェラルド・九州大学）

4．受賞

5．所属学会

日本社会学会、日本都市社会学会、地域社会学会、日中社会学会、関西社会学会

6．担当授業科目

中国の社会と文化・2単位・1年と2年・後期、中国語Ⅱ-(1)A・1単位・2年・前期、中国語Ⅱ-(1)B・1単位・2年・前期、中国語Ⅱ-(2)A・1単位・2年・後期、中国語Ⅱ-(2)B・1単位・2年・後期、都市社会学・　2単位・2年・前期、中国語Ⅲ-(1)・　1単位・3年・前期、中国語Ⅲ(2)・1単位・3年・後期、公共社会学研究Ⅰ・1単位　3年・前期、公共社会学研究Ⅱ・1単位　3年・後期、卒業論文・6単位・4年・通年

7．社会貢献活動

田川市「バリアフリー方針」作成協議会委員
田川市石炭・歴史博物館等運営協議会委員

8．学外講義・講演

9．附属研究所の活動等

中国華東理工大学社会与公共管理学院客員研究員
大阪公立大学都市科学・防災研究センター（UReC）特別研究員

人間社会学部／こどもコース	職名	准教授	氏名	鷲野　彰子

1．教員紹介・主な研究分野

大阪教育大学教育学部教養学科芸術専攻音楽コース卒業、ニューヨーク州立大学パーチェス・カレッジ大学院及びデン・ハーグ王立音楽院大学院修了、大阪大学大学院文学研究科博士課程後期修了、博士（文学）。2011 年より本学に就任。スタンフォード大学人文科学大学院客員研究員(2016 年度)。

ピアノ及び歴史的楽器（クラヴィコード、フォルテピアノ）の演奏活動、また 19 世紀の演奏様式を研究しており、近年は 20 世紀初期の歴史的録音やピアノロール等の資料を用いた演奏分析研究を行っている。

2．研究業績

①最近の著書・論文

- 鷲野彰子, 2023,「ヨゼフ・ホフマン（1876-1957）の即興的前奏演奏」『阪大音楽学報』19, 47-72.

②その他最近の業績

<学会発表>

- 【研究発表】鷲野彰子「前奏を演奏する文化：初期録音に残された「前奏」演奏」日本音楽表現学会，誌上発表, 2020 年 11 月 30 日.
- 【研究発表】Akiko Washino, Analyzing Piano Rolls and Acoustic Recordings of Chopin's Op.15 No.2 in Order to Investigate How Tempo Rubato Was Applied by Performers born in the 19th Century, 2nd Global Piano Roll Meeting, Hochschule der Künste Bern (Bern), 2022 年 6 月 18 日.
- 【研究発表】鷲野彰子「20 世紀前半の演奏会における即興の前奏演奏実践例の分析」日本音楽学会第 73 回大会, 西南学院大学, 2022 年 11 月 27 日.
- 【一般誌論稿・雑誌記事】鷲野彰子, 2022, レコード誕生物語第 52 回「現代に通じるモダニスト。J.ホフマンのザ・ゴールデン・ジュビリー・コンサート」『レコード芸術』2022 年 4 月号, 64-68.
- 【一般誌論稿・雑誌記事】鷲野彰子, 2022,「グレン・グールドの演奏とノイズ」及びディスク・レビュー『レコード芸術』2022 年 11 月号, 49, 51, 54, 57.
- 【一般誌論稿・新聞】鷲野彰子, 2022,「膨大な数の蓄音機と SP レコードコレクション」『大阪日日新聞』2022 年 6 月 21 日版, 8.

③過去の主要業績

- 【演奏】鷲野彰子「シューベルトとヴォジ―シェク」
  ザ・フェニックスホール 2007 年 2 月, 大倉山記念館 2007 年 1 月.

・ 【演奏】鷲野彰子「モーツァルトとショパン～隠れた水脈～」
衍芸館 2008年10月, ザ・フェニックスホール 2008年10月.
・ 【演奏】鷲野彰子「クラヴィコードand/orピアノ」ザ・フェニックスホール 2009年12月.

3．外部研究資金

・ 平成31（令和元）年度-令和3年度（延長中） 科学研究費補助金・基盤(C)
「19世紀の演奏文化における前奏演奏」(課題番号：19K00256)
研究代表者 3,380,000円
・ 令和4年度-令和8年度 科学研究費補助金・基盤(B)
「20世紀前半の歴史的演奏とピアノロールの演奏解析によるルバート奏法分析」
(課題番号：22H00629) 研究代表者 14,560,000円

4．受賞

5．所属学会

日本音楽学会　日本音楽表現学会

6．担当授業科目

（学部）
音楽Ⅰ・2単位・1年・通年、音楽Ⅱ・1単位・2年・前期、音楽Ⅲ・1単位・2年・後期、
幼児と表現B・1単位・3年・前期、保育内容の指導法・表現B・1単位・3年・後期、
演習・2単位・3年・通年、卒業論文・6単位・4年・通年、
保育内容演習・2単位・4年・後期、保育・教育実践演習（幼稚園）・2単位・4年・後期

（大学院）
子ども教育表現研究・M1年・2単位・前期、子ども教育表現演習・M1年・2単位・後期、
教育課題研究B・M1年・2単位・後期、子ども教育実践実習Ⅰ・M1年・2単位・後期、
子ども教育実践実習Ⅱ・M2年・2単位・前期、地域教育課題演習・M2年・2単位・前期、
特別研究・M1～2年・4単位・通年

7．社会貢献活動

福岡県文化芸術振興審議会委員

8．学外講義・講演

9．附属研究所の活動等

人間社会学部／子どもコース	職名	講師	氏名	伊勢　慎

1．教員紹介・主な研究分野

岡山大学大学院教育学研究科学校教育専攻幼児教育講座修了、修士（教育学）。

修了後、保育者として現場経験が３年あります。授業や研究においてもその時の経験を活かし，子どもの育ちに寄与できるよう取り組んでいます。特に、初めての実習である保育実習Ⅰ（保育所）を担当しているため、現場での基本的なことから核となる子ども理解、指導案等の書き方などの指導に力を入れています。

主な研究分野は、保育、幼児教育の内容に関すること、保育者養成に関することなどです。近年では、園内研修や保育者の前向きな働き方についても研究をしています。

2．研究業績

① 最近の著書・論文

- 七木田敦、上村眞生、岡花祈一郎、伊勢慎、その他：『子ども家庭支援論－子どもを中心とした家庭支援－』教育情報出版、2022
- 中坪史典、山下文一、松井剛太、伊藤嘉余子、立花直樹、伊勢慎、その他：『保育・幼児教育・子ども家庭福祉辞典』（第１部⑤労働環境）、ミネルヴァ書房、2021
- 井手裕子、伊勢慎、池田孝博「保育者の困り感への対応における知識・技術獲得の現状と課題 - 課題解決のための情報収集とソーシャルスキルに着目して - 」、福岡県立大学人間社会学部紀要、第 31 巻 2 号、2023
- 高口知浩、伊勢慎「同僚性の形成に向けた取り組みの変化について - コロナ禍前後の比較 - 」、福岡県立大学人間社会学部紀要、第 31 巻第 1 号、2022
- 伊勢慎、池田孝博、櫻井国芳、古橋啓介「子どもの道徳・規範意識と運動に関する一考察」、福岡県立大学人間社会学部紀要、第 31 巻第 1 号、2022
- 高口知浩、伊勢慎、古橋啓介「公立保育所における同僚性の形成に関する質的研究－離職保育者の語りから－」、福岡県立大学人間社会学部紀要、第 30 巻第 1 号、2021
- 池田孝博、杉野寿子、大久保淳子、鷲野彰子、中原雄一、伊勢慎「保幼小連携におけるアプローチカリキュラムに関する研究の動向と課題」、福岡県立大学人間社会学部紀要』第 29 巻第 2 号、2021

② その他最近の業績

<学会発表>

- 伊勢慎、小山憲一郎「アフターコロナ時代における保育士のニューノーマルな取り組みの一考察２」、国際幼児教育学会第 43 回大会、2022
- 伊勢慎「アフターコロナ時代における保育士のニューノーマルな取り組みの一考察―保育士の語りから―」、日本保育学会第 74 回大会、2022
- 井手裕子、伊勢慎「幼稚園教諭における情報収集の困り感に着目して―インタビューを通して見えてきた多様性・同僚性とそれらを支える園文化－」、日本保育学会第 74 回大会、2022

・ 森山也子、伊勢慎「公立保育所保育士が担う多様な保育ニーズと労働実態からみる職場改善・負担軽減に関する一考察－語りから見えてきた立場を超えた職員間の協働－」、日本保育学会第74回大会、2022
・ Makoto ISE：Study on New Mental Health Measures for Nursery School Teachers in Post-Covid Era. The 42nd conference of the International Association of Early Childhood Education, 2021
・ 伊勢慎「量的にみる保育士の長期勤務におけるポジティブな要因に関する研究」、日本保育学会第74回大会、2021
・ 井手裕子、伊勢慎「保育者の情報収集の実態から考える保育者支援」、国際幼児教育学会第42回大会、2021
・ 森山也子、伊勢慎「公立保育所保育士が感じている日常的な労働負担感を軽減する方策についての研究」、国際幼児教育学会第42回大会、2021
・ 伊勢慎「長期勤務保育者の特徴とその継続要因とは」、日本保育学会第73回大会、2020

③ 過去の主要業績

・ 伊勢慎「私立保育園保育士の長期勤務要因に関する研究」、国際幼児教育研究第26巻、2019
・ 中坪史典、境愛一郎、濱名潔、保木井啓史、伊勢慎、サトウタツヤ、安田裕子『質的アプローチが拓く「協働型」園内研修をデザインする　保育者が育ち合うツールとしてのKJ法とTEM』、ミネルヴァ書房、2018
・ 伊勢慎『保育暦』、ふくろう出版、2012

3．外部研究資金

・ 科学研究費助成事業（基金分）基盤研究C：「アフターコロナ時代における保育士の新しいメンタルヘルス対策の実行手法の検討」（代表），交付金額4,030千円，2021-2023

4．受賞

5．所属学会

日本保育学会、国際幼児教育学会（理事）、日本子ども社会学会、日本質的心理学会、日本乳幼児教育学会、日本混合研究法学会

6．担当授業科目

（学部）

教養演習・１単位・１年・前期、保育内容総論・２単位・２年・前期、保育の計画と評価・２単位・２年・後期、保育実習指導Ⅰ・２単位・２～３年・通年、保育実習Ⅰ・４単位・３年・前期、乳児保育Ⅱ・２単位・３年・前期、保育実習指導Ⅱ-A・１単位・３年・後期、保育実習Ⅱ-A・２単位・３年・後期、演習・２単位・３年・後期・通年、卒業論文・６単位・４年・通年、

保育・教職実践演習（幼稚園）・２単位・４年・後期
（大学院）
教育課題研究Ａ・２単位・修士１年・前期、子ども保育計画研究・２単位・修士１年・前期、子ども保育計画演習・２単位・修士１年・後期

７．社会貢献活動

香春町教育委員会評価委員委員長、国際幼児教育学会理事、北九州市児童福祉施設等第三者評価委員会専門委員

８．学外講義・講演

熊毛地区保育連合会職員研修会講師、北九州市保育士研修「領域・言葉」講師

９．附属研究所の活動等

人間社会学部／総合人間社会コース	職名	講師	氏名	河本　恵美

1．教員紹介・主な研究分野

研究分野は、海事英語及び海事英語教育である。研究内容は、海難事故報告書や管制官の交信データを収集し、母語に干渉された英語の誤用表現を分析している。また、海上交通における海難事故や海上での被害を防止するために、日本と韓国間 による海事英語や海事文化の比較研究も行い、日韓海上交通管制官の外国船への対応を文化面 からも検証している。

2．研究業績

①最近の著書・論文

・ “The Effectiveness of Maritime English Learning Program: An Investigation of Misused Expressions and First-Language Interference among Japanese Vessel Traffic Operators” （単著）『Journal of World Ocean Development』 published by World Ocean Development Institute at Korea Maritime and Ocean University (2023 年 3 月 31 日)

②その他最近の業績

<学会発表>

・ 「日本人 VTS 運用管制官が使用する海事英語—日本語に干渉された誤用表現の分析と効果的学習法—」日本人類言語学会　第 22 回学術大会　(2022 年 11 月 20 日)　北九州市立文学館

③過去の主要業績

・ ＜博士論文＞A Comparative Study of Maritime Cultures: A Study of the Actions and Procedures of Vessel Traffic Service Officers in Japan and Korea (2017 年 3 月)

・ "A Comparative Study of the Actions and Procedures of Korean and Japanese Vessel Traffic Service Officers”　(共著)『Journal of World Ocean Development』 published by World Ocean Development Institute at Korea Maritime and Ocean　University, Vol. 26. pp. 200-227. (2017)

・ “A Comparative Study of Communication Styles: A Study of the Differences and Similarities of Communication Patterns in Japan and Korea”, 北九州市立大学大学院社会システム研究科『社会システム研究』第 16 号 (2018)

3．外部研究資金

4．受賞

5．所属学会

・日本人類言語学会

・社会言語科学会

6．担当授業科目

・教養演習（1年次前期　1単位）　・英語Ⅱ-(1)（1年次前期　1単位）

・英語Ⅱ-(2)（1年次後期　1単位）　・英語Ⅳ-(1)（3年次前期　1単位）

・英語Ⅳ-(2)（3年次後期　1単位）

・日本事情Ｂ（留学生履修科目前期　1単位）　・日本事情Ａ（留学生履修科目後期　1単位）

7．社会貢献活動

8．学外講義・講演

9．附属研究所の活動等

人間社会学部／地域社会コース	職名	講師	氏名	黒川　すみれ

1．教員紹介・主な研究分野

2020年、お茶の水女子大学大学院人間文化創成科学研究科博士後期課程修了。博士（社会科学）学位を取得。東京大学社会科学研究所特任助教等を経て、2022年4月より本学に着任。

主な研究分野は家族社会学、計量社会学、労働社会学。女性の職業キャリア形成をテーマに、職業経歴が現在の就業行動や意識に及ぼす影響について、計量的手法を用いて分析を行っている。また、女性活躍推進制度（女性の積極採用や正社員登用など）に着目して、企業の職場環境と個人の就業行動との関連について検証し、仕事と家庭の両立という視点から就業支援政策へのインプリケーション導出にむけて取り組んでいる。

近年は新型コロナウイルス感染拡大に伴う所得格差拡大の実態把握とその原因の解明、系列分析の手法を社会学研究（主に職業経歴データ分析）に応用することに取り組んでいる。

2．研究業績

①最近の著書・論文

- 黒川すみれ，2020,「女性活躍推進と不本意非正規労働」『東京女子大学社会学年報』第8号，1-16.
- 黒川すみれ，2020,『Dynamic Hamming Distanceによるキャリアの類型化—女性の職業キャリアの記述と計量分析への応用—』お茶の水女子大学大学院人間文化創成科学研究科（博士学位論文）.
- 黒川すみれ，2021,「コロナショックの所得格差拡大への影響—社会階層の視点から」樋口美雄／労働政策研究・研修機構 編『コロナ禍における個人と企業の変容—働き方・生活・格差と支援策』慶應義塾大学出版会、261-280.
- 黒川すみれ，2023,「職場や働き方をめぐる個別労働紛争の男女比較分析」佐藤岩夫・阿部昌樹・太田勝造（編）『現代日本の紛争過程と司法政策—民事紛争全国調査　2016-2020』東京大学出版会.
- 黒川すみれ，2023,「コロナショック後の所得変動」樋口美雄／労働政策研究・研修機構（編）『検証・コロナ期日本の働き方—意識・行動変化と雇用政策の課題』慶応義塾大学出版会.

②その他最近の業績

<学会発表>

- 黒川すみれ,「壮年期女性の職業キャリアと階層帰属意識」第93回日本社会学会大会，松山大学（オンライン），2020年10月.
- 黒川すみれ,「女性の働き方と意識の変容—東大社研パネル調査（JLPS）データの分析（6）」第94回日本社会学会大会，東京都立大学（オンライン），2021年11月.

③過去の主要業績

- 黒川すみれ, 2016,「社会不公平感の形成における収入比較メカニズム―相対的剥奪指数を用いた分析から―」『年報社会学論集』関東社会学会、第29号、68-79.
- 黒川すみれ, 2017,「正社員から非正社員への転換―正社員時の職場環境に着目して―」『壮年非正規雇用労働者の仕事と生活に関する研究―正社員転換を中心として―』(労働政策研究報告書No.188), 労働政策研究・研修機構, 117-130.
- Kurokawa, Sumire, " Re-Defining Women's Social Status By Optimal Matching of Occupational Career, " 19th International Sociological Association World Congress of Sociology, Canada Toronto, Poster, July, 2018.

3．外部研究資金

日本学術振興会科学研究費助成事業　若手研究（研究代表者）研究課題名「女性の職業キャリア研究における系列分析手法の応用」(課題番号 22K13543)、交付金額：3,250千円、令和4年度～令和6年度.

4．受賞

5．所属学会

日本社会学会、日本家族社会学会、数理社会学会、International Sociological Association RC28 (Social Stratification and Mobility)、西日本社会学会、日本社会分析学会

6．担当授業科目

公共性の社会学・2単位・1年・前期、家族社会学A・2単位・2年・前期、家族社会学B・2単位・2年・後期、社会調査実習Ⅰ・2単位・2年・前期、社会調査実習Ⅱ・2単位・2年・後期、福祉社会学・2単位・3年・前期、社会学の分析法B・2単位・3年・後期、公共社会学研究Ⅰ・1単位・3年・前期、公共社会学研究Ⅱ・1単位・3年・後期、卒業論文・6単位・4年・通年

7．社会貢献活動

- 独立行政法人労働政策研究・研修機構 研究プロジェクト「新型コロナウイルスによる経済、雇用・就業への影響、及び経済、雇用・労働対策とその効果についての分析に関する研究会」　研究会委員
- 行橋市総合計画審議会　委員
- 田川市後藤寺駅前整備基本計画策定会議及び後藤寺駅前整備基本コンセプト検討部会　委員
- 飯塚市情報公開審査会　委員

8．学外講義・講演

9．附属研究所の活動等

人間社会学部／心理コース	職名	講師	氏名	小林　亮太

1．教員紹介・主な研究分野

2020年3月に広島大学教育学研究科を修了し，福岡県立大学人間社会学部の講師として大学教育，研究に従事しています。研究テーマは，大きく感情制御と内受容感覚の2つです。まず，感情制御については，普段の生活の中で感じるネガティブな感情（例: 不安，怒り）をどうしたら緩和することができるのか？ どういった方略が有効なのか？といったことを検討してきました。今後はこうした感情制御のメリットを追求するとともに，そのデメリット（弊害）の解明や日常応用について研究をしていきたいと考えています。

次に，内受容感覚についてですが，そもそも内受容感覚という用語は，身体内部の反応（例: 心臓の鼓動，胃の収縮）に関する感覚を意味します。そしてたとえば，不安なときに心臓がどきどきするように，あるいは怒っているときに腸が煮えくり返ると表現するように，この内受容感覚は感情と密接に結びついています。これまで私はこうした内受容感覚への意識（注意）の向きやすさと感情体験の関連について研究を行ってきました。現在は，内受容感覚への意識を簡単に測定できる尺度を作成することに力を注いでおり，子ども向けの尺度も作成していければと思案しています。

2．研究業績

①最近の著書・論文

- Shigematsu, J., & Kobayashi, R. Relationship Between Emotion Regulation Strategies and Total Conviction in Promoting Behavior Change. Frontiers in Psychology, 4938.
- Urano, Y., Kobayashi, R., & Sakakibara, R. (2022). Revision and validation of the Japanese-version cognitive emotion regulation questionnaire: psychometric properties and measurement invariance across gender. Cogent Psychology, 9(1), 2064790.
- 小林亮太（2022). Topics3 感情制御の伝染（pp.74-75）/ Topics5 安静時脳活動と感情制御（pp.125-126）有光興記（監修）感情制御ハンドブック 北大路書房

②その他最近の業績

<学会発表>

- 庵野真代・本多樹・小林亮太・中尾敬（2022). 日本語版 Implicit Theories of Emotion Scale の作成および信頼性・妥当性の検討 日本心理学会86回大会 2022年9月8日-11日 日本大学
- 則武良英・小林亮太・李受珉・小田真実（2022). 再評価とキャリア選択不安におけるキャリア態度の媒介効果 日本心理学会86回大会 2022年9月8日-11日 日本大学
- 小林亮太・本多樹（2022). Body Perception Questionnaire Body-Awareness の2つの得点化方法の比較 感情心理学会第30回大会 2022年5月27-29 関西学院大学

③過去の主要業績

- 小林亮太・本多樹・町澤まろ・市川奈穂・中尾敬 (2021) 日本語版 Body Perception Questionnaire-Body Awareness (BPQ-BA) 超短縮版の作成 –因子構造，および信頼性，妥当性の検討– 感情心理学研究, 28, 38-48.
- Kobayashi, R., Honda, T., Hashimoto, J., Kashihara, S., Iwasa, Y., Yamamoto, K., Zhu, J., Kawahara, T., Anno, M., Nakagawa, R., Haraguchi, Y., & Nakao, T. (2020). Resting-state Theta/Beta Ratio is Associated with Distraction but not with Reappraisal. Biological Psychology, 155, 107942.
- Kobayashi, R., Shigematsu, J., Miyatani, M., & Nakao, T. (2020). Cognitive reappraisal facilitates decentering: A longitudinal cross-lagged analysis study. Frontiers in Psychology, 11:103.

3．外部研究資金

- 日本学術振興会 科学研究費助成事業 若手研究 (22K13818): 児童生徒の内受容感覚の気づき: 尺度作成から介入まで (代表) 2022.4-2025.3
- 日本学術振興会 科学研究費助成事業 研究活動スタート支援 (21K20289): 感情制御のデメリット: 再評価は準備不足に繋がるか? (代表) 2021.8-2023.3

4．受賞

5．所属学会

日本心理学会，日本感情心理学会，日本認知心理学会，日本社会心理学会，日本認知・行動療法学会など

6．担当授業科目

教養演習・1単位・1年 ・前期 (共同)，心理実習Ⅰ・1単位・2年・通年 (共同)，心理学統計法・2単位・2年・前期，心理学実験Ⅰ・2単位・2年・前期 (共同)，心理学実験Ⅱ・2単位・2年・後期 (共同)，心理学研究法・2単位・2年・後期 (共同)，認知心理学 (知覚・認知心理学)・2単位・3年・前期，心理実習Ⅱ・1単位・3年・通年 (共同)，演習・2単位・3年・通年

7．社会貢献活動

査読：Japanese Psychological Research，Current Psychology，Psychological Report，Sage Open，福岡県立大学人間社会学部紀要，福岡県立大学心理教育相談室紀要

梅光学院高等学校 大学等連携「卒業研究」プログラム

8．学外講義・講演

9．附属研究所の活動等

人間社会学部／ 地域社会コース・総合人間社会コース	職名	講師	氏名	坂無　淳

1．教員紹介・主な研究分野

私の研究分野は社会学とジェンダー研究です．具体的なテーマとしては，1 つめに高等教育におけるジェンダー平等についてです．大学院生や入職の段階，研究者になった後など各段階でのジェンダー差やワーク・ライフ・バランスについて研究しています．2 つめに，コミュニティと子育てについてです．日本の共同保育の事例研究や，近年はイギリスのロンドンでのコミュニティ開発と子育てについての研究をしています．3 つめに，大学教育における学生の主体的な参加を促す技法についてです．これまで学生が実際にデータを集め分析する科目を教えてきました．他科目でもファシリテーションなどの手法を取り入れています．

2．研究業績

①最近の著書・論文

- 坂無淳，2022，「キャリアとワーク・ライフ・バランス──家事・育児とジェンダー」櫻井義秀編著『ウェルビーイングの社会学』北海道大学出版会，145-62.
- 坂無淳，2022，「シンガポールの教育・子育てに関する政策と価値観」田村慶子・佐野麻由子編著『変容するアジアの家族──シンガポール、台湾、ネパール、スリランカの現場から』明石書店，51-75.
- 佐野麻由子・坂無淳・田代英美・佐藤繁美，2022，「公共社会学科における高大連携授業の実践──鞍手高校 SGH 事業への参加とその効果」『福岡県立大学人間社会学部紀要』30(2): 67-76.
- 坂無淳，2022，「大学院生の悩みとメンタルヘルス──ジェンダーの観点からの統計分析と支援策の検討」『福岡県立大学人間社会学部紀要』30(2): 1-18.
- 坂無淳・平林真伊・河野銀子，2021，「シンガポールの高大接続と STEM 分野への女子の進学──大学入学基準と GCE–A レベルの数学の分析を中心に」『福岡県立大学人間社会学部紀要』30(1): 51-61.
- 大久保淳子・坂無淳・柴田雅博，2021，「英国の初等教育におけるプログラミング教育の現状と動向──教科『Computing』の分析」『福岡県立大学人間社会学部紀要』30(1): 127-39.
- 堤圭史郎・坂無淳・阪井裕一郎，2021，「福岡県内自治体の男女共同参画推進状況──政策意思決定・行政組織・地域自治への女性参画に注目して」『福岡県立大学人間社会学部紀要』29(2): 61-74.
- Bolton, Matthew, 2018, *How to Resist: Turn Protest to Power*, London: Bloomsbury Publishing .（藤井敦史・大川恵子・坂無淳・走井洋一・松井真理子訳，2020，『社会はこうやって変える！──コミュニティ・オーガナイジング入門』法律文化社．）　翻訳担当：第 4 章，第 6 章，第 7 章

②その他最近の業績

<学会発表・研究会>

- 坂無淳，「第2章 シンガポールの教育・子育てに関する政策と価値観」『変容するアジアの家族』出版記念セミナー（於北九州市立男女共同参画センター・ムーブ），5月15日.
- 坂無淳，2021,「専門職とジェンダー・ステレオタイプ——大学教員は男性向き・女性向き職業と考えられているのか」広島大学高等教育研究資源ナショナルセンター2021年度公開研究会（於広島大学（オンライン）），7月31日.
- 坂無淳，2020,「日本の高等教育機関で実施されているジェンダー施策の実態と課題」日本ジェンダー学会第23回大会（於奈良女子大学（オンライン）），9月27日.
- 大久保淳子・坂無淳・柴田雅博，2020,「就学前のプログラミング的思考の育成カリキュラムの開発」国際幼児教育学会第41回大会（於広島大学（オンライン）），9月19-30日.

<報告書・書評・評論・エッセイ>

- 坂無淳編，2022，『「大学の男女共同施策の実態と課題に関する調査」報告書』福岡県立大学人間社会学部坂無淳.（全51ページ）
- 坂無淳編，2021，『社会調査実習報告書2020 社会学系学科卒業生の生活と意識——卒業生調査の再分析から』福岡県立大学人間社会学部公共社会学科.（全158ページ）
- 坂無淳，2020,「イギリスの豊富な実例からコミュニティ・オーガナイジングの手法を学ぶ」，WANウェブサイト.
- 坂無淳，2020,「大石茜著『近代家族の誕生——女性の慈善事業の先駆，「二葉幼稚園」』」『図書新聞』3456: 5.

③過去の主要業績

- 坂無淳，2018,「日本の高等教育と科学技術におけるジェンダー政策——男女共同参画基本計画と科学技術基本計画を中心に」『福岡県立大学人間社会学部紀要』26(2): 19-35.
- 坂無淳，2015,「大学教員の研究業績に対する性別の影響」『社会学評論』65(4): 592-610.
- 坂無淳，2014，「都市における保育の共同——埼玉県新座団地の共同保育の事例から」『立教大学コミュニティ福祉研究所紀要』2: 61-80.

3．外部研究資金

科研費，基盤B（研究分担者，研究代表者：宇井美代子），人文社会科学系研究者のジェンダー平等の実態と改善に関する研究，9620千円，2022～2024年度

科研費，基盤B（研究分担者，研究代表者：河野銀子），女子の理系進路選択拡大に向けたSTEM分野の新たな高大接続モデル——4か国比較から，15470千円，2019～2022年度

科研費，基盤C（研究分担者，研究代表者：大久保淳子），プログラミング的思考の育成カリキュラムの開発——就学前～小学校の接続を焦点として，3510千円，2018～2022年度

科研費，若手研究（研究代表者），高等教育におけるジェンダー・バランスの不均衡とその是正に関する実証研究，3770千円，2018～2022年度

科研費，基盤B（研究分担者，研究代表者：藤井敦史），社会的連帯経済の「連帯」を紡ぎ出すものは何か――コミュニティ開発の国際比較研究，15730千円，2018～2022年度

4．受賞

5．所属学会

日本社会学会，日本ジェンダー学会，日本教育社会学会，北海道社会学会，西日本社会学会，ISA (International Sociological Association), RC32 Women, Gender, and Society, RC04 Sociology of Education

6．担当授業科目

データ分析の基礎・２単位・１年・前期，教養演習・１単位・１年・前期，統計学・２単位・１年・後期，社会統計学Ⅰ・２単位・２年・前期，社会統計学Ⅱ・２単位・２年・後期，社会調査実習Ⅰ・２単位・２年・前期，社会調査実習Ⅱ・２単位・２年・後期，ジェンダー論・２単位・３年・前期，公共社会学研究Ⅰ・Ⅱ・各１単位・３年・前後期，社会福祉学演習・２単位・３年・通年，演習・２単位・３年・通年，卒業論文・６単位・４年・通年

7．社会貢献活動

2022～現在，飯塚市男女共同参画推進委員会委員

2022～現在，福岡県人づくり・県民生活部男女共同参画推進課 IT×ジェンダーギャップ解消モデル策定会議委員

2021～現在，福岡県福智町男女共同参画審議会委員

2019～現在，広島大学高等教育研究開発センター客員研究員

2018～現在，田川市男女共同参画センター運営委員・ゆめっせフェスタ実行委員

8．学外講義・講演

9．附属研究所の活動等

人間社会学部／こどもコース	職名	講師	氏名	櫻井　晋伍

1．教員紹介・主な研究分野

東京藝術大学美術学部絵画科日本画専攻卒業、同大学院美術研究科芸術学専攻美術教育研究分野修了。

主に、水彩画の表現技法を用いた絵画制作研究を行っている。また、幼児の造形教育について、保育現場の協力を得て、製作活動と鑑賞教育に関する調査研究を行っている。

授業では、保育士および幼稚園教諭養成のための造形表現関連科目を担当している。

2．研究業績

①最近の著書・論文

＜論文＞

・櫻井晋伍「保育者養成課程における木材を用いた教材製作に関する研究－素材の特性に着目して－」基礎造形，第 31 号，2023 年（印刷中）

・櫻井晋伍「造形教育における壁面構成製作の実践－2 メートル四方程度の壁面を活用して－」福岡県立大学人間社会学部紀要，第 31 巻第 2 号，2023 年 3 月

・犬童昭久、王寺直子、栗山裕至、櫻井晋伍、白石恵里、丁子かおる、樋口和美、前村晃、宮崎祐治「トーランスの創造性テストの再考と試行Ⅲ－児童期（9～10 歳児）における調査と分析－」紀要 visio，第 53 号，2022 年 12 月

＜報告書＞

・櫻井晋伍「筑豊地区の地域材を活用した木製玩具製作の教育実践－保育者養成課程における試み－」令和 3 年度研究奨励交付金研究成果報告書，2023 年 2 月

②その他最近の業績

＜絵画作品出展＞

・櫻井晋伍「寂静」水彩画，第 32 回全日本アートサロン絵画大賞展，国立新美術館 2023 年 2 月，西宮市立市民ギャラリー 2023 年 3 月

・櫻井晋伍「水韻」水彩画，第 35 回 MBC サムホール美術展，鹿児島県歴史・美術センター黎明館 2022 年 9 月－10 月

＜学会発表＞

・櫻井晋伍、犬童昭久、王寺直子、栗山裕至、白石恵里、丁子かおる、樋口和美、前村晃、宮崎祐治「トーランスの創造性テストの再考と試行Ⅳ－大学生対象の調査結果及び幼児・児童との比較－」第 45 回美術科教育学会兵庫大会，2023 年 3 月

・犬童昭久、王寺直子、栗山裕至、櫻井晋伍、白石恵里、丁子かおる、樋口和美、前村晃、宮崎祐治「トーランスの創造性テストの再考と試行Ⅲ－児童期（9～10 歳児）における実態調査と分析の展開－」第 44 回美術科教育学会東京大会，2022 年 3 月

③過去の主要業績

・櫻井晋伍「保育者養成課程における壁面構成の制作技能育成に関する考察－鑑賞教育を通した実践－」大学造形美術教育研究第16号，2018年3月

・櫻井晋伍「幼稚園教育実習の造形活動に関する研究－学生の実践事例を通して－」久留米信愛女学院短期大学幼児教育学科研究紀要＜信愛保育研究＞，2017年10月

・櫻井晋伍「保育者養成課程における鑑賞教育に関する考察－日本画の構図と色彩に着目して－」久留米信愛女学院短期大学幼児教育学科研究紀要＜信愛保育研究＞，2017年10月

3．外部研究資金

4．受賞

第32回全日本アートサロン絵画大賞展　優秀賞，作品名「寂静」水彩画，2023年

5．所属学会

・美術科教育学会
・日本美術教育学会
・日本基礎造形学会
・日本保育学会
・日本保育文化学会

6．担当授業科目

＜学部＞造形Ⅰ・1単位・1年前期、教養演習・1単位・1年前期、造形Ⅱ・1単位・1年後期、幼児と表現A・1単位・2年前期、保育内容の指導法・表現A・1単位・2年後期、保育内容演習・2単位・4年後期、保育・教職実践演習（幼稚園）・2単位・4年後期、演習・2単位・3年通年、卒業論文・6単位・4年通年

＜大学院＞子ども造形表現研究・2単位・1年前期、子ども造形表現演習・2単位・1年後期、教育課題研究B・2単位・1年後期、子ども教育実践実習Ⅰ・1単位・1年後期、子ども教育実践実習Ⅱ・1単位・2年前期、地域教育課題演習・2単位・2年前期

7．社会貢献活動

8．学外講義・講演

・東京都立昭和高等学校入試説明会（オンライン），2022年8月

9．附属研究所の活動等

令和4年度 研究奨励交付金，若手奨励研究，研究課題名「保育者養成における造形表現活動に関するプレゼンテーション能力育成－地域連携活動を通した学生の学びに着目して－」(研究代表者)

人間社会学部／社会福祉コース	職名	講師	氏名	畑　香理

1．教員紹介・主な研究分野

久留米大学大学院比較文化研究科後期博士課程修了、博士（保健福祉学）。

私は、これまで医療機関でソーシャルワーカーとして患者や家族への相談援助を行ってきた経験があることから、医療ソーシャルワーク実践について関心を持ち、研究に取り組んでいます。近年、日本の保健・医療・福祉の制度・政策面は大きく変化を遂げており、効率的な医療政策の下で、患者はもちろん、患者を支える家族への経済的・身体的・精神的負担は深刻です。また、入院患者の中には脳卒中・内臓疾患・骨折等の後遺症に伴う機能障害・介護者問題・住宅問題・金銭問題等、様々な理由で在宅生活を断念せざるを得なくなった方も少なくありません。入院患者が地域生活を再び安心して送れるような専門的支援やネットワーク構築等が求められています。医療ソーシャルワーカーは病院と地域社会をつなぎ、患者や家族を支援していく役割を担っており、今後ますます医療ソーシャルワーカーの専門的支援が求められると考えます。以上のことから、私は医療ソーシャルワークを基盤とした支援方法に関する研究をすすめ、実践上の課題等についてもこれから研究していきたいと考えています。

2．研究業績

①最近の著書・論文

- 畑香理「第 15 章 社会福祉の実践事例：多職種連携を基調とした医療ソーシャルワーカーの実践事例から」鬼﨑信好・本郷秀和編『コメディカルのための社会福祉概論（第 5 版)』講談社, 2023 年 2 月.
- 畑香理「大腿骨骨折を経験した高齢者の語りからみる生活課題とストレングスの特徴－入院から退院後の在宅生活を中心に－」『福岡県立大学人間社会学部紀要』30（1), 2021 年 10 月.
- 畑香理・鬼塚香・住友雄資「2020 年度教育実践報告：『精神保健福祉援助実習指導』・『精神保健福祉援助実習』－コロナ禍における教育実践と今後の課題－」『福岡県立大学人間社会学部紀要』30（1), 2021 年 10 月.
- 畑香理「被虐待高齢者への支援」日本医療ソーシャルワーク学会監修, 村上須賀子・大垣京子・小嶋章吾・中川美幸編著『地域包括ケア時代の医療ソーシャルワーク実践テキスト（第 2 版)』日総研,2021 年 9 月.
- 畑香理「高齢の大腿骨骨折患者への支援に関する一考察－患者の性別に着目した医療ソーシャルワーカーの支援の特徴－」『厚生の指標』68（7), 2021 年 7 月.
- 畑香理・鬼塚香・住友雄資・平川明美「2019 年度教育実践報告：『精神保健福祉援助実習指導』・『精神保健福祉援助実習』－精神保健福祉士に必要な技能を習得するための教育の試行－」『福岡県立大学人間社会学部紀要』29（1）,2020 年 10 月.

②その他最近の業績

<学会発表>

- 松枝美智子・増滿誠・中本亮・宮﨑初・畑香理・本郷秀和「厚生労働省統計データによる精神医療の質に関連する要因の探索と予測モデルの作成」日本看護科学学会学術集会第 41 回大会口頭発表，2021 年 12 月.
- 畑香理「大腿骨骨折を経験した高齢者の生活課題の特徴－入院から退院後の在宅生活に焦点をあてて－」日本社会福祉学会九州地域部会第 62 回大会紙面発表，2021 年 6 月.

<その他>

- 畑香理「福祉専門職養成の立場から」福岡県医療ソーシャルワーカー協会『FUKUOKA 医療ソーシャルワーク』42，2021 年 7 月.

③過去の主要業績

- 畑香理「大腿骨骨折患者の支援における医療ソーシャルワーカーの役割に関する一考察－回復期リハビリテーション病棟へのアンケート調査から－」『医療と福祉』53（2），2019 年 11 月.
- 畑香理「高齢の大腿骨骨折患者に対する支援の現状－男女別、経験年数別にみた医療ソーシャルワーカーの支援状況の差異－」『地域ケアリング』21（12），株式会社北隆館，2019 年 11 月.
- 畑香理・本郷秀和「退院援助からみる医療ソーシャルワーカーの役割と大腿骨骨折を経験した人への支援－先行研究の分析から－」『九州社会福祉学』15，日本社会福祉学会九州部会，2019 年 3 月.

3．外部研究資金

- 科学研究費助成事業（学術研究助成基金助成金）若手研究，交付金額 1,040 千円
  「大腿骨骨折を経験した女性高齢者に対する支援モデルの検討」2019 年度～2022 年度，研究代表者.
- 科学研究費助成事業（学術研究助成基金助成金）基盤研究 C，交付金額 4,420 千円
  「地域包括ケアシステム推進下における介護系 NPO の役割」2019 年度～2023 年度，本郷秀和・鬼﨑信好・村山浩一郎・松岡佐智・畑香理・田中将太・梶原浩介・島﨑剛.

4．受賞

5．所属学会

日本社会福祉学会、日本保健福祉学会、日本ソーシャルワーク学会、日本保健医療社会福祉学会、日本高齢者虐待防止学会、日本地域福祉学会、日本医療ソーシャルワーク学会、日本看護科学学会、福岡県立大学社会福祉学会

6．担当授業科目

「教養演習」(1単位・1年・前期)、「ソーシャルワーク演習B」(2単位・2年・通年)、「ソーシャルワーク実習指導Ⅰ」(2単位・2年・通年)、「ソーシャルワーク実習A」(2単位・2年・後期)、「相談援助実習指導Ⅱ」(1単位・3年・通年)、「相談援助実習」(4単位・3年・通年)、「医療ソーシャルワーク論」(2単位・3年・前期)、「相談援助演習C」(1単位・3年・後期)、「精神保健福祉援助実習指導」(3単位・3～4年・通年)、「精神保健福祉援助実習」(5単位・4年・通年)

7．社会貢献活動

田川市国民健康保険運営協議会　副会長
田川市地域包括ケアシステム推進協議会 医療・介護・住まい部会　委員
福岡県介護保険審査会 三者合議体委員
飯塚市指定管理者評価委員会　委員長
飯塚圏域障がい者地域自立支援ネットワーク　委員
福岡県立大学社会福祉学会　事務局

8．学外講義・講演

- 令和4年度福岡県人権相談従事者職員研修～技能向上コース～ 講師,テーマ「記録表現講座(実習)」(会場：福岡県人権啓発情報センター) ,2022年9月.
- 令和4年度婦人保護事業中堅者研修会　講師, テーマ「相談記録の書き方」(オンライン研修), 2022年9月.

9．附属研究所の活動等

人間社会学部／地域社会コース	職名	講師	氏名	福本　純子

1．教員紹介・主な研究分野

早稲田大学人間科学部卒業、早稲田大学大学院人間科学研究科修士課程修了、熊本大学大学院社会文化科学教育部博士後期課程を単位取得退学。下関市立大学経済学部特任教員（地域貢献担当）等を経て、2021年に本学着任。

主な研究分野は、地域社会学、環境社会学、農村社会学。農山村、とくに中山間地域へのフィールドワークを中心に、地域住民の方々にお話を聴きながら研究を進めています。主な研究テーマは（1）再生可能エネルギーと（2）農山村の地域課題です。

（1）再生可能エネルギーの中でも特に小規模な水力発電に注目し、地域社会との関係について研究しています。たとえば、農山村に現存する小水力発電所の地域での運営方法や役割を分析することを通じて、持続可能な地域づくりについて探求しています。

（2）農山村の地域課題については、特に農業に関する課題（耕作放棄地、獣害、担い手問題など）に焦点をあて、日本の農村のあり方について考えています。

2．研究業績

①最近の著書・論文

＜著書＞

- 福本純子，2023，「コラム　小水力発電と地域社会（第20章エネルギーと環境）」環境社会学会編『環境社会学事典』丸善出版，549.
- 福本純子，2022，「4 水からみた農的世界（Ⅱ環境と農的世界――農的自然と農村の生活）」山本努編『よくわかる地域社会学』ミネルヴァ書房，48-49.
- 福本純子，2022，「7 農的世界から生み出されるエネルギー(1)――小水力発電（Ⅱ環境と農的世界――農的自然と農村の生活）」山本努編『よくわかる地域社会学』ミネルヴァ書房，54-55.
- 山本努・福本純子，2022，「9 福島原発事故後の大学生の原子力発電についての意識（Ⅱ環境と農的世界――農的自然と農村の生活）」山本努編『よくわかる地域社会学』ミネルヴァ書房，58-61.
- 福本純子，2021，「社会学・農村社会学の研究動向」藤井和佐編『日本農村社会の行方―<都市－農村>を問い直す（年報村落社会研究57集）』農山漁村文化協会，233-245.
- 近藤祉秋・合原織部・福本純子，2021，「嗅ぎあう世界の狩猟と獣害――九州山地の事例から」近藤祉秋・吉田真理子編『食う、食われる、食いあうマルチスピーシーズ民族誌の思考』青土社，237-271.

＜論文＞

- 近藤祉秋・合原織部・福本純子，2022，「『ジビエ』化する獣肉――九州山地A村B地区における野生獣肉販売事業の事例から」『神戸大学大学院国際文化学研究所紀要』57：121-161.
- 松岡崇暢・本田恭子・福本純子，2021，「獣害対策に向けた小水力発電の導入が山口県下の農山村に与えた影響――農山村の持続と再生に寄与する地域づくりの発展」『宮崎大学地域資源創成学部紀要』4：59-69.

＜報告書＞

・ 髙嵜浩平・福本純子編，2023，『田川市における農業の課題と実践――特産品・後継者・鳥獣被害の3つの視点から』福岡県立大学人間社会学部公共社会学科.

②その他最近の業績

＜学会発表＞

・ 山本努・福本純子，「若者（大学生）の原子力発電についての意識：研究ノート（続）」西日本社会学会第79回大会，オンライン，2021年5月23日.

・ 福本純子，「過疎農山村における社会的排除とムラの自律的対応――広島県庄原市X集落における稲作縮小の事例から」日本社会病理学会第36回大会，テーマセッション「若手・中堅にとっての社会病理学の可能性――現代の社会的排除を捉える方途」，神戸学院大学（オンライン），2021年3月13日（招待講演・テーマセッション）.

・ 山本努・福本純子，「若者（大学生）の原子力発電についての意識：研究ノート」西日本社会学会第78回大会，2020年5月.

＜書評＞

・ 福本純子，2022，「細谷昂著『日本の農村――農村社会学に見る東西南北』」『村落社会研究ジャーナル』57：31-32.

③過去の主要業績

・ ＜著書＞福本純子，2018，「コミュニティが担う再生可能エネルギー――東広島市の農村小水力発電の事例から」鳥越皓之・足立重和・金菱清編『生活環境主義のコミュニティ分析――環境社会学のアプローチ』ミネルヴァ書房，483-502.

・ ＜論文＞福本純子，2019，「生産基盤縮小にみる集落の自律的再編――広島県庄原市の中山間地域における稲作の縮小を事例として」『熊本大学社会文化研究』17：291-308.

・ ＜学会発表＞Fukumoto,Junko，“Community-based Renewable Energy Structures in Industrialized Societies：A Case of Small Hydropower in Rural Community” The 14th World Congress of the International Rural Sociology Association（IRSA），Ryerson University，Toronto，Canada，August 2016.

3．外部研究資金

・ 日本学術振興会　科学研究費助成事業　基盤研究(B)「ポスト農業社会の食・農・自然に視点をおいた農業社会学の構築」13,260,000円，2020～2023年度，研究分担者（研究代表者：牧野厚史・熊本大学）.

4．受賞

５．所属学会

日本社会学会、環境社会学会、日本村落研究学会【理事・事務局（会計担当）】、西日本社会学会、日本社会分析学会、山口地域社会学会、日本社会病理学会

６．担当授業科目

地域社会学Ａ・２単位・１年・後期
社会調査実習Ⅰ・２単位・２年・前期
社会調査実習Ⅱ・２単位・２年・後期
地域社会分析法Ａ・２単位・３年・前期
卒業論文・６単位・４年・通年
社会調査の設計・２単位・２年・前期
社会福祉調査法・２単位・２年・後期
地域社会学Ｂ・２単位・３年・前期
公共社会学研究Ⅰ・２単位・３年・前期

７．社会貢献活動

2021年7月～2022年11月，行橋市総合計画審議会委員

８．学外講義・講演

・NHK福岡放送局【ニュース645福岡】内「福チャン！」にて社会調査実習（福本純子グループ「田川地区における農業の課題と実践に関する調査」）の様子の紹介，2022年10月29日．

９．附属研究所の活動等

人間社会学部／社会福祉コース	職名	講師	氏名	松岡　佐智

1．教員紹介・主な研究分野

2003年3月熊本大学教育学部生涯スポーツ福祉過程卒業．2005年3月福岡県立大学大学院人間社会学研究科修士課程修了，修士（福祉社会学）．2023年3月久留米大学大学院比較文化研究科後期博士課程修了，博士（保健福祉学）．

私は現在，高齢者福祉と社会福祉教育を主な研究分野としています．高齢者福祉分野では，自らの意見を表明出来にくい認知症高齢者の権利擁護を推進していく必要性を踏まえ，「高齢者虐待の防止に向けた課題」について研究を進めています．特に，虐待通報・相談等件数及び虐待判断件数は増加傾向にある入所施設の職員に焦点を当て，「施設内虐待防止に向けたセルフチェックシステムの開発」について研究に取り組んでいます．

また，社会福祉教育分野では，社会福祉士の実習教育のあり方にも取り組んできました．これまでの具体的な取組みとして，「福岡県内の社会福祉施設におけるボランティアの受入れ実態に関する調査研究」，「福岡県立大学社会福祉学科学生のボランティア意識に関する調査研究」及び「社会福祉士養成における相談援助実習の実習内容の課題」等の研究を実施してきました．今後も継続して，社会福祉専門職養成としての実習のあり方や学生に対する実習教育方法，及び実習受入れ側の施設等との連携のあり方等を研究テーマとして取り組んでいきたいと考えています．

2．研究業績

①最近の著書・論文

- 松岡佐智（2023）「第11章精神保健福祉」鬼﨑信好・本郷秀和編『コメディカルのための社会福祉概論 第5版』講談社，165-178.
- 飯干真冬花・本郷秀和・松岡佐智（2023）「感染症流行下の相談援助実習の課題と実習指導者への期待－A大学における2013-2021年度実習後アンケート調査を通じて－」『福岡県社会福祉士会研究誌』（2023年3月発行予定）.
- 本郷秀和・飯干真冬花・松岡佐智（2022）「実習領域別にみる相談援助実習の課題 －A大学における2013-2021年度実習後アンケート調査の概観－」『福岡県立大学人間社会学部紀要』31(1), 91-102.
- 松岡佐智（2022）「介護老人福祉施設における施設内虐待防止策に関する一考察　－施設長インタビュー調査から－」『九州社会福祉学』第18号，33-47.
- 松岡佐智（2021）「介護老人福祉施設における介護職員の虐待防止意識に影響を与える要因」『福岡県立大学人間社会学部紀要』30(1)，103-112.
- 松岡佐智（2021）「施設内虐待の発生要因と予防策に対する介護老人福祉施設職員の認識の比較－施設長・生活相談員・主任介護職員による自由記述の分析－」『九州社会福祉学』第17号，15-28.
- 松岡佐智（2020）「施設内虐待の発生要因と防止策の課題－高齢者虐待に関する先行研究等の整理から－」『福岡県立大学人間社会学部紀要』29(1)，35-44.

②その他最近の業績

<辞典>

・ 九州社会福祉研究会（編）（2022）『現代社会福祉用語辞典　第3版』，学文社.

③過去の主要業績

・ 松岡佐智・本郷秀和（2020）「介護老人福祉施設における施設内虐待防止に向けた課題－施設内虐待の要因に対する施設長・生活相談員・主任介護職員の認識の比較－」『高齢者虐待防止研究』16(1)，55-67.

・ 秋竹純・本郷秀和・松岡佐智（2019）「有料老人ホーム職員のバーンアウト傾向と認知症高齢者へのケアの状況：調査結果にみる施設内虐待の予防に向けた課題」『地域ケアリング』21(8)，北陸社，64-68.

・ 松岡佐智・本郷秀和・畑香理・田中将太（2018）「高齢者虐待における地域包括支援センターと介護支援専門員の連携の意義と課題 - 地域包括支援センター におけるインタビュー調査を通して - 」『高齢者虐待防止研究』14(1)，36-48.

3．外部研究資金

①2020－2023年度 科学研究費補助金（学術研究助成基金助成金）若手研究，交付金額1690千円「施設内虐待の兆候発見に向けたセルフチェックシートの開発に関する研究」，研究代表者.

②2019－2023 年度科学研究費助成事業（学術研究助成基金助成金）基盤研究 C，交付金額4,420 千円，「地域包括ケアシステム推進下における介護系 NPO の役割」，本郷秀和・鬼﨑信好・村山浩一郎・松岡佐智・畑香理・田中将太・梶原浩介・島﨑剛.

4．受賞

5．所属学会

日本社会福祉学会，日本高齢者虐待防止学会，日本地域福祉学会，日本介護福祉学会

6．担当授業科目

「ソーシャルワークの基盤と専門職Ⅰ」(2単位・1年前期)，「ソーシャルワーク演習A」(1単位・1年後期)，「ソーシャルワーク実習指導Ⅰ」(2単位・2年通年)，「ソーシャルワークの理論と方法C」(2単位・2年後期)，「相談援助実習指導Ⅱ」(1単位・3年通年)，「相談援助実習」(4単位，3年通年)，「ソーシャルワーク実習A」(2単位，2年後期)，「相談援助演習C」(1単位，3年後期)，「社会福祉学演習」(4単位，3年通年)，「福祉専門職特講A」(2単位、3年後期)，「福祉専門職特講B」(2単位、4年前期)，「卒業論文」(6単位・4年後期)

7．社会貢献活動

・北九州市社会福祉協議会　ふれあいネットワーク活動推進事業第三者評価委員会　委員
・福岡県日常生活自立支援事業契約締結審査会　委員
・福岡県社会福祉士会『福岡県社会福祉士会研究誌』査読委員

8．学外講義・講演

・（公財）福岡県人権啓発情報センター 人権相談従事職員研修「対人援助技法Ⅲ（演習）」
・飯塚市鎮西地区福祉ネットワーク委員会主催研修講師，「高齢者の虐待について」

9．附属研究所の活動等

人間社会学部／地域社会コース	職名	助手	氏名	佐藤　繁美

1．教員紹介・主な研究分野

- 大原孫三郎における地域社会構想の研究
- 石井十次、岡山孤児院における地域社会構想の研究
- 地域の権力構造の研究

2．研究業績

①最近の著書・論文

- 石崎龍二,佐藤繁美,「福岡県立大学人間社会学部における統計演習の教育効果（2022 年度)」,『福岡県立大学人間社会学部紀要』,第 31 巻第 2 号, pp.59-72,福岡県立大学,2023 年 3 月.
- 石崎龍二,佐藤繁美,「福岡県立大学人間社会学部における統計演習の教育効果（2021 年度)」,『福岡県立大学人間社会学部紀要』,第 30 巻第 2 号, pp.53-66,福岡県立大学,2022 年 3 月.
- 佐野麻由子,坂無淳,田代英美,佐藤繁美,「公共社会学科における高大連携授業の実践——鞍手高校 SGH 事業への参加とその効果——」,『福岡県立大学人間社会学部紀要』,第 30 巻第 2 号, pp.67-76,福岡県立大学,2022 年 3 月.
- 下地貴樹,佐藤繁美,「公民科における学習と教えの責任に関する一考察 ～公民としての資質・能力の育成モデル作成の試み～」,『福岡県立大学人間社会学部紀要』,第 30 巻第 2 号, pp.19-27,福岡県立大学,2022 年 3 月.
- 石崎龍二,佐藤繁美,「同期型・非同期型オンライン授業による多変量解析に関する統計演習の教育効果（2020 年度)」,『福岡県立大学人間社会学部紀要』,第 30 巻第 1 号, pp.155-168,福岡県立大学,2021 年 10 月.
- 石崎龍二,佐藤繁美,「オンデマンド型オンライン授業による統計演習の教育効果（2020)—学生の自己評価と授業改善点— 」,『福岡県立大学人間社会学部紀要』,第 29 巻第 2 号,pp.163-178,2021 年 3 月.
- 石崎龍二,佐藤繁美,「福岡県立大学人間社会学部における多変量解析に関する統計演習の教育効果（2019 年度)」,『福岡県立大学人間社会学部紀要』,第 29 巻第 1 号,pp.59-72,2020 年 10 月.
- 石崎龍二,佐藤繁美,「統計演習科目における学生の自己評価と授業改善点（2019)」,『福岡県立大学人間社会学部紀要』,第 28 巻第 2 号, pp.71-86,福岡県立大学,2020 年 2 月.

②その他最近の業績

③過去の主要業績

３．外部研究資金

科学研究費助成事業(基盤研究(C))31 年度～4 年度 交付金額 4,420 千円
研究課題、「自立的地域社会」の構想と事業展開
―大原孫三郎・石井十次の理念の継承と再構成 ―（研究代表者）

４．受賞

５．所属学会

日本社会学会、関西社会学会、日本社会分析学会

６．担当授業科目

- 社会調査実習Ⅰ（補助） ２単位・２年・実習・前期
- 社会調査実習Ⅱ（補助） ２単位・２年・実習・後期
- データ処理とデータ解析Ⅰ（補助） １単位・３年・演習・前期
- データ処理とデータ解析Ⅱ（補助） １単位・３年・演習・後期

７．社会貢献活動

８．学外講義・講演

９．附属研究所の活動等

看護学部／看護学科	職名	教授	氏名	石田　智恵美

1．教員紹介・主な研究分野

九州大学大学院人間環境学府　発達・社会システム専攻　教育学コース　博士後期課程　単位取得退学。

学習者に存在するであろう知識構造を想定し，知識の構造化を促進するための教授方略の研究・開発を行っている。具体的には，講義・演習・実習をつなぐための方略を授業で実践し，「わかる授業」を目指した授業研究を実施している。その他，卒後教育の一貫として，卒後 1～2 年目の看護職者を対象とした，タスクマネージメント研修や，臨床の看護師を対象とした研究指導を行っている。また，看護実習指導者講習会，認定看護管理者教育課程（セカンドレベル）の研修において，看護職者の知識の構造化の促進を目指している。

2．研究業績

①最近の著書・論文

・ 石田智恵美　中本亮　アクティブラーニングによる演習と看護学生の思考に関する研究，福岡県立大学紀要　2020 年 3 月

②その他最近の業績

<学会発表>

・ 石田智恵美　中本亮　アクティブラーニングによる演習と知識の活用に関する研究　日本教育工学会 2020 年春季全国大会　2020 年 2 月　長野

・ 石田智恵美　中本亮　e-learning を活用した知識の変容に関する考察　日本教育工学会 2021 年春季全国大会　2021 年 3 月　関西学院大学（オンライン）

③過去の主要業績

・ 石田智恵美　久米弘　看護学生のための知識の構造化のための講義・演習・実習連携評価モデル　大学教育第 10 号　九州大学高等教育総合開発研究センター　pp.77-97. 2004.

・ 石田智恵美　看護学実習における臨床指導者を含めた教材化と教師の役割 九州大学大学院教育学コース院生論文集　飛梅論集第 6 号　pp.23-48. 2006.

・ 石田智恵美　動的なプログラム学習による学習者の知識の構造化に関する研究－会話による知識構造推測型の発問生成ストラテジーの効果－　教育学習心理学研究　第 3 巻　第 2 号　pp.37-53. 2007.

3．外部研究資金

石田智恵美　素朴概念が看護の知識獲得に与える影響に関する研究　科学研究費基盤研究（C）2023 年~2025 年

4．受賞

５．所属学会

日本教育工学会，日本看護科学学会，日本看護学教育学会，日本教授学習心理学会，日本赤十字看護学会　日本教育学会

６．担当授業科目

＜学部＞

国際看護論・1単位・2年・後期，健康科学・2単位・2年・後期，専門看護学ゼミ・2単位・3年・通年，看護研究・2単位・3年・前期，看護教育学・1単位・3年・前期，看護実践論・1単位・3年・前期，教師論・2単位・3年・前期，ケアリング論・2単位・3年・前期
ケアリングサイエンス・2単位・人間社会学部3年&看護学部4年・後期，看護管理論・1単位・4年・後期，統合実習・2単位・4年・通年，卒業研究・2単位・4年・通年

＜大学院＞

看護教育学特論・2単位・1年・前期，看護教育学演習・2単位・1年・後期，看護教育学・2単位・1年・後期，看護管理学・2単位・1年・後期，基盤看護学特別研究・8単位・1～2年・通年，マネジメント助産学特論・2単位・2年・前期，コミュニティ助産学特論・1単位・1年・後期，助産学課題研究・4単位・1～2年・通年

７．社会貢献活動

・ 嘉麻赤十字病院　研究指導　5月～3月まで1回/月　院内研究発表会の講評
・ 地方独立行政法人川崎町立病院評価委員　2022年8月～2023年7月

８．学外講義・講演

認定看護管理者教育課程　セカンドレベル講師　「ヘルスケアサービス管理論」，「看護組織管理論」

９．附属研究所の活動等

看護学部／看護学科	職名	教授	氏名	江上　千代美

1．教員紹介・主な研究分野

親のレジリエンスを高めるための家族支援に関する介入研究

親の養育レジリエンスの向上：親の養育レジリエンスの向上を目指す介入とそのメカニズムを明らかにする研究を行っています。また、子育てスタイル、ストレス（生体指標と質問紙）、子どもの行動等の関係性を明らかにすることも行っています。トリプル P（positive parenting program）という認知行動療法を用いて、トリプル P を学んだ親は「子育てが楽しくなった。」、「子育てに自信がついた」、「もう一人子どもを産んでみようかな。」という感想がよく聞かれ、未来を担う健全な子どもの育成や少子化対策にもつながっています。トリプル P の名前にも反映しているように子どもをもつ全ての親が楽しく学ぶことで健全な家族づくり、ひいては健全な街づくりを目指すことができます。

観察力に反映する看護アセスメントのシュミレーションシステムの開発

「目は心の鏡」に、代表されるように、目の動きは人の精神生理的な指標であり、目の動きにはさまざまな人の行動理解や支援の手がかりが含まれています。これまで行ってきた発達障害の対人的視覚認知機能障害や不注意等の解明と支援につながる研究をもとに、現在、看護学生や看護師のセーフティ・マネジメント支援を目標とした臨床に活かせる研究を行っています。さまざまな看護場面におかれたときに看護学生や看護師はどのような目の動きをするのか、教育や経験により異なるのか、変化しない場合には何が影響しているのかという検討を基に、どのようなセーフティ・マネジメント支援の必要性があるのか、どのような集団教育および個人教育につなげる必要があるのか課題提示と支援プログラムの開発に取り組んでいます。

2．研究業績

① 最近の著書・論文

<論文>

- 塩田 昇, 廣瀬 理絵, 松山 美幸, 加藤 法子, 藏元 恵里子, 田中 美智子, 江上 千代美「陣痛促進剤による薬害被害者」の講演を聞いた学生は薬害防止に向け何を思い・感じたか,福岡県立大学看護学研究紀要 19 巻, 77-87(2022).
- 江上千代美, 田中美智子, 桑野瑞恵, 塩田昇, 山下裕史朗. ポピュレーションアプローチを目指した地域での前向き子育ての実践. 小児保健研究 80(3):303-306 (2021).
- 江上千代美,塩田昇(2020).Child Adjustment and Parent Efficacy Scale －Developmental Disability（CAPES-DD）の日本語版作成の試み福岡県立大学看護学研究紀要,17,37-45.
- 江上千代美,塩田昇,惠良友彦,田中美智子(2020).発達障がいのある児の母親の養育レジリエンスの向上を目指して －Stepping Stones Triple P（トリプル P）による RCT を用いた試行的介入－, 福岡県立大学看護学研究紀要,17,1-4 .
- 江上千代美,田中美智子,松浦江美,安酸史子(2020).関節リウマチ患者に対する慢性疾患セルフマネジメントプログラムの効果 －唾液コルチゾール・RR 間隔・DAS28・VAS 指標を用いて－, 福岡県立大学看護学研究紀要,17,27-35.

②その他最近の業績

- 発達障がいのある子どもの親へのトリプル P による支援がストレスに及ぼす影響. 塩田昇, 江上千代美,田中美智子. 第 42 日本看護科学学会学術集会. オンデマンド. 2022.
- 発達障がいのある子どもの母親の養育レジリエンスの違いとストレスへの影響ーPOMS、唾液コルチゾールー. 江上千代美, 塩田昇, 田中美智子. 第 42 回日本看護科学学会学術集会. オンデマンド. 2022.
- 発達障がいの診断前の未就学児をもつ親の子育てレジリエンスと子育ての適応. 江上千代美. 第 81 回日本公衆衛生学会
- 江上千代美,山下裕史朗(2015).発達障がい児をもった母親の養育レジリエンス向上に向けた支援~母親の変化と子どもの行動~,第 24 回日本 LD 学会,佐賀,349-350.

③過去の主要業績

- Yushiro Yamashita, Chiyomi E et al .:Summer treatment program for children with attention deficit hyperactivity disorder: Japanese experience in 5 years. Brain Dev. 33, 260-7, 2011.
- Egami C, Morita K, Ohya T, Ishii Y, Yamashita Y, Matsuishi T: Developmental characteristics of visual cognitive function during childhood according to exploratory eye movements. Brain Dev. 31(10), 750-7, 2009.

3．外部研究資金

科学研究費助成事業（基金分）(基盤研究(C))2015 年度～2018 年度 交付金額 4,810 千円
研究課題、トリプル P 介入によって発達障害児をもつ母親の子育てレジリエンスは向上するか科学研究費助成事業（基金分）(基盤研究(C))2018 年度～2021 年度 交付金額 4,290 千円
発達障害の診断前の児の親の養育レジリエンス向上-基本的生活習慣の習得を目指して-

科学研究費助成事業（基金分）（基盤研究 C 2022 年度～2025 年度） 親支援プログラム受講によって保護者は地域の子育て支援資源と積極的につながれるか（研究分担者：江上千代美）

4．受賞

5．所属学会

日本生理学会会員、日本小児神経学会会員、日本 LD 学会会員、日本看護学教育学会員、日本看護研究学会会員、日本看護技術学会会員、看護人間工学部会員、日本看護科学学会会員

6．担当授業科目

<学部>

生態機能看護学Ⅰ・2 単位・1 年次・前期，生態機能看護学Ⅱ・2 単位・1 年次・後期，生態・病態看護学実験 2 単位・2 年次，専門看護学ゼミ・2 単位・3 年次・通年，総合実習・2 単位・ 4 年次・前期，生態機能看護学Ⅲ、卒業研究・2 単位・4 年次・通年，

<大学院>

Advanced 生理学・病態生理学・2 単位・1 年次、基盤看護学特別研究 8 単位

実験看護学演習 2 単位・1 年次 実験看護学特論 2 単位・1 年次

7．社会貢献活動

子育て支援活動：久留米市・田川市・香春町・志免町・朝倉市

8．学外講義・講演

子育て支援に関する講演会の講師

9．附属研究所の活動等

久留米大学

看護学部／看護学科	職名	教授	氏名	尾形　由起子

1．教員紹介・主な研究分野

超高齢多死社会において，高齢者が住み慣れた地域で生活を継続するための公衆衛生看護活動に関する研究をしている。具体的には、①地域住民がねたきりになっても住み慣れた地域で暮らし続けるため当事者である住民自身が自分の思いを表出する場を作ること②地域包括ケアシステムを構築するための多職種協働し研修のあり方を検討すること③医療依存度の高い人々が終末期を迎えるにあたり当事者の意志決定支援（ACP）とは何か考えることを主な研究テーマとしている。多職種と共にこのようなテーマを実践的に活動し、住み慣れた地域で介護が必要になっても，当事者の願いを尊重し安心して暮らし続けることができるよう，看護職（病院看護師，訪問看護師，保健師）や多職種の方々と研鑽している。

2．研究業績

①最近の著書・論文

- 尾形由起子，社会・環境と健康　公衆衛生学　2023 年度，柳川洋，尾島俊之編著，医歯薬出版株式社，2023.2
- 平塚淳子，猪狩崇，中村美穂子，小野順子，吉川未桜，吉田麻美，田中美樹，山下清香，櫟直美，尾形由起子，A 県における訪問看護ステーションの BCP 策定における現状と課題，福岡県立大学看護学紀要，19 巻，2023
- 吉川未桜，吉田麻美，平塚淳子，中村美穂子，大場美緒，小野順子，猪狩崇，山下清香，田中美樹，櫟直美，尾形由起子，新型コロナウィルス感染拡大化における訪問看護ステーションの困難と対応，福岡県立大学看護学紀要，19 巻，45-55，2022
- 田中美樹，吉川未桜，尾形由起子，櫟直美，吉田麻美，小児訪問看護における訪問看護師の困難感と同行訪問研修の試み，福岡県立大学看護学紀要，19 巻，107-114，2022
- 小野順子，山下清香，中村美穂子，中本亮，櫟直美，田中美樹,吉川未桜，吉田麻美，尾形由起子，A県における訪問看護ステーションの災害対策の現状と課題-災害時の在宅療養継続にむけて-，福岡県立大学看護学紀要，19 巻，123-132，2022
- 杉本由利子，山下清香，小野順子，香月眞美，山口のり子，尾形由起子，市町村保健師の発達障害児に対する連携技術の構成概念の検討，日本地域看護学会誌 24（2），2021
- 尾形由起子，小野順子，山下清香，櫟直美，眞埼直子，多職種による終末期までの療養生活に対する意思決定支援内容の検討，福岡県立大学看護学紀要，17 巻，13-20，2021
- 山口のり子，福岡洋子，中村美穂子，猪狩崇，尾形由起子，官民学協働による地域住民を含めた「ケアカフェ」実践報告，福岡県立大学看護学紀要，17 巻，21-26，2021
- 楢橋明子，中村美穂子，小野順子，山下清香，手島聖子，尾形由起子，保健師の実践能力に対する公衆衛生看護実習の効果，福岡県立大学看護学紀要，17 巻，27-36，2021

②その他最近の業績

<学会発表>

- A study on　clarify the relation with perceptions regarding home care decision-making until the end-of-life of community residents.end-of-life care, decision-making, community, support, attachment ,

Yukiko Ogata, Junko Ono, Kiyoka Yamashita , Sukimoto Yuriko, Rika Hiroki, 26 t h East Asian Forum of Nursing Scholars 2023

- Disaster Countermeasures at Home-Visiting Nursing Service Stations for Maintaining Home Care, Junko Ono , Yukiko Ogata , Naomi Ichiki , Kiyoka Yamashita, 26 t h East Asian Forum of Nursing Scholars 2023
- A study on the actual situation and issues of end-of-life care for home-visit nurses, Naomi Ichiki , Yukiko Ogata, Junko Ono, Kiyoka Yamashita, 26 t h East Asian Forum of Nursing Scholars 2023
- 終末期がん患者による在宅移行期の退院前カンファレンスにおける退院調整看護師と訪問看護師の協働のあり方の検討，金崎美穂，尾形由起子，日本看護研究学会第 48 回学術集会
- がん患者の退院支援における退院調整看護師の病棟看護師との連携に関する研究－退院調整看護師の認識による連携の促進因子－，中村　美穂子、尾形　由起子、山下　清香、小野　順子，日本看護研究学会第 48 回学術集会
- 歩ける医療的ケア児の母親の子育て に適応していくプロセスの検討，吉田 麻美，山下 清香，小野 順子，吉川 未桜，田中 美樹，岡田 麻里，尾形 由起子，日本看護研究学会第 48 回学術集会
- 山口のり子，尾形由起子，施設看取りを推進するために求められる医療と介護の連携～インタビュー調査を通して～，第 80 回日本公衆衛生学会，2021.10
- 廣木里香，尾形由起子，地域住民の主体性と終末期までの在宅療養意思決定に関する認識との関連，第 80 回日本公衆衛生学会，2021.10
- 尾形由起子，矢津剛，（座長）浦川雅広，酒井智恵美，平野頼子，コミュニティにおけるアドバンスケアプランニング，日本在宅医療連合学会地域フォーラム　シンポジウム，2020，10

③過去の主要業績

- 尾形由起子，社会・環境と健康　公衆衛生学　2021 年度，柳川洋，尾島俊之編著，医歯薬出版株式会社，2022
- 尾形由起子，樑直美，小野順子，吉田恭子，杉本みぎわ，阿部久美子，岡田麻里，終末期がん療養者の配偶者による在宅看取り実現のためのセルフマネジメントに対する支援の検討―多職種フォーカス・グループインタビューの結果より―福岡県立大学看護学紀要，14 巻，2017
- 尾形由起子，岡田麻里，樑直美，野口忍，山下清香，松尾和枝，眞崎直子，三徳和子，終末期がん療養者の満足な在宅看取りを行った配偶者の介護体験，地域看護学会誌，20(2)，2017

3．外部研究資金

- 尾形由起子（研究代表者），地域に密着した住民の主体的介護促進のための教育支援モデルの開発，文科省科学研究（基盤 C）2017－2019（2022 期間延長）
- 尾形由起子（研究分担者，樑直美），通所サービスにおける家族介護者の介護適応を促す協同的ケアモデルに関する研究，文科省科学研究（基盤 C）2018－2020（2022 期間延長）
- 尾形由起子，（研究分担者，山下清香）保健師の住民参加促進力向上教育プログラムの開発，文科省科学研究（基盤 C）2018－2020（2022 期間延長）
- 尾形由起子（研究分担者），岡田麻里（研究代表者），訪問看護師の多職種協働による地域看取

りケアの振り返り支援教育プログラムの開発，文科省科学研究（基盤 C）2020－2022

4．受賞

5．所属学会

日本公衆衛生看護学会，日本公衆衛生学会，日本地域看護学会，日本在宅ケア学会，日本看護科学学会，日本看護研究学会，日本学校保健学会，日本看護技術学会，日本医療・病院管理学会

6．担当授業科目

【看護学部】

公衆衛生看護学Ⅰ（２単位）２年後期，家族看護論（１単位）２年前期，公衆衛生看護アセスメント論Ⅰ（１単位）３年後期，公衆衛生看護学Ⅱ（２単位）４年前期，公衆衛生看護アセスメント論Ⅱ（２単位）４年前期，公衆衛生看護技術論Ⅰ（２単位）４年前期，公衆衛生看護技術論Ⅱ（２単位）４年前期，公衆衛生看護学Ⅲ（１単位）４年後期，公衆衛生管理論（２単位）４年生後期，組織協働活動論（２単位）４年後期，公衆衛生看護学実習Ⅰ（１単位）４年前期，公衆衛生看護学実習Ⅱ（４単位）４年後期，

【看護学研究科】

地域看護学特別研究（２単位）修士１年前期，地域看護学特別演習（２単位）修士１年後期，看護研究法（２単位）修士１年前期，看護政策論（２単位）修士１年前期

7．社会貢献活動

- 福岡県地域在宅推進協議会委員（H20 年度～現在に至る）
- 福岡県訪問看護連携強化事業（委託事業代表者）（平成 28 年度～令和 3 年 3 月）
- 田川市地域支え合い体制づくり検討委員会（平成 26 年度～現在に至る）
- 香春町地域福祉計画策定委員（委員長）（平成 27 年度～現在に至る）
- みやこ町健康づくり推進委員会（委員長）（平成 27 年度～現在に至る）
- 東峰村地域福祉計画及び東峰村地域福祉活動計画策定委員会（委員長）
- 北九州市人権施策審議会委員（平成 27 年～現在に至る）
- 日本公衆衛生看護学会　理事および査読委員
- 日本地域看護学会　評議委員および査読委員
- 日本在宅ケア学会　査読委員および座長
- 日本看護研究学会　評議員
- 日本看護科学学会　代議員
- 田川市立病院評価委員会　委員
- 一般財団法人　日本看護学教育評価機構（看護学分野）九州ブロック担当理事
- 全国保健師教育機関協議会　九州ブロック担当理事

8．学外講義・講演

- 田川市郡在宅医療多職種研修会　講師

9．附属研究所の活動等

令和 3 年度研究奨励交付金計画書（附属研究所重点領域研究）：地域包括ケアシステム構築に向けた保健医療福祉データの GIS 分析による地域診断モデルの開発

看護学部／看護学科	職名	教授	氏名	田吹　香子

１．教員紹介・主な研究分野

看護学部・同大学院の英語科目、基盤教育センター科目を担当。主にアメリカ文学（ポストモダン文学)、英語文学(移民文学)、英語教育と文学の関係を研究。

２．研究業績

①最近の著書・論文

- 「戦争は『何の顔』をしているのか－*Northern Lights* における『女性の声』の役割を考える」日本英文学会九州支部第 75 回大会　アメリカ文学シンポジウム Proceeding (2022)
- 「声を守る－ “Love and Honor and Pity and Pride and Compassion and Sacrifice”における移民子孫の二重の語り」『人と文化と言語 XI 号』(2021)
- 「ペーパーバックを使った英語授業の報告－英語文学や物語は大学生の英語学習教材になり得るか－」『人と文化と言語 X 号』(2020)

②その他最近の業績

<学会発表>

- 日本英文学会九州支部第 75 回大会　アメリカ文学シンポジウム「戦争に周縁はあるのか」(2022)
- 「“Love and Honor and Pity and Pride and Compassion and Sacrifice” における父の『声』における表象」日本人類言語学会第 21 回学術大会 (2021)
- 「ペーパーバックを使った英語授業の報告－英語文学や物語は大学生の英語学習教材になり得るか－」日本人類言語学会第 20 回学術大会 (2020)

③過去の主要業績

- 「潰えゆく兵士の夢—『カチアートを追跡して』に見られる対抗文化的意識の挑戦と失敗」『九州英文学研究』第 27 号
- 「語りの闇を超えて—*The Things They Carried* における語り手の苦悩と希望」『九州アメリカ文学』No. 51
- 「権力の生産・管理構造の外へ—*The Nuclear Age* (1985)における抵抗者たち」『九州アメリカ文学』No. 50

３．外部研究資金

４．受賞

５．所属学会

日本英文学会、日本英文学会九州支部、日本アメリカ文学会、日本アメリカ文学会九州支部、日本人類言語学会(理事、事務局長、学会運営委員長)

６．担当授業科目

リーディングⅠ(A、B)・１単位・１年・前期、リーディングⅡ(A、B、C)・１単位・２年・前期、リーディングⅢ・１単位・４年・前期、ライティング(A、B)・１単位・１年・後期、オーラル・コミュニケーション(A、B、C)・１単位・２年・後期、グローバル社会論・２単位・２年・後期、専門看護学ゼミ・２単位・３年・通年、卒業研究・２単位・４年・通年、英語文献講読特論・２単位・大学院１年・前期

７．社会貢献活動

日本人類言語学会(理事、事務局長、学会運営委員長)

８．学外講義・講演

９．附属研究所の活動等

看護学部／看護学科	職名	教授	氏名	永嶋　由理子

1．教員紹介・主な研究分野

平成 18 年久留米大学大学院心理学研究科（博士課程）人間行動学専攻単位取得満期退学. 主な研究として，看護技術の熟達化を解明するために認知心理学を援用した実証研究に取り組んでいる．この研究は，平成 16 年度～平成 17 年度の科研(基盤研究(C))に採択されたが，引き続き平成 18 年度～平成 20 年度科研(基盤研究(C))においても採択されたことで，継続的に調査及び実験研究を進めてきた．関連研究で平成 23 年度～平成 25 年度科研(基盤研究(C))が採択されたことで，平成 24 年度は研究計画に沿って,看護技術の熟達化を思考の視点から客観的に解明するため，光イメージング脳機能測定装置を使用しプレ実験を行った．プレ実験を受け平成 25 年度は本実験を実施し，一部興味深い結果を得ることができた．平成 26 年度，新たに科研（平成 26 年度～平成 29 年度挑戦的萌芽研究）が採択され，引き続きメインテーマとしている看護技術の熟達化検証に取り組んだ結果，アイマークレコーダー装着での実験で視線の合理性（熟達に伴い無駄な視線の動きが減少する）が一部捉えられた．令和 1 年度に採択された科研（令和 1 年度～令和 4 年度基盤研究 C）においても，関連研究を引き続き実施し，実験の精度を高めつつ，科学的及び心理学的見地から研究に取り組んでいく予定である.

2．研究業績

① 最近の著書・論文

- 松枝 美智子,村田 節子,江上 史子,松井 聡子,渡邉智子,永嶋由理子. 医療施設等の看護管理者が高度実践看護師に提供したい支援，星槎大学大学院紀要,第3巻第1号,2021.
- 渕野由夏,永嶋由理子,加藤法子,藤野靖博,於久比呂美,宮崎千尋. 基礎看護学教科書における人間の概念に関する検討,福岡県立大学看護学研究紀要,第 17 巻,2020.

②その他最近の業績

<学会発表>

- 佐多愛子,永嶋由理子. CDE 看護師の糖尿病療養指導スキルの実態とその検討,第 27 回日本糖尿病教育・看護学会学術集会,大阪国際会議場,2022.
- 鹿嶋聡子,永嶋由理子.看護系大学生のレジリエンスと達成動機の関連性の検討,第 42 回日本看護科学学会学術集会,広島国際会議場,2022.

② 過去の主要業績

- 永嶋由理子,特集 意欲と主体性を育てる 実習計画・指導・記録評価のポイント,患者アセスメントと看護過程に関する評価のポイント．看護人材育成，8・9 月号，p50-55, 2015.
- 永嶋由理子,看護技術の熟達化における思考過程深化の解明,久留米大学大学院心理学研究科中間論文,P1-59,2006.
- 永嶋由理子,山川裕子,血圧測定技術を構成する下位スキルの検討．福岡県立大学看護学部紀要,2(2),p1-8,2005.

３．外部研究資金

科学研究費助成事業（基盤研究C），「看護技術の熟達形成に関わる促進要因の検討」，4万，研究代表，2019～2023年度.

４．受賞

５．所属学会

日本看護学会，日本看護科学学会，日本看護研究学会，日本看護学教育学会，日本教育心理学会，日本協同教育学会

６．担当授業科目

学部：基礎看護学概論･2単位･1年次･前期，基礎看護学実習I･1単位･1年次･前期，フィジカルアセスメント論･1単位･2年次･前期，看護過程･1単位･2年次･前期，基礎看護学実習II･2単位･2年次･前期，シンプトンマネジメント論･1単位･2年次･後期，専門看護学ゼミ・2単位・3年次・通年，卒業研究2単位・4年次・通年

大学院：看護理論･2単位･1年次･前期，看護心理学特論･1年次･選択，看護心理学演習･1年次･後期，課題研究･4単位･1～2年次･通年，基盤看護学特別研究･8単位･1～2年次･通年

７．社会貢献活動

田川市住宅政策審議会委員

８．学外講義・講演

福岡県看護教員養成指導者講習会講師，「看護論」の講義，2022年5月～6月

福岡県立大学看護実践教育センター特定行為研修講師，「臨床推論と看護診断」の講義2021年8月.

９．附属研究所の活動等

看護学部／看護学科	職名	教授	氏名	波止　千惠

1．教員紹介・主な研究分野

看護師として、脳外科、外科病棟、循環器病棟での臨床経験後教員となり、その後 3 年間在宅介護支援センターの管理者として地域福祉、高齢者福祉に携わる。

熊本大学大学院　保健学教育部保健学専攻博士後期課程単位取得後退学

主な研究分野は訪問看護師の実践能力向上に関する研究

在宅酸素療法が必要な慢性閉塞性肺疾患（Chronic Obstructive Pulmonary Disease :COPD）患者が急性増悪を起こさず在宅療養を継続するための訪問看護の効果について研究しています。訪問する看護師の方が呼吸器疾患の療養者や家族の方に質の高い看護が提供できるための支援を目指しています。

2022（令和 4）年度の看護基礎教育カリキュラム改正で、在宅看護論が「地域・在宅看護論」と名称変更されました。本学では 1 年次から段階的に「地域・在宅看護実習」を行い、看護師が病院だけでなく、地域の多様な場で活動し地域で暮らす人々の健康と暮らしを守る看護師の役割や活動について学び実践できることを目指しています。

2．研究業績

①最近の著書・論文

- 波止千惠,前田ひとみ（2020）．在宅酸素療法を行っている COPD 患者の外来看護介入の効果 個別指導と訪問指導の比較，日本呼吸ケアリハビリテーション学会誌,29（2） p 276-281.

②その他最近の業績

<学会発表>

- A study of the nutritional status of older people living in hilly and mountainous areas and attending exercise classes.
  Junko hiratsuka, Takashi igari, Chie namitomi. The 16 th EAFONS 2023.Tokyo.

③過去の主要業績

- 山崎律子、波止千惠、他（2017）．医療機器を使用した在宅看護論演習の成果～酸素濃縮器と人工呼吸器を使用した体験型演習での学びを通して～純真学園大学雑誌号 7 号 p55－62
- 長弘千恵、前野有佳里、波止千恵、Ｂｅｖａｎ宏美（2010）．日本介護保険の現状と課題-介護予防の視点から-, Korean Journal　of Research in Gerontology (韓国老年学研究)、vol19、37-50.

3．外部研究資金

4．受賞

５．所属学会

日本看護科学学会会員、日本看護研究学会会員、日本呼吸ケア・リハビリテーション学会会員、日本地域看護学会会員、日本看護学教育学会会員

６．担当授業科目

〈学部〉

暮らしを知る実習・１単位・１年・後期、暮らしと保健福祉・看護１単位１年・後期、チーム医療論・１単位・１年後期、在宅看護学概論・１単位・２年・前期, 在宅看護学・２年・後期・２単位、チーム医療論・１単位・２年後期、在宅看護学演習Ⅰ・３年前期・１単位、在宅看護学演習Ⅱ・３年後期・１単位、在宅看護学実習・３年・後期・２単位、専門看護学ゼミ・２単位・３年次・通年、卒業研究・２単位・４年次・通年

〈大学院〉

在宅看護学特論・２単位・１年次、在宅看護学演習・２単位・１年次

７．社会貢献活動

・福岡県保健医療介護部高齢者地域包括ケア推進課事業：「アドバンス・ケア・プランニング」及び「自宅看取り」に関するパンフレット等の作成検討会メンバー

・ケアカフェ田川　（在宅医療多職種研修会：田川市と共同開催）：年間３回

８．学外講義・講演

９．附属研究所の活動等

看護学部／看護学科	職名	教授	氏名	福田　和美

1．教員紹介・主な研究分野

看護師として集中治療室、外科病棟、呼吸器内科病棟での臨床経験のあと、佐賀大学大学院医学研究科看護学専攻（看護学修士）に進学し、手術を受けた乳がん患者の看護を行う看護師の共感に関する研究を行いました。その後大学教員になり、九州大学大学院医学系学府保健学専攻に進学し、術後せん妄患者の家族への看護に関する研究を行い、博士課程を修了しました（看護学博士）。現在は、術後せん妄の予防的ケアも含めたうえでの患者や家族の看護に関する研究を継続して行っています。また、成人看護学教育におけるシミュレーション教育の導入や効果的な教授方法についての研究も行っています。

2．研究業績

①最近の著書・論文

- 福田和美,中尾久子，村田和子（2022）：術後早期の看護ケアを行う看護師による家族に対する情報共有に関連したケア，The Journal of Nursing Investigation，第 20 巻 1 号, p33-43, 2022.
- 村田和子，笹山万紗代，福田和美，大場美緒，政時和美，山口馨子，中井裕子，古庄夏香（2021）：成人急性看護学実習におけるシミュレーション教育を取り入れたハイブリット型学内実習の実践報告，福岡県立大学看護学研究紀要，第 19 巻, p90～105.
- 山口馨子，笹山万紗代，大場美緒，村田和子，中井裕子，福田和美（2021）：クリティカルケア実習における看護学生の体験－フォーカス・グループインタビューの分析－，福岡県立大学看護学研究紀要，第 19 巻, p69~76.
- 政時和美，大場美緒，古庄夏香，中井裕子，村田和子，笹山万紗代，山口馨子，福田和美（2021）：学内での対面とオンラインを組み合わせた成人慢性看護学実習の取り組み，福岡県立大学看護学研究紀要，第 19 巻, p115~122.
- 村田和子,福田和美（2020）：成人看護学におけるシミュレーション教育に関する文献検討，福岡県立大学看護学紀要，第 17 巻，p63-70.

②その他最近の業績

<学会発表>

- 山口馨子，福田和美（2022）：看護場面における眼球運動計測機器を用いた観察に関する文献検討．第 48 回日本看護研究学会学術集会（愛媛：オンライン）.
- 福田和美，中尾久子（2021）：看護師が行う術後せん妄患者の家族への情報提供の現状，第 41 回日本看護科学学会学術集会（愛知：オンライン）.
- 村田和子，福田和美（2020）：看護基礎教育における患者教育に関する文献検討，第 46 回日本看護研究学会学術集会（大阪市：オンライン）.
- Kazumi Fukuda, Hisako Nakao (2020) : Experience of families visiting patients immediately after the operation，the 6th International Nursing Research Conference of World Academy of Nursing Science（Osaka：オンライン）.

③過去の主要業績

- 福田和美，中尾久子（2015）：術後せん妄を発症した高齢患者の家族の体験，The Journal of Nursing Investigation，第 13 巻 1,2 号，p 20-27.
- 渡邊美保，福田和美（2014）：がん患者を対象とした全人的苦痛に対するタクティールケアの効果，日本看護医療学会雑誌，第 16 巻 2 号，p 40-48.
- Kazumi Fukuda, Hisako Nkao（2013）: Effects of post- operative delirium of patients on family members and their response, The Journal of Nursing Investigation，第 11 巻（11，2 号，p 1-13.

3．外部研究資金

科学研究費助成事業（基金分）基盤研究（C）令和 2 年～5 年，交付金額 3,120 千円，研究課題：情報提供を基盤とした術後せん妄に対する看護師と家族の協働的ケアプログラムの開発（研究代表者）

4．受賞

5．所属学会

日本看護科学学会、日本看護研究学会、日本クリティカルケア学会、日本がん看護学会、日本看護医療学会、日本老年看護学会、Sigma Theta Tau International、日本地域看護学会

6．担当授業科目

<学部>

健康レベルと看護・1 単位・1 年生・後期、人間のライフステージと看護・1 単位・1 年生・後期、看護倫理学・1 単位・2 年生・前期、成人看護学概論・1 単位・2 年・前期、チーム医療・1 単位・2 年・前期、成人慢性看護学・2 単位・2 年・後期、成人急性看護学・2 単位・2 年・後期、成人看護学演習Ⅰ・1 単位・3 年・前期、成人看護学演習Ⅱ・1 単位・3 年・前期、成人急性看護学実習・3 単位・3～4 年・後前期、成人慢性看護学実習・3 単位・3～4 年・後前期、専門看護学ゼミ・1 単位・3 年・通年、看護研究・2 単位・3 年前期、統合実習・2 単位・4 年・通年、卒業研究・1 単位・4 年生・通年

<大学院>

Advanced 臨床薬理学・2 単位・1 年・通年、成人看護学特論・2 単位・1 年前期、成人看護学演習・2 単位・1 年後期、看護研究法・2 単位・1 年前期、終末期高齢者看護論・2 単位・1 年前期、ウイメンズヘルス特論・1 単位・1 年前期、ウイメンズヘルス演習・1 単位・1 年後期、臨床看護学特別研究・1～2 年・8 単位・通年、課題研究・1～2 年・4 単位・通年

7．社会貢献活動

- 福岡県看護協会　看護研究倫理審査委員会　委員長
- 日本看護協会　第 53 回日本看護学会学術集会　抄録選考委員
- The Journal of Nursing Investigation　査読者
- 済生会福岡総合病院　特定行為研修管理委員会　外部委員

8．学外講義・講演

- 飯塚市立病院 看護過程研修会　講師
- 飯塚市立病院　接遇研修会　講師

9．附属研究所の活動等

看護学部／看護学科	職名	教授	氏名	村方　多鶴子

1．教員紹介・主な研究分野

看護師として大学病院で勤務後、教育の分野（高等学校衛生看護科・専攻科、医療技術短大、看護学部など）で長年働いてきました。その後、精神科を専門とする訪問看護ステーションにて看護師として勤務後、再び教育・研究の場に戻り、令和3年度に本学に着任しました。

研究分野としては、精神障害をもつ母親の子育てに関する研究などを行っていましたが、訪問看護ステーション勤務後は主に、精神科訪問看護ステーションにおける新任スタッフ育成に関する研究を行っています。

2．研究業績

①最近の著書・論文

- 萱間真美、稲垣中編集（2021）：精神看護学Ⅰ、第3章（発達段階別にみる発達課題と精神の健康）3-1 発達理論と発達課題、南江堂、p 131-135.
- 吉川隆博・木戸芳史編集（2021）：精神看護、第2部（アセスメント：リカバリー志向の包括的アセスメントをする技術）3-4 社会的アセスメント（家族、環境）、中央法規、p 113-117.

②その他最近の業績

〈学会発表〉

- 村方多鶴子（2020）：精神障害者を対象とした訪問看護を行う新任スタッフを育成する管理者のサポート、第40回日本看護科学学会学術集会（Web開催）.
- 村方 多鶴子(2022)：精神障害者を対象とした訪問看護を行う新任スタッフの成長プロセス、第12回日本在宅看護学会学術集会（Web開催）.
- 村方多鶴子（2022）：精神障害者を対象とした訪問看護を行う新任スタッフ育成プログラムの開発－管理者が新任スタッフに行っているサポート-、第42回日本看護科学学会学術集会（Web開催）.

③過去の主要業績

- 村方多鶴子（2018）：集中的な支援が必要な精神障害者に対する24時間電話対応、精神科臨床サービス、18(3)、p 54～58
- 村方多鶴子（2018）：訪問看護における電話対応、精神科臨床サービス、18（3）、P59～P62
- 村方多鶴子、角田秋(2017)：必要な精神医療を受けずに子どもと同居している母親への支援　アウトリーチ推進事業による手厚い支援の分析、精神障害とリハビリテ～ション、21(2)、p 188～195

3．外部研究資金

科学研究費助成事業若手研究、2019～2022年度（期間延長）、交付金額1,690千円、研究課題：精神障害者を対象とした訪問看護を行う新任スタッフ育成プログラムの開発（研究代表者）

4．受賞

5．所属学会

日本看護研究学会、日本看護科学学会、日本精神保健看護学会、日本社会精神医学会、
日本精神障害者リハビリテーション学会、日本在宅看護学会

6．担当授業科目

〈学部〉 精神看護学概論・2単位・2年・前期、看護倫理学・1単位・2年・前期、精神看護学・2単位・2年・後期、精神看護学演習Ⅰ・1単位・3年・前期、精神看護学演習Ⅱ・1 単位・3年前期、精神看護学実習・2単位・3年後期～4年前期、専門看護学ゼミ・2単位・3年・通年、卒業研究・2単位・4年・通年

〈大学院〉

助産学課題研究4単位通年、精神看護学特論2単位・1年・前期

7．社会貢献活動

福岡県覚醒剤・麻薬禍対策協議会委員

高校訪問：嘉穂高校・鞍手高校、三井中央高校

8．学外講義・講演

・宮崎県立看護大学：精神科訪問看護力向上のためのネットワーク構築事業：ステーション間で看護実践力を高めるための交流を推進するために

・全国訪問看護事業協会：精神科訪問看護研修会ファシリテーター

9．附属研究所の活動等

看護学部／看護学科	職名	准教授	氏名	石村　美由紀

１．教員紹介・主な研究分野

不妊支援、妊婦教育、助産師教育に関する研究に取り組んでいる。特に不妊支援においては、不妊専門相談センターのあり方に関する研究を行うとともに、不妊カウンセラーの資格を活かし、不妊当事者のおしゃべり会を定期的に開催したり、行政の不育症相談員として活動している。妊婦教育においては、マタニティサロン・ムーンという妊婦教室の企画・運営に携わっている。助産師教育においては、助産学実習における学生のパワーレスに関する研究や、分娩介助技術習得過程に関する研究を行い教育の質の向上に努めている。また小中高校生対象の性教育も積極的に行っている。

２．研究業績

①最近の著書・論文

- 金子あやみ，鳥越郁代，石村美由紀（2020）.「進まない分娩」に対する開業助産師の助産ケア. 日本助産学会誌 34（2），204-215.
- 榮田絹代，石村美由紀，柿並洋子，中藤由佳美，柳迫三寛，徳田和央，中村文哉，吉村耕一. 少子化と子育て支援の現状ー3 人目の壁に着目してー. 山口県立大学学術情報第 16 号［大学院論集通巻第 24 号］. 2023. 93-98
- 橋本優，石村美由紀，佐藤香代. 妊婦のセルフケアを目指した骨盤位矯正法の検討―温灸・膝胸位・施行なし群の有効性と安全性ー. 母性衛生 63（4）. 2023.940-947.
- 石村美由紀，佐藤繭子，道園亜希，小林香華，久我美里，内山絢佳，井浦碧，古川愛梨. 大学院助産師教育における産育習俗探索（フィールドワーク）の実践報告. 福岡県立大学看護学研究紀要 20. 2023. 1-7.

②その他最近の業績

③過去の主要業績

- 石村美由紀，佐藤香代，吉田静，道園亜希，林千絵，清田哲子(2017). 死産を体験した母親の次子の妊娠・出産・育児に関する研究(第 2 報)ー次子の出産・育児体験の語りからー. 母性衛生 58(2)，346-354.
- 石村美由紀，古田祐子，佐藤香代，鳥越郁代(2016). 学士課程における助産実践能力(分娩介助技術および健康教育)の到達状況と課題. 福岡県立大学看護学部紀要 13(1)，1-10.
- 石村美由紀.（2016).「自治体ウェブサイトから得られる不妊専門相談センター事業の情報と課題」. 日本生殖看護学会誌 13(1)，21-27.

３．外部研究資金

科研費：「行政が担う不妊専門相談センターを活用した不妊支援システムの構築」
基盤研究Ｃ（課題番号 17K12311）
事業期間：平成 29 年度から令和 2 年度まで（延長して令和 5 年度まで）
交付金額：1,076,425 円

４．受賞

５．所属学会

日本母性衛生学会，日本助産学会，日本不妊カウンセリング学会（不妊カウンセラー資格取得），日本生殖看護学会（編集委員），日本思春期学会（理事、性教育認定制度委員・幹事），日本看護科学学会（学術集会企画委員），福岡母性衛生学会

６．担当授業科目

<学部>
人間のライフステージと看護(1)・1 年後期
<大学院>
助産学特論(2)・1 年前期，助産学演習(2)・1 年後期，ウイメンズヘルス特論(1)・1 年前期，ウイメンズヘルス演習(1)・1 年後期，基礎助産学特論(2)・1 年前期，基礎助産学演習(2)・1 年通年，助産実践学Ⅰ(2)・1 年前期，助産実践学Ⅱ(4)・1 年通年，助産実践学Ⅲ(2)・1 年後期，助産実践学Ⅳ(2)・1 年後期，ホリスティック助産学特論(1)・1 年前期，ホリスティック助産学演習(2)・1 年後期，コミュニティ助産学特論(1)・1 年前期，コミュニティ助産学演習(2)・1 年後期，マネジメント助産学特論(2)・2 年前期，助産学実習Ⅰ(1)・1 年前期，助産学実習Ⅱ(8)・1 年後，助産学実習Ⅲ(2)・2 年前期，助産学実習Ⅳ(1)・2 年前期，助産学実習Ⅴ(2)・2 年後期，特別研究（8)・通年，課題研究（4)・通年

７．社会貢献活動

・北九州市不妊専門相談センター　不育症相談担当
・不妊カウンセラー（日本不妊カウンセリング学会認定）
・妊婦教室（マタニティサロン・ムーン）（香春町共催）全 5 回シリーズ
　セッション 1：いのちを育む食　～はじめましてのご挨拶　野菜の力を体験～
　セッション 2：かおりでほぐす心とからだ　～私と赤ちゃんを癒す優しいタッチ～
　セッション 3：　案ずるより産むがやすし　～ヨガと骨盤ワークでリラックス～
　セッション 4：世界に一つだけの私のお産　～うむ力うまれる力　ありのままのあなた～
　同窓会

８．学外講義・講演

・講演「いのちの誕生―大切なあなたの“いのち”と“からだ”―」．福岡市立多々良中学校１年生．(2022.12)

・講演「大切な“生命（いのち）”と“性”」．香春町立香春思永館．７年生～９年生（中学生）．(2022.12)

・講演「小学生までに知っておきたい性(生)のはなし～大切な１３のポイント～基礎編」田川市教育委員共催．(2022.11)

・講演「小学生までに知っておきたい性(生)のはなし～大切な１３のポイント～実践編」田川市教育委員共催．(2023.3)

９．附属研究所の活動等

看護学部／看護学科	職名	准教授	氏名	楳　直美

1．教員紹介・主な研究分野

北九州市立大学社会システム研究科地域社会システム専攻博士後期課程修了、博士（学術）。研究分野は「地域・在宅で生活する療養高齢者とその家族の支援」をテーマとし、特に近年は認知症を抱える家族介護者の“持てる介護力”に着目して、その潜在的介護力を引き出し向上させていくための多職種協働による効果的な介入方法について研究中です。介護保険制度が施行され家族の身体的介護負担は軽減された側面もありますが、孤立した家族介護者の寂しさや閉塞感は以前と変わっていないように感じます。本当に必要な看護支援を見出すためには、自ら介護家族者と触れ合いその苦悩を感じ取る感性が必要だと考えます。そのために介護する側とされる側の方々に寄り添った医療・福祉連携の多職種研修会や介護関係の研修会講師など地域での実践活動を積極的に行い、その活動を通して、介護保険制度にはないインフォーマルな関係性を構築していきたいと思います。そして目指すはエビデンスに基づいた家族介護者のエンパワメント向上への看護支援です。

2．研究業績

①最近の著書・論文

<論文>

- 平塚淳子、猪狩崇、中村美穂子、小野順子、吉川未桜、吉田麻美、田中美樹、山下清香、楳直美 尾形由起子．A県における訪問看護ステーションのBCP策定における現状と課題．福岡県立大学看護学研究紀要，20巻,2023年,3月．
- 楳直美，尾形由起子，小野順子，中村美穂子，大場美緒，吉田麻美，猪狩崇，平塚淳子，田中美樹，吉川未桜，山下清香．在宅医療推進における訪問看護ステーション連携への取組に関する一考察．福岡県立大学看護学研究紀要，19巻,2022年,3月．
- 楳直美．家族介護者の介護肯定感形成のための対処行動の検討，日本ホスピス・在宅ケア研究会雑誌，第29巻3号，2021，12月．
- 御手洗みどり，楳直美，楠凡之．看護学の実習におけるシミュレーション教育の学習効果―臨地実習経験のある学生の学びのレポートからの分析―、北九州市立大学文学部紀要、第29巻、2022、P19-30.
- 小野順子，山下清香，中村美穂子，中本亮，楳直美，田中美樹，吉川美桜，吉田麻美，尾形由起子．A県における訪問看護ステーションの災害対策の現状と課題-災害時の在宅療養継続に向けて-．福岡県立大学看護学研究紀要，19巻,2022年,3月．
- 田中美樹，吉川未桜，尾形由起子，楳直美，吉田麻美．小児訪問看護における訪問看護師の困難感と同行訪問研修の試み．福岡県立大学看護学研究紀要，19巻,2022年,3月．
- 吉川未桜，吉田麻美，平塚淳子，中村美穂子，大場美緒，小野順子，猪狩崇，山下清香，田中美樹，楳直美，尾形由起子．新型コロナウイルス感染拡大下における訪問看護ステーションの困難と対応．福岡県立大学看護学研究紀要，19巻,2022年,3月．

・ 尾形由起子，小野順子，山下清香，櫟直美，眞崎直子．多職種による終末期までの療養生活に対する意思決定支援内容の検討．福岡県立大学看護学研究紀要，第 18 巻．2021，3 月．

②その他最近の業績

<学会発表>

・ Y.OGATA, J.ONO, K.YAMASHITA, Y.SUGIMOTO,R. HIROKI, N.ICHIKI. A study on clarify the relation with perceptions regarding home care decision-making until the end-of-life of community residents.end-of-life care, decision-making, community, support, attachment, 26th East Asian Forum of Nursing Scholars: EAFONS 2023,March 10–11,2023.Tokyo
・ Naomi Ichiki, Yukiko Ogata, Junko Ono, Kiyoka Yamashita, A study on the actual situation and issues of end-of-life care for home-visit nurses, 26th East Asian Forum of Nursing Scholars: EAFONS 2023,March 10–11,2023.Tokyo
・ Junko Ono , Yukiko Ogata , Naomi Ichiki , Kiyoka Yamashita, Disaster Countermeasures at Home-Visiting Nursing Service Stations for Maintaining Home Care . 26th East Asian Forum of Nursing Scholars: EAFONS 2023,March 10–11,2023.Tokyo
・ 御手洗みどり，雪松和子，廣瀬理絵，櫟直美．老年看護学におけるシミュレーション実習の学習効果について～臨地実習経験のある学生の学びのレポートからの分析～．第 47 回日本看護研究会,web 開催．2021 年.
・ 櫟直美，雪松和子，江上史子，廣瀬理恵．認知症カフェ開設に向けた人材育成の取り組みの効果について．第 40 回日本看護科学学会．Web 開催．2020 年．12 月．

<報告書>

・ 「令和 3 年度福岡県訪問看護ステーション連携強化事業」報告書，2022 年 3 月．
・ 「令和 2 年度福岡県訪問看護ステーション連携強化事業」報告書，2021 年 3 月．
・ 「令和元年度福岡県訪問看護ステーション連携強化事業」報告書，2020 年 3 月．
・ 「平成 31 年度付属研究所重点領域研究報告書」地域包括ケアシステム構築に向けた保健医療福祉データの GIS 分析による地域診断モデルの開発，2020 年 3 月．

③過去の主要業績

『博士論文』家族介護者の介護適応を促す協同的ケアモデルに関する研究 - 家族介護者の介護力向上のために必要な看護支援の検討．全 115 頁．2015 年 3 月．

3．外部研究資金

・ 文部科学省科科学研究費補助金、基盤 C（平成 30～33 年）「認知症カフェにおける家族介護者の介護力獲得支援モデルの開発 」研究代表者
・ 福岡県訪問看護連携強化事業受託金（2020～2022 年）研究分担者(代表；尾形由起子)
・ 文部科学省科科学研究費補助金、基盤 C（平成 29～33 年）「簡易型認知行動療法プログラムの生活習慣改善への効果検証」研究分担者（代表；田中美加）

4．受賞

5．所属学会

日本看護協会、日本看護科学学会、日本看護研究学会、日本在宅ケア学会、日本老年看護学会、日本公衆衛生学会、日本地域看護学会、日本看護医療学会、日本在宅ホスピスケア研究会

6．担当授業科目

老年看護学・2単位・2年・後期,老年看護学演習Ⅰ・2単位・3年・前期,老年看護学演習Ⅱ，1単位・3～4年・通年，老年看護実習Ⅰ・1単位・2年・通年,老年看護実習Ⅱ・2単位・3～4年・通年，専門看護学ゼミ・2単位・3年・通年，統合実習・2単位・4年・前期,卒業研究・2単位・4年・後期,老年看護学特論・2単位・修士1年,老年看護学演習・2単位・修士1年，高齢者医療保健福祉政策・ケアシステム論2単位・修士1年,

7．社会貢献活動

- NPO法人「ヘルスアイランドライツサポートうりずん」第三者評価委員会委員長
- 北九州市生きがい・働き方検討会委員
- 田川市地域包括ケアシステム推進協議会委員
- 田川市高齢者保健福祉計画有識者会議委員
- NPO法人「福祉・医療機関教育評価機構」理事・第三者評価委員
- NPO法人「生涯現役支援センター」高齢者健康相談員
- 令和4年度「人に優しい町・田川をつくる会」理事
- 北九州在宅医療・介護塾世話人として年間を通して多職種連携研修会やフォーラム等開催による実践活動.
- 筑豊市民大学「ヘルシーエイジングゼミ」参画し年間を通し地域住民との協同的実践活動.

8．学外講義・講演

- 福岡県看護協会筑豊支部看護研究発表会、講評．2022年10月.
- 北九州市介護従事者研修会オンライン開催講師「高齢者の誤嚥予防～あきらめない食事へのアプローチ～」ウェル戸畑，2022年10月、11月.
- 田川市立病院看護研究発表会、研究推進講話，講評．2022年10月.

9．附属研究所の活動等

- 附属研究所奨励研究令和3年度（附属研究所重点領域研究），地域包括ケアシステム構築に向けた保健医療福祉データのGIS分析による地域診断モデルの開発.
- 筑豊市民大学ヘルシーエイジングゼミアドバイザー.

看護学部／看護学科	職名	准教授	氏名	芋川　浩

1．教員紹介・主な研究分野

大阪大学 大学院・医学研究科を修了後(医科学修士)、 名古屋大学 大学院理学研究科博士後期課程に進学・修了(理学博士)した。その後、岡崎国立共同研究機構・基礎生物学研究所にて日本学術振興会・特別研究員(PhD)、科学技術振興機構(JST) ERATO 吉里再生機構プロジェクト・グループリーダー、英国 University College London (UCL) 上級研究員、RIKEN 発生再生総合科学研究センター上級研究員を経て、2005 年本学に着任。

現在、再生医療に関する研究を、脊椎動物で唯一手足などを再生できるイモリや再生の王様であるプラナリアなどを用いて解析を進めている。(ちなみに、イモリ(井守)とヤモリ(家守)は違いますので、ご注意ください。)

ヒトなどは、手足や臓器・器官を失うと、再生させることはできないが、イモリという有尾両生類は、手足や水晶体、網膜などを失っても、完全にもとに再生することができる。近年のめざましい生命科学の進歩により、四肢形成に関わる主要な遺伝子群もわかってきた。実は、手足をもつ脊椎動物は、全く同じ遺伝子を用いて手足を形成しているのだ。では、同じ遺伝子を持っているのに、なぜイモリは再生できて、ヒトは再生できないのか？その難問を解明しようと研究を進めている。

近年注目されている iPS 細胞を使ってさえも臓器・器官の形成に誰もまだ成功していない。このような夢の再生医療の実現を再生の王様であるプラナリアやイモリから教えてもらいたいと考え、2017 年、世界で 2 例目となる「イモリの培養細胞株」の樹立に成功した。これは、日本初のイモリ培養細胞株の樹立である。このイモリの細胞株を使って、現在試験管内での 3 次元組織構築に挑んでいる。

また、このような再生医学的アプローチばかりではなく、「スキンクリーム」の開発により、福岡県立大学初の特許取得にも成功した。

さらに、医療に使える殺菌抗菌効果の解析も進めており、ヨーグルトやニンニク、長ネギ、わさび、ポッカレモンなどで興味深い結果も得ている。

2．研究業績

①最近の著書・論文

- 芋川　浩　(単著)『ライフサイエンス 生命の神秘』木星舎, p1－143, 2022 年(改訂)
- 芋川浩, 上鶴紗也.　レモンとポッカレモンの殺菌・抗菌効果の比較解析. 福岡県立大学看護学研究紀要 20：印刷中, 2023
- 芋川浩, 山井ゆり.　ドクダミの殺菌・抗菌効果の解析 -揮発性成分の有効性-. 福岡県立大学看護学研究紀要 19：25-33, 2022
- 芋川浩,　藤野まりか.　味噌の殺菌抗菌効果の解析. 福岡県立大学看護学研究紀要. 18：1-11, 2021
- 芋川浩,　古谷弥椰. 常在菌に対する生ワサビ抗菌効果の解析.
  福岡県立大学看護学研究紀要. 17：17-25, 2020

②その他最近の業績

<学会発表>

- 芋川　浩.　レモンとポッカレモンの殺菌･抗菌効果の比較解析.　第 47 回日本看護研究学会 学術集会
  松山市(対面・オンライン同時開催)　2022.
- 芋川　浩.　ドクダミの殺菌抗菌効果について.　第 46 回日本看護研究学会 学術集会
  仙台市(オンライン開催)　2021.
- 芋川　浩.　市販のニンニクにはどの程度の殺菌・抗菌効果があるのか？
  第 46 回日本看護研究学会 学術集会　札幌市(オンデマンド開催)　2020.

③過去の主要業績

- 芋川　浩　(単著)『ライフサイエンス 生命の神秘』木星舎, p1－143, 2022 年(改訂)
- 芋川　浩.『皮膚創傷部治癒用組成物及び同皮膚創傷部治癒用組成物の製造方法』
  日本国特許庁・特許公報(B2)　p1-20 , 2016 年
- Y. Imokawa & K.Yoshizato. Expression of Sonic Hedgehog Gene in Newt Regenerating Limb Blastemas Recapitulates That in Developing Limb Buds.
  Proc. Natl. Acad. Sci. USA 94, 9159-9164 (1997).

3．外部研究資金

4．受賞

5．所属学会

日本発生生物学会、日本分子生物学会、日本動物学会、日本看護研究学会

6．担当授業科目

生物学・２単位・１年・前期、教養演習・２単位・１年・前期、遺伝学・２単位・１年・後期、看護生化学・２単位・１年・後期、化学・２単位・１年・後期、生態病態看護学実験 A・２単位・２年生・前期、生態病態看護学実験 B・２単位・２年生・前期、グローバル社会論・２単位・２年生、専門看護学ゼミ・２単位・３年・通年、卒業研究・２単位・４年・通年、日本事情 A(科学事情 I&II)・２単位・交換留学生・後期

7．社会貢献活動

①宗像市・福津市による青少年育成事業の委員として、
海とマリンスポーツに親しむ推進事業を小中学生等に指導・教育している

②西南学院大学・非常勤講師　(科目名：生命科学 I(7), 生命科学 I(8), 生命科学 II(7), 生命科学 II(8))

③聖マリア学院大学・非常勤講師　(科目名：生物学)
④麻生看護大学校・・非常勤講師　(科目名：異文化の理解と交流)

8．学外講義・講演

9．附属研究所の活動等
・ヘルスプロモーション実践研究センター兼任研究員

看護学部／看護学科	職名	准教授	氏名	加藤　法子

1．教員紹介・主な研究分野

平成 15 年 4 月より本学に着任し、基礎看護学の教育に携わっています。

研究は、看護技術・看護教育をキーワードに、看護技術の科学的検証や科学的根拠に基づいた技術教育プログラムの開発、実習による教育効果の検討など、看護基礎教育の充実を目指した研究に取り組んでいます。現在は主に、吸引技術に関する基礎的研究や教育方法に関する研究を行っています。

2．研究業績

①最近の著書・論文

- 塩田昇、廣瀬理絵、松山美幸、加藤法子、蔵元恵里子、田中美智子、江上千代美、「陣痛促進剤による薬害被害者」の講演を聞いた学生は薬害防止に向け何を思い・感じたか,福岡県立大学看護学部研究紀要,19 巻,77–87,2022.
- 渕野由夏、永嶋由理子、加藤法子、藤野靖博、於久比呂美、宮﨑千尋、基礎看護学教科書における人間の概念に関する検討,福岡県立大学看護学研究紀要,17 巻,57-61,2020.

②その他最近の業績

<学会発表>

③過去の主要業績

- 加藤法子,呼吸困難感により自宅にこもりがちな在宅酸素療養患者.安酸史子,奥祥子編,患者がみえる成人看護の実践,メディカ出版,2007.
- 加藤法子,渕野由夏,永嶋由理子: 高齢在宅酸素療法患者の自己効力感に影響を及ぼす要因の検討.福岡県立大学看護学研究要,4(2),64 - 68.2007.
  加藤法子.呼吸器系器官に問題のある対象へのフィジカルアセスメント.臨床看護,34（4）,457-490.2008.
- 加藤法子:高齢者の栄養管理. 三原博光,松本百合美編著,豊かな老後生活を目指した高齢者介護支援,関西学院大学出版会,2013.

3．外部研究資金

科学研究費助成事業（基金分）(基盤研究(C))29 年度～31 年度 交付金額 2,470 千円
研究課題、経験知に基づいた吸引技術教育の検討（研究代表者）＊期間延長

4．受賞

５．所属学会

日本看護協会、日本看護科学学会、日本看護研究学会、日本看護技術学会、日本産業衛生学会
日本看護学教育学会

６．担当授業科目

<学部>

基礎看護学概論･2 単位･1 年･前期，基礎看護学実習Ⅰ･1 単位･1 年･前期，基礎看護技術論･2 単位･1 年･後期，フィジカルアセスメント論･1 単位･2 年･前期，看護過程･1 単位･2 年･前期，基礎看護学実習Ⅱ･2 単位･2 年･前期，シンプトンマネジメント論･1 単位･2 年･後期，統合実習･2 単位･4 年･前期，専門看護学ゼミ･2 単位･3 年･通年，卒業研究･2 単位･4 年･通年

<大学院>

看護理論･2 単位･1 年･前期　看護心理学特論･2単位･1年･前期

７．社会貢献活動

・田川市男女共同参画委員会委員
・ゆめっせフェスタ実行委員会

８．学外講義・講演

９．附属研究所の活動等

ヘルスプロモーション実践研究センター兼任研究員

看護学部／看護学科	職名	准教授	氏名	四戸　智昭

1．教員紹介・主な研究分野

アルコール依存症などの依存症問題、児童虐待、不登校・ひきこもりなど主に家族機能に関する行動病理学を主な研究対象としています。具体的には、①不登校・ひきこもりの子を抱えた親の問題、②幼児期に児童虐待を受けた人の複雑性 PTSD に関する問題、③生活保護受給世帯におけるアルコール依存症の問題などに関して調査研究をしています。

家族のあり方が多様化している一方で、その家族が地域から孤立してしまっているような悲しいニュースを聞かない日はありません。地域保健活動などでこういった分野に関わっていらっしゃる方や学校関係者の方、また、福祉関係者の方、ご要望があればいつでもお話しを伺いに参ります。お気軽にメールでご連絡ください。

（E-MAIL：shinohe@fukuoka-pu.ac.jp）

2．研究業績

①最近の著書・論文

- 四戸智昭著.「第 3 章資料を探そう－上手に本を探すテクニック－」.『旅する大学生のガイドブック－レポートの書き方 2022 年度版』. 福岡県立大学教養演習テキスト出版会. 2022 年 4 月.
- 四戸智昭.「新型コロナ感染症による孤独と不安」.『岩手の保健』. 226 号. 岩手県国民健康保険団体連合会. 2021 年 3 月.
- 柿原 愛、四戸 智昭.「HSP とアダルト・チルドレンの関連性に関する一考察」.『アディクションと家族』.第 37 巻第 2 号.日本嗜癖行動学会.2022 年 7 月.

②その他最近の業績

<学会発表>

- 柿原 愛、四戸 智昭.「HSP とアダルト・チルドレンの関連性に関する一考察」.日本嗜癖行動学会第３１回学術集会.熊本.2021 年１１月.

③過去の主要業績

- 四戸智昭著.（単著）.『浪費を止める小さな習慣』.（2001）. 光文社.
- 丸山久美子編著. 柏木哲夫、佐藤禮子、吉井光信、楯林義孝、石谷邦彦、平山正実、日野原重明、萬代隆、宮崎貴久子、小林美智子、丸山久美子、加藤淳、竹村和久、須田誠、南隆男、木島恒一、四戸智昭、大塚健樹、鈴木則子、小泉晋一、松井洋、西村洋一、作田明、小谷みどり.”第 14 章家族の孤立という危機－ディスコミュニケーションが生む家族の苦悩－”.『２１世紀の心の処方学—医学・看護学・心理学からの提言と実践—』.（2008）. 東京、アートアンドブレーン出版.
- 西日本新聞朝刊連載、家族百景Ⅱ、四戸智昭、「不登校・ひきこもり考－親子の視点から」2013 年 8 月 13 日～12 月 24 日（全 19 回）

３．外部研究資金

科学研究費補助金（基盤研究 C）R1（H31）～R3（R5 まで延長）「不登校・ひきこもり当事者家族に変化を促す支援者のためのフローチェックリストの研究」（研究代表者　四戸智昭）

４．受賞

５．所属学会

日本嗜癖行動学会（学会誌編集委員）、日本社会福祉学会、日本地域福祉学会、日本アルコール関連問題学会、日本看護アディクション学会、子ども虐待防止学会

６．担当授業科目

情報処理演習Ⅰ・２単位・１年・前期、教養演習・１単位・１年・前期、現代社会と嗜癖・２単位・１年・後期、不登校ひきこもり援助論・２単位・１年・前期、看護学研究・２単位・３年・後期、家族看護学・１単位・３年・前期、保健医療福祉行政論Ⅰ・１単位・２年・後期、専門看護学ゼミ・２単位・３年・通年、卒業研究・２単位・４年・通年、保健医療福祉行政論Ⅱ・２単位・４年・後期、日本事情Ｂ・留学生・前期、日本事情Ａ・留学生・後期、大学院看護学研究法・２単位・１年・前期、大学院嗜癖行動学特論・２単位・１年・後期

７．社会貢献活動

・福岡県覚せい剤・麻薬禍対策協議会・委員
・田川市いじめ問題対策委員会・委員長
・北九州市依存症対策連携会議・委員
・福岡県薬物再乱用対策推進会議・委員

８．学外講義・講演

・水巻看護助産学校、特別講義、2023 年 2 月

９．附属研究所の活動等

看護学部／看護学科	職名	准教授	氏名	杉野　浩幸

1．教員紹介・主な研究分野

広島大学大学院工学研究科博士課程後期修了、博士（工学）。看護系教育機関における教員を対象とした学会発表支援・情報機器操作支援など、ICT を活用した研究・教育を行っている。現在の研究テーマは、1）看護系教育機関における効果的な細菌学演習マニュアルの作成、2）中堅看護従事者のための学会参加支援プログラムの開発、3）看護師、看護学部教員を対象とした細菌培養実験の指導、4）看護系教育機関における効率的な細菌学演習を支援するデータベースの構築と運用、5）効率的な看護研究・教育を支援するデジタル素材無償配信システムの構築と運用

2．研究業績

①最近の著書・論文

②その他最近の業績

<学会発表>

- 杉野浩幸、効率的な看護研究・教育推進を支援するための ICT 技術支援：ICT 器機利用トラブル対処状況に基づく支援方法の検討、日本看護研究学会第 26 回九州・沖縄地方学会学術集会、オンライン、2022 年 2 月 2 日～2 月 15 日
- 杉野浩幸、看護学部基礎教育における感染看護教育効果向上への取り組み：常在細菌・真菌類を用いた実験を活用した事例、日本看護学教育学会・学術集会、オンライン、2021 年 8 月 18 日～9 月 17 日
- 杉野浩幸、効率的な看護研究・教育推進を支援するための ICT 技術サポート体制構築：ICT 関連トラブルの現状と対応策の検討、日本看護研究学会・第 47 回学術集会、オンライン、2021 年 8 月 23 日～9 月 3 日
- 杉野浩幸、効率的な看護研究・教育推進を支援するための ICT 技術サポート体制構築-2：遠隔授業におけるトラブルの現状と対応策の検討、日本看護研究学会・第 47 回学術集会、オンライン、2021 年 8 月 23 日～9 月 3 日

③過去の主要業績

- H. Sugino, S. Furuichi, S. Murao, M. Arai and T. Fujii, Characterization of a *Rhodotorula*-lytic enzyme from *Paecilomyces lilacinus* having ß-1,3-mannanase activity. 2004, *Biosci. Biotechnol. Biochem.* 68:757-760
- H. Sugino, Y. Terakawa, A. Yamasaki, K. Nakamura, Y. Higuchi, J. Matsubara, H. Kuniyoshi, and S. Ikegami, Molecular characterization of a novel nuclear transglutaminase that is expressed during starfish embryogenesis. 2002, *Eur. J. Biochem.* 269:1957-1967

・ H. Sugino, M. Sasaki, H. Azakami, M. Yamashita, and Y. Murooka, A monoamine-regulated *Klebsiella aerogenes* operon containing the monoamine oxidase structural gene (*maoA*) and the *maoC* gene. 1992. *J. Bacteriol.* 174:2485-2492

3．外部研究資金

文部科学省、学術研究助成基金助成金（科研費（基盤 C））、効率的な看護研究・教育を支援するデジタル素材無償配信システムの構築と運用、1,800 千円、2019 年 4 月～2023 年 3 月

4．受賞

5．所属学会

日本看護教育学会

日本看護学研究学会

6．担当授業科目

感染・免疫看護学演習・1 単位・1 年・後期、生態・病態看護学実験 A,B・1 単位・2 年・前期、看護情報学・1 単位・2 年・後期、看護研究・2 単位・3 年・前期、専門看護学ゼミ・2 単位・3 年・通年、卒業研究・2 単位・4 年・通年

7．社会貢献活動

8．学外講義・講演

9．附属研究所の活動等

ヘルスプロモーション実践研究センター兼任研究員

看護学部／看護学科	職名	准教授	氏名	田中　美樹

1．教員紹介・主な研究分野

看護師として集中治療室、NICU 等での勤務を経てたのち、名古屋大学大学院医学系研究科博士前期課程修了後より看護教育に携わり、2011 年本学に着任しました。西南学院大学人間科学研究科人間科学専攻博士後期課程 単位取得満期退学。

現在、本学こどもコース教員と連携し、入院中であっても子どもが子どもらしく生活するため保育士と看護師が専門性を発揮しながら協働するための研究および教育に取り組んでいます。また、子どもが初めて訪れる医療機関である小児科外来において、子どもが安心・安全に受診するための Preparation（プレパレーション）について取り組んでいます。

2．研究業績

①最近の著書・論文

- 田中　美樹、吉川　未桜、吉田　麻美、中原　雄一、杉野　寿子、池田　孝博．入院中の子どもを支える保育士と看護師の専門性を活かした協働　第 1 報－業務内容の現状分析－．福岡県立大学看護学部紀要第 20 巻．2023 年 3 月
- 吉川　未桜、田中　美樹、吉田　麻美、中原　雄一、杉野　寿子、池田　孝博．入院中の子どもを支える保育士と看護師の専門性を活かした協働　第 2 報－協働の現状と課題－．福岡県立大学看護学部紀要第 20 巻．2023 年 3 月
- 田中　美樹、吉川　未桜、吉田　麻美、杉野　寿子、中原　雄一、池田　孝博．新型コロナウイルス感染症拡大による入院中の子どもを支える上での看護師と保育士の困難感．福岡県立大学人間社会学部紀要第 31 巻 2 号．2023 年 3 月
- 平塚　淳子、猪狩　崇、中村　美穂子、小野　順子、吉川　未桜、吉田　麻美、田中　美樹、山下　清香、櫟 直美、尾形　由起子．A 県における訪問看護ステーションの BCP 策定における現状と課題．福岡県立大学看護学部紀要第 20 巻．2023 年 3 月
- 杉野　寿子、吉川　未桜、田中　美樹、吉田　麻美、池田　孝博、中原　雄一「入院中の子どもの権利と家族の QOL に関する課題」福岡県立大学人間社会学部紀要第 31 巻第 1 号．2022 年．pp71-79
- 田中　美樹、吉川　未桜、尾形　由起子、櫟　直美、吉田　麻美「小児訪問看護における訪問看護師の困難感と同行訪問研修の試み」福岡県立大学看護学部紀要 19 巻.2022 年. pp107-114
- 吉川　未桜 、吉田　麻美、平塚　淳子、中村　美穂子、大場　美緒、小野　順子、猪狩　崇、山下　清香、田中　美樹、櫟　直美、尾形　由起子「新型コロナウイルス感染拡大下における訪問看護ステーションの困難と対応」福岡県立大学看護学部紀要 19 巻.2022 年. pp45-55
- 小野　順子、山下　清香、中村　美穂子、中本　亮、櫟　直美、田中　美樹、吉川　美桜、吉田　麻美、尾形　由起子「A 県における訪問看護ステーションの災害対策の現状と課題-災害時の在宅療養継続に向けて-」福岡県立大学看護学部紀要 19 巻.2022 年. pp123-132

・ 樑　直美、尾形　由起子、小野　順子、中村美穂子、大場　美緒、吉田　麻美、猪狩　崇、平塚　淳子、田中　美樹、吉川　未桜、山下　清香「在宅医療推進における訪問看護ステーション連携への取組に関する一考察」福岡県立大学看護学部紀要 19 巻.2022 年. pp13-23
・ 杉野　寿子、田中　美樹、吉川　未桜、吉田　麻美、中原　雄一、池田　孝博「保育士養成課程における保健・健康の学びに関する研究」福岡県立大学人間社会学部紀要 29 巻 1 号.2020 年.

②その他最近の業績

<学会発表>

・ 田中　美樹、野村　さちい、伊藤　舞美、原田　香奈、児玉　和彦　セミナー「やってみたくなる！出来る気がする！プレパレーション」第 31 回日本外来小児科学会. 2022 年
・ 川添 優、吉川 未桜、吉田 麻美、田中 美樹 学会発表「予防接種を受ける子どもの親の意思決定要因とその過程で生じる不安・迷いに関する文献研究」第 67 回日本小児保健協会学術会.2020 年

③過去の主要業績

・ 田中美樹. NICU 退院時と母親への継続的育児支援に関する研究. 日本新生児看護学会 vol.13.no.1.2006 年.pp15-21
・ 田中美樹. 保育所における慢性疾患をもつ子どもへの支援. 保育と保健 vol.19.no.2.2013 年.pp68-72
・ 吉川未桜、青野広子、田中美樹、宮城由美子. 赤ちゃん先生を活用した小児看護技術演習の効果. 福岡県立大学看護学部研究紀要第 13 巻 1 号. 2016 年

3．外部研究資金

4．受賞

5．所属学会

日本小児保健協会、日本外来小児科学会、日本子ども健康科学学会、日本保育園保健協議会、九州・沖縄小児看護教育研究会、日本看護研究学会、日本小児看護学会、日本家族看護学会

6．担当授業科目

（看護学部）

教養演習・1 単位・1 年・前期、人間のライフステージと看護・1 単位・1 年・後期
看護倫理学・1 単位・2 年・前期、医療安全・1 単位・2 年・前期、小児看護学概論・1 単位・2 年・前期、小児看護学・2 単位・2 年・後期
小児看護学演習Ⅰ・1 単位・3 年・前期、小児看護学演習Ⅱ・1 単位・3 年、小児看護学実習・2 単位・3 年、専門看護学ゼミ・2 単位・3 年
統合実習・2 単位・4 年・前期、卒業研究・2 単位・4 年

（人間社会学部）

子どもの健康と安全・1 単位・2 年・前期

（看護学研究科）

小児看護学特論・2 単位・1～2 年・前期、小児看護学演習・2 単位・1～2 年・後期

7．社会貢献活動

- 田川市立幼稚園 3～5 歳対象健康教育と体験「いのちを大切にすること」
- 田川市子育て支援センター子育て中の母親向けゼミナー「こんなときどうするの？～」

8．学外講義・講演

- 福岡県 消防職員専科教育第 39 回救急科講義「小児・新生児」
- 筑豊地区保育士会 保育士研修会「保育所（園）での感染対策-子どもの安全を守るために」
- 北九州市社会福祉研修所 令和 4 年度保健衛生・安全対策研修「保健計画の作成と活用・事故防止および健康安全管理」

9．附属研究所の活動等

- 令和 4 年度（2 年間）福岡県立大学付属研究所研究奨励交付金（重点領域研究）「子どもの最善の利益のための看護師と保育士の協働と連携に関する研究」
- 附属研究所研究推進部会議
- 令和 4 年度 附属研究所研究奨励交付金事業成果報告会（3 月 7 日）

看護学部／看護学科	職名	准教授	氏名	中井　裕子

1．教員紹介・主な研究分野

桜美林大学大学院国際研究科博士前期課程修了、修士（老年学）。成人老年看護学の教育に携わっています。主な研究分野は高齢者看護、周術期看護、看護教育です。主な研究テーマは高齢者を対象とした急性期・周術期看護、新卒看護師のリアリティショックを緩和する授業方法の検討です。

2．研究業績

①最近の著書・論文

- 山口馨子，笹山万紗代，大場美緒，村田和子，中井裕子，福田和美．クリティカルケア実習における看護学生の体験－フォーカス・グループインタビューの分析－．福岡県立大学看護学研究紀要　2022；19：69-76
- 村田和子，笹山万紗代，福田和美，大場美緒，政時和美，山口馨子，中井裕子，古庄夏香．成人急性看護学実習におけるシミュレーション教育を取り入れたハイブリッド型学内実習の実践報告．福岡県立大学看護学研究紀要　2022；19：99-105
- 政時和美，大場美緒，古庄夏香，中井裕子，村田和子，笹山万紗代，山口馨子，福田和美．学内での対面とオンラインを組み合わせた成人慢性看護学実習の取り組み．福岡県立大学看護学研究紀要　2022；19：115-122
- 中井裕子，笹山万紗代，政時和美，松井聡子．手術室見学実習における看護学生の学び．福岡県立大学看護学研究紀要　2020；17：35-46.

②その他最近の業績

<学会発表>

- 本田優季，中井裕子．手術室新人看護師に対する支援の現状と課題についての文献検討．日本看護研究学会第46回学術集会（Web開催）2020.
- 平田美結，中井裕子．手術室看護師と医師の連携の現状と手術室看護師に必要な能力についての文献検討．日本看護研究学会第46回学術集会（Web開催）2020.

③過去の主要業績

- 中井裕子，榎本麻里，三枝香代子，堀之内若名．成人看護学急性期実習における看護技術教育の検討（第二報）．千葉県立衛生短期大学紀要　2009；27(1・2)：143-151.
- 中井裕子，堀之内若名，三枝香代子，榎本麻里．成人看護学急性期実習における看護技術教育の検討．千葉県立衛生短期大学紀要　2008；26(2)：105-112.
- 大谷則子，堀之内若名，中井裕子，榎本麻里．手術室見学実習における学び―二つの実習形態の比較検討による考察―．OPE NURSING　2006；21(6)：98－108.

3．外部研究資金

4．受賞

5．所属学会

日本看護学会、日本看護科学学会、日本看護研究学会、日本看護学教育学会、日本看護技術学会、日本老年社会科学会

6．担当授業科目

老年看護学・2単位・2年・後期 、老年看護学演習Ⅰ・1単位・3年・前期、老年看護学演習Ⅱ・1単位・3年・前期、老年看護学実習Ⅰ・1単位・2年・通年 、老年看護学実習Ⅱ・3単位・3～4年・通年 、専門看護学ゼミ・2単位・3年・通年 、統合実習・2単位・4年・通年 、卒業研究・2単位・4年・後期

7．社会貢献活動

田川市高齢者保健福祉計画評価委員会委員（副委員長）

8．学外講義・講演

9．附属研究所の活動等

看護学部／看護学科	職名	准教授	氏名	原田　直樹

1．教員紹介・主な研究分野

福岡県立大学人間社会学部社会福祉学科を卒業、同志社大学大学院文学研究科社会福祉学専攻を修了。社会福祉士、精神保健福祉士。

障害者福祉の現場を経験した後、福岡県立大学附属研究所不登校・ひきこもりサポートセンターに専門研究員として勤務し、不登校・ひきこもりの児童生徒や家族、学校の支援に従事しました。その後2010年より看護学部の教員として着任しました。

主な研究分野は、①不登校・ひきこもり支援の理論と実践に関する研究、②不登校・ひきこもり支援における大学生ボランティアの有効性に関する研究、③学校を中心とした地域社会における子育て環境に関する介入的研究です。

とりわけ不登校・ひきこもり支援の理論と実践に関する研究では、個人因と環境因との関係性に焦点を当て、様々な角度から不登校・ひきこもりへの支援実践理論の構築に向けた研究に取り組んでいます。学校保健福祉の視点から、学校内において養護教諭が果たす支援者としての役割とその具体的な実践内容についての研究を進めたいと考えています。

2．研究業績

①最近の著書・論文

<著書>

- 原田直樹,梶原由紀子,田原千晶,増滿誠,松浦 賢長．元不登校児童生徒とその保護者の不登校をめぐる意識差と家族機能についての研究．福岡県立大学看護学部紀要 2022；19：1-12.
- 原田直樹．3章1事故，コラム事故と虐待，コラム環境整備の重要さ．日本小児保健協会幼児健康度調査委員会編著．1980年から10年ごとの幼児健康度調査の結果と分析 子どもの保健小児保健に携わるすべての人に．東京：ジアース教育新社．2020：44-45，48-49.
- 原田直樹．40喫煙，41飲酒，42薬物．永光信一郎他．ティーンズ健診思春期のこどもへの健康指導マニュアル．福岡：学校法人久留米大学．2019：40-42.
- 原田直樹．第9章 学習指導要領，第18章 発達障害，第22章 不登校．松浦賢長，笠井直美，渡辺多恵子編著．学校看護学．東京：講談社サイエンティフィク．2016：65-74，134-140，164-170.
- 原田直樹．第4章4節 非行立ち直り支援の.取り組み，第4章5節 思春期における不登校児童生徒の支援．日本保健福祉学会編．保健福祉学．東京：北大路書房．2015：65-73.

②その他最近の業績

<報告書等>

- 松浦賢長，原田直樹，梶原由紀子，高橋雪子．外部専門家による学校性教育の実践に関する方法論に関する研究～性教育導入シートおよび性教育方法ガイドの開発～．厚生労働科学研究費補助金（成育疾患克服等次世代育成基盤研究事業（健やか次世代育成総合研究事業））．令和2年度総括・分担研究報告書．2020

・ 原田直樹．17 タバコ，18 飲酒．ティーンズ健診ハンドアウト．平成 30 年度日本医療研究開発機構成育疾患克服等総合研究事業-BIRTHDAY-思春期健診およびモバイルテクノロジーによる思春期のヘルスプロモーション」研究班編．2019：17-18
・ 原田直樹．平成 26 年度～平成 29 年度科学研究費助成事業（学術研究助成基金助成金）基盤研究（C）不登校児童生徒への効果的な支援方法を検討する追跡調査－大学生の関わりを中心に－研究成果報告書．2018

<学会発表等>
・ 松浦賢長，原田直樹．シンポジウム 24-4 学校保健の指標．第 78 回日本公衆衛生学会総会，高知．2019.
・ 原田直樹．シンポジウム当事者に真に必要な学際的支援を考える．第 32 回日本保健福祉学会学術集会．山梨．2019.
・ 原田直樹，梶原由紀子，田原千晶，増滿誠，松浦賢長．学童保育における発達障害及びその傾向を有する児童と支援者の対応困難感に関する研究． 第 30 回日本保健福祉学会学術集会，和歌山．2017

③過去の主要業績

<論文>
・ 原田直樹，野見山晴佳，三並めぐる，梶原由紀子，松浦賢長．中学校における発達障害が疑われる生徒に対する生徒指導に関する研究．福岡県立大学看護学部紀要 2012；10（1）：1-12.
・ 原田直樹，梶原由紀子，吉川美桜，樋口善之，江上千代美，四戸智昭，杉野浩幸，松浦賢長．不登校児童生徒の状況と対応に苦慮する点に関する調査研究－家庭支援へ向けての考察－．福岡県立大学看護学部紀要 2011.；8（1）：11-18.
・ 原田直樹，梶原由紀子，吉川美桜，樋口善之，江上千代美，四戸智昭，杉野浩幸，松浦賢長．学校の児童生徒への大学生ボランティアによる支援のニーズに関する研究．福岡県立大学看護学部紀要 2011；8（1）：1-9.
・ 原田直樹，松浦賢長．学習面・行動面の困難を抱える不登校児童・生徒とその支援に関する研究．日本保健福祉学会誌 2010；16（2）：13-22.

3．外部研究資金
・ 日本学術振興会，科学研究費（基盤研究 C），不登校を防止する準不登校児童生徒への効果的な支援方法の検討に関する研究，平成 30 年度～令和 5 年度
・ 日本学術振興会，科学研究費（基盤研究 C），HSC を有する不登校児童生徒への教育・支援方法の検討に関する研究，令和 4 年度～令和 7 年度

4．受賞
・ 平成 27 年度福岡県立大学ベストティーチャー賞
・ 第 30 回日本保健福祉学会学術集会　優秀学会発表賞

５．所属学会

日本保健福祉学会，日本思春期学会，日本小児保健協会，日本学校ソーシャルワーク学会，日本学校保健学会，日本看護科学学会　等

６．担当授業科目

不登校・ひきこもり援助論・２単位・１年・前期，情報処理演習Ⅰ・１単位・１年・前期，情報処理演習Ⅱ・１単位・１年・前期，公衆衛生学・２単位・１年・後期，暮らしと保健福祉・看護・２単位・１年・後期，教育と社会・地域・１単位・１年後期，子供学習支援論・１単位・１年後期、保健統計学・２単位・２年・前期，養護概説・２単位・２年・後期，教育方法論・１単位・２年・後期，専門看護学ゼミ・２単位・３年・通年，学校保健学・１単位・３年・前期，健康教育論，２単位・３年・前期，性教育学・２単位・３年・前期，卒業研究・２単位・４年・通年，養護実習事前事後指導・１単位・４年・前期，養護実習・１単位・４年・前期，教職実践演習（養護教諭）・２単位・４年・後期，思春期ヘルスプロモーション特論・２単位・大学院１年・前期，思春期ヘルスプロモーション演習・２単位・大学院１年・後期

７．社会貢献活動

日本保健福祉学会幹事長，日本思春期学会常務理事（教育），九州思春期研究会理事，福岡県不登校児童生徒支援会議委員，赤村子ども・子育て会議会長，特定非営利活動法人ひこうせん理事長，田川市立鎮西小学校学校評議員・学校関係者評価委員，福智町立赤池中学校区学校運営協議会委員　他

８．学外講義・講演

・大木町教職員研修会「不登校児童生徒の理解と社会的自立を目指した支援」講師，2022.
・田川市社会福祉協議会ふくし入門教室「ボランティア活動で広がるあなたの未来」講師，2022
・田川市社会福祉協議会傾聴ボランティア養成講座（全３回）講師，2022
・福岡県立大学不登校児童生徒社会的自立支援事業社会的自立包括支援コーディネーター研修講師，2022
・福岡県立大学不登校児童生徒社会的自立支援事業不登校情報分析コーディネーター研修講師，2023
・小学校での薬物乱用防止教室（複数）　他

９．附属研究所の活動等

看護学部／看護学科	職名	准教授	氏名	古庄　夏香

1．教員紹介・主な研究分野

佐賀医科大学医学部看護学科卒業、大学病院・総合病院で臨床経験を積んだ後、佐賀大学（佐賀医科大学より名称変更）大学院医学系研究科看護学専攻修了、修士（看護学)。血液透析を受ける患者の看護に関する研究、看護師の実践知に関する研究、看護学生のリフレクションに関する研究、看護過程に関する研究を行っています。透析を受ける患者は近年高齢化してきており、それに伴い原疾患や既往歴も複雑化してきています。また、透析を行うことによっておこる様々な合併症により全身状態が悪化している場合や、体調不良により日常生活に支障をきたしていることもあり、QOL が低下している状態にあります。そのため、多職種が協働し介入を行うことで、患者の全身状態の改善や QOL の向上につながるのではないかと考え研究を行っています。現在、患者の QOL の向上を目的として透析を受けている患者を対象に九州歯科大学との共同研究を行っています。

2．研究業績

①最近の著書・論文

②その他最近の業績

<学会発表>

- 古庄夏香、前田ひとみ、血液透析患者の口腔乾燥および衛生状態、栄養状態並びに健康関連 QOL の実態調査、第 40 回日本看護科学学会学術集会、オンライン開催、2020 年
- 清原智佳子、平塚淳子、古庄夏香、外来通院中のウイルス性肝炎患者の療養生活に対する思い、第 46 回日本看護研究学会学術集会、オンライン開催、2020 年

③過去の主要業績

- 古庄夏香、黒田裕子、安藤敬子、小田正枝、林みよこ、中木高夫、山勢博彰、柏木公一、伊藤美佐江、電子カルテ稼動中の施設における看護師の思考過程の分析、看護診断 13 巻 2 号、p .5～12、2008
- 編集者：小田正枝共著者：小田正枝、井出裕子、山勢博彰、藤野成美、伊東美佐江、小田日出子、焼山和憲、下舞紀美代、古川秀敏、宇佐美しおり、窪田惠子、穴井めぐみ、古庄夏香（執筆順)、事例でわかる看護理論を看護過程に生かす本、照林社、 2008
- Kumi Uchiyama、 Hiroko Kukihara、 Natsuka Furusho、Meaning of an Amyotrophic Lateral Sclerosis Patient's and his Main Caretaker's Worldview in Home Care、International Nursing Care Research、11(2)、p.69～81、2012

３．外部研究資金

科学研究費助成事業（基金分）(基盤研究(C))2019年度～2022年度)　交付金額4,290千円
研究課題「高齢血液透析患者の唾液分泌促進と口腔内衛生改善に向けた口腔ケアプログラムの開発」(研究代表)

４．受賞

５．所属学会

日本看護学教育学会、日本看護研究学会、日本看護科学学会、日本看護診断学会、日本腎不全看護学会、質的統合法研究会、日本がん看護学会

６．担当授業科目

<学部>

成人看護学概論・1単位・2年・前期、成人慢性看護学・2単位・2年・後期、成人急性看護学・2単位・2年・後期、成人看護学演習Ⅰ・1単位・3年・前期、成人看護学演習Ⅱ・1単位・3年・前期、成人慢性看護学実習・3単位・3～4年・後前期、成人急性看護学実習・3単位・3～4年・後前期、専門看護学ゼミ・1単位・3年・通年、統合実習・2単位・4年・通年、卒業研究・1単位・4年生・通年、チーム医療論・1単位・2年・後期、教養演習・1単位・1年・前期

<大学院>

成人看護学特論・2単位・1年・前期、成人看護学演習・2単位・1年・後期

７．社会貢献活動

８．学外講義・講演

９．附属研究所の活動等

看護学部／看護学科	職名	准教授	氏名	山下　清香

1．教員紹介・主な研究分野

2002 年まで福岡県保健師として勤務した。兵庫県立看護大学大学院修士課程修了後、2004 年福岡県立大学看護学部に着任し、地域看護学及び公衆衛生看護学の教育研究に携わっている。行政保健師の活動，保健師教育を主な研究分野としており、現在、行政保健師の住民参加を促進する技術向上を目的とした教育プログラムの開発に取り組んでいる。住民との協働による健康な地域づくりを推進する保健師の技術を明らかにし、効果的な基礎教育及び現任教育プログラムを開発したいと考えている。

2．研究業績

①最近の著書・論文

- 尾形由起子・小野順子・山下清香・樑直美・眞崎直子．2021 年 3 月．多職種による終末期までの療養生活に対する意思決定支援内容の検討．福岡県立大学看護学研究紀要，第 18 巻第 1 号．2021 年 3 月
- 楢橋明子・中村美穂子・小野順子・山下清香・手島聖子・尾形由起子．保健師の実践能力に対する公衆衛生看護学実習の効果－学生の自己評価に着目して－．福岡県立大学看護学研究紀要，第 18 巻第 1 号．2021 年 3 月
- 杉本由利子・山下清香・小野順子・香月眞美・山口のり子・尾形由起子．市町村保健師の発達障害児に対する連携技術の構成概念の検討．日本地域看護学会誌，第 24 巻 2 号．2021 年 8 月
- 小野順子・山下清香・中村美穂子・中本亮・樑直美・田中美樹・吉川美桜・吉田麻美・尾形由起子．A 県における訪問看護ステーションの災害対策の現状と課題-災害時の在宅療養継続に向けて-．福岡県立大学看護学部紀要，19 巻．2022 年 3 月
- 吉川未桜 ・吉田麻美・平塚淳子・中村美穂子・大場美緒・小野順子・猪狩崇・山下清香・田中美樹・樑直美・尾形由起子．新型コロナウイルス感染拡大下における訪問看護ステーションの困難と対応 ．福岡県立大学看護学部紀要，19 巻．2022 年 3 月
- 樑直美・尾形由起子・小野順子・中村美穂子・大場美緒・吉田麻美・猪狩崇・平塚淳子・田中美樹・吉川未桜・山下清香．在宅医療推進における訪問看護ステーション連携への取組に関する一考察．福岡県立大学看護学部紀要，19 巻．2022 年 3 月
- 平塚淳子・猪狩崇・中村美穂子・小野順子・吉川未桜・吉田麻美・田中美樹・山下清香・樑直美・尾形由起子．A 県における訪問看護ステーションの BCP 策定における現状と課題．福岡県立大学看護学部紀要，20 巻．2023 年 3 月

②その他最近の業績

<学会発表>

小野順子・尾形由起子・山下清香・樑直美・楢橋明子・猪狩崇・中村美穂子・石崎龍二・美谷薫．地域包括ケアシステム構築に向けた根拠に基づく地域診断と意思決定支援策の検討．日本地域看護学会第 23 回学術集会．2020 年 8 月（誌上開催）

・ 吉田麻美・山下清香・小野順子・吉川未桜・田中美樹・岡田麻里・尾形由起子．歩ける医療的ケア児の母親の子育てに適応していくプロセスの検討．日本看護研究学会第48回学術集会．2022年8月．
・ 金﨑美穂・尾形由起子・山下清香・小野順子・中村美穂子．終末期がん患者による在宅移行期での退院前カンファレンスにおける退院調整看護師と訪問看護師の協働のあり方の検討．日本看護研究学会第48回学術集会．2022年8月．

③過去の主要業績

・ 尾形由起子・岡田麻里・樑直美・野口忍・山下清香・松尾和枝・眞崎直子・三徳和子．終末期がん療養者の満足な在宅看取りを行った配偶者の介護体験．日本地域看護学会誌 20 巻 2 号．2017年
・ 山下清香・尾形由起子・小野順子・手島聖子・楢橋明子・迫山博美．地域の介護予防活動の推進における保健師の役割について－高齢者サロンの世話役および指導員の認識から－．福岡県立大学看護学研究紀要，第13巻第1号．2015年3月

3．外部研究資金

・科学研究費助成事業（基金分）(基盤研究(C))30年度～32年度．研究課題　行政保健師の住民参加促進力量向上教育プログラムの開発（研究代表者）
・科学研究費助成事業（基金分）(基盤研究(C))29年度～31年度．研究課題地域に密着した住民の主体的介護促進のための教育支援モデルの開発（研究代表者，尾形由起子），分担研究者

4．受賞

5．所属学会

日本地域看護学会，日本公衆衛生学会，日本看護科学学会，日本看護研究学会，日本公衆衛生看護学会，日本在宅ケア学会

6．担当授業科目

公衆衛生看護学Ⅰ（2単位，2年後期），専門看護学ゼミ（2単位，3年通年），家族看護学（1単位，3年前期），公衆衛生看護アセスメント論Ⅰ（1単位，3年後期），統合実習（2単位，4年通年），卒業研究（2単位，4年通年），公衆衛生看護学Ⅱ（2単位，4年前期），公衆衛生看護アセスメント論Ⅱ（2単位，4年前期），公衆衛生看護技術論Ⅰ（2単位，4年前期），公衆衛生看護技術論Ⅱ（2単位，4年前期），公衆衛生看護学実習Ⅰ（1単位，4年前期），組織協働活動論（2単位，4年後期），公衆衛生看護学Ⅲ（1単位，4年後期），公衆衛生看護管理論（2単位，4年後期），公衆衛生看護学実習Ⅱ（4単位，4年後期），ヘルスプロモーション看護学特別研究（8単位，大学院）

7．社会貢献活動

・田川市「田川市民健康づくり推進協議会」委員
・田川市「田川市防災会議」委員
・田川市「田川市地域包括ケアシステム推進協議会　保健（予防）・生活支援部会」委員
・飯塚市「飯塚市健康づくり・食育推進協議会」副委員長
・桂川町「健康づくり推進協議会」委員
・川崎町健幸長寿のまちづくり事業（運動・スポーツ習慣化促進事業）実行委員会委員
・福岡県看護協会保健師職能委員会　委員

8．学外講義・講演

9．附属研究所の活動等

・重点領域研究「GIS を活用した地域診断モデルの開発」

看護学部／看護学科	職名	准教授	氏名	吉田　恭子

1．教員紹介・主な研究分野

高齢社会を支える一つの方法としての介護保険法は，在宅療養者やその家族，その人々を取り巻く保健福祉医療職種の在り方を再考する機会となりました．要援護者の増加への対策を中心に介護保険法は改正を繰り返しており，介護予防への取り組みと同時に，多死時代を迎えるにあたり，死にゆく人と家族へのケアも重要になってきます．そのため，在宅療養中の高齢者とその家族のケアマネジメントをテーマとして，質の高い生活を維持できるような看護実践の検討について考えています．

また，ヤングケラーの支援について検討しています．

2．研究業績

①最近の著書・論文

- 吉田恭子．(2022)．日本のヤングケアラーに関する研究の文献検討－看護分野の課題と役割，福岡県立大学看護学研究紀要 第 19 巻，89-97
- 吉田恭子．(2019)．小規模多機能型居宅介護の従事者に生じる終末期ケアに係る課題の検証，福岡県立大学看護学研究紀要 第 16 巻，95-101

②その他最近の業績

<学会発表>

- 吉田恭子、小規模多機能型居宅介護における看取りの経過－援助者の視点から－、日本社会福祉学会第 68 回秋季大会、2020
- 吉田恭子、小規模多機能型居宅介護における終末期ケアの実態調査－疾病およびケア内容の実態－、日本看護研究学会学術集会、大阪、2019

③過去の主要業績

- 吉田恭子．(2018)．小規模多機能型居宅介護職員の介護経験が職場満足と終末期ケアに与える影響，九州社会福祉研究 第 42 号，1-12
- 吉田恭子、小規模多機能型居宅介護の従事者が考える看取りの必要に影響すること、日本老年看護学会学術集会、福岡、2018
- 吉田恭子、小規模多機能型居宅介護における職場満足と近親者への看取り介護経験との関連、日本社会福祉学会九州地域部会、熊本、2017

3．外部研究資金

4．受賞

5．所属学会

日本看護福祉学会、日本老年看護学会、日本看護学教育学会、日本看護研究学会、日本社会福祉学会、日本看護科学学会

6．担当授業科目

在宅看護学概論・1 単位・2 年・前期、在宅看護学・2 単位・2 年・後期、キャリア像確立講義 Ⅰ・1 単位・1～2 年・後期、暮らしを知る実習・1 単位・1 年・後期、在宅看護学演習Ⅰ・1 単位・3 年・前期、在宅看護学演習Ⅱ・1 単位・3~4 年・通年、在宅看護学実習・2 単位・3~4 年・通年、キャリア像確立講義Ⅱ・1 単位・ 3～4 年・後期、専門看護学ゼミ・1 単位・3 年・通年、統合実習・2 単位・4 年・通年、卒業研究・1 単位・4 年生・通年、在宅看護学特論・1 単位・1 年・前期、在宅看護学演習・1 単位・1 年・後期

7．社会貢献活動

認定 NPO 法人 日本セラピューティック・ケア協会 危機管理委員会

8．学外講義・講演

福岡県消防学校,「在宅医療法患者の処置」, 2023 年 2 月

9．附属研究所の活動等

ヘルスプロモーション実践研究センター兼任研究員

看護学部／看護学科	職名	准教授	氏名	吉田　静

1．教員紹介・主な研究分野

1998 年から 7 年間，助産師として九州労災病院に勤務．2005 年から 1 年間本学に臨時職員として勤務後，2007 年本学に着任．2009 年 3 月，福岡県立大学大学院修士課程修了，修士（看護学）．2021 年 3 月，国際医療福祉大学大学院博士課程修了，博士（助産学）．

現在，子どもの喪失経験を持つ者の悲嘆過程と提供されるケアや支援、また医療者の支援を主な研究分野としている．特に，子どもの喪失経験を持つ人々へのケアやサポートの中心は「母親」にあり，「父親」は母親を支える役割を期待され，支援も等閑されやすい．そのためニーズを把握した上で子どもの喪失経験を持つ父親へ提供できるケアモデルを開発し，医療者の役割，課題等を明らかにする．また子どもを喪失した家族に携わる看護者へのケアや支援も検討している．

2．研究業績

①最近の著書・論文

- 吉田静，佐藤香代．(2022)．子どもを喪失した父親の体験と看護者へ望む支援．日本助産学会誌，36 (2)，212-242.
- 吉田静香，佐藤かよ．(2022)．子供を亡くした父親の体験．インターナショナル Nursing Care Research，21 (2)，41-50.
- 吉田静．(2021)．子どもを喪失した父親が看護者に求めるケアに関する研究．国際医療福祉大学大学院博士論文，A4 版，全 134 頁．

②その他最近の業績

<学会発表>

- 吉田静，佐藤香代．(2022)．分娩取扱を中止した施設の推移とその背景．第 63 回母性衛生学術集会，兵庫．
- 香野友美花，吉田静．(2022)．二分脊椎児を出産した母親の体験 - 母子愛着の視点から -（第 1 報）．第 63 回母性衛生学術集会，兵庫．

  香野友美花，吉田静．(2022)．二分脊椎児を出産した母親の体験 - 母親が医療者に求める支援 -（第 2 報）．第 63 回母性衛生学術集会，兵庫．
- 吉田静、佐藤香代．(2022)．子どもを喪失した父親の体験と看護者に求めるケア．第 36 回日本助産学会学術集会，大阪（オンライン）．

③過去の主要業績

<教材開発>

・佐藤香代，安河内静子，吉田静，佐藤繭子，鳥越郁代，小林絵里子，藤木久美子．身体感覚活性化（世にも珍しい）マザークラスの哲学と実践．2012 年．

・吉田静，佐藤香代．わが国における「おむつ」の起源．(2012)．第53回母性衛生学術集会，福岡．
・吉田静．(2009)．子どもを喪失した父親の体験．福岡県立大学大学院修士論文，A4版全68頁．

3．外部研究資金

吉田静．文部科学省研究費補助金 基盤研究C．臨床との協働による子どもを喪失した父親へのグリーフ支援プログラム開発に関する研究．351万円．令和2年～令和5年．

4．受賞

5．所属学会

日本助産学会，日本母性衛生学会，日本死の臨床研究会，日本ウーマンズヘルス学会，日本看護歴史学会

6．担当授業科目

<学部>
教養演習・1単位・1年・前期，人間のライフステージと看護・1単位・1年・後期，女性看護学概論・1単位・2年・前期，女性看護学・2単位・2年・後期，女性看護学演習Ⅰ・1単位・3年・前期，女性看護学演習Ⅱ・1単位・3～4年・後期～前期，女性看護学実習・2単位・3～4年・後期～前期，専門看護学ゼミ・2単位・3年・通年，卒業研究・2単位・4年・通年
<大学院>
ウイメンズヘルス特論・1単位・1年・前期，ウイメンズヘルス演習・1単位・1年・後期，基礎助産学特論・2単位・1年・前期，コミュニティ助産学特論・1単位・1年・後期，マネジメント助産学特論・2単位・2年・前期，助産実践学Ⅰ（妊娠期）・2単位・1年・前期，助産学実践Ⅱ（分娩期）・4単位・1年・通年，助産学課題研究・4単位・1～2年・通年

7．社会貢献活動

・中医学講座 助産に活かせる中国医学の智慧（2022.8-2023.3）
・不妊症・不育症等ピアサポーター養成事業（2022. 6-12）
・天使の記録展（2022.10）
・助産師と一緒にベビーマッサージ アロマ体験、お話会（2023.3）
・帝王切開出産準備クラス（2022.8,2023.3）
・福岡市委託事業「働くママとパパのマタニティスクール」（2022.5-2023.3）

８．学外講義・講演

・大丸エルガーラ入試説明会（2022.4.20）
・福岡県立須恵高等学校（2022.5.11）
・福岡県立玄海高等学校（2022.5.26）
・福岡県立香椎高等学校（2020.6.10）
・ソラリア西鉄ホテル福岡入試説明会（2022.6.14）
・福岡県立糸島高等学校（2022.6.15）
・福岡県公立古賀竟成館高等学校（2022.7.22）
・福岡県立戸畑高等学校（2022.7.25）
・福岡県立中間高等学校（2022.7.26）
・福岡県立香住丘高等学校（2022.7.28）
・福岡県立京都高等学校（2022.8.4）
・福岡県立育徳館高等学校（2022.10.18）
・福岡県糸島保健福祉事務所、令和４年度ハイリスク妊産婦支援事業研修会、子供の喪失経験を持つ方へのグリーフケア（2023.1.30）

９．附属研究所の活動等

看護学部／看護学科	職名	講師	氏名	於久　比呂美

1．教員紹介・主な研究分野

1）　看護師の自己成長に関する研究

これまで看護師の成長力をもたらす促進因子の一部について検討してきました。今後は、得られた研究知見に詳細な分析を積み重ねるとともに、他の促進因子の解明を引き続き進め、看護師に向けた教育プログラムの開発などを考えています。

2）　看護技術に関する研究

看護技術の科学的検証を行い、エビデンスに基づいた看護技術教育方法の開発に取り組んでいます。

2．研究業績

①最近の著書・論文

・ 渕野由夏，永嶋由理子，加藤法子，藤野靖博，於久比呂美，宮崎千尋：基礎看護学教科書における人間の概念に関する検討．福岡県立大学看護学研究紀要，17，2020.

②その他最近の業績

<学会発表>

・ 於久比呂美：患者との良好な関係性を確立している看護師の特色に関する文献検討、第 41 回日本看護科学学会学術集会、2021 年 12 月.

・ 於久比呂美、江崎千尋：臨床看護師の自己教育力における内的因子の関連、第 42 回日本看護科学学会学術集会、2022 年 12 月.

③過去の主要業績

3．外部研究資金

4．受賞

5．所属学会

日本看護科学学会、日本看護研究学会、日本看護学教育学会

6．担当授業科目

基礎看護学実習Ⅰ･1 単位･1 年･前期、教養演習・1 単位・1 年・前期、基礎看護技術論･2 単位･1 年･後期、基礎看護学実習Ⅱ･2 単位･2 年･通年、フィジカルアセスメント論･2 単位･2 年･前期、看護過程･1 単位･2 年･前期、シンプトンマネジメント論･1 単位･2 年･後期、専門看護学ゼミ･2 単位･3 年･通年、統合実習･2 単位･4 年･通年、卒業研究･2 単位･4 年･通年

７．社会貢献活動

８．学外講義・講演

９．附属研究所の活動等

ヘルスプロモーション実践研究センター兼任研究員

看護学部／看護学科	職名	講師	氏名	小野　順子

1．教員紹介・主な研究分野

九州大学大学院人間環境学府を修了（人間環境学修士）。福岡市で保健師として勤務し、地 域保健（公衆衛生看護）活動従事する。その後、大学教員として保健師養成に従事し、2010 年 に福岡県立大学看護学部に着任。 公衆衛生（地域）看護学分野で、地域診断、介護予防、在宅医療の推進、保健師教育に関する研究を行っている。

2．研究業績

①最近の著書・論文

＜論文＞

- 小野順子,山下清香,中村美穂子,中本亮,樣直美,田中美樹,吉川美桜,吉田麻美,尾形由起子．A 県における訪問看護ステーションの災害対策の現状と課題-災害時の在宅療養継続に向けて-,福岡県立大学看護学研究紀要,19 巻,2022
- 樣直美,尾形由起子,小野順子,中村美穂子,大場美緒,吉田麻美,猪狩崇,平塚淳子,田中美樹,吉川未桜,山下清香．在宅医療推進における訪問看護ステーション連携への取組に関する一考察．福岡県立大学看護学研究紀要,19 巻,2022
- 吉川未桜,吉田麻美,平塚淳子,中村美穂子,大場美緒,小野順子,猪狩崇,山下清香,田中美樹,樣直美,尾形由起子．新型コロナウイルス感染拡大下における訪問看護ステーションの困難と対応．福岡県立大学看護学研究紀要,19 巻,2022
- 尾形由起子,小野順子,山下清香,樣直美,眞崎直子,多職種による終末期までの療養に対する意思決定支援内容の検討,福岡県立大学看護学研究紀要,18 巻,2021
- 楢橋明子,中村美穂子,小野順子,山下清香,手島聖子,尾形由起子,保健師の実践能力に対する公衆衛生看護学実習の効果 - 学生の自己評価に着目して - 福岡県立大学看護学研究紀要,18 巻,2021

②その他最近の業績

<学会発表>

- 小野順子,尾形由起子,山下清香,樣直美,楢橋明子,猪狩崇,中村美穂子,石崎龍二,美谷薫．地域包括ケアシステム構築に向けた根拠に基づく地域診断と意思決定支援策の検討．日本地域看護学会第 23 回学術集会,2020 年 8 月（誌上開催）
- Junko Ono, Yukiko Ogata, Naomi Ichiki, Kiyoka Yamashita, Disaster Countermeasures at Home-Visiting Nursing Service Stations for Maintaining Home Care.26thEast Asuan Forum of Nursing Scholars2023.

③過去の主要業績

＜著書＞

- 尾形由紀子,山下清香,樣直美,江上千代美,岡田麻里,小野順子,香月眞美,迫山博美,高原洋城,中村美穂子,楢橋明子,山口のり子,地域包括ケアをすすめる公衆衛生看護学 演習・実習,2019 年 9

月,クオリティケア,p37－53,62－68,77－84,85－93

3．外部研究資金

・ 科研費，基盤研究（C），研究代表者，地理情報システムを活用した地域診断に基づくPDCAサイクルの実践に関する研究, 3,770千円，2022 - 2025年度

・ 科研費，基盤研究（C），共同研究者（研究代表者：尾形由起子），地域に密着した住民の主体的介護促進のための教育支援モデルの開発，2,860千円，2017－2022年度

4．受賞

5．所属学会

日本公衆衛生学会、地域看護学会、公衆衛生看護学会、日本在宅ケア学会

6．担当授業科目

【学部】

教養演習（2単位, 1年前期），公衆衛生看護学Ⅰ（2単位,2年後期），専門看護学ゼミ（2単位,3年通年） 家族看護学（1単位,3年前期）,公衆衛生看護ｱｾｽﾒﾝﾄ論Ⅰ（1単位,3年後期），卒業研究（2単位,4年通年）,統合実習（2単位,4年通年），公衆衛生看護ｱｾｽﾒﾝﾄ論Ⅱ（2単位,4年前期）公衆衛生看護技術論Ⅰ（2単位,4年前期），公衆衛生看護学Ⅱ（2単位,4年前期）,公衆衛生看護技術論Ⅱ（2単位,4年前期），公衆衛生看護学実習Ⅰ（1単位,4年前期）,公衆衛生看護学Ⅲ（1単位,4年後期），組織協働活動論（2単位,4年後期）,公衆衛生看護管理論（2単位,4年後期），公衆衛生看護学実習Ⅱ（4単位,4年後期）

【大学院】

地域看護学特論（2単位,1年前期）、地域看護学演習（2単位,1年後期）

7．社会貢献活動

・福岡県田川保健所感染症の審査に関する協議会委員（2017年4月～現在）

・田川市男女共同参画審議会委員（2019年4月～現在）

8．学外講義・講演

9．附属研究所の活動等

R4年度附属研究所重点領域研究「地域包括ケアシステム構築に向けたGISを活用した地域診断 - 精神障害者の在宅療養実現を目指して - 」研究メンバー

看護学部／看護学科	職名	講師	氏名	小出　昭太郎

1．教員紹介・主な研究分野

教育については、学生が、社会学的な研究方法や「ものの見方」を臨床や政策などの実践に生かすことができるようになることを目標にしています。

主な研究分野は、第1に、保健医療・社会保障の制度・政策に関して、制度・政策策定者サイドの視点よりも市民・患者サイドの視点に基づいた歴史研究・理論的研究・調査研究を行ってきました。現在は、イギリスの医療保障財源の設計根拠に関する歴史研究を行っており、この研究においても主に市民・患者サイドの視点に着目しています。第2に、健康の社会的不平等に関する研究を行ってきました。特に、性・年齢層別の検討を行っています。

2．研究業績

①最近の著書・論文

②その他最近の業績

<学会発表>

③過去の主要業績

- 小出昭太郎・田村誠、「1991年英国NHS改革後の政府規制とその背景――「病院サービスの購入者」の設定に関する問題」、『病院管理』、第36巻第1号、1999年.
- 小出昭太郎・田村誠、「イギリス NHS 成立時における財源調達方式の設計の根拠に関する考察」、『医療政策に関わる一般市民・医療従事者の価値判断とその論拠（平成10年度～平成12年度科学研究費補助金（基盤研究（B）（2））研究成果報告書）（研究代表者：田村誠）』、2001年.
- 小出昭太郎・山崎喜比古、「収入と general health perceptions との関連の性・年齢による差異」、『要介護状態及び健康の形成過程における社会経済的要因の役割に関する実証的研究（平成14年度～平成17年度科学研究費補助金（基盤研究（A））研究成果報告書）（研究代表者：武川正吾）』、2006年.

3．外部研究資金

4．受賞

5．所属学会

日本保健医療社会学会、日本社会福祉学会、日本医療・病院管理学会、日本公衆衛生学会、日本看護研究学会、東北哲学会

6．担当授業科目

<学部>

保健医療福祉の法と制度・1単位・1年・前期、保健社会学・1単位・1年・後期、保健医療福祉行政論Ⅰ・1単位・2年・後期、チーム医療論・1単位・2年・後期、専門看護学ゼミ・2単位・3年・通年、看護研究・2単位・3年・前期、卒業研究・2単位・4年・通年、保健医療福祉行政論Ⅱ・2単位・4年・後期、日本事情B・2単位・留学生・前期

<大学院>

データ解析特論・2単位・修士1年・前期、看護政策論・2単位・修士1年・前期

7．社会貢献活動

8．学外講義・講演

9．附属研究所の活動等

ヘルスプロモーション実践研究センター兼任研究員

看護学部／看護学科	職名	講師	氏名	塩田　昇

1．教員紹介・主な研究分野

産業医科大学医療技術短期大学看護学科卒業後，産業医科大学病院（集中治療室）で看護師を6年経験した後，専門学校，大学で18年間の勤務を経て平成29年に福岡県立大学に着任しました。

研究は，養育レジリエンス・睡眠をキーワードに，親の養育レジリエンスについて発達障がいのある子どもをもつ親を対象に養育レジリエンスが向上する要因，そして発達障がいのある子どもの親とその子どもの睡眠問題を明らかにすることです。

2．研究業績

① 最近の著書・論文

- 塩田昇，廣瀬理絵，松山美幸，加藤法子，藏元恵里子，田中美智子，江上千代美「陣痛促進剤による薬害被害者」の講演を聞いた学生は薬害防止に向け何を思い・感じたか，福岡県立大学看護学研究紀要19巻，77-87(2022).
- 江上千代美，田中美智子，桑野瑞恵，塩田昇，山下裕史朗．ポピュレーションアプローチを目指した地域での前向き子育ての実践．小児保健研究80(3):303-306（2021).
- 江上千代美，塩田昇(2020).Child Adjustment and Parent Efficacy Scale －Developmental Disability（CAPES-DD）の日本語版作成の試み福岡県立大学看護学研究紀要，17，37-45.
- 江上千代美，塩田昇，惠良友彦，田中美智子(2020).発達障がいのある児の母親の養育レジリエンスの向上を目指して －Stepping Stones Triple P（トリプル P）による RCT を用いた試行的介入－，福岡県立大学看護学研究紀要，17，1-4 .

②その他最近の業績

〈学会発表〉

- 発達障がいのある子どもの親へのトリプルPによる支援がストレスに及ぼす影響．塩田昇，江上千代美，田中美智子．第42日本看護科学学会学術集会．オンデマンド．2022.
- 発達障がいのある子どもの母親の養育レジリエンスの違いとストレスへの影響ーPOMS、唾液コルチゾールー．江上千代美，塩田昇，田中美智子．第42回日本看護科学学会学術集会．オンデマンド．2022.
- 母親の睡眠関連問題とその学童期の子どもの睡眠習慣の検討．塩田昇，江上千代美．第47回日本看護研究学会学術集会．オンデマンド．2021.
- 看護学生の倫理観を養う教育内容の検討―「薬害被害者」の講演をとおして―．廣瀬理絵，塩田昇，江上千代美，田中美智子．第46回日本看護研究学会学術集会．オンデマンド．2021.

③過去の主要業績

- Shiota N, Narikiyo K, Masuda A, Aou S. Water spray-induced grooming is negatively correlated with depressive behavior in the forced swimming test in rats. J Physiol Sci. vol66 no3, p265-73. 2016.
- 塩田昇. セルフケア行動の神経行動学的・神経化学的研究. 九州工業大学大学院博士論文. 2016.

3．外部研究資金

・科学研究費助成事業（基金分）（若手 平成29年度～令和4年度　交付金額4,160千円）
研究課題,継続的なトリプルP介入による睡眠の質,量の改善とメラトニン分泌・代謝に関する研究（研究代表者：塩田昇）

・科学研究費助成事業（基金分）（基盤研究C 令和4年度～7年度)親支援プログラム受講によって保護者は地域の子育て支援資源と積極的につながれるか（研究分担者：塩田昇）

4．受賞

5．所属学会

日本看護学教育学会会員,日本看護研究学会会員,日本看護技術学会会員,日本看護科学学会,日本生理学会会員,日本心身医学会会員,日本公衆衛生学会

6．担当授業科目

生態機能看護学Ⅰ・2単位・1年次・前期, 生態機能看護学Ⅱ・2単位・1年次・後期, 生態機能看護学Ⅲ・1単位・4年次・後期, 生態病態看護学実験・1単位・2年次・前期, 病態看護学Ⅱ・2単位・2年次・前期, 基礎看護実習Ⅰ・1単位・1年次・前期, 基礎看護学実習Ⅱ・2単位・2年次・通年, 統合実習・2単位・4年次・通年, 看護倫理学・2単位・2年次・前期, 専門看護学ゼミ・2単位・3年次・通年, 卒業研究・2単位・4年次・通年

7．社会貢献活動

子育て支援活動：久留米市・香春町

8．学外講義・講演

（高校訪問）九州国際大学付属高等学校、門司学園高等学校、田川高等学校、筑紫中央高等学校、武蔵台高等学校

9．附属研究所の活動等

ヘルスプロモーション実践研究センター兼任研究員

看護学部／看護学科	職名	講師	氏名	手島　聖子

1．教員紹介・主な研究分野

養育者が安心して育児ができる環境を構築するために、子どもの発達過程に応じた養育者の育児ストレスや育児不安、育児ストレスに影響を与える個人的・社会的要因を短時間に把握できる質問紙を作成し、４カ月児の養育者と１歳６カ月児の養育者を対象に調査を実施してきました。近年は、被養育体験を基礎に形成された内的ワーキングモデルがどのようにして養育者に世代間伝達されるのか、養育者の成育歴における被虐待歴や親から愛されなかった思い、親との対立、厳格な親に育てられたなど環境要因が養育者自身の育児にどのような影響を与えられるのかについて検討しています。児童虐待予防における保健師の実践活動に活かせるよう研究を進めていきたいと考えています。教育においては、地域看護学の視点や方法論を取り入れ、地域の特性と健康課題をアセスメントする力を養うとともに、地域での活動の幅を広げていけるような学生の看護師教育に取り組んでいきたいと考えています。

2．研究業績

①最近の著書・論文

・ 楢橋明子、中村美穂子、小野順子、山下清香、手島聖子、尾形由起子、保健師の実践能力に対する公衆衛生看護学実習の効果、2021 年 3 月、vol.18、27-35、福岡県立大学看護学研究紀要、2021 年

②その他最近の業績

<学会発表>

③過去の主要業績

・ 手島聖子．(2002)．養育者の育児ストレスと育児支援システム：乳幼児健康診査を通した子育て支援と児童虐待の予防について．(財) 安田生命社会事業団 2001 年度研究助成論文集，37，30-38.

・ 手島聖子．原口雅浩．(2003)．乳幼児健康診査を通した育児支援：育児ストレス尺度の開発．福岡県立大学看護学部紀要，1 (1)，15-27.

・ 手島聖子．(2007)．乳幼児健康診査を通した育児ストレス調査：育児ストレス尺度の信頼性と交差妥当性の検討，家庭教育研究所紀要,29,77-83.

3．外部研究資金

4．受賞

5．所属学会

日本公衆衛生学会、日本看護科学学会、日本地域看護学会、日本心理学会、日本発達心理学会、日本公衆衛生看護学会、日本子ども虐待防止学会、日本看護協会

6．担当授業科目

教養演習・1単位・1年・前期、暮らしを知る実習・2単位・1年・後期、在宅看護学・2単位・2年・後期、在宅看護学演習Ⅰ・2 単位・3 年・前期、在宅看護学演習Ⅱ・1 単位・後期、在宅看護学実習・2 単位・3 年・後期、専門看護学ゼミ・2 単位・3 年・通年、統合実習・2 単位・4 年・通年、在宅看護学実習・2 単位・4 年・前期、卒業研究・2 単位・4 年・通年

7．社会貢献活動

8．学外講義・講演

9．附属研究所の活動等

ヘルスプロモーション実践研究センター兼任研究員

看護学部／看護学科	職名	講師	氏名	藤野　靖博

1．教員紹介・主な研究分野

生理学的指標などを用いて、看護技術がひとの体に及ぼす影響について明らかにして、臨床における看護援助に還元できるように努めていきたいと考えています。

2．研究業績

①最近の著書・論文

・ 渕野由夏、永嶋由理子、加藤法子、藤野靖博、於久比呂美、宮崎千尋：基礎看護学教科書における人間の概念に関する検討．福岡県立大学看護学研究紀要，17，p.57-61，2020.

②その他最近の業績

③過去の主要業績

・ 藤野靖博：ウォームアップが歩行運動時の循環応答・深部温度に及ぼす影響．日本人間工学学会看護人間工学部会誌（8），15-20．2007.
・ 矢﨑義雄、篠山重威、藤野靖博他：心不全下巻－最新の基礎・臨床研究の進歩．日本臨床社．2007.

3．外部研究資金

研究代表者：文部科学省、科学研究費補助金（基盤研究 C）「カプサイシンジェルとサーキュレーターを用いた睡眠導入効果に関する実験検証」、2019～2022 年度

4．受賞

5．所属学会

日本看護研究学会、日本看護科学学会、看護人間工学会、日本看護学教育学会

6．担当授業科目

基礎看護学実習Ⅰ・1 単位・1 年・前期、基礎看護技術論・2 単位・1 年・後期、看護過程・1 単位・2 年・前期、フィジカルアセスメント論・2 単位・2 年・前期、シンプトンマネジメント論・1 単位・2 年・後期、基礎看護学実習Ⅱ・2 単位・2 年・通年、専門看護学ゼミ・2 単位・3 年・通年、卒業研究・2 単位・4 年・通年、統合実習・2 単位・4 年・通年

7．社会貢献活動

8．学外講義・講演

9．附属研究所の活動等

看護学部／看護学科	職名	講師	氏名	政時　和美

1．教員紹介・主な研究分野

主な研究分野は災害や救急に関する研究を行っている。また、2012年には、リンパ浮腫指導技能者の資格を得、「リンパ浮腫」を通じてスキンケアなど皮膚に関する勉強会を開催している。

2．研究業績

①最近の著書・論文

<論文>

- 中井裕子,笹山万紗代,政時和美,松井聡子：手術室見学実習における看護学生の学び,福岡県立大学看護学研究紀要 第17巻,2020
- 政時和美,大場美緒,古庄夏香,中井裕子,村田和子,笹山万紗代,山口馨子,福田和美：学内での対面とオンラインを組み合わせた成人慢性看護学実習の取り組み，福岡県立大学看護学研究紀要 第18巻,2021

②その他最近の業績

<学会発表>

- 大久保綾,政時和美：プリパレーションの実践と教育に関する課題について,第46回日本看護研究学会学術集会,Web開催,2020
- 政時和美,古庄夏香,大場美緒：在宅患者への災害時における避難支援に関する文献検討第47回日本看護研究学会学術集会,Web開催,2021

③過去の主要業績

3．外部研究資金

4．受賞

5．所属学会

日本看護科学学会、日本リンパ学会、日本看護研究学会、日本看護医療学会

6．担当授業科目

成人看護学概論・1単位・2年・前期、成人急性看護論・2単位・2年・後期、成人急性看護学実習・3単位・3年～4年・前期～後期、成人看護学演習Ⅰ・1単位・3年・前期、成人看護学演習Ⅱ・3単位・3年・前期、専門看護学ゼミ・2単位・3年～4年・前期、卒業研究・2単位・4年・後期、統合実習・2単位・4年、災害看護・1単位・2年、成人看護学演習・2単位・修士1年・後期

７．社会貢献活動

８．学外講義・講演

９．附属研究所の活動等

ヘルスプロモーション実践研究センター兼任研究員

看護学部／看護学科	職名	講師	氏名	宮本　いずみ

1．教員紹介・主な研究分野

産業医科大学を卒業後，大学病院（中央手術部，産婦人科病棟，整形外科病棟）で看護師として勤務後，看護系大学で教員として看護教育に携わっています。九州大学大学院医学系学府保健学専攻看護学分野修士課程を修了，山口大学大学院医学系研究科保健学専攻博士期課程を修了。現在，手術室看護師の看護実践能力と教育プログラムの開発と検証に関する研究，MR（複合現実）を活用した手術シミュレーションによる看護教育に関する研究を行っています。

2．研究業績

①最近の著書・論文

- 宮本いずみ （2023）．手術室看護師の看護実践能力を高める教育プログラムの構築．山口大学大学院，博士論文．
- 宮本いずみ，山勢博彰，田戸朝美 （2023）．手術室看護師が認識している看護実践能力を高める効果的な継続教育の探求：テキストマイニングを用いた自由回答文の解析から，山口医学，72（1），29-38.
- 前田晃史，宮本いずみ，八田圭司，池田知香 （2022）．ベッド上で『JRC 蘇生ガイドライン 2015』推奨の背板と標準的な背板を用いた胸骨圧迫の質の比較，日本臨床救急医学会誌，25（5），789-796.
- 宮本いずみ，山勢博彰，田戸朝美 （2021）．手術室看護師の看護実践能力評価尺度の開発，日本クリティカルケア看護学会誌，17，80-88.
- 前田晃史，宮本いずみ （2022）．すぐ実践に生かせる！器械器具・薬剤の準備のプロを目指せ！オペ室のセッティング講座 整形外科手術の器械器具　橈骨遠位端骨折（プレート固定），メディカ出版，OPE nursing，37 （1），p72-77.
- 前田晃史，宮本いずみ （2022）．すぐ実践に生かせる！器械器具・薬剤の準備のプロを目指せ！オペ室のセッティング講座 整形外科手術の器械器具　大腿骨転子部骨折（髄内釘），メディカ出版，OPE nursing，37 （2），p56-60.
- 前田晃史，宮本いずみ （2022）．すぐ実践に生かせる！器械器具・薬剤の準備のプロを目指せ！オペ室のセッティング講座 整形外科手術の器械器具　大腿骨頸部骨折（人工骨頭置換術），メディカ出版，OPE nursing，37 （3），p52-58.
- 宮本いずみ，前田晃史 （2022）．すぐ実践に生かせる！器械器具・薬剤の準備のプロを目指せ！オペ室のセッティング講座 基本的な器械・器具，メディカ出版，OPE nursing，37 （4），p68-76.
- 宮本いずみ，前田晃史 （2022）．すぐ実践に生かせる！器械器具・薬剤の準備のプロを目指せ！オペ室のセッティング講座 全身麻酔の薬剤，メディカ出版，OPE nursing，37 （5），p66-72.
- 宮本いずみ，前田晃史 （2022）．すぐ実践に生かせる！器械器具・薬剤の準備のプロを目指せ！オペ室のセッティング講座 脊髄くも膜下麻酔と硬膜外麻酔時の薬剤と介助の方法，メディカ出版，OPE nursing，37 （6），p46-52.

- 前田晃史，宮本いずみ （2022）．すぐ実践に生かせる! 器械器具・薬剤の準備のプロを目指せ! オペ室のセッティング講座 消化器外科手術の器械器具　大腸（腹腔鏡下大腸切除術），メディカ出版，OPE nursing，37 （7），p58-65.
- 前田晃史，宮本いずみ （2022）．すぐ実践に生かせる!器械器具・薬剤の準備のプロを目指せ! オペ室のセッティング講座 眼科手術の器械器具　白内障手術，メディカ出版，OPE nursing，37 （8），p60-65.
- 前田晃史，宮本いずみ （2022）．すぐ実践に生かせる!器械器具・薬剤の準備のプロを目指せ! オペ室のセッティング講座 胸部外科手術の器械器具　胸腔鏡下肺切除術，OPE nursing，37 （9），p56-61.
- 前田晃史，宮本いずみ （2022）．すぐ実践に生かせる!器械器具・薬剤の準備のプロを目指せ! オペ室のセッティング講座 耳鼻咽喉科手術の器械器具　内視鏡下鼻副鼻腔手術，メディカ出版，OPE nursing，37 （10），p50-55.
- 宮本いずみ，丸岡聖路，前田晃史 （2022）．すぐ実践に生かせる! 器械器具・薬剤の準備のプロを目指せ! オペ室のセッティング講座心臓血管外科手術の器械器具　心臓弁の手術・冠動脈バイパス手術，メディカ出版，OPE nursing，37 （11），p56-61.
- 宮本いずみ，丸岡聖路，前田晃史 （2022）．すぐ実践に生かせる! 器械器具・薬剤の準備のプロを目指せ! オペ室のセッティング講座　脳神経外科手術の器械器具　開頭術，メディカ出版，OPE nursing，37 （12），p64-68.

②その他最近の業績

<学会発表>

- 八田圭司，前田晃史，佐藤美奈，宮本いずみ （2021） ．高齢者のセルフネグレクトに関する文献検討 セルフネグレクト患者に対する救急看護師の示唆，日本救急看護学会雑誌，23，p24（北海道）

③過去の主要業績

- 宮本いずみ『まるごと やりなおしのフィジカルアセスメント― チャートとイラストで見てわかる』第 4 章　胸腔鏡，腹腔鏡術後患者の看護におけるフィジカルアセスメント，メディカ出版，2015.
- 宮本いずみ『関連図と検査で理解する疾患 病態　生理パーフェクトガイド』婦人科系疾患 子宮がん（子宮頸がん，子宮体がん），卵巣がん，総合医学社，p278-280，p281-284，2017.
- 宮本いずみ『月刊ナーシング』特集　これをする根拠は何？と聞かれてもすぐに答えられる！先輩には聞けない看護技術・ケアのなぜ？に答えられるようになる！学研メディカル秀潤社，p55-57，p61-62，p69-70，2018.

3．外部研究資金

科学研究費補助金（若手研究），研究課題「MR（複合現実）を活用した手術シミュレーションによる手術看護教育の開発と検証」，交付金額 4,030 千円，2018～2023 年度（研究代表者）

4．受賞

2011年9月10日 日本手術看護学会 特別賞「手術室看護師の手術看護業務に対する重要性の認識」

5．所属学会

日本看護科学学会，日本看護研究学会，日本看護教育学会，日本手術看護学会，日本クリティカルケア看護学会，日本救急看護学会

6．担当授業科目

基礎看護学実習Ⅰ・1単位・1年・前期，基礎看護技術論・2単位・1年・後期，基礎看護学実習Ⅱ・2単位・2年・通年，フィジカルアセスメント論・2単位・2年・前期，看護過程・1単位・2年・前期，医療安全，1単位・2年・前期，シンプトンマネジメント論・1単位・2年・後期，看護実践論・2単位・3年・前期，専門看護学ゼミ・2単位・3年・通年，統合実習・2単位・4年・通年，卒業研究・2単位・4年・通年

7．社会貢献活動

日本手術看護学会　査読委員
日本看護学会　　査読委員
日本クリティカルケア看護学会 第18回学術集会運営スタッフ（2022年6月11日，12日）

8．学外講義・講演

9．附属研究所の活動等

看護学部／看護学科	職名	講師	氏名	安河内　静子

1．教員紹介・主な研究分野

九州大学医学部附属病院周産母子センターで勤務後(助産師)，福岡市で勤務後(保健師)，2004年4月より本学に着任，現在に至る。国際医療福祉大学大学院保健医療学専攻課程修了(保健医療学修士)。女性がエンパワーメントしていく過程を支援するマザークラスの開催、育児サロンの開催、小中学校での性教育など思春期保健から女性のライフサイクルを見据えた教育活動を行っている。研究分野は妊産婦の禁煙プログラムに関する研究、乳児の皮膚と洗浄法に関する研究などに取り組んできた。現在は、妊娠期から産後の周産期のボンディング障害に関する研究に取り組んでいる。

2．研究業績

①最近の著書・論文

②その他最近の業績

<学会発表>

③過去の主要業績

- 古田祐子，安河内静子．(2016) 簡易型 S 皮膚洗浄法が肌トラブルを有する乳児と実施者である養育者に及ぼす影響，福岡県立大学看護学部紀要 15，福岡県立大学,11-20.
- 安河内静子.古田祐子,佐藤香代．(2015) .大学院における助産師教育に対するニーズ調査，福岡県立大学看護学部紀要 14，福岡県立大学，53-62 .
- 安河内静子，佐藤香代，吉田静，石村美由紀，森純子，鳥越郁代．(2010)．医療者が「身体感覚活性化マザークラス」を体験した効果−体験録の分析から−．福岡県立大学看護学部紀要 7 (2)，63-71.

3．外部研究資金

4．受賞

5．所属学会

日本助産師会、日本母性衛生学会、日本助産学会、日本禁煙科学会、日本思春期学会

6．担当授業科目

【看護学部】教養演習・1単位・1年・前期，女性看護学概論・1単位・2年・前期，女性看護学・2単位・2年・後期，女性看護演習Ⅰ・1単位・3年・前期，女性看護学演習Ⅱ・ 3~4年・通年，女性看護学実習・2単位・3～4年・通年，専門看護学ゼミ・2単位・3年・ 通年，卒業研究・2単位・4年・通年

【看護学研究科】ホリスティック助産学特論・1 単位・1 年・前期，コミュニティ助産学特論・1単位・1年・後期，マネジメント助産学特論・2 年 実習Ⅰ・2単位

7．社会貢献活動

福岡県田川保健所感染症診査協議会委員

福岡県助産師会理事（勤務助産師部会長）

8．学外講義・講演

9．附属研究所の活動等

看護学部／看護学科	職名	講師	氏名	安永　薫梨

1．教員紹介・主な研究分野

2004 年 3 月に福島県立医科大学大学院看護学研究科修士課程修了。

2004 年 4 月より本学に着任。

現在、研究に関しては「患者の怒りを受けた精神科看護師の不安に対する心的安全空間生成のプロセスに関する研究」について取り組んでいます。

教育に関しては、学生が自分自身の内と外の安全感を確かめながら、自己理解、他者理解を深めると共に、オレムーアンダーウッドのセルフケアモデルを、精神疾患を持つ患者に対し、展開できるよう講義、演習、実習を行っています。

今後も、さらに精神疾患を持つ患者の力動的な理解を深め、患者が本当に求めているものは何か、を探求し、患者が望む生活の実現に向け、日々、トレーニングを積みながら、教育、研究、実践に取り組んでいきたいと思っております。

2．研究業績

①最近の著書・論文

・ 川野雅資,安永薫梨,他(2022). 精神科看護ポケットガイド.p16-19,東京：中央法規.

②その他最近の業績

<学会発表>

・ 安永薫梨.(2022).精神科看護師の不安に関するセルフケアについての文献検討. PAS セルフケアセラピィ看護学会第 5 回大会抄録集,p20.

・ 安永薫梨,宇佐美しおり.(2021).精神科看護師の安全空間生成に関する質問紙の信頼性と妥当性の検証. PAS セルフケアセラピィ看護学会第 4 回大会抄録集,p29.

・ 安永薫梨.(2020). 心的安全空間維持に関する構成概念妥当性の検証. PAS セルフケアセラピィ看護学会第 3 回大会抄録集,p19.

③過去の主要業績

・ 安永薫梨. (2015).「精神科看護における患者から看護師への暴力(Violence)」に関する文献レビュー. 日本精神保健看護学会誌, 24(1),1-11.

・ 安永薫梨. (2011) .精神疾患をもつ患者が看護師への暴力を思いとどまったその思いと試み.日本精神保健看護学会誌.20(2),21-27.

・ 安永薫梨. (2006). 精神科閉鎖病棟における患者から看護師への暴力の実態とサポート体制, 日本精神保健看護学会誌, 15(1), 96-103.

３．外部研究資金

・四天王寺大学看護実践開発研究センター研究費助成金 （寄託者:安永薫梨、研究課題:患者の怒りを受けた精神科看護師の不安への PAS-SCT 介入の評価、交付金額 99,337 円、研究期間 2022.7.13～3.31.）

４．受賞

５．所属学会

PAS セルフケアセラピィ看護学会、日本看護研究学会、日本精神保健看護学会、日本看護科学学会、日本看護学教育学会、日本看護協会

＊PAS セルフケアセラピィ看護学会事務局員

＊PAS セルフケアセラピィ看護学会第 4,5 回大会事務局員

＊PAS セルフケアセラピィ看護学会第 4,5 回大会企画委員

６．担当授業科目

<学部>

精神看護学概論・2 単位・2 年・前期、医療安全・1 単位・2 年・前期、精神看護学・2 単位・2 年・後期，精神看護学演習Ⅰ・1 単位・3 年前期、精神看護学演習Ⅱ・1 単位・3 年後期、精神看護学実習・2 単位・3 年後期～4 年前期，専門看護学ゼミ・2 単位・3 年・通年，統合実習・2 単位・4 年・通年，卒業研究・2 単位・4 年・通年

<大学院：精神看護専門看護師コース>

精神看護学特論・2 単位・前期、精神看護学演習・2 単位・後期

７．社会貢献活動

８．学外講義・講演

・高校生参加の授業参観：「精神看護学:主な状態像(不安、強迫、怒り、操作)と看護」(2022.11.4)

９．附属研究所の活動等

看護学部／看護学科	職名	講師	氏名	吉川　未桜

1．教員紹介、主な研究分野

小児看護学教育や看護と保育の協働・連携、看護職による子育て支援や小児訪問看護に関する研究を行っている。小児看護学教育に関する研究では、子どもと関わる機会の少ない近年の学生が、子どもを具体的にイメージし、子どもと家族へ根拠ある適切な看護を実践する能力を身につけられる教育方法の探求を行っている。また、地域の幼稚園・保育園における健康教育や、病棟での保育と看護の協働に関する研究、小児在宅ケアを担う訪問看護に関する研究など、地域社会のあらゆる健康段階の子どもと家族が、より健康で健やかに成長発達できる看護支援の充実を目指している。

2．研究業績

①最近の著書、論文

- 吉川　未桜、田中　美樹、吉田　麻美、中原　雄一、杉野　寿子、池田　孝博．入院中の子どもを支える保育士と看護師の専門性を活かした協働　第2報－協働の現状と課題－．福岡県立大学看護学部紀要第20巻．2023年3月．
- 田中　美樹、吉川　未桜、吉田　麻美、中原　雄一、杉野　寿子、池田　孝博．入院中の子どもを支える保育士と看護師の専門性を活かした協働　第1報－業務内容の現状分析－．福岡県立大学看護学部紀要第20巻．2023年3月．
- 田中　美樹、吉川　未桜、吉田　麻美、杉野　寿子、中原　雄一、池田　孝博．新型コロナウイルス感染症拡大による入院中の子どもを支える上での看護師と保育士の困難感．福岡県立大学人間社会学部紀要第31巻2号．2023年3月．
- 平塚淳子、猪狩崇、中村美穂子、小野順子、吉川未桜、吉田麻美、田中美樹、山下清香、櫟直美、尾形由起子．A県における訪問看護ステーションのBCP策定における現状と課題．福岡県立大学看護学部紀要第20巻．2023年3月．
- 杉野　寿子、吉川　未桜、田中　美樹、吉田　麻美、池田　孝博、中原　雄一．入院中の子どもの権利と家族のQOLに関する課題．福岡県立大学人間社会学部紀要第31巻1号．2022年10月．
- 吉川未桜、吉田麻美、平塚淳子、中村美穂子、大場美緒、小野順子、猪狩崇、山下清香、田中美樹、櫟直美、尾形由起子．新型コロナウイルス感染拡大下における訪問看護ステーションの困難と対応．福岡県立大学看護学部紀要第19巻．2022年3月．
- 田中美樹、吉川未桜、尾形由起子、櫟直美、吉田麻美．小児訪問看護における訪問看護師の困難感と同行訪問研修の試み．福岡県立大学看護学部紀要第19巻．2022年3月．
- 櫟直美、尾形由起子、小野順子、中村美穂子、大場美緒、吉田麻美、猪狩崇、平塚淳子、田中美樹、吉川未桜、山下清香．在宅医療推進における訪問看護ステーション連携への取組に関する一考察．福岡県立大学看護学部紀要第19巻．2022年3月．
- 小野順子、山下清香、中村美穂子、中本亮、櫟直美、田中美樹、吉川未桜、吉田麻美、尾形由起子．A県における訪問看護ステーションの災害対策の現状と課題－災害時の在宅療養継続に向けて－．福岡県立大学看護学部紀要第19巻．2022年3月．

・ 杉野寿子、田中美樹、吉川未桜、中原雄一、吉田麻美、池田孝博．保育士養成課程における保健、健康に関する学びの研究．福岡県立大学人間社会学部紀要．第29巻1号．2020年10月．

②その他最近の業績

<学会発表>

・ 吉田麻美、山下清香、小野順子、吉川未桜、田中美樹、岡田麻里、尾形由起子．歩ける医療的ケア児の母親の子育てに適応していくプロセスの検討．日本看護研究学会第48回学術集会（オンライン）ポスター発表、2022年8月27・28日．

③過去の主要業績

・ 吉川未桜、青野広子、仲村彩、吉田麻美、田中美樹、宮城由美子．赤ちゃん先生プログラムを取り入れた小児看護技術演習の効果．福岡県立大学看護学部紀要13巻1号．2016年3月．
・ 青野広子、吉川未桜、田中美樹、江上千代美、宮城由美子．小児看護技術支援における看護学部4年生の看護技術動作の傾向と感想の検討．福岡県立大学看護学部紀要 13 巻 1 号．2016年3月．
・ 吉川未桜、青野広子、田中美樹、宮城由美子．小児看護学演習における赤ちゃん先生プログラム導入の試み．福岡県立大学看護学部紀要12巻1号．2015年3月．

3．外部研究資金

文部科学省科学研究費補助金（基盤研究 C）研究代表者，「先天性心疾患の乳幼児・家族への包括的地域子育て支援に関する研究」，260万円，平成29年度～令和4年度．

4．受賞

5．所属学会

日本看護科学学会、日本小児看護学会、日本看護研究学会、日本小児保健協議会、日本保育園保健学会、日本子ども健康科学学会、九州・沖縄小児看護教育研究会

6．担当授業科目

小児看護学概論・1単位・2年・前期、小児看護学・2単位・2年・後期、小児看護学演習Ⅰ・1単位・3年・前期、小児看護学演習Ⅱ・1単位・3年・後期、小児看護学実習・2単位・3年前期～4年後期、統合実習・2単位・4年・通年、専門看護学ゼミ・2単位・3年・通年、卒業研究・2単位・4年・通年、小児看護学特論・2単位・M1～2年・前期、小児看護学演習・2単位・M1～2年・後期

7．社会貢献活動

８．学外講義、講演

・　出前講義　自由が丘高等学校（対面）　2022 年 7 月 27 日（水）

・　高校訪問　西南女学院高等学校（オンライン）　2022 年 9 月 7 日（水）

・　令和 4（2022）年度ファミリーサポートセンター会員養成講習会「小児看護の基礎知識」（対面）　2022 年 11 月 25 日．田川市．

９．附属研究所の活動等

・　令和４年度福岡県立大学附属研究所研究奨励交付金　重点領域研究「子どもの最善の利益のための看護師と保育士の協働と連携に関する研究」研究分担者

看護学部／看護学科	職名	助教	氏名	猪狩　崇

1．教員紹介・主な研究分野

平成28年度に着任いたしました。現在は主に在宅看護学領域教育を担当しています。主な研究分野は理論看護学、地域・在宅看護学、補完代替看護学（統合医療と看護）で、地域包括ケア分野、精神看護分野での実践経験の視点も研究・教育に活用しています。看護学概論に関連しての看護史（特にドイツ近代における）研究にも取り組んでいます。

2．研究業績

①最近の著書・論文

- 平塚淳子、猪狩崇 、中村美穂子、小野順子 、吉川未桜、吉田麻美 、田中美樹 、山下清香、櫟直美、尾形由起子：
  A 県における訪問看護ステーションの BCP 策定における現状と課題；福岡県立大学看護学部紀要第 20 号、2023 年 3 月刊行予定
- 猪狩崇：「もう一人の父」フリートナー牧師と F.ナイチンゲール　―‘A new art and science’の背後にひそむ F.N.の認識とは―；ナイチンゲール研究　第 13 号、「わたしとナイチンゲール」ナイチンゲール生誕 200 年寄稿、ナイチンゲール研究学会、2023 年 3 月刊行予定
- 吉川 未桜, 吉田 麻美, 平塚 淳子, 中村 美穂子, 大場 美緒, 小野 順子, 猪狩 崇, 山下 清香, 田中 美樹, 櫟 直美, 尾形 由起子：新型コロナウイルス感染拡大下における訪問看護ステーションの困難と対応；福岡県立大学看護学部紀要 19 号,2022　2 月
- 山口のり子, 福岡洋子, 中村美穂子, 猪狩　崇, 尾形　由起子：官民学協働による地域住民を含めた『ケア・カフェ』実践報告；福岡県立大学看護学部紀要 18 号, 21-26, 2021

②その他最近の業績

<学会発表>

- Junko Hiratsuka, Takashi Igari, Chie Namitomi：A study of the nutritional status of older people living in hilly and mountainous areas and attending exercise classes　; The 16th EAFONS 2023.　EFONS, Tokyo, March10-11.2023.
- 増滿　誠, 松枝　美智子, 中本 亮, 惠良 友彦, 脇崎 裕子, 猪狩 崇, 宮﨑 初, 青木 裕史, 青木 典子, 谷口 研一郎, 津野 稔一, 藤本 裕二, 安藤 愛, 中島 充代, 大場 裕司, 江頭 薫, 中山 アツ子：みんなに知ってほしい！「ともにつくり共に学ぶ」を叶えるリカバリー・カレッジで私たちが大切にしていること～立ち上げ方、続け方、在り方～；日本精神保健看護学会第 31 回学術集会ワークショップ. 2021 年 6.月 5 日（web 開催）
- 増滿 誠, 松枝 美智子, 中本 亮, 惠良 友彦, 猪狩 崇, 中島 充代, 池田 智, 安藤 愛, 脇﨑 裕子, 清田 由起子, 児玉 ゆう子, 津田絵美：リカバリー・カレッジの意味の探求；第 40 回日本看護科学学会交流集会, 2020 年 12 月 13 日（web 開催）

③過去の主要業績

- 猪狩　崇, 石崎　龍二, 櫟　直美, 柴田　雅博, 小野　順子, 楢橋　明子, 杉本　みぎわ, 尾形　由起子; 地域包括支援ケアシステム構築へ向けて人的ネットワーク形成・運営に関する一考察; 福岡県立大学看護学部紀要 16 号, 161-128, 2019.3.31（H30 年度研究）.
- 猪狩 崇、石崎 龍二、櫟 直美、柴田 雅博、小野 順子、楢橋 明子、杉本 みぎわ、尾形 由起子: 地域包括ケアシステム構築に向けた地域医療情報連携ネットワークシステム導入に関する一考察; 福岡県立大学看護学部紀要 15 号, 83-90, 2018 .3.31（H29 年度研究）.
- ・猪狩　崇 : 対応困難な事例にしないための対象理解の構造（博士学位論文）; 看護科学研究第 8 巻, p.25-40, 看護科学研究学会. 2013.

3．外部研究資金

研究代表者　松浦賢長　　研究分担者　猪狩　崇 : 科研費　基盤研究 B（一般）エッセンシャルワーカーとしての看護師の継続する危機への適応力教育パッケージの開発 ; 16380,000 円、令和 4 年度－令和 7 年度

4．受賞

5．所属学会

看護科学研究学会、ナイチンゲール研究学会、宮崎県立看護大学看護学研究会

6．担当授業科目

キャリア像確立講義Ⅰ　1 単位　1、2 年、キャリア像確立講義　1 単位　3,4 年　地域・在宅看護論　2 単位　2 年、災害看護学　1 単位　2 年生、在宅看護学演習Ⅰ, Ⅱ　1 単位　3 年、在宅看護学実習　2 単位　3 年、暮らしを知る実習　1 単位　1 年、統合実習　3 単位　4 年生、専門看護学ゼミ　2 単位　3 年、卒業研究ゼミ　2 単位　4 年

7．社会貢献活動

添田町地域包括支援センター運営協議会委員
添田町福祉施設指定管理者選定委員
添田町社会福祉協議会「そえだ縁ジョイプロジェクト」アドバイザー

8．学外講義・講演

添田町社会福祉協議会「そえだ縁ジョイプロジェクト　支えあいの地域づくり講座」講師、全 5 回、令和 4 年 3 月～12 月、そえだジョイプラザ

9．附属研究所の活動等

看護学部／看護学科	職名	助教	氏名	江崎　千尋

1．教員紹介・主な研究分野

福岡県立大学大学院看護学研究科修士課程修了、修士（看護学）。看護師として循環器内科・心臓血管外科病棟で勤務した後、2016年度より本学へ着任する。

主な研究として、看護職を目指す学生の主体的学習活動について検討を行っている。特に主体的学習活動に関する内的要因と考えられている学習意欲と自己効力感に着目し、これら三者の関連性や影響を検討することで、学生の主体的学習活動につながる学習支援に役立てたいと考えている。

2．研究業績

①最近の著書・論文

- 渕野由夏, 永嶋由理子, 加藤法子, 藤野靖博, 於久比呂美, 宮崎千尋：基礎看護学教科書における人間の概念に関する検討. 福岡県立大学看護学研究紀要, 17, 2020.
- 江崎千尋, 中本　亮, 井田　真実：実習指導者の「研修転移」を目指した研修プログラムの開発に向けた文献研究. 福岡県立大学看護学研究紀要, 19, 2023.（掲載予定）

②その他最近の業績

<学会発表>

- 於久比呂美, 江崎千尋：臨床看護師の自己教育力における内的因子の関連.　第 42 回日本看護科学学会学術集会, 2022年12月.

③過去の主要業績

- 宮崎千尋, 永嶋由理子：看護職を目指す学生の主体的学習活動と学習意欲および自己効力感の検討－公立大学と私立大学の比較－. 福岡県立大学看護学研究紀要, 16, 2019.
- 宮崎千尋, 永嶋由理子：看護職を目指す学生の学習意欲と自己効力感の検討～学年間の比較に焦点をあてて～. 第38回日本看護科学学会学術集会, 2018年12月.
- 於久比呂美, 永嶋由理子, 宮崎千尋, 藤野靖博, 渕野由夏, 加藤法子, 津田智子：病室環境が生体反応にもたらす影響への検討. 福岡県立大学看護学研究紀要, 10（1）, 39-46, 2012.

3．外部研究資金

4．受賞

5．所属学会

日本看護研究学会, 日本看護科学学会

6．担当授業科目

教養演習・1単位・1年・前期、基礎看護学実習Ⅰ・1単位・1年・前期、基礎看護技術論・2単位・1年・後期、基礎看護学実習Ⅱ・2単位・2年・通年、フィジカルアセスメント論・2単位・2年・前期、看護過程・1単位・2年・前期、シンプトンマネジメント論・1単位・2年・後期、専門看護学ゼミ・2単位・3年・通年、統合実習・2単位・4年・通年

7．社会貢献活動

8．学外講義・講演

9．附属研究所の活動等

ヘルスプロモーション実践研究センター兼任研究員

看護学部／看護学科	職名	助教	氏名	鹿嶋　聡子

1．教員紹介・主な研究分野

大学卒業後、看護師として勤務し、その後看護系大学にて約 10 年間助手、助教として従事する。福岡県立大学大学院看護学研究科修士課程修了、修士（看護学）。2022 年 4 月より本学へ着任。主な研究内容として、看護系大学生のレジリエンスについての検討を行っている。

2．研究業績

①最近の著書・論文

②その他最近の業績

<学会発表>

・ 鹿嶋聡子，永嶋由理子．看護系大学生のレジリエンスと達成動機の関連性の検討，第 42 回日本看護科学学会学術集会，2022 年 12 月．

③過去の主要業績

・ 清村紀子，梶原江美，鹿嶋聡子．看護形態機能学の知識習得に関連したバリアとニードの構造，西南女学院大学紀要，Vol.12，37-46，2008.
・ 石井美紀代，鹿嶋聡子，布花原明子他．初年次教育における問題解決型学習の効果，西南女学院大学紀要，Vol.16，25-34，2012.
・ 清村紀子，鹿嶋聡子，時吉佐和子他．A 地域における中学生への CPR 教育に関する質的評価，日本臨床救急医学会雑誌，Vol.16.No.5，632-642，2013.

3．外部研究資金

4．受賞

5．所属学会

日本看護科学学会

6．担当授業科目

基礎看護学実習Ⅰ・1 単位・1 年・前期、基礎看護技術論・2 単位・1 年・後期、基礎看護学実習Ⅱ・2 単位・2 年・通年、看護過程・1 単位・2 年・前期、フィジカルアセスメント論、2 単位・2 年・前期、シンプトンマネジメント論・1 単位・2 年・後期、専門看護学ゼミ・2 単位・3 年・通年、卒業研究・2 単位・4 年・通年、統合実習・2 単位・4 年・前期

７．社会貢献活動

８．学外講義・講演

９．附属研究所の活動等

看護学部／看護学科	職名	助教	氏名	梶原　由紀子

1．教員紹介・主な研究分野

看護師として、重心障害児（者）病棟、消化器内科・小児科、大学保健室、高等学校で養護助教諭として勤務しました。児童生徒が心身共に健康で安全に学校生活を送ることができ、発達段階に応じた自己管理能力を身に付けるための支援として、また、現場の養護教諭先生方を支援するために研究に取り組む所存です。

【養護教諭の危機対応力向上や協働力の促進に関する研修プログラム開発】

養護教諭の危機管理力の研修開発に関して取り組んでいます。昨今、重度の障害がありつつも医療施設ではなく地域で暮らす子供が増えてきているとともに、地域の学校に通学する子供たちも増加しています。学校においては、子供たちの安全安心のために緊急時には専門的な対応が求められ、保健管理の中核を担う養護教諭の役割も大きいと考えます。また、感染症対策等の学校保健に関する組織活動の推進を考える上では、養護教諭と教職員との情報共有が必須となる一方で、内部組織だけでなく外部組織や保護者との連携も欠かせず、養護教諭がコーディネートを担うこともあり協働する力が不可欠であると考えています。このような点を踏まえ、現在、養護教諭の危機対応力向上や協働力の促進に関する研修プログラム開発に関する研究を行っています。

【特別支援学校養護教諭の特定行為におけるリスク認識に関する研究】

制度の改正に伴い教員を含む介護職員等が限定された特定行為を実施できるようになり、特別支援学校では、看護師と連携しながら教員が医療的ケアを実施しています。このような特別支援学校の養護教諭における特定行為に関する専門的な対応や事故やリスクに関する現状について調査研究を行いました。

2．研究業績

① 最近の著書・論文

著者

・松浦賢長、原田直樹、榊原秀也、渡辺多恵子、梶原由紀子（他62名）（2021）；思春期学　基本用語集、学校保健に関する用語【医療的ケア、学校環境衛生、学校保健、学校保健安全法、健康観察、健康診断、健康相談、保健室、保健指導】について担当、講談社.

・衛藤隆、松浦賢長、近藤洋子、原田直樹、梶原由紀子他（26名）（2020）；1980年から10年ごとの幼児健康度調査の結果と分析　子供の保健　小児保健に携わるすべての人に　食物アレルギー、アトピー性皮膚炎、喘息　解説p53，コラムp41，p54，p56，ジアース教育新社.

・永光信一郎、坂下和美、作田亮一、松浦賢長、原田直樹、梶原由紀子（他9名）（2020）；ティーンズ検診　思春期のこどもへの健康指導マニュアル、リスク因子33ｐ33，久留米大学.

論文

・梶原由紀子、原田直樹、田原千晶、松浦賢長（2022）．養護教諭の危機対応に関する研修についての調査研究、福岡県立大学看護学部研究紀要、第19巻57-68.

・原田直樹、梶原由紀子、田原千晶、増滿誠、松浦賢長（2022）．元不登校児童生徒その保護者の不登校をめぐる意識差と家族機能についての研究、福岡県立大学看護学部研究紀要、第19巻1-12.

② 過去の主要業績

・梶原由紀子（2019）．科研（若手B）「インクルーシブ教育における養護教諭の危機対応力向上に関する短期研修プログラム開発」研究成果報告書，1-67.

- 松浦賢長，笠井直美，渡辺多恵子編者(2017)；保健の実践科学シリーズ 学校看護学，第12章 感染症対策Ⅰ93-97，第13章 感染症対策 98-103，第15章 救急処置 112-118，第26章 特別支援教育・医療的ケア 187-192，講談社サイエンティフィク.
- 松浦賢長，笠井直美，渡辺多恵子編者(2015)；保健の実践科学シリーズ 学校看護学，第12章 感染症対策Ⅰ93-97，第13章 感染症対策 98-103，第15章 救急処置 112-118，第26章 特別支援教育・医療的ケア 187-192，講談社サイエンティフィク.

3．外部研究資金

養護教諭の協働力を促進するための研修プログラム開発
（科研基盤研究C：22K10962）156万円

5．所属学会

日本思春期学会（理事）、日本保健福祉学会（幹事）、日本学校保健学会、日本看護研究学会、日本看護科学学会、日本公衆衛生学会、日本ＬＤ学会、日本学校救急看護学会、日本災害看護学会、日本健康運動学会、九州学校保健学会，九州思春期研究会（理事）

6．担当授業科目

教養演習・2単位・1年・前期，不登校・ひきこもり援助論・2単位・1年・前期，教育と社会・地域・1単位・1年・前期，子ども学習支援論・1単位・1年・後期，公衆衛生学・2単位・1年・後期，保健統計学・2単位・2年・前期，暮らしと保健福祉・看護・2単位・2年・後期，養護概説・2単位・2年・後期，教育方法論・1単位・看護2年・後期，健康科学・2単位・2年・後期，学校保健学・1単位・3年・前期，健康教育論，2単位・3年・前期，性教育学・2単位・看護3年／人社3年・前期，専門看護学ゼミ・2単位・3年・通年，養護実習事前事後指導・1単位・4年・前期，養護実習・4単位・4年・前期，教職実践演習（養護教諭）・2単位・4年・後期，統合実習・2単位・4年・通年，卒業研究・2単位・4年・通年

7．社会貢献活動

・日本思春期学会，理事
・九州思春期研究会，理事
・福岡県教育員会　筑豊地区教育相談ネットワーク会議，委員
・福岡県立西田川高等学校関係者評価委員
・学生防犯サークルオリオンズ（コーディネーター）

8．学外講義・講演

・不登児童生徒社会的自立支援事業　社会的自立支援コーディネーター研修講師　R4.12月
・不登児童生徒社会的自立支援事業　不登校情報分析コーディネーター研修講師　R5.1月

9．附属研究所の活動等

・不登校・ひきこもりサポートセンター教員スタッフ

看護学部／看護学科	職名	助教	氏名	清原　智佳子

１．教員紹介・主な研究分野

主に老年看護分野の実習を担当しています。内分泌内科、消化器外科、NICU、ONT、緩和ケア（PCU）病棟に 27 年間勤務後、JAICA 関連でメキシコに渡り学校の保健室で看護として活動していました。主な研究として、C 型慢性肝炎患者の身体的・心理的・社会的調査研究に加え、セルフ・コンパッションに興味を持っています。スペイン語のクラスはありませんが個人的に興味のある方は大歓迎です。

２．研究業績

①最近の著書・論文

②その他最近の業績

<学会発表>

- 外来通院中のウイルス性肝炎患者の療養生活に対する思い 日本看護研究学会雑誌 43(3)2020 年 9 月
- 肝疾患を持つ患者の運動習慣について 第 22 回日本看護医療学会学術集会 2020 年 9 月
  運動・活動を意識している C 型慢性肝炎患者の生活行動の実態 第 16 回日本慢性看護学会誌 2021 年 8 月

③過去の主要業績

- 清原智佳子、古賀明美、藤田君支、研究報告、C 型慢性肝炎患者の疲労感、QOL と身体活動量に関する研究　日本看護研究学会雑誌、Vol37, No2, 2014, p63～70
  清原智佳子、梶原由紀子、尾形由起子、小野順子、田中美樹、石村美由紀、江上千代美、実践報告　発達障がいをもつ子どもの親を対象に行ったステッピングストーンズトリプル P 受講前後のパイロット・スタディ 2017 年 福岡県立大学紀要
- 鳥越郁代 、加藤法子、松井聡子、 許 棟翰、 芋川 浩 、清原智佳子、 松浦賢長　韓国、大邱韓医大学校における韓方医学及び看護短期研修プログラムの開発 2018 年 福岡県立大学紀要第 16 巻

３．外部研究資金

４．受賞

５．所属学会

日本看護研究学会
日本看護慢性学会
日本看護医療学会

６．担当授業科目

老年看護学概論１単位・前期、老年看護学演習Ⅰ１単位・前期、老年看護学２単位・後期、老年看護学演習Ⅱ１単位・前期後期、老年看護学実習Ⅰ１単位・後期、老年看護学実習Ⅱ３単位・前期後期、 専門ゼミ３年前期後期、専門ゼミ４年前期後期、卒業研究３年前期後期、卒業研究２年前期後期

７．社会貢献活動

国境なき医師団　世界といのちの授業（小学生対象）ファシリテーター

８．学外講義・講演

９．附属研究所の活動等

看護学部／看護学科	職名	助教	氏名	佐藤　繭子

1．教員紹介・主な研究分野

看護師として5年間外科系病棟で勤務、助産師として8年勤務後、その経験を生かし、2009年より本大学看護学部臨床看護学系助手として着任。2011年3月、福岡県立大学大学院看護学研究科修了、修士（看護学）。現在に至る。

臨床では母乳育児支援の推進に携わり、母親・医療スタッフへの情報提供や知識の啓蒙に努めてきた。現在は母乳育児支援に関する研究だけでなく、性教育（幼児・児童，子を持つ親，成人）にも積極的に取り組んでいる。

2．研究業績

①最近の著書・論文

- 石村美由紀、**佐藤繭子**他、大学院助産師教育における産育習俗探索（フィールドワーク）の実践報告．福岡県立大学看護学研究紀要　2023；21.
- **佐藤繭子**他（2022）「母性看護学」担当，『放送大学看護師国家試験学習支援ツール』，放送大学.
- **佐藤繭子**，鳥越郁代．西オーストラリア州における妊産婦支援～帝王切開準備教育・母乳育児支援に焦点を当てて～．福岡県立大学看護学研究紀要 2021；18：37-44.

②その他最近の業績

<教材開発・小冊子>

- 鳥越郁代・吉田静・安河内静子・**佐藤繭子**（2022）『知っておきたい帝王切開のこと』，教育と臨床の協働による帝王切開で出産する女性のための出産準備教育プログラム開発研究メンバー発行，36ページ.
- 古田祐子・**佐藤繭子**・道園亜希・石村美由紀（2019）『性～なぜなぜ？どうして？13のQ&A～』，田川市教育委員会発行，16ページ.

③過去の主要業績

- 森本 眞寿代，前原 宏美，**佐藤 繭子**．わが国の家庭で親が行う性教育に関する研究の動向―看護関連の文献のエビデンスレベル ―．日本看護研究学会雑誌 2019；42（2）：231-240.
- 道園亜希，古田祐子，**佐藤繭子**，石村美由紀．小学４～６年生の子どもを持つ保護者が家庭で行った就学前後の性教育の実態，福岡県立大学看護学部紀要 2019；18(1)：63-72.
- **佐藤繭子**，小林絵里子．看護系大学の母性看護学における母乳育児支援教育の現状と課題．福岡県立大学看護学部紀要　2017；14：31-39.

３．外部研究資金

研究課題名：「プレコンセプションケアを含む思春期学生と親への産学連携健康教育プログラム開発」、課題番号：22K10930、科研費区分：基盤研究(C)、 研究機関：福岡県立大学、研究代表者：**佐藤繭子**、2022～2025 年度、研究経費（直接経費：2,100,000 円）

研究課題名：「教育と臨床の協働による帝王切開で出産する女性のための出産準備教育プログラム開発」、課題番号：19K11092、科研費区分：基盤研究(C)、 研究機関：鹿児島国際大学、2019 年～2022 年度、研究代表者：鳥越郁代、研究分担者：吉田静・安河内静子・**佐藤繭子** 研究経費（直接経費：2,200,000 円）分担金：50000 円（2022 年度）

４．受賞

５．所属学会

日本看護研究学会、日本看護科学学会、日本母性衛生学会、日本助産学会

６．担当授業科目

＜学部＞

女性看護学実習・２単位・３～４年・後期～前期、卒業研究・２単位・４年・通年

＜大学院＞ウイメンズヘルス特論・1 単位・1 年・前期、基礎助産学特論・2 単位・1 年・前期、基礎助産学演習・２単位・１年・通年、助産学特論・２単位・１年・前期、助産実践学Ⅱ（分娩期）・４単位・１年・通年、助産実践学Ⅲ（産褥・新生児期）・２単位・１年・後期、助産実践学Ⅳ（ハイリスク）・２単位・１年・後期、コミュニティ助産学特論・1 単位・1 年・後期、コミュニティ助産学演習・２単位・1 年・後期、ホリスティック助産学特論・1 単位・1 年・前期、ホリスティック助産学演習・1 単位・1 年・後期、助産学実習Ⅰ（外来ケア実習）・１単位・１年・前期、助産学実習 II（周産期ケア実習）・８単位・１年・後期、助産学実習 III（継続ケア実習）・2 単位・2 年・前期、助産学実習 IV（ハイリスクケア実習）・１単位・２年・前期、助産学実習Ⅴ（マザークラス実習）・２単位・２年・後期

７．社会貢献活動

日本ラクテーション・コンサルタント協会 出版・販売事業部員

母乳育児に関する学習会の開催「母乳育児支援を学ぶ九州教室」代表・運営

福岡県助産師会子育て・女性健康支援センター相談員

マタニティサロン・ムーン 企画・運営（2022.9-10）

<母乳育児支援に関するセミナー企画・運営>

20 時間母乳育児支援基礎セミナーin 福岡（2022.9）

８．学外講義・講演

・福岡県立築城中学校「次世代思春期保健教室」講師．築城町（2022.6）
・福岡県立椎田中学校「次世代思春期保健教室」講師．築城町（2022.6）
・芦屋町立芦屋小学校３・４年生性教育ゲストティーチャー．芦屋町（2022.7）
・福岡市四箇田公民館「親子で学ぶ性教育」講師．福岡市(2022.7)
・オンラインクラス「帝王切開出産準備クラス」講師（2022.8、2023.3）計３回.
・RKB カラフルフェス「助産師と話そう　学校では学べないオシモの話」講師．福岡市(2022.10)
・福岡市立柏原小学校 4 年生「育ちゆく体とわたし」ゲストティーチャー．福岡市（2022.10）
・田川市教育委員会「小学生までに知っておきたい性（生）のはなし～13 のポイント～」講師．田川市(2022.11、2023.3)
・福岡市赤坂公民館「親だからこそ知っておきたい！子どもへの性の伝え方～自分を大切に生きるために～」講師．福岡市(2023.2)
・福岡市立宮竹中学校３年生「『性の健康』より良い人間関係を築くために」講師．福岡市(2023.2)
・小倉北区役所家庭教育学級リーダー研修会「子どもへ伝えたい『性』のはなし」講師．北九州市（2023.2）
・久留米市男女平等推進センター「みんなで考えよう！性と生理のこと」講師．久留米市(2023.3)

９．附属研究所の活動等

福岡県立大学附属研究所ヘルスプロモーション実践研究センター兼任研究員

看護学部／看護学科	職名	助教	氏名	清水　夏子

1．教員紹介・主な研究分野

2010年3月福岡県立大学大学院看護学研究科修士課程を卒業。専攻は看護教育学で、経験型実習教育における教員の教授行動と学生に与える影響に関する研究を行った。現在は、看護学生の東洋（漢方）医学のイメージと受講意欲に関する調査を継続的に実施し、看護基礎教育における東洋（漢方）医学教育の必要性についての検討を行っている。

2．研究業績

①最近の著書・論文

- 清水夏子，石田智恵美：看護学生の東洋（漢方）医学のイメージと「東洋医学概論」の受講意欲に関する調査研究．福岡県立大学看護学研究紀要．14（1）．2017.
- 清水夏子，松山美幸，塩田昇，江上千代美：統合実習における学生が嬉しかったと感じた実習指導者の言動－経験型実習教育の研修を受けた実習指導者のかかわりを通して－．福岡県立大学看護学研究紀要．16（1）．2019.
- 松井聡子，清水夏子，永尾寛子，笹山万紗代，政時和美．実習施設を就職先として意識するきっかけとなった看護師の魅力的な態度．福岡県立大学看護学研究紀要．16（1）．2019.

②その他最近の業績

<国内：学会発表>

- 清水夏子，松井聡子．（2017）．看護大学生に対する「東洋医学概論」の授業効果-受講前後の比較調査から-．第27回日本看護学教育学会学術集会．沖縄.
- 松井聡子，清水夏子，永尾寛子，笹山万紗代，政時和美．（2018）実習施設を就職先として意識するきっかけとなった看護師の魅力的な態度．第44回日本看護研究学会学術集会．熊本.
- 松山美幸，清水夏子，塩田昇，江上千代美．（2018）経験型実習教育を実践する実習指導者の言動の検討．第44回日本看護研究学会学術集会．熊本.
- 清水夏子．（2018）．看護基礎教育における東洋（漢方）医学教育の必要性の検討ー漢方を譲り受けた者の内服経験とイメージー．第28回日本看護学教育学会学術集会．神奈川.

<国内：学会発表>

- 清水夏子．（2018）．漢方教育導入から9年－福岡県立大学における東洋医学概論のあゆみ－．共催セミナー．第28回日本看護学教育学会学術集会．神奈川.

③過去の主要業績

- 安酸史子編集．清水夏子，他．経験型実習教育．pp240-252．東京．医学書院．2015.
- 清水夏子．看護大学生に対する「東洋医学概論」の試み．麻生飯塚漢方診療研究会150回記念講演会（招待講演）．福岡．2011

・ 清水夏子，安酸史子，中野榮子，佐藤香代，豊田謙二，申鎬．韓医学を取り入れた予防医学の構築事業．看護学における西洋医療と東洋医療の融合に関する日韓比較研究　訪韓報告書．2008

3．外部研究資金

科学研究費助成事業（学術研究助成基金助成金）

[研究種別・研究期間・交付金額]　若手研究（B），平成29年～平成32年度，令和5年度まで延長2,730千円

[研究課題]　看護基礎教育における東洋（漢方）医学教育の必要性の検討

4．受賞

5．所属学会

日本看護科学学会，日本看護学教育学会、日本東洋医学会、日本看護研究学会

6．担当授業科目

専門看護学ゼミ・2単位・3年・通年，卒業研究・2単位・4年・通年，女性看護学実習・2単位・3年・通年，女性看護学演習Ⅰ・1単位・3～4年・前期，女性看護学演習Ⅱ・1単位・3年・後期，東洋医学概論・1単位・2年・前期

7．社会貢献活動

8．学外講義・講演

9．附属研究所の活動等

看護学部／看護学科	職名	助教	氏名	道園　亜希

1．教員紹介・主な研究分野

福岡県立大学大学院看護学研究科にて修士を取得。
主に幼少期・思春期における性の健康に関する研究（助産学分野）を行っています。

2．研究業績

①最近の著書・論文

②その他最近の業績

③過去の主要業績

3．外部研究資金

4．受賞

5．所属学会

日本助産学会、母性衛生学会、思春期学会

6．担当授業科目

【大学院助産学】

ウイメンズヘルス特論・1単位・1年・前期、ウイメンズヘルス演習・1単位・1～2年・後期、コミュニティ助産学特論・1単位・1年・後期、コミュニティ助産学演習・2単位・1年・後期、ホリスティック助産学特論・1単位・1年・前期、ホリスティック助産学演習・2単位・1年・後期、基礎助産学特論・2単位・1年・前期、基礎助産学演習・2単位・1年・通年、助産学特論・2単位・1年・前期、助産実践学Ⅰ(妊娠期)・・・、助産実践学Ⅱ(分娩期)・4単位・1年・後期、助産実践学Ⅲ(産褥・新生児期)・2単位・2年・前期、助産実践学Ⅳ(ハイリスク)・・・、助産学実習Ⅰ(助産所実習)・1単位・1年・前期、助産学実習Ⅱ(周産期ケア実習)・8単位・1年・後期、助産学実習Ⅲ(助産所実習・継続ケア実習)・2単位・2年・前期、助産学実習Ⅳ(ハイリスクケア実習)・2単位・2年・前期、助産学実習Ⅴ（マザークラス実習）・1単位・2年・後期

7．社会貢献活動

小学校、中学校、保護者会等での性教育講演会

８．学外講義・講演

小学校、中学校、保護者会等での性教育講演会

９．附属研究所の活動等

ヘルスプロモーション実践研究センター兼任研究員

看護学部／看護学科	職名	助教	氏名	中本　亮

1．教員紹介・主な研究分野

精神科病院で看護師として，その後 2 年課程看護専門学校，3 年課程専門学校で看護学生の教育に従事した．2015 年福岡県立大学大学院看護学研究科看護教育学を修了し，2016 年に精神看護学領域に着任．専門分野は看護教育学，精神看護学で現在は主に精神看護学実習教育に携わっている．学習上の課題に対して学生との対話を通して，学生が「わかる」経験を積み重ねていき，「もっと知りたい」という意欲を高められるよう支援していきたいと考えている．

現在取り組んでいる研究テーマは，看護教育学分野ではコミュニケーションにおける誤解について研究を行っている。精神看護学分野では，被害的妄想様観念の発生や維持への否定的感情の影響を検討し、予防・軽減するための介入プログラムについて研究を行っている。

2．研究業績

①最近の著書・論文

- 石田智恵美，中本亮．アクティブラーニングによる演習と看護学生の思考に関する研究，福岡県立大学看護学研究紀要，2020 年 3 月．
- 中本亮，安藤愛，宮﨑初，坂部澪．被害妄想に対する介入に関する文献レビュー，福岡県立大学看護学研究紀要 19 巻，2022 年 3 月．
- 小野順子，山下清香，中村美穂子，中本亮，榛直美，田中美樹，吉川未桜，吉田麻美，尾形由起子．A 県における訪問看護ステーションの災害対策の現状と課題-災害時の在宅療養継続に向けて-．福岡県立大学看護学研究紀要 19 巻，2022 年 3 月．
- 江崎千尋，中本亮，井田真実．実習指導者の「研修転移」を目指した研修プログラムの開発に向けた文献研究.福岡県立大学看護学研究紀要，2023 年 3 月予定.
- 柴田雅博，増滿誠，中本亮．受講者の視点を踏まえた効果的なオンライン授業の検討.福岡県立大学人間社会学部研究紀要，2023 年 3 月予定.

②その他最近の業績

<学会発表>

- 石田智恵美，中本亮．アクティブラーニングによる演習と知識の活用に関する研究．日本教育工学会 2020 年春季国大会 長野，2020 年 2 月．
- Michiko Matsueda, Makoto Masumitsu, Ryo Nakamoto ,Hajime Miyazaki,Satoshi Ikeda, Tomoyuki Yamamoto, Kaori Onitsuka, Hidekazu Hongo.Relationship between average of psychiatric hospital stay and number of Advanced Practice Nurses (APNs) worldwide: Literature revue. Poster Session4,Nursing Policy,P2-251,The 6th International Nursing Research conference of World Academy Nursing Science, Osaka,2020.2.29.
- 増滿誠，中本亮，生駒千恵，別城佐和子，佐多愛子，松浦賢長，劉宇，赤司千波.2 型糖尿病患者におけるうつ傾向と QOL との関連に関する日中比較研究.日本保健福祉学会第 33 回学術集会（オンライン開催）.2020 年 10 月.

・ 松枝美智子，増滿誠，安保寛明，高橋葉子，後藤優子，高野歩，光永憲香，稲垣晃子，安田妙子，中本亮，児玉ゆう子，中島充代，池田智，恵良友彦，清田由紀子，宮﨑初，津田絵美.感染症の時代に医療崩壊を防ぐために精神看護の専門家として何ができるのか，何をなすべきなのか.日本看護科学学会第 40 回学術集会（オンライン開催）.2020 年 12 月.

・ 増滿誠，松枝美智子，中本亮，恵良友彦，猪狩崇，中島充代，池田智，安藤愛，脇﨑裕子，清田由紀子，児玉ゆう子，津田絵美.参加者其々にとってのリカバリー・カレッジの意味の探求．日本看護科学学会第 40 回学術集会（オンライン開催）.2020 年 12 月.

・ 松枝美智子，増滿誠，中本亮，池田智，宮﨑初.各医療機関の精神科平均在院日数と看護のゼネラリスト数との関連．日本看護科学学会第 40 回学術集会（オンライン開催）.2020 年 12 月.

・ 石田智恵美，中本亮. elearning を活用した知識の変容に関する研究季全国大会（オンライン開催）.2021 年 3 月.

・ 松枝美智子，増滿誠，中本亮，宮﨑初，本郷秀和.日本教育工学会 2021 年春.精神科平均在院日数を対象にした時のリソース・ナース数の予測モデル.日本精神保健看護学会第 31 回学術集会・総会（オンライン開催）．2021 年 6 月.

・ 増滿誠，松枝美智子，中本亮，恵良友彦，脇崎裕子，猪狩崇，宮﨑初，青木裕史，青木典子，谷口研一朗，津野稔一，藤本裕二，安藤愛，中島充代，大場裕司，江頭薫，中山アツ子.みんなに知ってほしい！「ともに創りともに学ぶ」を叶えるリカバリー・カレッジで私たちが大切にしていること～立ち上げ方，続け方，在り方～．日本精神保健看護学会第 31 回学術集会・総会（オンライン開催）．2021 年 6 月.

・ 松枝美智子，増滿誠，中島充代，恵良友彦，後藤優子，津野稔一，矢治亜樹子，安藤愛，中本亮，脇崎裕子，宮﨑初，清田由起子，堤一樹，入江正光，山本智之，大場裕司，江頭薫，中山アツ子.精神科長期入院患者の地域移行に向けた，当事者，ゼネラリスト，高度実践看護師の協働.日本精神保健看護学会第 31 回学術集会・総会（オンライン開催）．2021 年 6 月.

③過去の主要業績

・ 中本亮，石田智恵美．自己調整学習を導入した授業を経験した学生の自己効力感の特徴 ― 自由記述をコレスポンデンス分析して―，福岡県立大学看護学研究紀要，13，67-74．2016 年 3 月

・ 中本亮，石田智恵美．自己調整学習を導入した精神看護学の授業効果．日本教育工学会 第 31 回全国大会，東京．2015 年 9 月

3．外部研究資金

・科学研究費助成事業（基金分）(基盤研究(C))2021 年度～2024 年度 交付金額 3,770 千円 研究代表者：増滿誠 研究課題：高度実践看護師の患者との対話場面における沈黙の意味解釈と活用技法の検討（研究分担者）

・科学研究費助成事業（基金分）(基盤研究(C))2022 年度～2025 年度 交付金額 3,770 千円 研究代表者：宮﨑初 研究課題：精神看護における薬理学教育プログラムの開発～当事者と薬剤師・看護師の共同創造～（研究分担者）

・科学研究費助成事業（基金分）(基盤研究(C))2022年度～2027年度 交付金額4,160千円 研究代表者：松枝美智子 研究課題：日本版Moral Injury尺度の作成と信頼性・妥当性の検証（研究分担者）

4．受賞

5．所属学会

日本教育工学会，日本看護科学学会，日本精神保健看護学会，日本看護研究学会、PASセルフケアセラピィ看護学会

6．担当授業科目

対人関係と看護・1単位・1年・前期、ケアリング・ナーシング演習・1単位・1年・後期、キャリア像確立講義Ⅰ・1単位・1～4年・後期、キャリア像確立講義Ⅱ・1単位・3～4年、医療安全・1単位・2年・前期、看護研究・2単位・3～4年・前期、精神看護学概論・1単位・2年・前期、精神看護学・2単位・2年・後期、看護倫理学1単位2年・前期，精神看護学演習Ⅰ・1単位・3年・前期、精神看護学演習Ⅱ・1単位・3年・通年、精神看護学実習・2単位・3～4年・通年、統合実習・2単位・4年・通年、専門看護学ゼミ・2単位・3年・通年、卒業研究・2単位・4年・通年

看護学部／看護学科	職名	助教	氏名	平塚　淳子

1．教員紹介・主な研究分野

病院の看護師として勤務した後、平成 27 年に福岡県立大学大学院看護学研究科修士課程を修了し、平成 29 年より看護学部に着任いたしました。主な研究分野は、健康管理行動に関する研究、リスクマネジメントに関する研究、在宅看護についてです。在宅看護の研究では、地域で生活を送る高齢者の栄養と身体活動量に関する研究を行っています

2．研究業績

①最近の著書・論文

- 平塚淳子, 猪狩崇, 中村美穂子, 小野順子, 吉川未桜, 吉田麻美, 田中美樹, 山下清香, 櫟 直美, 尾形由起子. A 県における訪問看護ステーションの BCP 策定における現状と課題. (2023) 福岡県立大学看護学研究紀要.
- 櫟 直美 尾形由紀子 小野順子 中村美穂子 大場美緒 吉田麻美 猪狩崇 平塚淳子 田中美樹 吉川美桜 山下清香. (2022) 在宅医療推進における訪問看護ステーション連携への取組に関する一考察. 福岡県立大学看護学研究紀要.
- 吉川未桜・吉田麻美・平塚淳子・中村美穂子・大場美緒・小野順子・猪狩崇・山下清香・田中美樹・櫟直美・尾形由起子. (2022) 新型コロナウイルス感染拡大下における訪問看護ステーションの困難と対応. 福岡県立大学看護学部紀要. 第 19 巻.

②その他最近の業績

<学会発表>

- Junko hiratsuka, Takashi igari, Chie namitomi. A study of the nutritional status of older people living in hilly and mountainous areas and attending exercise classes. (2023). The16 th EAFONS 2023.Tokyo.
- Junko hiratsuka, Makoto masumitsu, Chikako kiyohara. Examination of factors influencing medical safety climate among ward nurses. (2020) .The 6 th international nursing research conference of world academy of nursing science. Osaka
- 放送大学看護師国家試験学習支援ツール分担制作者

③過去の主要業績

- 平塚淳子. 医療安全風土と医療エラーに関する海外文献レビュー. (2019) . 福岡県立大学看護学研究紀要. 第 16 巻, p103-109.
- 平塚淳子. 倫理的風土と職務満足に関する海外文献レビュー (. 2018) 福岡県立大学看護学研究紀要. 第 15 巻, p91-96.

３．外部研究資金

研究代表者　松浦賢長．分担研究者．平塚淳子．基盤研究Ｂ．エッセンシャルワーカーとしての看護師の継続する危機への適応力教育パッケージ開発．16,380 千円 ．2022 年～2026 年

４．受賞

５．所属学会

日本看護科学学会，日本看護研究学会，日本看護倫理学会，日本保健福祉学会

６．担当授業科目

暮らしを知る実習・1 単位・1 年，暮らしの中の看護を知る実習・1 単位・2 年，地域・在宅看護論・2 単位・2 年・後期，災害看護学・1 単位・2 年後期，専門看護学ゼミ・2 単位・3 年・通年，在宅看護学演習Ⅰ・1 単位・3 年・前期，在宅看護学演習Ⅱ・1 単位・3 年生・後期～4 年・前期，在宅看護学実習・2 単位・3 年・後期～4 年・前期，統合実習・3 単位・4 年

７．社会貢献活動

福岡県立大学大学院看護学研究科ナーシングネットワーク交流会企画委員

８．学外講義・講演

９．附属研究所の活動等

看護学部／看護学科	職名	助教	氏名	廣瀬　理絵

１．教員紹介・主な研究分野

2009年3月、福岡県立大学大学院修士課程修了後、がん看護専門看護師を取得しました。その後5年間、筑豊地域にある医療機関において、がん看護専門看護師として「がん」と共に生きる人、「老い」を生きる人を対象としたエンド・オブ・ライフ・ケアの実践と看護師を対象とした看護倫理教育に携わりました。その後、2015年度より本学へ着任し、看護師を対象とした倫理教育方法に関する研究に取り組み、現在に至ります。

今後も看護倫理教育に取り組み、効果的な看護倫理教育の在り方について研究を進めていきたいと考えています。

２．研究業績

①最近の著書・論文

②その他最近の業績

<学会発表>

- 榛直美,雪松和子,江上史子,廣瀬理絵（2020）．認知症カフェ開設に向けた 人材育成の取り組みの効果について，第４０回日本看護科学学会.
- 廣瀬理絵,塩田昇,江上千代美,田中美智子（2021）.看護学生の倫理観を養う教育内容の検討-「薬害被害者」の講演をとおして-,日本看護研究学会第47回学術集会.

③過去の主要業績

- 廣瀬理絵（2015）.「認知機能低下がある終末期高齢がん患者の意思決定支援」，Oncology NURSE，8（6）p98-104.
- 廣瀬理絵,渡邉智子（2017）.がん看護専門看護師が行う高齢がん患者の意思決定支援,日本看護科学学会第37回学術集会,仙台.
- 廣瀬理絵、仲村亜依子、井原資子、渡邉智子（2018）．急性期病院における看護師を対象とした倫理教育方法の検討，日本臨床倫理学会第6回年次大会,東京.

３．外部研究資金

４．受賞

５．所属学会

日本看護倫理学会（評議員），日本がん看護学会，日本緩和医療学会，日本CNS看護学会，日本老年看護学会，日本看護科学学会，日本看護学教育学会,日本看護研究学会

６．担当授業科目

老年看護学概論・1 単位・2 年・前期、老年看護学演習Ⅰ・1 単位・2 年・前期、基礎看護技術論・2 単位・1 年・後期、基礎看護学実習Ⅱ・2 単位・2 年・通年、シンプトンマネジメント論・1 単位・2 年・後期、チーム医療論・1 単位・2 年・後期、成人慢性看護学・2 単位・2 年・後期、専門看護学ゼミ・1 単位・3 年・通年、卒業研究・2 単位・4 年・通年、統合実習・2 単位・4 年・通年

７．社会貢献活動

- がん看護専門看護師活動
- 臨床倫理認定士（臨床倫理アドバイザー）
- 介護認定審査委員（2 回/月）
- 地域包括ケアシステム推進協議会専門部会員

８．学外講義・講演

- 「看護研究指導」，飯塚市立病院
- 「看護研究講義」，飯塚市立病院
- 「看護研究発表会」，一般社団法人福岡県社会保険医療協会社会保険病院 講評
- 「看護研究発表会」，飯塚市立病院 講評
- 「がん教育」,小学校

９．附属研究所の活動等

ヘルスプロモーション実践研究センター兼任研究員

看護学部／看護学科	職名	助教	氏名	松山　美幸

１．教員紹介・主な研究分野

清潔援助（入浴・清拭・部分浴等）や罨法といった看護技術を行った際の生理学的効果の解明を研究分野としている。罨法については、特に月経随伴症状のある女性を対象に温罨法を貼用した際の人体の生理学的な反応を、体温変化や自律神経活性の変化等を測定し、明らかにする試みを行ってきた。
現在は月経関連片頭痛とその症状を緩和するケアについての研究に取り組んでいる。
また、睡眠と自律神経の関係性に関する研究、薬害被害者講演を受講した看護学生の学びに関する研究、経験型実習教育と実習指導に関する研究を学内外の教員と共同で行っている。

２．研究業績

①最近の著書・論文

- 塩田 昇, 廣瀬 理絵, 松山 美幸, 加藤 法子, 藏元 恵里子, 田中 美智子, 江上 千代美「陣痛促進剤による薬害被害者」の講演を聞いた学生は薬害防止に向け何を思い・感じたか,福岡県立大学看護学研究紀要 19 巻, 77-87(2022.03)
- 田中 美智子, 江上 千代美, 松山 美幸, 津田 智子, 野末 明希, 長坂 猛,在宅の高齢者における入眠前後の自律神経反応と主観的評価,日本看護技術学会誌,20 巻 20-28(2021.)
- 田中 美智子, 藏元 恵里子, 津田 智子, 長坂 猛, 松山 美幸, 塩田 昇, 江上 千代美,薬害被害当事者による講義を受講した学生の学びテキストマイニングによる分析と内容分析,看護展望 45 巻 7 号, 71-77(2020.06)

②その他最近の業績

<学会発表>

- 田中 美智子, 江上 千代美, 津田 智子, 松山 美幸, 野末 明希, 有松 操, 長坂 猛,更年期女性の入眠前後の自律神経反応が睡眠パラメーターに及ぼす影響,日本看護研究学会, 2022.10.
- 松山 美幸(福岡県立大学 看護学部), 廣瀬 理絵, 塩田 昇, 加藤 法子, 藏元 恵理子, 田中 美智子, 江上 千代美,薬害被害者の講演を聞いた看護学生の薬害防止に向けたアンケートの分析(第 2 報)　薬害の実態への思い, 2022.08.
- 田中 美智子, 江上 千代美, 野末 明希, 津田 智子, 有松 操, 松山 美幸, 長坂 猛,更年期女性の QOL と睡眠パラメータ,日本看護技術学会,2021.09

  田中 美智子(宮崎県立看護大学), 江上 千代美, 松山 美幸, 野末 明希, 津田 智子, 有松 操, 長坂 猛,更年期女性の入眠前及び睡眠早期の自律神経反応と睡眠パラメータとの関係,日本看護研究学会,2021.08.

  田中 美智子, 江上 千代実, 松山 美幸, 野末 明希, 津田 智子, 有松 操, 長坂 猛,更年期女性の勤務日と休日における睡眠の様相, 日本看護研究学会,2020.09.

③過去の主要業績

３．外部研究資金

科学研究費助成事業、若手研究、 研究課題：「月経関連片頭痛に対するケアの検討」、交付金額4,030千円、令和2年度～令和5年度

４．受賞

５．所属学会

日本看護技術学会、日本看護研究学会、日本看護学教育学会、日本看護科学学会

６．担当授業科目

生態機能看護学Ⅰ・2単位・1年前期、生態機能看護学Ⅱ・2単位・1年後期、フィジカルアセスメント論・1単位・1年前期、基礎看護学実習Ⅰ・1単位・1年前期、生態・病態看護学実験・1単位・2年前期、基礎看護学実習Ⅱ・2単位・2年通年、専門看護学ゼミ・1単位・3年通年、卒業研究・1単位・4年生通年、統合実習・2単位・4年通年、生態機能看護学Ⅲ・2単位・4年後期

看護学部／看護学科	職名	助教	氏名	村田　和子

1．教員紹介・主な研究分野

看護基礎教育終了後，総合病院，大学病院で看護師として ICU，CCU，心臓外科病棟で勤務しました。その後、大分大学大学院医学系研究科看護学専攻を修了し，総合病院で院内教育，新人教育などの現任教育に携わりました。看護師のキャリア形成や循環器疾患を抱える患者の看護に興味をもっています。現在は成人看護学の教育に携わり、シミュレーション教育を取り入れながら演習を行っています。

2．研究業績

①最近の著書・論文

- 村田和子，笹山万紗代，福田和美，大場美緒，政時和美，山口馨子，中井裕子，古庄夏香（2022）：成人急性看護学実習におけるシミュレーション教育を取り入れたハイブリッド型学内実習の実践報告，福岡県立大学看護学研究紀要，第 19 巻
- 山口馨子，笹山万紗代，大場美緒，村田和子，中井裕子，福田和美（2022）：クリティカルケア実習における看護学生の体験－フォーカス・グループインタビューの分析，福岡県立大学看護学研究紀要，第 19 巻
- 政時和美，大場美緒，古庄夏香，中井裕子，村田和子，笹山万紗代，山口馨子，福田和美（2022）：学内での対面とオンラインを組み合わせた成人慢性看護学実習の取り組み，福岡県立大学看護学研究紀要，第 19 巻
- 福田和美，中尾久子，村田和子（2022）：術後早期の看護ケアを行う看護師による家族に対する情報共有に関連したケア，The Journal of Nursing Investigation，第 20 巻，第 1 号
- 村田和子，福田和美（2020）：成人看護学におけるシミュレーション教育の文献検討，福岡県立大学看護学研究紀要，第 17 巻

②その他最近の業績

<学会発表>

- 山口馨子，笹山万紗代，大場美緒，村田和子，中井裕子，福田和美（2021）：看護学生のクリティカルケア実習の体験－フォーカス・グループインタビューの分析－，日本看護研究学会第 47 回学術集会，Web 開催
- 村田和子，福田和美（2020）：看護基礎教育における患者教育に関する文献検討，日本看護研究学会第 46 回学術集会，Web 開催

③過去の主要業績

- 小田正枝，下舞紀美代，安藤敬子，中西順子，村田和子，古川秀敏，古庄夏香他，『大特集　看護計画まで見せます！実習でよく挙げる看護診断ベスト 10』，プチナース，第 18 巻，第 13 号，2009，照林社

・ 宇井進，中川晋，樅山幸彦，廣谷隆，田畑稔，安藤恵美子，川渕いづみ，相良恭子，星まき子，菊川智恵，伊勢田礼子，村田和子，中島千夏代，立石由紀子，『心疾患テクニカルチェック―クリニカルパスにみるナーシングケア』，第Ⅰ章(4)「大動脈弁膜症」，第Ⅰ章(8)「心不全」，第Ⅰ章(9)「感染性心内膜炎」，第Ⅲ章(3)「IABP」を担当，メディカ出版

3．外部研究資金

令和4年度福岡県立大学附属研究所研究奨励交付金（若手奨励研究），研究課題：A大学看護学部の成人看護学演習におけるOSCEの評価と今後の課題

4．受賞

5．所属学会

日本看護科学学会，日本看護学教育学会，日本看護研究学会

6．担当授業科目

医療安全・1単位・2年・前期，成人急性看護学・2単位・2年・後期，成人慢性看護学・2単位・2年・後期，専門看護学ゼミ・2単位・3年・通年，成人看護学演習Ⅰ・1単位・3年・前期，成人看護学演習Ⅱ・1単位・3年・前期，成人急性看護学実習・3単位・3～4年・後期～前期，成人慢性看護学実習・3単位・3～4年・後期～前期，統合実習・2単位・4年・通年，卒業研究・2単位・4年・通年

7．社会貢献活動

8．学外講義・講演

9．附属研究所の活動等

看護学部／看護学科	職名	助手	氏名	石田　祐子

１．教員紹介・主な研究分野

総合病院での臨床経験を経て３年課程の看護専門学校にて教育に携わりました。
2022年度より本学に着任し、現在は主に基礎看護学、地域・在宅看護論に携わっています。
研究では、潜在看護師における要因や実態をテーマに研究を進めていきたいと考えています。

２．研究業績

①最近の著書・論文

②その他最近の業績

<学会発表>

③過去の主要業績

３．外部研究資金

４．受賞

５．所属学会

日本看護協会

６．担当授業科目（補助）

基礎看護学概論・２単位・１年・前期、基礎看護実習Ⅰ・１年・前期、基礎看護技術論・２単位・１年・前期、フィジカルアセスメント論・１単位・２年・前期、看護過程・１単位・２年・後期、基礎看護実習Ⅱ・２単位・２年・前期、シンプトンマネジメント論・１単位・２年・後期、暮らしを知る実習・１単位・１年・後期／成人看護学概論・１単位・２年・前期

７．社会貢献活動

・新型コロナウイルスワクチン職域接種

８．学外講義・講演

９．附属研究所の活動等

看護学部／看護学科	職名	助手	氏名	大場　美緒

1．教員紹介・主な研究分野

産業医科大学産業保健学部看護学科卒業。熊本大学医療技術短期大学部助産学特別専攻過程終了。看護師として内科系の臨床で勤務後、看護小規模多機能型居宅介護事業所に勤務。2018年に本学に着任し、基礎看護学、成人看護学に携わっている。

臨床では、神経難病や脳梗塞後の麻痺などで介助が必要となった患者が、住み慣れた自宅に戻ることの困難さを感じていた。そのため、慢性疾患患者が在宅復帰する際に必要となる支援や他職種との連携について探求していきたいと考えている。

2．研究業績

①最近の著書・論文

- 櫟直美、尾形由起子、小野順子、中村美穂子、大場美緒、吉田麻美、猪狩崇、平塚淳子、田中美樹、吉川未桜、山下清香．在宅医療推進における訪問看護ステーション連携への取り組みに関する一考察、福岡県立大学看護学研究紀要、19、2022.
- 吉川未桜、吉田麻美、平塚淳子、中村美穂子、大場美緒、小野順子、猪狩崇、山下清香、田中美樹、櫟直美、尾形由起子．新型コロナウイルス感染拡大下における訪問看護ステーションの困難と対応、福岡県立大学看護学研究紀要、19、2022.
- 山口馨子、笹山万紗代、大場美緒、村田和子、中井裕子、福田和美．クリティカルケア実習における看護学生の体験～フォーカス・グループインタビューの分析～、福岡県立大学看護学研究紀要、19、2022.
- 村田和子、笹山万紗代、福田和美、大場美緒、政時和美、山口馨子、中井裕子、古庄夏香．成人急性看護学実習におけるシミュレーション教育を取り入れたハイブリッド型学内実習の実践報告、福岡県立大学看護学研究紀要、19、2022.
- 政時和美、大場美緒、古庄夏香、中井裕子、村田和子、笹山万紗代、山口馨子、福田和美．学内での対面とオンラインを組み合わせた成人慢性看護学実習の取り組み、福岡県立大学看護学研究紀要、19、2022.

②その他最近の業績

<学会発表>

- 山口馨子、笹山万紗代、大場美緒、村田和子、中井裕子、福田和美．看護学生のクリティカルケア実習の体験～フォーカス・グループインタビューの分析～、第47回日本看護研究学会学術集会、2022.
- 政時和美、古庄夏香、大場美緒．医療依存度の高い在宅患者への災害時における避難支援に関する文献検討、第47回日本看護研究学会学術集会、2022.

③過去の主要業績

３．外部研究資金

４．受賞

５．所属学会

日本看護科学学会、日本看護教育学会、日本看護研究学会

６．担当授業科目

基礎看護学実習Ⅰ・１単位・１～４年・前期、成人慢性看護学実習・３単位・３年・後期、女性看護学演習Ⅱ・１単位・３年・後期、老年看護学実習Ⅱ・３単位・３年・後期、成人看護学演習Ⅰ・１単位・３～４年・前期、成人看護学演習Ⅱ・１単位・３～４年・前期、女性看護学演習Ⅰ・１単位・３～４年・前期、統合実習・２単位・４年・通年

７．社会貢献活動

８．学外講義・講演

９．附属研究所の活動等

看護学部／看護学科	職名	助手	氏名	笹山　万紗代

1．教員紹介・主な研究分野

看護師として手術室・SICU での臨床経験を経て 2017 年より本学に着任し、成人看護学に携わっています。演習ではシミュレーション教育を取り入れ、学生が患者をイメージできるように関わり、看護技術の習得・アセスメント能力の向上を目指しています。

手術室における新人看護師教育について研究しており、新人看護師の早期の職場定着に向けた看護基礎教育や新人看護師教育について研究していきたいと考えています。

2．研究業績

①最近の著書・論文

<論文>

- 山口馨子,笹山万紗代,大場美緒,村田和子,中井裕子,福田和美：クリティカルケア実習における看護学生の体験～フォーカス・グループインタビューの分析～, 福岡県立大学看護学研究紀要 第 19 巻,2022
- 村田和子,笹山万紗代,福田和美,大場美緒,政時和美,山口馨子,中井裕子,古庄夏香：成人急性看護学実習におけるシミュレーション教育を取り入れたハイブリッド型学内実習の実践報告, 福岡県立大学看護学研究紀要 第 19 巻,2022
- 政時和美,大場美緒,古庄夏香,中井裕子,村田和子,笹山万紗代,山口馨子,福田和美：学内での対面とオンラインを組み合わせた成人慢性看護学実習の取り組み, 福岡県立大学看護学研究紀要 第 19 巻,2022
- 中井裕子,笹山万紗代,政時和美,松井聡子：手術室見学実習における看護学生の学び, 福岡県立大学看護学研究紀要 第 17 巻,2020

②その他最近の業績

<学会発表>

- 笹山万紗代,石田智恵美：手術室における新人看護師教育の課題について～新人看護師・教育担当看護師双方の視点から～, 第 42 回日本看護科学学会学術集会, 広島市
- 山口馨子,笹山万紗代,大場美緒,村田和子,中井裕子,福田和美：クリティカルケア実習における看護学生の体験～フォーカス・グループインタビューの分析～, 日本看護研究学会第 47 回学術集会,Web 開催,2021
- 政時和美,中井裕子,笹山万紗代：病院前救護の実践と教育に関する課題,日本看護研究学会第 46 回学術集会,Web 開催,2020

③過去の主要業績

3．外部研究資金

4．受賞

5．所属学会

日本看護研究学会，日本看護科学学会，日本手術看護学会

6．担当授業科目（補助）

成人看護学概論・1 単位・2 年・前期、成人急性看護学・2 単位・2 年・後期、成人慢性看護学・2 単位・2 年・後期、成人急性看護学成人看護学演習Ⅰ・1単位・3年・前期、成人看護学演習Ⅱ・1単位・3年・前期、成人急性看護学実習・3単位・3年後期～4年前期、成人慢性看護学実習・3単位・3年後期～4年前期、統合実習・2単位・4年　通年など

7．社会貢献活動

8．学外講義・講演

9．附属研究所の活動等

看護学部／看護学科	職名	助手	氏名	島田　信

1．教員紹介・主な研究分野

聖マリア学院大学看護学部卒業後、横浜市立大学附属病院にて手術室、整形外科・リハビリテーション病棟にて勤務。臨床では運動器や脳神経性の疾患に対し治療を行う患者の退院後を見据えた関わりを大切に看護の提供を行った。

令和３年度に本学に着任。基礎看護学、成人看護学、老年看護学において看護を学ぶ学生がわかりやすく、学ぶことを楽しいと感じることができるよう授業補助を行っている。研究においては人体の構造や機能、疾患のメカニズムなどの基礎研究を通じて科学的根拠に基づいた看護ケアの解明を行っていくことを目指している。

2．研究業績

①最近の著書・論文

②その他最近の業績

③過去の主要業績

3．外部研究資金

4．受賞

5．所属学会

日本看護研究学会、日本看護協会

6．担当授業科目（補助）

基礎看護学実習Ⅰ・1単位・1～4年・前期、基礎看護学実習Ⅱ・2単位・2～4年・通年、フィジカルアセスメント論・2単位・2～4年・前期、看護過程・1単位・2～4年・前期、成人看護学概論・1単位・2～4年・前期、老年看護学概論・1単位・2～4年・前期、老年看護学演習Ⅰ・1単位・3～4年・前期、成人看護学演習Ⅰ・1単位・3～4年・前期、成人看護学演習Ⅱ・1単位・3～4年・前期、成人急性看護学実習・3単位・3年・後期、成人慢性看護学実習・3単位・3年・後期

7．社会貢献活動

8．学外講義・講演

9．附属研究所の活動等

看護学部／看護学科	職名	助手	氏名	田原　千晶

1．教員紹介・主な研究分野

＜自己紹介＞

看護師として小児病棟・GCU に勤務後、平成 29 年度より本学に着任した。

小児病棟・GCU では、急性期から慢性期、内科から外科まで幅広い小児看護に携わり、子どもの成長や発達を促す看護について考え、実践してきた。

特に、長期入院やターミナル期の子どもについては、入院しているために制限される遊びやお祝い事などを中心に、1 人ひとりの子どもや家族の気持ちに寄り添い、両者の思いや願いをかなえる看護を創造することに力を注いできた。

＜主な研究分野＞

近年、医療技術の進歩により子どもの救命率は向上し、NICU を退院後、引き続き人工呼吸器や胃ろうを使用し在宅医療を受ける子どもは増加している。国の施策により地域包括ケアの整備が進み、在宅療養をする人の数が増え、訪問看護利用者は年々と増加している。15 歳未満の訪問看護利用者も同様に年々と増加し、令和元年には 18,000 人を超した。

しかし、福岡県の子どもを受け入れている訪問看護事業所の割会は 18.3%と低く、子どもを対象とした訪問看護事業所が少ない。子どもの訪問看護事業所の少ない理由の一つに【小児看護の知識・技術の不足】が明らかとなっている。その支援策を講じる目的で、訪問看護師の子どもの知識や観察技術、アセスメント技術等について研究を進めている。

2．研究業績

①最近の著書・論文

- 梶原由紀子，原田直樹，田原千晶，松浦賢長（2022）．養護教諭の危機対応に関する研修についての調査研究，福岡県立大学看護学部紀要 19.
- 原田直樹，梶原由紀子，田原千晶，増滿誠，松浦賢長，（2022）．元不登校児童生徒とその保護者の不登校をめぐる意識差と家族機能についての研究，福岡県立大学紀要 19.

②その他最近の業績

③過去の主要業績

3．外部研究資金

4．受賞

5．所属学会

日本看護協会、日本保健福祉学会

６．担当授業科目

不登校・ひきこもり援助論・２単位・１年・前期，子供学習支援論・１単位・１年・後期，教育と社会・地域・１単位・１年・後期，暮らしと保健福祉・看護・２単位・１年・後期，基礎看護技術論・２単位・１年・後期，基礎看護学実習Ⅱ・２単位・２年・通年，保健統計学・２単位・２年・前期，小児看護学概論・１単位・２～４年・前期，教育方法論・１単位・２年・後期，シンプトンマネジメント論・１単位・２年・後期，健康科学・２単位・２年・後期，養護概説・２単位・２年・後期，学校保健学・１単位・３年・前期，健康教育論・２単位・３年・前期，性教育学・２単位・看護３年／人社３年・前期，小児看護学演習Ⅰ・１単位・３～４年・前期，小児看護学実習・２単位・３年・後期，養護実習事前事後指導・１単位・４年・前期，教職実践演習（養護教諭）・２単位・４年・後期

７．社会貢献活動

新型コロナウイルスワクチン職域接種

８．学外講義・講演

９．附属研究所の活動等

ヘルスプロモーション実践研究センター兼任研究員

看護学部／看護学科	職名	助手	氏名	藤田　愛

1．教員紹介・主な研究分野

福岡大学医学部看護学科卒業。看護師として、総合病院で循環器内科・心臓血管外科病棟、整形外科・脊髄脊椎外科・リウマチ関節症病棟に勤務しました。その後、介護付き有料老人施設にて病院退院後の高齢者の療養支援に、また検診診療所にて予防医学・予防看護に携わり、2022年度より本学へ着任しました。看護学生として、また病院や施設での看護師として多忙な日々を送る中で、自分自身の健康の維持・増進に目を向け行動にうつすことの難しさを実感しました。今後、同じように多忙を極める看護学生や臨床現場で働く看護師と関わっていく中で、その人たちの健康意識および食習慣の実態や課題を明らかにする研究を行い、看護に携わる人々の健康支援に関する社会貢献活動を行っていきたいと考えています。

2．研究業績

①最近の著書・論文

②その他最近の業績

③過去の主要業績

・　放送大学看護師国家試験学習支援ツール分担作成　2022年

3．外部研究資金

4．受賞

5．所属学会

6．担当授業科目（補助）

基礎看護学概論・2単位・1年・前期、フィジカルアセスメント論・2単位・2年・前期、基礎看護学実習Ⅰ・1単位・1年・前期、看護過程・1単位・2年・前期、基礎看護技術論・2単位・1年・後期、シンプトンマネジメント論・1単位・2年・後期、暮らしを知る実習・1単位・1年・後期、公衆衛生看護学Ⅰ・2単位・2年・後期、基礎看護学実習Ⅱ・2単位・2年・通年、老年看護学実習Ⅱ・3単位・3年

7．社会貢献活動

8．学外講義・講演

9．附属研究所の活動等

看護学部／看護学科	職名	助手	氏名	光武　摩紀

１．教員紹介・主な研究分野

福岡県立大学看護学部卒業。大学病院の心臓血管外科病棟での看護師、地域包括支援センターでの保健師を経験し、2022 年より本学に着任しました。

学生の「分からない」に寄り添い、共に考え共に成長できる教育者を目指しています。根拠のある理解をもとに自信をもって看護を提供できることで、患者の安全安楽、看護者自身の成功体験につながるよう、サポートしていきたいと思います。

研究では、自死遺族支援者の抱える困難について探究していきたいと考えています。

２．研究業績

①最近の著書・論文

②その他最近の業績

<学会発表>

③過去の主要業績

３．外部研究資金

４．受賞

５．所属学会

日本看護協会

６．担当授業科目

７．社会貢献活動

８．学外講義・講演

９．附属研究所の活動等

看護学部／看護学科	職名	助手	氏名	山口　馨子

1．教員紹介・主な研究分野

総合病院の内科系病棟と3年課程の看護専門学校の専任教員を経て2019年に本学に着任し、成人看護学に携わっています。演習や実習で学生と共に看護を考え、より良い看護を目指しています。さらに急性期看護学について探究していきたいと考えています。

2．研究業績

①最近の著書・論文

- 山口馨子、笹山万紗代、大場美緒、村田和子、中井裕子、福田和美．クリティカルケア実習における看護学生の体験～フォーカス・グループインタビューの分析～．福岡県立大学看護学研究紀要　2022：69-76.
- 村田和子、笹山万紗代、福田和美、大場美緒、政時和美、山口馨子、中井裕子、古庄夏香．成人急性看護学実習におけるシミュレーション教育を取り入れたハイブリッド型学内実習の実践報告．福岡県立大学研究紀要　2022；19：99-105.
- 政時和美、大場美緒、古庄夏香、中井裕子、村田和子、笹山万紗代、山口馨子、福田和美．学内での対面とオンラインを組み合わせた成人慢性看護学実習の取り組み．福岡県立大学研究紀要　2022；19：115-122.

②その他最近の業績

<学会発表>

- 山口馨子、福田和美．看護場面における眼球運動計測機器を用いた観察に関する文献検討．日本看護研究学会　第48回学術集会、オンライン開催、2022年
- 山口馨子、笹山万紗代、大場美緒、村田和子、中井裕子、福田和美．クリティカルケア実習における看護学生の体験～フォーカス・グループインタビューの分析～．日本看護研究学会　第47回学術集会、オンライン開催、2021年

③過去の主要業績

- 前田（山口）馨子、監修：目黒悟、永井睦子．授業デザイン・授業リフレクションの実際 No.7 基礎看護学における授業デザイン・授業リフレクション①～基礎・授業デザイン編～、メヂカルフレンド社　2019；44（3）：60-66.
- 前田（山口）馨子、監修：目黒悟、永井睦子．授業デザイン・授業リフレクションの実際 No.8 基礎看護学における授業デザイン・授業リフレクション②～基礎・授業リフレクション編～、メヂカルフレンド社　2019；44（5）：68-78.

3．外部研究資金

4．受賞

5．所属学会

日本看護学教育学会、日本看護研究学会

6．担当授業科目

成人看護学演習Ⅰ・1単位・3 年・前期（補助）、成人看護学演習Ⅱ・1単位・3 年・前期（補助）、成人慢性看護学実習・成人急性看護学実習 3 単位・3～4 年・後期～前期（補助）、統合実習・2 単位・4 年・通年（補助）

7．社会貢献活動

放送大学看護師国家試験学習支援ツール分担制作者（2021 年、2022 年）

8．学外講義・講演

9．附属研究所の活動等

令和 4 年度若手奨励研究：術後患者の観察技術におけるシミュレーション学習前後の眼球運動の変化

看護学部／看護学科	職名	助手	氏名	吉田　麻美

1．教員紹介・主な研究分野

小児科病棟・NICU・障害児訪問保育現場での訪問看護で、退院を見据えた関わりや在宅生活支援に携わってきた。医療的ケアを必要とする子どもやその家族の想いや生活に触れ、地域で生活するための支援不足を日々感じてきた。子どもやその家族が、住み慣れた地域であたりまえに日常生活を送り社会参加できるための支援について探求している。

2．研究業績

①最近の著書・論文

- 田中美樹、吉川未桜、吉田麻美、中原雄一、杉野寿子、池田孝博：入院中の子どもを支える保育士と看護師の専門性を活かした協働　第1報－業務内容の現状分析－．福岡県立大学看護学部紀要第20巻．2023年3月（予定）．
- 吉川未桜、田中美樹、吉田麻美、中原雄一、杉野寿子、池田孝博：入院中の子どもを支える保育士と看護師の専門性を活かした協働　第2報－協働の現状と課題－．福岡県立大学看護学部紀要第20巻．2023年3月（予定）．
- 田中美樹、吉川未桜、吉田麻美、杉野寿子、中原雄一、池田孝博：新型コロナウイルス感染症拡大による入院中の子どもを支える上での看護師と保育士の困難感．福岡県立大学人間社会学部紀要第31巻2号．2023年3月（予定）．
- 平塚淳子、猪狩崇、中村美穂子、小野順子、吉川未桜、吉田麻美、田中美樹、山下清香、櫟　直美、尾形由起子：A県における訪問看護ステーションのBCP策定における現状と課題．福岡県立大学看護学部紀要第20巻．2023年3月（予定）
- 杉野寿子、吉川未桜、田中美樹、吉田麻美、池田孝博、中原雄一：入院中の子どもの権利と家族のQOLに関する課題．福岡県立大学人間社会学部紀要第31巻第1号．2022年
- 吉田麻美：歩ける医療的ケア児の母親の子育てにおける適応していくプロセスの検討．福岡県立大学大学院看護学研究科修士論文．2022年3月．
- 吉川未桜 、吉田麻美、平塚淳子、中村美穂子、大場美緒、小野順子、猪狩崇、山下清香、田中美樹、櫟直美、尾形由起子：新型コロナウイルス感染拡大下における訪問看護ステーションの困難と対応．福岡県立大学看護学部紀要　19巻、2022年．
- 田中美樹、吉川未桜、尾形由起子、櫟直美、吉田麻美：小児訪問看護における訪問看護師の困難感と同行訪問研修の試み．福岡県立大学看護学部紀要　19巻、2022年．
- 小野順子、山下清香、中村美穂子、中本亮、櫟直美、田中美樹、吉川未桜、吉田麻美、尾形由起子：A県における訪問看護ステーションの災害対策の現状と課題 - 災害時の在宅療養継続に向けて - ．福岡県立大学看護学部紀要　19巻、2022年．
- 櫟直美、尾形由起子、小野順子、中村美穂子、大場美緒、吉田麻美、猪狩崇、平塚淳子、田中美樹、吉川未桜、山下清香：在宅医療推進における訪問看護ステーション連携への取組に関する一考察．福岡県立大学看護学部紀要　19巻、2022年．

②その他最近の業績

<学会発表>

・ 吉田麻美、山下清香、小野順子、吉川未桜、田中美樹、岡田麻里、尾形由起子：歩ける医療的ケア児の母親の子育てに適応していくプロセスの検討．日本看護研究学会第 48 回学術集会．愛媛．2022 年

③過去の主要業績

3．外部研究資金

4．受賞

5．所属学会

日本小児看護学会、日本小児保健協会、九州・沖縄小児看護教育研究会、日本看護研究学会

6．担当授業科目

小児看護学概論・１単位・２年・前期、小児看護学・２単位・２年・後期、子どもの保健Ⅱ・1単位・２年・前期、小児看護学演習Ⅰ・１単位・３年・前期、小児看護学演習Ⅱ・１単位・３年、小児看護学実習・２単位・３年・後期、専門看護学ゼミ・２単位・４年・前期、専門看護学ゼミ・２単位・３年・通年、統合実習・２単位・４年・通年

7．社会貢献活動

8．学外講義・講演

9．附属研究所の活動等

ヘルスプロモーション実践研究センター兼任研究員